

2023年度 授業概要【心理福祉学科】

科目コード: 20003

科目ナンバリング: WP10C19K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 生命と倫理(Bioethics)

担当者: 銭谷 秋生

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職

AL要素: 11. 討論

授業の概要: 今日、人間の生命の尊重は社会のもっとも基本的な規範となっています。しかし、重大な犯罪を犯した者を死刑に処することや望まない妊娠を中止することなどは、一定の条件のもとで認められています。さらに、動物の生命を奪い食することもごく普通になされています。こうしたことは、生命の尊重という社会規範と整合するものなのでしょうか。そもそもなぜ、犯罪者でも胎児でも家畜でもない、そういう人間の生命だけが尊重の対象になるのでしょうか。この講義では、このような問題意識のもと、生命の処遇をめぐる現代の倫理的諸問題を考察します。

キーワード: 命の尊重、動物の権利、死刑、安楽死、代理出産、クローン人間の産生、殺人の禁止の根拠

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代的問題」の内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験による。

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【進め方】毎回、講義内容に関して学生同士の討議を行う。

【内容】

- 第1回：生命と倫理をめぐる今日の状況
 - 第2回：動物にも権利を認めるべきか(1)
 - 第3回：動物にも権利を認めるべきか(2)
 - 第4回：死刑制度は存続させるべきか(1)
 - 第5回：死刑制度は存続させるべきか(2)
 - 第6回：人工妊娠中絶は認められるか(1)
 - 第7回：人工妊娠中絶は認められるか(2)
 - 第8回：代理出産を法的に認めてよいか(1)
 - 第9回：代理出産を法的に認めてよいか(2)
 - 第10回：クローン人間を産みだしてよいか(1)
 - 第11回：クローン人間を生みだしてよいか(2)
 - 第12回：結合双生児の分離手術をめぐって
 - 第13回：重度障害新生児の安楽死を認めるべきか(1)
 - 第14回：重度障害新生児の安楽死を認めるべきか(2)
 - 第15回：精神的苦痛を理由とした安楽死の要請に応えるべきか
- 学期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・毎時間学生同士の討議を導入するので、自分の考えをしっかりとまとめる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。
・参考資料は多岐にわたるので、適宜授業の中で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：20004 科目ナンバリング：WP10C20K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人間と哲学(Human and Philosophy)

担当者： 銭谷 秋生

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」という古代ギリシャのソクラテスの言葉とともに本格的な哲学の探究は始まりました。この講義は、「よく生きる」とはどのようなことなのか、また「よく生きようとする人々を守る、正義にかなった社会」とはどのような社会なのかという問題を、原理的なところから考察することで、ソクラテスの問いかけに回答していこうとするものです。

キーワード： 魂の気づかい、刻まれぬ法としての正義、最大多数の最大幸福、幸福に値すること、自己所有権、類的権利

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で説明を受けた「よき生」や「正義にかなった社会」などの内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験による。

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回: イントロダクション: よく生きることを考えるべき理由
- 第2回: ソクラテスの問い: 魂を気遣うこと
- 第3回: ソフィストの問い: 事柄を善らしくみせること
- 第4回: アリストテレスの正義論(1): 刻まれぬ法
- 第5回: アリストテレスの正義論(2): その問題性
- 第6回: 功利主義(1): ベンサム の立場
- 第7回: 功利主義(2): シンガーによる展開および功利主義の問題性
- 第8回: カントの道徳論(1): 幸福に値すること
- 第9回: カントの道徳論(2): 定言命法と「目的の国」
- 第10回: ロールズの正義論(1): 正義の二原理の導出
- 第11回: ロールズの正義論(2): 正義にかなった社会
- 第12回: ノージックの正義論(1): 自己所有権
- 第13回: ノージックの正義論(2): 最小国家論
- 第14回: ゲワースの類的権利論(1): 権利の導出
- 第15回: ゲワースの類的権利論(2): 支援国家論

定期試験

使用テキスト: 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイント: ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。

参考文献・資料等: ・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次のものを推薦する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード: 20006 科目ナンバリング: WP10C21K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 人権と教育(Human Rights and Education)

担当者: 古屋 等

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 「義務教育」とは何でしょうか。子どもが学校に行かなくてはならない義務、と誤解されていませんか。子どもは学習の主体であり、自ら学べる主体です。ですが、何を学ぶかは未知数ですので、教育の主体としての親が存在します。すなわち、学校に行かせるのは親の義務なのです。しかし、親の職業や家庭の経済状況により、就学機会に格差も生じかねないため、国が授業料の負担や教科書の無償提供など、財政的な支援を通じて子どもを中心とした家庭を支援しています。その一方、機会均等は教育成果の一定限度の実現とも読み替えられて、教育内容についても、国が学習指導要領や検定教科書を通じて介入することにより、教育を親を中心とした私的な営みから、公的な性質に転化されています。そのような中において、教師はどのような役割を果たすべきなのでしょう。これから教員を目指そうとする皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

キーワード: 憲法第26条、教育の機会均等、学習権、教育を受けさせる義務、親(教師)の教育権、国の教育権、教育委員会、学習指導要領、教科書検定、いじめ、不登校、少年法、児童虐待

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 学ぶ主体としての子どもの自由を法的にいかん保障するのか、また、権利の主体として子どもの意思をいかに尊重すべきなのかを、憲法の人権論や子どもの権利条約を通じて理解するとともに、教育をめぐる法制度と子ども、親および地域住民との関係について認識できる。

評価方法: 小テスト、期末テスト

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教育制度や教育法制を子どもを中心に理解できるとともに、教育の主体としての親の役割や地域住民との協働のあり方について自己の意見を持つことができる。

評価方法: 小テスト、期末テスト

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

教育において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身につける。

評価割合: 5%

▼ 実践的ボランティア

該当なし

評価割合: 0%

▼ 公正性

教育をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較衡量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 教育法規の基礎知識
 - 3 教育の機会均等と学習権
 - 4 子どもの人権と権利条約-4つの原則-
 - 5 公教育と教育権論争
 - 6 教育基本法と学校教育法
 - 7 学校教育と教育行政-教育委員会-
 - 8 教育内容と学習指導要領
 - 9 教育内容と教科書(検定)
 - 10 学校教育と教員-教員免許・服務規律-
 - 11 学校教育と運営-校務分掌・職員会議-
 - 12 学校と保護者・住民
 - 13 児童生徒をめぐる諸問題①-いじめ・不登校-
 - 14 児童生徒をめぐる諸問題②-少年法・児童虐待-
 - 15 まとめ
 - 16 定期試験

使用テキスト： 古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』(ミネルヴァ書房)2500円+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：20010

科目ナンバリング：FS10C09K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生活経営論(Life Management)

担当者：扇澤 美千子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：07発表

08協同学修

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要： 刻々と変化する社会の中で、人間性を回復し、豊かで充実した生活を営み、自己実現を果たしていくことは非常に重要なことです。生活を家庭の中という範囲に限定せず、社会生活

や職業生活も含めたトータルなものとして考え、どのように生きるのが望ましいか、自分にとって大切なものは何かといった自分らしいライフスタイルの確立について考え行動する基礎をばぐくみ、自己の価値観について考えを深めていくことがこの授業の目標です。

授業内容としては、消費生活・環境・仕事・結婚・生活時間・教育といった生活の中の様々な問題を取りあげ、社会がそれらをどうとらえているか、自分達はどうか受け止めどう考えていけばいいのかを、講義・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなど様々な形式で検討していきます。

キーワード： 生活の豊かさ ライフスタイル 価値観

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・自己実現を果たし豊かで充実した生活を目指し、自分らしいライフスタイルを確立していくための基礎を築く
・多様な価値観を認め、相互理解の重要性を認識する

評価方法： 資料作成
発表
討論

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・家庭生活、社会生活、就業生活などについてさまざまな角度から考える力をつける
・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどを通し、調べる・まとめる・発表する力を育む

評価方法： 資料作成
発表
討論
レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題に取り組む姿勢や発表態度、協同作業や討議などへの参加の度合いについて評価する

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動への参加は推奨する

評価割合： 0

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、著しく公平性を欠く言動があった場合は指導の対象とする

評価割合： 0

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 生活の自立 生活の潮流をとらえる
2. ニュースや記事から身近な問題を考える、まとめる
3. 考えたことを発表する
4. 小家族化 高齢化 家族機能の社会化
5. 生活時間・生活意識 都市化 男女平等
6. 生活の潮流における問題点を調べる、まとめる
7. 調べたことを発表する1
8. 調べたことを発表する2
9. 消費者の権利と責任
10. 消費者保護と消費者教育

11. ライフスタイルの確立
 12. よりよい生活経営とは
 13. 生活経営に関わる問題点を調べる、まとめる
 14. プレゼンテーション1
 15. プレゼンテーション2
- 定期試験

使用テキスト: 必要に応じてプリント等を配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前にはテーマについての下調べをすること
授業後は、課題を確実にこなし、次時の準備を怠らないこと

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応をします。必要なことを申し出てください。

授業時間外の連絡手段: アポイントメントをとるためにメールを送ってください。アドレスは初回にお知らせします。

留意事項: 課題によってTeamsとIC-UNIPAを使い分けます。
両者の課題管理に注意を払ってください。

科目コード: 20011 **科目ナンバリング:** FS10C10K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 生活経済学(Life Economics)

担当者: 飯沼 芳樹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: この授業では、経済学の基礎理論を理解し、生活経済の基本的な枠組みを把握した上で、消費行動、金融、労働、生活保障、健康、Well-beingのそれぞれについて、現代の経済社会状況の変化を踏まえつつ具体的な検討を通じてその理解を深めていくことにします。

キーワード: 経済循環、家計、需要と供給、市場均衡、消費、労働、生活保障、健康、幸福

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 消費、労働、生活保障、健康、幸福など、私たちの生活を取り巻く経済的な諸問題を理解し、それらを解決していくための生活経済学の基礎と応用について、概ね80%理解し、解答することができる。

評価方法: 二回の小テスト

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 生活経済学とはどのような学問か(授業概要)
第2回 生活経済学の基礎知識(1) 経済循環における家計
第3回 生活経済学の基礎知識(2) 収入と支出
第4回 生活経済学の基礎知識(3) 賃金
第5回 生活経済学の基礎知識(4) 消費社会と家計
第6回 食料の経済学
第7回 生活と金融: 金融商品の特徴、ローン金利の計算方法等
第8回 労働経済(1) 賃金はなぜ右上がりになるのか * 第1回小テスト
第9回 労働経済(2) 統計的差別とは何か
第10回 少子高齢化と生活保障(1) 年金
第11回 少子高齢化と生活保障(2) 医療
第12回 行動経済学で考える生活経済(1) プロスペクト理論、現在バイアスとは
第13回 行動経済学で考える生活経済(2) 互恵性と利他性、ヒューリスティックとは
第14回 幸福の経済学(1) Well-beingとは何か
第15回 幸福の経済学(2) 幸福のパラドックス * 第2回小テスト
* レポート提出

使用テキスト： 前半の授業でカバーする生活経済学の基礎知識は以下の資料を参照。
重川純子「生活経済学」NHK出版 2020年
その他授業資料はUNIPAにアップロードするか、コピーを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後には、授業資料について復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献として次の6点を推薦する。

重川純子『生活経済学』放送大学教育振興会 2020年
時子山ひろみ・荏開津典生著『フードシステムの経済学』(第6版) 医歯薬出版 2019年
脇坂明著『労働経済学—新しい働き方の実現を目指して』日本評論社 2011年
広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年
大竹文雄『あなたを変える行動経済学』東京書籍 2022年
前野隆司『幸せのメカニズム』講談社現代新書 2021年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 連絡手段については初回にお知らせします。

留意事項： なし

科目コード：20012 科目ナンバリング：WP10C22K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生活と国際経済(Life and International Economy)

担当者：飯沼 芳樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜4限
関連資格：教職

履修可能学科・専攻：W
AL要素：17.発問と回答

授業の概要： この授業では、国際経済が私たちの生活にどのように関わっているかという視点から、国際経済学の基礎を学びます。ミクロ経済学・マクロ経済学の基本ツールをレビューした後、比較生産費説、貿易の利益など貿易の基礎理論を理解し、外国為替の基礎、為替レートの変動要因など国際金融分野の基礎を学びます。また、グローバリズムと呼ばれる問題や、日々の生活に直接影響を与えつつある地球環境問題と貿易の関係などについても考えてみます。

キーワード： 比較優位、貿易の利益、貿易政策、外国為替、為替レート

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 比較生産費説、貿易の利益、貿易政策に係る諸問題、為替決定理論など、国際経済学の基礎と応用について、概ね理解し、解答することができる。

評価方法： 2回の小テスト

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、ニュースや新聞記事を理解して、論理的に自ら所見を表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回 国際経済学とはどのような学問か
- 第2回 需要と供給
- 第3回 弾力性、生産者・消費者余剰
- 第4回 市場経済の光と影
- 第5回 GDPとマクロ経済
- 第6回 有効需要の原理と経済循環
- 第7回 国際収支と開放マクロ経済
- 第8回 まとめと小テスト
- 第9回 比較優位と分業利益
- 第10回 比較優位と国際分業
- 第11回 比較優位の決定要因
- 第12回 外国為替の基礎
- 第13回 為替レートは何故変動するか

第14回 為替介入とマクロ経済政策

第15回 まとめと小テスト

使用テキスト: 石川城太、椋寛、菊池徹著「国際経済学をつかむ[第二版]」有斐閣 2019年
橋本優子、小川英治、熊本方雄著「国際金融論をつかむ【新版】」有斐閣2019年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業前にテキストの関係箇所を読み、分からない用語などを調べる。
・授業後関連事項について自主学修を通じ知見を深める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールで連絡願います。

留意事項: なし

科目コード: 20013 **科目ナンバリング:** WP10C16K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会学 a(Sociology a)

担当者: 勝山 紘子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: WFN

関連資格: 教職 福祉主 社福士

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード: 人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法: 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法: 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス・社会学とは何か
 - 第2回 社会学の歴史(1)
 - 第3回 社会学の歴史(2)
 - 第4回 社会と「私」(1)―個人と集団、自我と他者
 - 第5回 社会と「私」(2)―社会的人間と社会集団
 - 第6回 家族と社会(1)―家族のあり方と変容
 - 第7回 家族と社会(2)―結婚と出産
 - 第8回 性と社会(1)―ジェンダーとセクシュアリティ
 - 第9回 性と社会(2)―教育・スポーツ・労働とジェンダー
 - 第10回 不平等と格差―億総中流意識にみる日本の格差意識
 - 第11回 労働と産業―未来の仕事と働き方
 - 第12回 消費と社会―消費行動とマクドナルド化
 - 第13回 コミュニティと地域社会
 - 第14回 宗教と社会―世界の宗教と日本人の宗教観
 - 第15回 振り返りと統括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでUNIPAにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をしよう心がけてください。

科目コード：20013

科目ナンバリング：WP10C16K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会学 b(Sociology b)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：W F N

関連資格：教職 福祉主 社福士

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属

し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 ガイダンス・社会学とは何か
- 第2回 社会学の歴史(1)
- 第3回 社会学の歴史(2)
- 第4回 社会と「私」(1)―個人と集団、自我と他者
- 第5回 社会と「私」(2)―社会的人間と社会集団
- 第6回 家族と社会(1)―家族のあり方と変容
- 第7回 家族と社会(2)―結婚と出産
- 第8回 性と社会(1)―ジェンダーとセクシュアリティ
- 第9回 性と社会(2)―教育・スポーツ・労働とジェンダー
- 第10回 不平等と格差―億総中流意識にみる日本の格差意識
- 第11回 労働と産業―未来の仕事と働き方
- 第12回 消費と社会―消費行動とマクドナルド化
- 第13回 コミュニティと地域社会
- 第14回 宗教と社会―世界の宗教と日本人の宗教観
- 第15回 振り返りと統括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでteamsにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をしよう心がけてください。

科目コード：20014 科目ナンバリング：WP10C17K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：法学 a(Law a)

担当者：古屋 等

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc W F N

関連資格：教職 福祉主

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 法とは何か
 - 3 法の種類と存在形式
 - 4 法の段階的構造
 - 5 罪刑法定主義
 - 6 犯罪の成立要件Ⅰ
 - 7 犯罪の成立要件Ⅱ
 - 8 刑事手続の基本原理
 - 9 裁判手続の基本構造
 - 10 民法の基本構造Ⅰ
 - 11 民法の基本構造Ⅱ
 - 12 財産関係と法Ⅰ
 - 13 財産関係と法Ⅱ
 - 14 家族関係と法Ⅰ
 - 15 家族関係と法Ⅱ
 - 16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：20014

科目ナンバリング：WP10C17K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：法学 b(Law b)

担当者：古屋 等

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc W F N

関連資格：教職 福祉主

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに

違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼ 実践的ボランティア

該当なし

評価割合： 0%

▼ 公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件 I
- 7 犯罪の成立要件 II
- 8 刑事手続の基本原則
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造 I
- 11 民法の基本構造 II
- 12 財産関係と法 I
- 13 財産関係と法 II

- 14 家族関係と法 I
- 15 家族関係と法 II
- 16 定期試験

使用テキスト: 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』[第4版](成文堂)2500円+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応: 対応可

授業時間外の連絡手段: 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項: 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード: 20014 **科目ナンバリング:** WP10C17K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 法学 c(Law c)

担当者: 森本 敦司

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc W F N

関連資格: 教職 福祉主

AL要素: 18その他

授業の概要: 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法という、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている民法を通じて学んでいきます。

キーワード: 法、権利、自由、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下での平等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法: 毎回の課題演習

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 民法という身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法: 期末テスト

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心をもち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度

を身に付ける。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション：法とは何か・民法の沿革
【第02回】民法概説：財産法と家族法
【第03回】権利能力・意思能力・行為能力(1)未成年
【第04回】権利能力・意思能力・行為能力(2)成年後見
【第05回】権利の主体と客体
【第06回】代理
【第07回】時効
【第08回】物権と登記制度
【第09回】担保物権・抵当権
【第10回】契約と法(1)契約の種類
【第11回】契約と法(2)債務不履行／不法行為
【第12回】親族
【第13回】婚姻と離婚
【第14回】親子
【第15回】相続
定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと(2時間)。
参考文献・資料等： また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること(2時間)。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項： デバイスを持参すること。

科目コード：20015 科目ナンバリング：WP10C23K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生活と政治(Life and Politics)

担当者：林 寛一

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業は、中学校社会科教員を志望する学生のために特別に用意された科目です。講義の具体的内容は以下の原則に則したものととなります。

中学校学習指導要綱と中学校社会科教科書の内容に沿ったかたちで講義内容が設定され、授業が進められます。また、受講生が将来中学校の社会科授業を担当することを想定して、「公民」の範囲内の、主に国内外の政治について、教員として必要な基礎的な知識の修得と考え方について講義します

キーワード： 教職、中学校社会科、公民、現代社会、民主政治、地球社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が、学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において、人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 民主政治の起源(1)
第3回 民主政治の起源(2)
第4回 民主政治の変容
第5回 福祉と政治
第6回 民主政治の様々な仕組み
第7回 選挙
第8回 議会と政党(1)
第9回 議会と政党(2)
第10回 政策過程と官僚・利益集団
第11回 世論とマスメディア
第12回 地方自治(1)
第13回 地方自治(2)
第14回 グローバル化(1)
第15回 グローバル化(2)
定期試験

使用テキスト： 川出良枝・谷口将紀編『政治学(第2版)』東京大学出版会、2022年。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて
知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業等でお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：20017 科目ナンバリング：WP10C18K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：高齢者生活論(Life of the Aged)

担当者： 山中 俊克

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 社教

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 我が国は世界有数の長寿国となり、長い高齢期に生きがいを持ちながら、どのように過ごすのかということは私たちの共通した課題である。そして、長寿とともに介護を必要とする高齢者数も増加しており、高齢期の介護というものが社会的な課題にもなっている。このような状況において高齢者を生活者としてとらえ、自立した生活を支えていくためには、高齢者の日常生活に関する知識も重要となる。特に介護の実践においては日常生活での介護を必要とする高齢者の心理的・身体的側面を理解して支援していくことが求められる。本授業科目では、担当教員の高齢者領域におけるソーシャルワーカーとしての実務経験を共有し、食事、入浴、排泄、移動など具体的生活場面における高齢者のこころとからだのしくみや、こころとからだの相互作用について基礎的な学習をする。これにより、介護の実践に必要な知識を習得するとともに、高齢者の生活を地域において支援していくための多職種間の連携についても学ぶ。

キーワード： 高齢者、介護、身体疾患、精神疾患、終末期ケア、尊厳

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ高齢者のからだどころのしくみに関する基礎知識および高齢者の生活支援について概ね80%の事項について解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、自らの考えを表現することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により得られ、深められた知見等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や試験の記述等において差別、偏見、決めつけ、人権侵害など著しく公正性に欠ける言動、発表や試験等における不正行為があった場合減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01回】授業のオリエンテーション
【第02回】健康とは何か
【第03回】こころのしくみの理解(1)(人間の欲求の基本的理解)
【第04回】こころのしくみの理解(2)(こころのしくみの基礎)
【第05回】からだのしくみの理解(1)(生命の維持・恒常のしくみ)
【第06回】からだのしくみの理解(2)(人体部位、ボディメカニクス、関節の可動域)
【第07回】からだのしくみの理解(3)(人体部位、ボディメカニクス、関節の可動域)
【第08回】移動に関連したこころとからだのしくみ
【第09回】身じたくに関連したこころとからだのしくみ
【第10回】食事に関連したこころとからだのしくみ
【第11回】入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
【第12回】排泄に関連したこころとからだのしくみ
【第13回】休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
【第14回】人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
【第15回】まとめ
定期試験

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座11 介護福祉士養成校講座編集委員会編集『こころとからだのしくみ』第2版 中央法規、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：「高齢者福祉論」、「介護概論」、「介護技術」の科目が履修済みの学生は、高齢者のADL(日常生活動作)について復習をしておく講義においてより深く理解することが可能です。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： なし。

科目コード：20018 科目ナンバリング：WP10C24K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：女性学(Women Studies)

担当者： 蓼沼 康子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻： E Pe Pc W

関連資格：教職 社教

AL要素：17発問と回答

授業の概要：日本社会においては、1980年代以降男女の在り方が大きく変化している。男女の在り方について問題提起を行ってきた女性学誕生の必然性から、現代の状況について学ぶ。複雑で

多様な現代社会の現状を理解し、自らの対応を考えてもらいたい。
現代は、少子化の傾向は変化せず、結婚する人が減少している。家族の形や意味も変化している。働き方、仕事との向き合い方も変化している。その根底に性別の意味の変化があるのではないか。ここでは、もともと人の生き方は多様である、ことを前提に現代の問題に取り組んでいきたい。

キーワード： ジェンダー、性別役割分業、近代家族、専業主婦、ガラスの天井

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 女性学の内容、歴史について理解できるようになる。日本社会の男女の現状について理解できるようになる。

評価方法： レポートまたは筆記試験

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱う内容について、自らの立場や意見を構築し、表現できるようになる。

評価方法： レポートまたは筆記試験

評価割合： 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的に学んだ成果がレポートなどに認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合には、減点や厳重注意などの対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 第1回 女性学とはどのような学問か
- 第2回 性差と文化・社会とのかかわり
- 第3回 ジェンダーとは何か
- 第4回 『第二の性』「女性とは他者である」
- 第5回 歴史と女性 歴史に登場しない女性たち
- 第6回 社会を変えた女性たち 1
- 第7回 社会を変えた女性たち 2
- 第8回 現代の女性たち 日本のジェンダーギャップ
- 第9回 家族と女性
- 第10回 近代家族と専業主婦
- 第11回 日本の婚姻と女性
- 第12回 「家」と女性
- 第13回 男女雇用均等法と女性
- 第14回 共働きの現在
- 第15回 男性と女性

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、ニュースなどで扱われている男女の問題に興味をもっておいってください。
授業後には、授業であつかったテーマについて自らの考えをまとめてみてください。
参考文献については、授業中に指示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法等については、初回の授業で伝えます。それまでは学務部の方に連絡してください。

留意事項: 特になし

科目コード:21000 科目ナンバリング:WP10A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 基礎演習I a(Basic Seminar I a)

担当者: 山川 誠司

基本情報

年次:1 単位数:2 授業形式:演習

曜時:火曜1限 履修可能学科・専攻: W

関連資格: AL要素: 07:発表
08:協同学修
10:資料調査課題
11:討論
15:レポート指導
17:発問と回答

授業の概要: 4年間の大学生活に必要な学生基礎力を身につける。
具体的には、大学生活の心構え、キャリアデザイン、図書館活用、文献検索、ディスカッション、レポート作成、発表などについて学ぶ。

キーワード: レポート作成
文献検索
ディスカッション
発表

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 演習で学んだ事項について80%理解したうえで、レポートを正しく作成することができる。

評価方法: レポート **評価割合:** 50 %
小課題

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を表明するとともに、他者の意見を受け入れることができる。
レポート発表がスムーズにできる。

評価方法: ディスカッション **評価割合:** 50%
発表

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。
ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
またグループ・ワークを無断で欠席するなど受講態度が他の学生の学修に支障をきたすような場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】オリエンテーション・自己紹介
【第02回】大学とはどのようなところだろうか
【第03回】大学生活について考えてみよう
【第04回】キャリアをデザインしよう【キャリア講座の予定】
【第05回】アクティブラーニングをやってみよう
【第06回】テーマからトピックを取り出そう
【第07回】図書館で資料をさがそう【図書館ガイダンスの予定】
【第08回】インターネットで情報をさがそう
【第09回】議論の方法を知ろう
【第10回】レポートの文章の特徴を知ろう
【第11回】レジュメを作成してみよう
【第12回】レポートの基本を知ろう
【第13回】レポートを完成させよう
【第14回】発表の資料をつくろう
【第15回】発表・ふりかえり

使用テキスト：スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 吉原恵子ほか 実務出版

予習・復習のポイントと 授業の予習としてテキストの該当箇所を目を通しておく(90分)。

参考文献・資料等： 授業の復習としてその日の学びをしっかり振り返る。また自主的な学修も含む(90分)。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項： ○この演習は1年生の必修科目となります。
○シラバスに基づき履修の説明をするので、初回の授業には必ず出席をしてください。
○すべての授業回を通して、遅刻や欠席はしないようにしてください。
○グループワークもあるため、他者を尊重する態度や他者とのコミュニケーションを大切に、授業に参加してください。

※【キャリア講座】と【図書館ガイダンス】は担当部署と日程調整をします。
そのため授業計画は多少前後する可能性があります。

※「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となる。

科目コード：21000 科目ナンバリング：WP10A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習I b(Basic Seminar I b)

担当者：佐々木 徹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 大学での学びにおいては、高校までの学びとは異なる新しい局面が開けてきます。関心を持てるテーマを自分で見つけ、それを自分の責任において探求し、その成果を達意の文章で発表し他者に伝達するすべを体得せねばなりません。積極的に、そして自分を見失わずに、真理の海に漕ぎだしてゆく姿勢が大切です。生涯、生活の中にあつて考え続けることのできるテーマを若き日に発見した人は、真に幸福な人であると申せましょう。

以上のことを念頭に置きつつ、この授業では、レポート作成法を基本から学び、大学の講義の聴き方、ノートを取り方、質疑応答や討論の作法などを学びます。文献の見つけ方、読解と整理、文章の書き方を練習します。レポート作成に関しては、必ず担当者による個別指導を受けること。

キーワード： 学問の精神(心得)、真理の探求、論理的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 大学生に相応しい、健全な批判精神を体得し、質疑応答においては自分の意見をはっきりと述べることができる。教員への質問の仕方や、図書館での文献探求に習熟している。

評価方法： 担当教員への質問、文献講読時の質疑応答など、授業への参加態度や貢献度 **評価割合：10%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 論理的に考え、表現するための技術を身につけている。

評価方法： 字数2000字以上のレポート
このレポート作成過程での個別指導に対する態度 **評価割合：80%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自己の将来につながる大学生活について主体的に考え、大学での学びの意義を理解するとともに、自ら進んで大学の資源を活用して学びを深め広げていくことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。自己を客観的に見つめ、かつまた自己と社会との関係性を見定め、学んだ知識を倫理的観点からも吟味することをこの授業で学べば、それは将来の歩みに何らか資することになる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポート等において、人権侵害や差別の主張など著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：大学で学ぶ際の心得。この授業に関する説明

第2回：大学の歴史

第3回：講義の理解の仕方

第4回：役に立つノートの取り方

第5回：図書館案内

第6回：レポートの作成(1. テーマを選ぶ)

第7回：レポートの作成(2. 考察を重ねる(a))

第8回：レポートの作成(3. 考察を重ねる(b))

第9回：レポートの作成(4. 考察を重ねる(c))

- 第10回: レポートの作成(5. 文章を書く(a))
- 第11回: レポートの作成(6. 文章を書く(b))
- 第12回: レポートの作成(7. 文章を書く(c))
- 第13回: 文献購読と質疑応答(1)
- 第14回: 文献購読と質疑応答(2)
- 第15回: 文献購読と質疑応答(3)
- レポート提出

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 様々なことに関心を持ち、書物や新聞に慣れ親しむこと。日記を書いたり、読んだ良書の中に良い文章を見つけたら、抜き書きして暗記し、自ら文章力を錬磨する習慣を持つこと。参考文献等は適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAのメールや掲示で連絡したりする。

留意事項: 大学の授業では、レポートを提出する機会が増え、議論をすることも多くなるので、しっかりと誠実に取り組むこと。
「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は**心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)**である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となる。

科目コード: 21000 **科目ナンバリング:** WP10A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習I c(Basic Seminar I c)

担当者: 望月 珠美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜1限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 10 資料調査課題
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要: 「書く」「推敲する」「伝える」「わかちあう」ことに関する演習を通して、論理的思考に基づいた表現力の獲得をめざします。中心になるのは、自ら研究テーマを選択、決定し、それをレポート(報告)する取り組みです。研究テーマの決定にあたっては、自らがめざす専門性や将来像に関連する内容とすることを推奨します。そのために、自己理解とともに本学学部学科を経て、将来、社会の担い手となることを意識づけるキャリアデザインに関する学びの機会を設けます。これらの学びを通して、自らの適性や特徴についての肯定的理解とともに、現代社会における課題達成にむけて求められる専門性や人材についての関心を深め、大学生活に主体的に取り組む態度の形成を図ります。あわせて、今日の社会において必須となるさまざまな情報技術を活用するために求められる知識や技術、倫理についても学びます。

キーワード: 論理的思考 自己理解 レポート 情報リテラシー 倫理 キャリア

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自己の将来につながる大学生活について主体的に考え、大学での学びの意義を理解するとともに、各種資源を活用して豊かな学びを展開するために必要な知識、技能を獲得する。

評価方法: 課題への取り組み
期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題となる現象を論理的に考え、それを社会のなかで共有するために求められる表現技術と倫理観を獲得する。

評価方法: 課題への取り組み
期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」における豊かさ、的確さとして評価に加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」における豊かさ、的確さとして評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な生き方や価値観に対して著しく配慮を欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 01 オリエンテーション:大学における学びとマナー
 - 02 自己理解を深める①:Do,Have,Beリストの作成と発表
 - 03 自己理解を深める②:図書館の活用
 - 04 自己理解を深める③:キャリアガイダンス
 - 05 論理的思考と表現①:論文の基本的構造の確認
 - 06 論理的思考と表現②:研究テーマを考える
 - 07 論理的思考と表現③:研究テーマにかかわる資料の収集
 - 08 論理的思考と表現④:論文の読み方の基本(参考・引用文献の扱い方、記し方等)
 - 09 論理的思考と表現⑤:全体構成の検討
 - 10 論理的思考と表現⑥:「序論」
 - 11 論理的思考と表現⑦:「本論」
 - 12 論理的思考と表現⑧:「結論」
 - 13 論理的思考と表現⑨:「推敲」
 - 14 論理的思考と表現⑩:発表と討論
 - 15 振り返りと今後に向けて:まとめ(最終レポートの課題提示を含む)

期末レポート

* 特例期間中は課題研究型もしくは双方向型による授業になります。

* 内容は前後することがあります。

* 図書館ガイダンスが含まれます。

* 本学キャリア支援センターによるガイダンスが含まれます。

使用テキスト: 世界思想社編集部(2021)大学生学びのハンドブック5訂版,世界思想社(1200円)

使用テキストの購入の際には、必ず出版年を確認した上で、2023年4月時点における最新版を用意してください。

演習では、適宜、使用テキストを用います。また、別に資料を配布することもあります。各自でA4版サイ

ズのファイルを用意し、毎回の演習には必ず指定されたテキストとともに時系列で保管、ファイリングした資料を持参してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各課題への十分な取り組みが、次回演習の参加にあたっての必須条件となります。具体的には、課題の正しい読み解きと理解、計画的な取り組みを意識し、段階的に提示される各課題に対しては、それぞれの連続性や関連性を踏まえて取り組むとよいでしょう。また返却された提出物については必ず見直しを行い、確実な保管管理の元、適宜、確認の作業を行うことで自ら主体的に知識や技術の定着と向上をめざしましょう。使用テキストの他に参考になる文献や資料等がある場合には、別途、紹介します。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応するほか、teamsを介した連絡、面談が可能です。チームコードは、UNIPAでお伝えします。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項： 「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は**心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)**である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となることに留意する。

科目コード：21000 科目ナンバリング：WP10A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習I d(Basic Seminar I d)

担当者：呉 恩恵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07:発表
08:協同学修
11:討論
15:レポート指導

授業の概要： 大学での諸領域を学ぶための基礎的能力を習得することを目的とする。具体的には、レジュメ作成、図書館利用、ディスカッション、文献購読、レポート作成の方法について学ぶ。

キーワード： レポート作成
ディスカッション
文献購読

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： レジュメ作成や図書館利用が自力で行えるようになり、レポート作成のための準備が整えられる

評価方法： レポート
小課題

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ディスカッションに参加し、自分の意見を表明するとともに、他者の意見を受け入れることができる

評価方法： ディスカッション
発表

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる

評価割合：0%

▼その他

大学生活について外観し、これからのキャンパスライフについて自ら計画し、描いていきましょう。クラス活動を通して自己を省察し、他人に自分を伝えることに慣れていくようにします。

評価割合：大学生活について外観し、これから

- 授業計画： 【第01回】オリエンテーション・自己紹介
【第02回】大学とはどのようなところだろうか
【第03回】メールの書き方
【第04回】テーマからトピックを取り出そう
【第05回】質問紙チェック
【第06回】キャリアをデザインしよう【キャリア講座の予定】
【第07回】図書館で資料をさがそう【図書館ガイダンスの予定】
【第08回】インターネットで情報をさがそう
【第09回】議論の方法を知ろう
【第10回】レポートの文章の特徴を知ろう
【第11回】レジュメを作成してみよう
【第12回】レポートの基本を知ろう
【第13回】レポートを完成させよう
【第14回】発表の資料をつくろう
【第15回】発表・ふりかえり

使用テキスト： スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 吉原恵子ほか 実務出版

予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等： この授業は、学生が自主的に活動し、参加することを求めます。発表に必要なことについて、自ら文献を探し準備するようにしましょう。

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします

留 意 事 項： 「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となる。

この演習は1年生の必修科目となります。4年間の大学生活に必要な学生基礎力を身につけるためのものです。

- 予習・復習にあたっての留意事項を伝えるので、初回の授業には必ず出席をしてください。
- すべての授業回を通して、遅刻や欠席はしないようにしてください。
- 【キャリア講座】と【図書館ガイダンス】は担当部署の都合で日程が決まります。そのため授業計画は多少前後する可能性があります。

グループワークもあるため、他者を尊重する態度や他者とのコミュニケーションを大切に、授業に参加してください。

科目コード : 21004 科目ナンバリング : WP42A01E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 心理福祉演習II d (Seminar on Psychological Welfare II d)

担当者 : 櫻井 由美子

基本情報

年次 : 4 単位数 : 4 授業形式 : 演習

曜時 : 前期(火曜3限)、後期(火曜3限) 履修可能学科・専攻 : W

関連資格 : AL要素 : 7.発表
8.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要 : 履修者一人ひとりが、自分自身の心理福祉に関する研究課題に取り組み、研究やレポートを完成させる。

キーワード : 心理学的研究 心理学的支援 テーマ学習 相互理解 自己理解

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 心理福祉演習 I の学びのなかで得た知識を、ディスカッションや報告、レポート等において、適切に活用することができる。

評価方法 : レポート **評価割合 :** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 心理福祉演習 I で得た知識をもとに、あるいはそれらを発展させて、自らの関心について論理的に思考し、レポートで表現することができる。

評価方法 : レポート **評価割合 :** 80%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやレポートの取り組みにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートの着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

グループワークもしくはレポートの着想や論点において、著しく公正性を欠く言動や記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 【前期】

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:研究課題の検討(1) 研究テーマの焦点化
- 第3回:研究課題の検討(2) 研究の進め方
- 第4回:カウンセリングを学ぶ(1) カウンセラーの自己理解
- 第5回:カウンセリングを学ぶ(2) 傾聴

- 第6回:カウンセリングを学ぶ(3) 共感的理解
- 第7回:グループ研究(1) テーマの設定と先行文献の検討
- 第8回:グループ研究(2) データの収集と分析
- 第9回:グループ研究(3) 結果と考察
- 第10回:グループ研究(4) 報告と振り返り
- 第11回:カウンセリングを学ぶ(4) カウンセラーの応答
- 第12回:カウンセリングを学ぶ(5) 事例の検討
- 第13回:研究課題の検討(3) 文献データの検討
- 第14回:研究課題の検討(4) 調査データの検討
- 第15回:研究課題の検討(5) データ分析の手法の検討

【後期】

- 第1回:心理学的研究の意義(1) 個人レベルにおける意義
- 第2回:心理学的研究の意義(2) 社会システムにおける意義
- 第3回:研究課題の検討(6) データ分析
- 第4回:研究課題の検討(7) 分析結果の解釈
- 第5回:カウンセリングを学ぶ(6) クライエントの自己開示
- 第6回:カウンセリングを学ぶ(7) クライエントの心の変容
- 第7回:研究の完成(1) 研究課題の社会的意義
- 第8回:研究の完成(2) 研究倫理
- 第9回:研究の完成(3) 研究アウトラインの検討
- 第10回:心理学における現代的課題(1) 映画の視聴と理解
- 第11回:心理学における現代的課題(2) 映画の視聴と批判的検討
- 第12回:研究の完成(4) 研究結果の整理とまとめ
- 第13回:研究の完成(5) 研究結果の批判的検討
- 第14回:研究の完成(6) 研究結果の発表
- 第15回:まとめ

使用テキスト: 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

参考文献:

白井利明・高橋一郎 2013 よくわかる卒論の書き方(やわからかアカデミズム・わかるシリーズ)
ミネルヴァ書房

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:21004 科目ナンバリング:WP42A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 心理福祉演習II i(Seminar on Psychological Welfare II i)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次:4

単位数:4

授業形式:演習

曜時:前期(月曜3限)、後期(月曜3限)

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 07.発表
08.共同学習
09.資料調査課題
11.討論

- 14. 輪読活動
- 15. レポート指導
- 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

主に実験的手法によって、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決など、あらゆる心の働きについての普遍的な構造のあり方を探究する。各自、興味のあるテーマを決め、実験を行い、統計解析を加えて卒業までに卒業研究としてまとめる。

キーワード： 知覚、認知、生理、神経

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ①各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。
②卒業研究の準備を行う。

評価方法： 発表、レポート

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 各自が定めたテーマについて理解し、考察し、自分自身の意見を論理的に主張することができる。

評価方法： 授業への参加、コメント

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、また、研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 前期

1. この授業の到達目標と概略
2. 心理学研究の基礎知識(6)
3. 心理学研究の基礎知識(7)
4. 心理学研究の基礎知識(8)
5. 心理統計の基礎知識(4)
6. 心理統計の基礎知識(5)
7. 研究状況報告(1)
8. 研究状況報告(2)
9. 研究状況報告(3)
10. 研究状況報告(4)
11. 中間報告(5)
12. 中間報告(6)

- 13.中間報告(7)
 - 14.中間報告(8)
 - 15.まとめ
- 後期
- 1.この授業の到達目標と概略
 - 2.研究状況報告(5)
 - 3.研究状況報告(6)
 - 4.研究状況報告(7)
 - 5.研究状況報告(8)
 - 6.研究状況報告(9)
 - 7.研究状況報告(10)
 - 8.研究状況報告(11)
 - 9.研究状況報告(12)
 - 10.研究状況報告(13)
 - 11.卒業論文発表(1)
 - 12.卒業論文発表(2)
 - 13.卒業論文発表(3)
 - 14.卒業論文発表(4)
 - 15.まとめ

使用テキスト: 特に指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習】

参考文献・資料等: 自身の興味関心領域を明確にする

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 心理福祉演習 I i(国見ゼミ)単位習得後、受講可。

国見ゼミは“研究”を求めます。

研究を進めさえすれば単位習得は容易ですが、そうでなければ単位を認めることは難しくなります。

就職、進学等、進路は様々ですので、各自の研究に対するハードル(研究の最終ゴール)に差が生じるのは当たり前です。

就職希望者には就職希望者なりの、進学希望者には進学希望者なりのハードルとスケジュール設定を行いますので、教員との報連相を密に取ることを必須条件として求めます。

科目コード: 21006 **科目ナンバリング:** WP20C01K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会福祉発達史(History and Development of Social Work)

担当者: 田家 英二

基本情報

年次: 2

単位数: 4

授業形式: 講義

曜時: 前期(月曜3限)、後期(月曜3限)

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N

関連資格: 教職 福祉主 福祉心理

AL要素: 10. 資料調査課題

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

前期は、欧米における社会福祉の発達過程についてふれることを通して、その先駆的な歴史の流れから、社会福祉の思想の変遷を学び、社会福祉における普遍的な思想や原理を理解する。後期は、わが国の社会福祉の歴史について、前史としての古代社会や封建社会の動向から、近代社会以降、さらに戦前と戦後の時代的変遷とその特徴を検討することで、社会福祉について時代背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。

授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可(情報端末必携)。

質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。

授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。

評価は、授業内課題(レポート)で行う。

キーワード: エリザベス救貧法、新救貧法、慈善組織化運動、セツルメント運動、ベヴァリッジ報告、恤救規則、救護法、社会福祉三法と社会福祉事業法、社会福祉六法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。
社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。

評価方法: 授業内課題で評価。

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ることにより、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。
授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業内課題で評価。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。課題レポートの記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【前期】

資料をUNIPAで提供します。質問は、メールでも受け付けます。

第1回: ガイダンスおよび社会福祉における歴史的研究の意義と課題

第2回: イギリスの社会福祉のあゆみ(1) 中世社会の慈善事業

第3回: イギリスの社会福祉のあゆみ(2) キリスト教の慈善事業

第4回: イギリスの社会福祉のあゆみ(3) 救貧法の成立

第5回: イギリスの社会福祉のあゆみ(4) 新救貧法の成立

第6回: イギリスの社会福祉のあゆみ(5) 社会事業の成立

第7回: イギリスの社会福祉のあゆみ(6) 福祉国家と社会福祉の展開と福祉改革

第8回: アメリカの社会福祉のあゆみ(1) 植民地時代の救貧体制から社会保障の成立まで

第9回:アメリカの社会福祉のあゆみ(2) 専門社会事業の確立
第10回:アメリカの社会福祉のあゆみ(3) 第二次世界大戦後の社会福祉と福祉権運動
第11回:スウェーデン・デンマークの社会福祉と社会保障制度
第12回:西欧の歴史と人物、そして福祉(1)
第13回:西欧の歴史と人物、そして福祉(2)
第14回:西欧の歴史と人物、そして福祉(3)
第15回:西欧の歴史と人物、そして福祉のまとめ
適宜、授業内課題の提出を求める。

【後期】

第16回:古代から中世社会の慈善救済
第17回:前期・後期封建社会と慈善救済
第18回:明治維新と公的救済制度(恤救規則)
第19回:社会事業の成立と展開(救護法)
第20回:社会事業から戦時厚生事業へ
第21回:戦後改革期の社会福祉
第22回:福祉三法の成立
第23回:社会福祉事業法と福祉の近代化
第24回:福祉六法体制
第25回:高度経済成長期の社会福祉
第26回:低成長期と福祉見直し論から現代社会福祉
第27回:日本の社会福祉と人物(1)
第28回:日本の社会福祉と人物(2)
第29回:日本の社会福祉と人物(3)
第30回:日本のソーシャルワークの歴史
適宜、授業内課題の提出を求める。

使用テキスト: 授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくとう理解が深まります。(90分)
復習:配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分)
参考文献:室田保夫編著『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房、2013年
室田保夫編著『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房、2010年
右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史-政策と運動の展開-』(新版) 有斐閣選書、2012年
その他、授業時に随時紹介します。

障がいのある履修者への対応: 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応致します。来校ができない場合は、メールで対応します。

留意事項: 【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントを付与する。

科目コード:21012 科目ナンバリング:WP10C01K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 社会福祉援助技術総論(Survey of Social Welfare Aid Skills)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次:1

単位数:4

授業形式:講義

曜時:前期(月曜3限)、後期(月曜3限)

履修可能学科・専攻: W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：10資料調査課題
11討論
16振り返り用紙と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(基本的には同時双方向型)但し、課題研究型やオンデマンドで実施する場合もあるので必ず、お知らせ(ユニパとチームズ)を確認してください。

本講義では、ソーシャルワークをその基盤から学ぶ。総合的かつ包括的なソーシャルワーク(相談援助)専門職の定義と形成過程に関する知識、ソーシャルワーク(相談援助)の基盤である価値と倫理を理解する。また、ソーシャルワーク(相談援助)を実践するための重要な課題について理解を深める。

ソーシャルワークを理解するために、動画資料や個人・グループワークを行いながら具体的に理解する。なお、ソーシャルワーカーである社会福祉士・精神保健福祉士の特徴を理解し、他職種との違いやチームワークについて理解を深める。

キーワード： 社会福祉、ソーシャルワーク(社会福祉援助技術)、ソーシャルワーカー、専門的価値観

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 以下のことを理解することができる。

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程
- ③ソーシャルワークの価値規範と倫理
- ④社会福祉士の職域と求められる役割
- ⑤ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
- ⑥ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性
- ⑦総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容

評価方法： リアクションペーパー提出、
前期試験

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ①ソーシャルワークはなぜ登場するようになったのか。

- ②現代社会と人々が抱えている課題は何か。
- ③いま、社会福祉士および精神保健福祉士にどのような役割が求められているのか。

上記の具体例をもとに議論し、まとめることができる。

評価方法：リアクションペーパー提出、
前期試験

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象にはならないが、主体的に授業に臨みノートを取ることで、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、人に興味をもち、積極的に人と関わる体験は、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

ソーシャルワーカーが持たなければいけない絶対価値は人権の尊重である。本授業においては、ソーシャルワークの基礎を学ぶにあたって真摯な授業参加態度を期待する。

直接的な評価の対象とはしないが、授業中の発言やワークシートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. オリエンテーション、社会福祉をとりまく状況と求められるソーシャルワーク
 2. 社会福祉士及び介護福祉士法
 3. 精神保健福祉法
 4. ソーシャルワークの定義
 5. ソーシャルワークの特徴
 6. ソーシャルワークの構成要素(1)
 7. ソーシャルワークの構成要素(2)
 8. ソーシャルワークの構成要素(3)
 9. ソーシャルワークと社会資源
 10. ソーシャルワークの原理と理念
 11. ソーシャルワークの理念(1)
 12. ソーシャルワークの理念(2)
 13. ソーシャルワークの倫理(3)
 14. ミクロ・メゾ・マクロ・レベルにおけるソーシャルワーク(1)
 15. ミクロ・メゾ・マクロ・レベルにおけるソーシャルワーク(2)

【定期試験】

16. 前期の内容の振り返り
17. ソーシャルワークの源流(1)
18. ソーシャルワークの源流(2)
19. ソーシャルワークの基礎確立期
20. ソーシャルワークの発展期(1)
21. ソーシャルワークの発展期(2)
22. ソーシャルワークの展開期(1)
23. ソーシャルワークの展開期(2)
24. 日本におけるソーシャルワークの形成過程(1)
25. 日本におけるソーシャルワークの形成過程(2)
26. ソーシャルワークの倫理(価値と倫理)
27. ソーシャルワークの倫理(ジレンマ)
28. 専門職の概念と範囲
29. ソーシャルワークの職域と役割
30. 後期のまとめ

【期末試験】

使用テキスト： 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、中央法規、2021
・必要に応じて、資料等を印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

- 参考文献・資料等：**
- ・授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
 - ・授業終了後には、授業内容を復習するとともに、ノートの整理を行う。
 - ・毎回、リアクションペーパーを提出する。

【参考文献等】

- ・法律や用語は、以下の文献を活用し、知識の整理にあたる。
- ・『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房(最新版)
- ・『社会福祉の新たな展望』現代社会と福祉、ドメス出版、古川孝順、2012

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: まずは、メールで用件を送ってもらえるとありがたいです。

- ・Eメールのタイトル: 簡単に用件を記入
- ・本文: 学籍番号と氏名

留意事項: ・この授業は、後期から始まる「ソーシャルワーク演習 I」、及び次の年度の「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク演習(専門)」に向けて基礎知識を学ぶとともに、ソーシャルワーカーとしての心構えの形成を意図する。
・2年次以降履修する「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」の前提科目になる。
・社会福祉士の受験取得のための必修科目になる。
・授業時には、動画資料や個人・グループワークを行うことがある。
・受講において自主的に取り組む姿勢、他の受講生の学習を妨げることがないように教室マナーを要する。

科目コード: 21014 科目ナンバリング: WP21C01K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会福祉援助技術論I(Social Welfare Aid Skills I)

担当者: 田家 英二

基本情報

年次: 2

単位数: 4

授業形式: 講義

曜時: 前期(水曜2限)、後期(水曜2限)

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 10.資料調査課題
13.役割演技と疑似体験
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業
社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術についての理解を深めるために、必要に応じて視聴覚教材などを活用して講義を行います。

キーワード: ソーシャルワークの理論、ソーシャルワークの過程、ソーシャルワークの実践モデル、面接技術、記録、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョン、コンサルテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術を修得し、理解を深めることができる。

評価方法: 授業内課題または期末試験による評価。 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術を修得し、理解を深め、さらに自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの考えを伝えることができる。

評価方法: 期末試験による評価。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。なおレポートや期末試験等の記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合：0%

▼その他

期末試験等における不正行為については厳正に対処する。

評価割合：期末試験等における不正行為につ

授業計画：【前期】(質問は授業終了時にお願いします。)

- 第1回 ソーシャルワーカーが学ぶ理論
 - 第2回 システム理論と生態学的理論
 - 第3回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとマイクロ・メゾ・マクロの考え方
 - 第4回 ソーシャルワークの目標と展開過程
 - 第5回 ソーシャルワークの過程(ケースの発見から、インテークまで)
 - 第6回 ソーシャルワークの過程(アセスメント)
 - 第7回 ソーシャルワークの過程(プランニング)
 - 第8回 ソーシャルワークの過程(支援の実施とモニタリング、効果測定)
 - 第9回 ソーシャルワークの過程(支援の終結と結果評価、アフターケア)
 - 第10回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①(治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル)
 - 第11回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②(社会心理的アプローチ・機能的アプローチ・問題解決アプローチ・課題中心アプローチ)
 - 第12回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③(行動変容アプローチ・認知アプローチ・危機介入アプローチ)
 - 第13回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④(エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・解決思考アプローチ)
 - 第14回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤(さまざまなアプローチ)
 - 第15回 ソーシャルワークの過程と実践モデルとアプローチ(まとめ)
- 期末試験

【後期】

- 第16回 ソーシャルワークの面接①(面接の目的から面接の場面、インテークまで)
 - 第17回 ソーシャルワークの面接②(面施の技法、コミュニケーション技術から障害のある人へのかかわりまで)
 - 第18回 ソーシャルワークの記録①(目的、内容、ジェノグラムまで)
 - 第19回 ソーシャルワークの記録②(SORP)記録の実践
 - 第20回 ケアマネジメント(歴史、原則、意義、モデル、プロセスまで)
 - 第21回 グループを活用した支援(グループワーク)
 - 第22回 グループワークの展開過程とセルフヘルプグループ
 - 第23回 コミュニティーワークの意義と目的
 - 第24回 コミュニティーワークの展開
 - 第25回 コミュニティーワークの理論モデル
 - 第26回 ソーシャルアドミニストレーション
 - 第27回 組織運営と財源
 - 第28回 ソーシャルアクション
 - 第29回 コミュニティー・オーガナイズング
 - 第30回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 期末試験

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『12. ソーシャルワークの理論と方法』【共通科目】 中央法規出版、2021年
資料は、UNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【予習】教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。(90分)
【復習】社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。(90分)
参考文献等については授業内容に即して随時紹介します。
また適宜、補助資料をプリントして配付します。

障がいのある履修者への対応： 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応致します。来校できない場合は、メールで対応します。

留意事項： 「社会福祉援助技術論Ⅰ」または「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位修得済みであること。
【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード：21015 科目ナンバリング：WP22C01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会福祉援助技術論Ⅱ(Social Welfare Aid Skills II)

担当者：池田 幸也

基本情報

年次：2

単位数：4

授業形式：講義

曜時：前期(木曜3限)、後期(木曜3限)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：08協同学修

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要：【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

相談援助の対象、過程、援助関係、面接技術などを学び、それらの知識を相談援助実践に活用できるようにする。その上で、事例学習などを通し、ソーシャルワークの現場に対する理解を深めつつ、その過程において理論や技術を活かした展開を図ることで、援助関係への深化させ、自ら考察できるように講義を進めます。

キーワード： ソーシャルワーク、相談援助、ケースマネジメント

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で触れた理論や援助過程について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法： 試験

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。

提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：＝前期＝

【第01回】総合的かつ包括的な支援 多様化・複雑化した生活課題への対応

【第02回】総合的かつ包括的な支援 分野や領域を超えた問題解決

【第03回】家族支援の実際 ソーシャルワークで出会う家族

【第04回】家族の基礎理論と複合的課題

【第05回】家族支援のツールと実際

【第06回】地域支援とその実際

【第07回】地域支援の特徴と必要な知識・スキル・価値

【第08回】非常時や災害時のソーシャルワークとその目的

【第09回】非常時や災害時のソーシャルワークの実際と留意点

【第10回】ソーシャルワークの定義、対象と援助関係

【第11回】ソーシャルワークの実践レベルの援助とクライアントシステム

【第12回】社会福祉士の倫理綱領を踏まえた援助関係

【第13回】ソーシャルワーカーの役割から見た援助関係

【第14回】ネットワーキング

【第15回】コーディネーション まとめ

試験

＝後期＝

【第1回】ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整

【第2回】ソーシャルワーク実践と社会資源の関係

【第3回】社会資源開発の目的と意義

【第4回】社会資源開発の方法とサービス改善

【第5回】社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキル

【第6回】カンファレンス 会議の種類と方法

【第7回】カンファレンス ミクロ・メゾ・マクロの会議

【第8回】ソーシャルワークにおける事例分析

【第9回】ソーシャルワークにおける事例検討

【第10回】ソーシャルワークにおける事例研究

【第11回】ソーシャルワーク技法ネゴシエーション

【第12回】ソーシャルワーク技法コンフリクト・レゾリューション

【第13回】ソーシャルワーク技法ファシリテーション

【第14回】ソーシャルワーク技法プレゼンテーション

【第15回】ソーシャルワーク技法ソーシャル・マーケティング まとめ
試験

使用テキスト： 専門科目『最新 社会福祉士養成講座『6ソーシャルワークの理論と方法』編集 一般社団法人
日本ソーシャルワーク教育学校連盟 発行 中央法規出版株式会社
ISBN978-4-8058-8249-8

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習に際しては、ソーシャルワークの理論について中心的に確認をする。
授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めること。
参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード：21019 科目ナンバリング：WP20C04K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：地域福祉論(Studies in Regional Welfare)

担当者： 吳 恩恵

基本情報

年次：2

単位数：4

授業形式：講義

曜時：前期(水曜5限)、後期(水曜5限)

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：福祉主 社福士 福祉心理

AL要素： 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要：【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

「地域は、人々の悩みの要因になるが、同時に、よりよく生きるための資源にもなる」(Charles A. Rapp)

社会福祉の専門領域となる地域福祉論は、「地域」と「地域住民」への働きかけ、社会福祉を総合的に捉える知識や理解、社会福祉政策にわたるまでの幅広い視点や知識が大切である。本講義では、近年求められている包括的支援体制の構築のための実践や地方自治、専門職としての役割について学ぶ。

キーワード： コミュニティーソーシャルワーク、地域福祉の理念と実践、包括的支援体制、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・地域福祉の概念、理念について説明することができる。
・地域福祉の推進主体の役割について、理解することができる。

評価方法： リアクションペーパー、期末試験 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・地域福祉の近年の動向から、日本における社会福祉の課題に気づき、考察することができる。
・コミュニティソーシャルワークを活用し、家族や地域の支援について考察することができる。

評価方法： リアクションペーパー、期末試験 **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等が提出物や定期試験等に反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やアクティビティにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【前期】

第1回：オリエンテーション(授業の進め方)

地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①(テキスト2～10頁)

第2回：地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②(テキスト11～30頁)

第3回：地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題の現状③(テキスト31～36頁)

第4回：地域福祉の基本的な考え方①(テキスト116～124頁)

第5回：地域福祉の基本的な考え方②(テキスト125～134頁)

第6回：地域福祉の基本的な考え方④(テキスト135～148頁)

第7回：地域福祉の基本的な考え方⑤(テキスト149～156頁)

第8回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①(テキスト38～43頁)

第9回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②(テキスト44～54頁)

第10回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制④(テキスト55～74頁)

第11回：地域福祉ガバナンスと多機関協働①(テキスト76～82頁)

第12回：地域福祉ガバナンスと多機関協働②(テキスト83～91頁)

第13回：地域福祉ガバナンスと多機関協働③(テキスト92～103頁)

第14回：地域福祉ガバナンスと多機関協働④(テキスト104～114頁)

第15回：総括・まとめ

講義1～14回までの学習内容を振り返り、当教科に対する理解を深める。

【後期】

第16回：オリエンテーション(前期の復習と後期の進め方)

第17回：地域を基盤としたソーシャルワークの展開①(テキスト158～167頁)

第18回：地域を基盤としたソーシャルワークの展開②(テキスト168～181頁)(テキスト182～197頁)

第19回：災害時における総合的かつ包括的な支援体制①(テキスト200～218頁)

第20回：災害時における総合的かつ包括的な支援体制②(テキスト200～218頁)

第21回：災害時における総合的かつ包括的な支援体制③(テキスト219～237頁)

第22回：福祉計画の意義と種類、策定と運用①(テキスト240～247頁)

第23回：福祉計画の意義と種類、策定と運用②(テキスト248～258頁)

第24回：福祉計画の意義と種類、策定と運用③(テキスト259～267頁)

第25回：福祉計画の意義と種類、策定と運用④(テキスト268～275頁)

第26回：福祉計画の意義と種類、策定と運用⑤(テキスト276～283頁)

第27回：福祉行財政システム①(テキスト286～291頁)

第28回：福祉行財政システム②(テキスト292～300頁)

第29回：福祉行財政システム③(テキスト301～323頁)

第30回：全体のまとめ

※講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021年、3,190円(税込)

※今年度、「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ」を履修する学生は、演習Ⅱの授業内容と本講義内容が理論と実践でリンクしていく。そのため、テキストも演習Ⅲの授業にも参考書として使用できる。また、社会福祉士国家試験対策にも対応できると考える。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- ・予習・復習として資料や教科書からその日の内容を確認しておく(1時間)。
 - ・その日のうちに講義内容を振り返り、疑問点等があれば、質問や自分自身で調べるなど、必ず解決しておく(リアクションペーパーを通じて質問してもよい)。
 - ・自分自身の住んでいる地域の特徴の把握、新聞やインターネット等のニュースから時事問題に関心を持つ。

<参考文献> その他、適宜、参考文献があれば講義内で紹介する。
・松端克文『地域の見方を変えると福祉実践が変わるーコミュニティ変革の処方箋ー』ミネルヴァ書房、2018年、3,300円(税込)
・『社会福祉学習双書』編集委員会『第8巻 地域福祉と包括的支援体制』全国社会福祉協議会出版部、2022年、2,970円(税込)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部・教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPA又はオフィスアワー(曜日・時限等は初回講義でお知らせします。)

- 留意事項：**
- ・本講義は、社会福祉の基本的な事柄は既に習得済であることを前提として進めていく。
 - ・本講義は、テキストと授業資料に沿って進める。状況によって章の順序が変わる可能性もある。
 - ・授業の際には、動画資料や個人およびグループワークが行われることがある。
 - ・毎回のリアクションペーパーは評価対象になる。
 - ・当科目は、社会福祉士国家試験の必須科目となっており、社会福祉士を目指している学生には重要な科目である。そのために、授業中に他の学生の学習を妨げることがないようにお互いに授業マナーを守って臨んでほしい。

科目コード：21023 科目ナンバリング：WP11C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ソーシャルワーク演習 a(Seminar in Social Work a)

担当者：山中 俊克

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：03実験・実技・体験

07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要： [授業の目的・ねらい]

- ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる能力を涵養する。
- ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
- ③ソーシャルワークの実践的に必要なコミュニケーション能力を養う。
- ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

事例やロールプレイング、グループディスカッション等とおして、自己理解や基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術を理解する。基本的な技術の理解の後、ケースワークやグループワークのソーシャルワークの展開事例をおして、実践的なコミュニケーション能

力や知識・技術を身につける。

キーワード： 社会福祉援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で修得したコミュニケーションおよび面接に関する知識と技術、社会福祉援助技術(ケースワークおよびグループワーク)の展開過程、プレゼンテーション技術、専門職倫理に関する知識について、概ね80%の完成度でワークシートおよびレポート等を作成することができる。

評価方法： 課題ごとにワークシートを提出。学期末にレポート提出。 **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習の取り組み、グループでの話し合いを通して、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができる。
また、ワークシートおよびレポート等の作成を通し、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度でワークシート等を完成させることができる。

評価方法： 課題ごとにワークシートを提出。学期末にレポート提出。 **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習内で課題に取り組むことで、主体的に学修に取り組む態度を身につける。
直接的な評価の対象とはならないが、課題ごとに提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

演習中のグループでの話し合いを通し、ピアスーパービジョンの模擬体験を行い、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映される。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な対象評価としない。ただし、授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回：オリエンテーション

自己覚知と専門職の価値(1)－他者理解－

第02回：自己覚知と専門職の価値(2)－自己理解－

第03回：自己覚知と専門職の価値(3)－倫理とジレンマ－

第04回：コミュニケーション技術(1)－非言語的技術－

第05回：コミュニケーション技術(2)－言語的技術－

第06回：基本的な面接技術(1)－面接の構造化－

第07回：基本的な面接技術(2)－面接室、生活場面、自宅－

第08回：基本的な面接技術(3)－電話、記録－

第09回：相談援助技術の試行(1)－インテーク－

第10回：相談援助技術の試行(2)－アセスメント・プランニング－

第11回：相談援助技術の試行(3)－支援の実施・モニタリング－

第12回：相談援助技術の試行(4)－終結・事後評価・アフターケア－

- 第13回:グループダイナミックスの活用(1)ーグループワークの構成ー
 第14回:グループダイナミックスの活用(2)ーグループワークの展開過程ー
 第15回:グループダイナミックスの活用(3)ーグループプレゼンテーションー
 定期試験

使用テキスト: テキストは使用しない。授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

- ・演習前には、その回のテーマのわからない用語を調べておく。
- ・演習終了後は、ワークシートの作成にあたり演習の内容を振り返るとともに、理論とのリンクを行う。
- ・ワークシートの返却後は、教員の添削をスーパービジョンとしてとらえ、自己覚知に努める。

【参考文献等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応を行う。曜日・時限等については初回授業で知らせる。

- 留意事項:**
- ・社会福祉の原理と政策Ⅰ、心理学概論Ⅰ、ソーシャルワークの基盤と専門職を修得済みとし、社会福祉の原理と政策Ⅱ、心理学概論Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)を同時履修とする。
 - ・2年次以降に心理福祉実習及び相談援助実習Ⅰを履修する場合は必修の科目となる。
 - ・2年次以降に心理福祉実習及び社会福祉援助技術現場実習Ⅰを履修する場合は必修の科目となる。
 - ・社会福祉士の国家試験受験資格を希望している場合も必修となる。

科目コード:21023 科目ナンバリング:WP11C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習 b(Seminar in Social Work b)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 03実験・実技・体験

07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要: [授業の目的・ねらい]

- ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる能力を涵養する。
- ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
- ③ソーシャルワークの実践的に必要なコミュニケーション能力を養う。
- ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

事例やロールプレイング、グループディスカッション等をとおして、自己理解や基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術を理解する。基本的な技術の理解の後、ケースワークやグループワークのソーシャルワークの展開事例をとおして、実践的なコミュニケーション能力や知識・技術を身につける。

キーワード： 社会福祉援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で修得したコミュニケーションおよび面接に関する知識と技術、社会福祉援助技術(ケースワークおよびグループワーク)の展開過程、プレゼンテーション技術、専門職倫理に関する知識について、概ね80%の完成度でワークシートおよびレポート等を作成することができる。

評価方法： 課題ごとにワークシートを提出。学期末にレポート提出。 **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習の取り組み、グループでの話し合いを通して、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができる。
また、ワークシートおよびレポート等の作成を通し、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度でワークシート等を完成させることができる。

評価方法： 課題ごとにワークシートを提出。学期末にレポート提出。 **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習内で課題に取り組むことで、主体的に学修に取り組む態度を身につける。
直接的な評価の対象とはならないが、課題ごとに提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

演習中のグループでの話し合いを通し、ピアスーパービジョンの模擬体験を行い、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映される。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な対象評価としない。ただし、授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回:オリエンテーション

自己覚知と専門職の価値(1)－他者理解－

第02回: 自己覚知と専門職の価値(2)－自己理解－

第03回: 自己覚知と専門職の価値(3)－倫理とジレンマ－

第04回: コミュニケーション技術(1)－非言語的技術－

第05回: コミュニケーション技術(2)－言語的技術－

第06回: 基本的な面接技術(1)－面接の構造化－

第07回: 基本的な面接技術(2)－面接室、生活場面、自宅－

第08回: 基本的な面接技術(3)－電話、記録－

第09回: 相談援助技術の試行(1)－インテーク－

第10回: 相談援助技術の試行(2)－アセスメント・プランニング－

第11回: 相談援助技術の試行(3)－支援の実施・モニタリング－

第12回: 相談援助技術の試行(4)－終結・事後評価・アフターケア－

第13回: グループダイナミックスの活用(1)－グループワークの構成－

第14回: グループダイナミックスの活用(2)－グループワークの展開過程－

第15回:グループダイナミックスの活用(3)ーグループプレゼンテーションー
定期試験

使用テキスト: テキストは使用しない。授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイント 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

- ・演習前には、その回のテーマのわからない用語を調べておく。
- ・演習終了後は、ワークシートの作成にあたり演習の内容を振り返るとともに、理論とのリンクを行う。
- ・ワークシートの返却後は、教員の添削をスーパービジョンとしてとらえ、自己覚知に努める。

【参考文献等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応を行う。曜日・時限等については初回授業で知らせる。

- 留意事項:**
- ・「社会福祉の原理と政策Ⅰ」、「心理学概論Ⅰ」、「ソーシャルワークの基盤と専門職」を修得済みとし、「社会福祉の原理と政策Ⅱ」、「心理学概論Ⅱ」、「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」を同時履修とする。
 - ・2年次以降に「ソーシャルワーク実習指導」及び「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ」を履修する場合は必修の科目となる。
 - ・2年次以降に「ソーシャルワーク実習」及び「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ」を履修する場合は必修の科目となる。
 - ・社会福祉士の国家試験受験資格を希望している場合も必修となる。
 - ・クラス分けは教員が行い、必要に応じて全クラス合同で行う。

科目コード:21023 科目ナンバリング:WP11C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習 c(Seminar in Social Work c)

担当者: 今橋 みづほ

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 03実験・実技・体験

07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要: [授業の目的・ねらい]

- ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる能力を涵養する。
- ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
- ③ソーシャルワークの実践的に必要なコミュニケーション能力を養う。
- ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

事例やロールプレイング、グループディスカッション等をとおして、自己理解や基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術を理解する。基本的な技術の理解の後、ケースワークやグループワークのソーシャルワークの展開事例をとおして、実践的なコミュニケーション能力や知識・技術を身につける。

キーワード： 社会福祉援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で修得したコミュニケーションおよび面接に関する知識と技術、社会福祉援助技術(ケースワークおよびグループワーク)の展開過程、プレゼンテーション技術、専門職倫理に関する知識について、概ね80%の完成度でワークシートおよびレポート等を作成することができる。

評価方法： 課題ごとにワークシートを提出。学期末にレポート提出。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習の取り組み、グループでの話し合いを通して、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができる。
また、ワークシートおよびレポート等の作成を通し、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度でワークシート等を完成させることができる。

評価方法： 課題ごとにワークシートを提出。学期末にレポート提出。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

演習内で課題に取り組むことで、主体的に学修に取り組む態度を身につける。
直接的な評価の対象とはならないが、課題ごとに提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

演習中のグループでの話し合いを通し、ピアスーパービジョンの模擬体験を行い、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映される。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な対象評価としない。ただし、授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

**評価割合：特になし
**

授業計画： 第01回:オリエンテーション
自己覚知と専門職の価値(1)－他者理解－
第02回:自己覚知と専門職の価値(2)－自己理解－
第03回:自己覚知と専門職の価値(3)－倫理とジレンマ－
第04回:コミュニケーション技術(1)－非言語的技術－
第05回:コミュニケーション技術(2)－言語的技術－
第06回:基本的な面接技術(1)－面接の構造化－
第07回:基本的な面接技術(2)－面接室、生活場面、自宅－
第08回:基本的な面接技術(3)－電話、記録－
第09回:相談援助技術の試行(1)－インテーク－
第10回:相談援助技術の試行(2)－アセスメント・プランニング－
第11回:相談援助技術の試行(3)－支援の実施・モニタリング－
第12回:相談援助技術の試行(4)－終結・事後評価・アフターケア－

第13回:グループダイナミックスの活用(1)ーグループワークの構成ー
第14回:グループダイナミックスの活用(2)ーグループワークの展開過程ー
第15回:グループダイナミックスの活用(3)ーグループプレゼンテーションー
定期試験

使用テキスト: テキストは使用しない。授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

- ・演習前には、その回のテーマのわからない用語を調べておく。
- ・演習終了後は、ワークシートの作成にあたり演習の内容を振り返るとともに、理論とのリンキングを行う。
- ・ワークシートの返却後は、教員の添削をスーパービジョンとしてとらえ、自己覚知に努める。

【参考文献等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: 学務課に相談してください。

留意事項: ・社会福祉の原理と政策Ⅰ、心理学概論Ⅰ、ソーシャルワークの基盤と専門職を修得済みとし、社会福祉の原理と政策Ⅱ、心理学概論Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)を同時履修とする。
・2年次以降に心理福祉実習及び相談援助実習Ⅰを履修する場合は必修の科目となる。
・2年次以降に心理福祉実習及び社会福祉援助技術現場実習Ⅰを履修する場合は必修の科目となる。
・社会福祉士の国家試験受験資格を希望している場合も必修となる。

科目コード:21024 科目ナンバリング:WP22C01E 主な使用言語:日本語|

授業名(英文): ソーシャルワーク演習(専門)I a(Seminar in Social Work (Speciality) I a)

担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: ○3.実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

ソーシャルワーク演習Ⅰに続く授業です。

事例やロールプレイング等をおして、相談援助のプロセスの全体像を理解する。また、分野別事例におけるグループディスカッション等をおして、制度を実際とリンキングさせる。さらに、様々なソーシャルワークの展開事例をおして、知識と技術を統合して概念化、理論化、体系化を図る。

キーワード: 相談援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で体験した援助技術や専門職倫理に関する知識等を理解し、概ね80%の完成度でワークシート等を作成することができる。

評価方法: 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合: 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:

グループ学習をとおして、思考する力や表現力を伸ばすことができる。また、ワークシートやグループ発表をとおして、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度でワークシート等を完成させることができる。

評価方法: 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ等で取り組む事例課題について、自主的にグループ学習を行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期内に提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習によって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:オリエンテーション

総合的かつ包括的支援の理解 ～相談援助のプロセス～

第2回:ひきこもり(不登校)事例(1)～アセスメント:アウトリーチ技術の活用～

第3回:ひきこもり(不登校)事例(2)～プランニング:チームアプローチ技術の活用～

第4回:ひきこもり(不登校)事例(3)～支援の実施:ネゴシエーション技術の活用～

第5回:児童虐待事例(1)～インテーク～

第6回:児童虐待事例(2)～アセスメント:フェイスシート等の作成～

第7回:児童虐待事例(3)～アセスメント:ジェノグラム・エコマップの作成～

第8回:児童虐待事例(4)～プランニング:ネゴシエーション技術の活用～

第9回:児童虐待事例(5)～計画の実施(インターベンション)～

第10回:児童虐待事例(6)～評価と終結、アフターケア～

第11回:児童虐待事例(7)～カンファレンス:

ファシリテーション・プレゼンテーション技術の活用～

第12回:低所得者支援事例(1)～インテーク～

第13回:低所得者支援事例(2)～アセスメント～

第14回:低所得者支援事例(3) ～プランニング～
第15回:総合的かつ包括的支援についてのまとめ
期末試験:レポート提出

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
- ・授業終了後は、授業内容を復習するとともに授業内容に関する理論等を調べる。
- ・ワークシートの返却後は、教員のスーパービジョンの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
- ・各自の発表前は、発表の用意をする。
- ・各自の発表後は、教員の講評内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
- ・以下の参考文献を推薦する。

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版(最新版)

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 I』発行所・中央法規出版(最新版)

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 II』発行所・中央法規出版(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 【履修上での注意】

・本授業を履修するには、「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」「社会福祉の原理と政策Ⅰ」「社会福祉の原理と政策Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」「ソーシャルワーク演習」

・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を同時履修することを原則とします。

・クラス分けは教員が行います。

【課題に対するフィードバック方法】

概ね、ワークシートなどにコメントを付して、返却します。

科目コード:21024 科目ナンバリング:WP22C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習(専門)I b (Seminar in Social Work (Speciality) I b)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 03実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

ソーシャルワーク演習 I に続く授業です。

事例やロールプレイング等とおして、相談援助のプロセスの全体像を理解する。また、分野別事例におけるグループディスカッション等とおして、制度を実際とリンクさせる。さらに、様々なソーシャルワークの展開事例とおして、知識と技術を統合して概念化、理論化、体系化を図る。

キーワード： 相談援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で体験した援助技術や専門職倫理に関する知識等を理解し、概ね80%の完成度でワークシート等を作成することができる。

評価方法： 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：

グループ学習とおして、思考する力や表現力を伸ばすことができる。また、ワークシートやグループ発表とおして、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度でワークシート等を完成させることができる。

評価方法： 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ等で取り組む事例課題について、自主的にグループ学習を行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期内に提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習によって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：オリエンテーション

総合的かつ包括的支援の理解 ～相談援助のプロセス～

- 第2回:ひきこもり(不登校)事例(1)～アセスメント:アウトリーチ技術の活用～
- 第3回:ひきこもり(不登校)事例(2)～プランニング:チームアプローチ技術の活用～
- 第4回:ひきこもり(不登校)事例(3)～支援の実施:ネゴシエーション技術の活用～
- 第5回:児童虐待事例(1)～インテーク～
- 第6回:児童虐待事例(2)～アセスメント:フェイスシート等の作成～
- 第7回:児童虐待事例(3)～アセスメント:ジェノグラム・エコマップの作成～
- 第8回:児童虐待事例(4)～プランニング:ネゴシエーション技術の活用～
- 第9回:児童虐待事例(5)～計画の実施(インターベンション)～
- 第10回:児童虐待事例(6)～評価と終結、アフターケア～
- 第11回:児童虐待事例(7)～カンファレンス:
ファシリテーション・プレゼンテーション技術の活用～
- 第12回:低所得者支援事例(1)～インテーク～
- 第13回:低所得者支援事例(2)～アセスメント～
- 第14回:低所得者支援事例(3)～プランニング～
- 第15回:総合的かつ包括的支援についてのまとめ
- 期末試験:レポート提出

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**
- ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
 - ・授業終了後は、授業内容を復習するとともに授業内容に関する理論等を調べる。
 - ・ワークシートの返却後は、教員のスーパービジョンの内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
 - ・各自の発表前は、発表の用意をする。
 - ・各自の発表後は、教員の講評内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
 - ・以下の参考文献を推薦する。
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版(最新版)
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』発行所・中央法規出版(最新版)
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』発行所・中央法規出版(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 【履修上での注意】

・本授業を履修するには、「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」「社会福祉の原理と政策Ⅰ」「社会福祉の原理と政策Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」「ソーシャルワーク演習」

・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を同時履修することを原則とします。

・クラス分けは教員が行います。

【課題に対するフィードバック方法】

概ね、ワークシートなどにコメントを付して、返却します。

科目コード:21024

科目ナンバリング:WP22C01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習(専門)I c(Seminar in Social Work (Speciality) I c)

担当者: 今橋 みづほ

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：o3.実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

ソーシャルワーク演習に続く授業です。

事例やロールプレイング等をおして、相談援助のプロセスの全体像を理解する。また、分野別事例におけるグループディスカッション等をおして、制度を実際とリンクさせる。さらに、様々なソーシャルワークの展開事例をおして、知識と技術を統合して概念化、理論化、体系化を図る。

キーワード： 相談援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で体験した援助技術や専門職倫理に関する知識等を理解し、概ね80%の完成度でワークシート等を作成することができる。

評価方法： 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：

グループ学習をおして、思考する力や表現力を伸ばすことができる。また、ワークシートやグループ発表をおして、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度でワークシート等を完成させることができる。

評価方法： 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ等で取り組む事例課題について、自主的にグループ学習を行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期内に提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習によって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回:オリエンテーション
総合的かつ包括的支援の理解～相談援助のプロセス～
第2回:ひきこもり(不登校)事例(1)～アセスメント:アウトリーチ技術の活用～
第3回:ひきこもり(不登校)事例(2)～プランニング:チームアプローチ技術の活用～
第4回:ひきこもり(不登校)事例(3)～支援の実施:ネゴシエーション技術の活用～
第5回:児童虐待事例(1)～インテーク～
第6回:児童虐待事例(2)～アセスメント:フェイスシート等の作成～
第7回:児童虐待事例(3)～アセスメント:ジェノグラム・エコマップの作成～
第8回:児童虐待事例(4)～プランニング:ネゴシエーション技術の活用～
第9回:児童虐待事例(5)～計画の実施(インターベンション)～
第10回:児童虐待事例(6)～評価と終結、アフターケア～
第11回:児童虐待事例(7)～カンファレンス:
ファシリテーション・プレゼンテーション技術の活用～
第12回:低所得者支援事例(1)～インテーク～
第13回:低所得者支援事例(2)～アセスメント～
第14回:低所得者支援事例(3)～プランニング～
第15回:総合的かつ包括的支援についてのまとめ
期末試験:レポート提出

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べること。
- ・授業終了後は、授業内容を復習するとともに授業内容に関する理論等を調べること。
- ・ワークシートの返却後は、教員のスーパービジョンの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めること。
- ・各自の発表前は、発表の用意をする。
- ・各自の発表後は、教員の講評内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深めること。
- ・以下の参考文献を推薦する。
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版(最新版)
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』中央法規出版(最新版)
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』中央法規出版(最新版)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業初回にお知らせします。

留意事項：【履修上での注意】

- ・本授業を履修するには、「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」「社会福祉の原理と政策Ⅰ」「社会福祉の原理と政策Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」「ソーシャルワーク演習」
- ・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を同時履修することを原則とします。
- ・クラス分けは教員が行います。

【課題に対するフィードバック方法】

概ね、ワークシートなどにコメントを付して、返却します。

科目コード : 21025 科目ナンバリング : WP23C01E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : ソーシャルワーク演習(専門)II a (Seminar in Social Work (Speciality) II a)

担当者 : 清原 舞

基本情報

年次 : カリキュラム

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 木曜4限

履修可能学科・専攻 : W

関連資格 : 教職 社福士 福祉心理

AL要素 : 03.実験・実技・体験

07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要 : 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

ソーシャルワーク演習(専門) I に続く授業です。

社会福祉援助技術や社会福祉制度等に関する講義で学習した知識や技術、価値などを、事例におけるロールプレイングやグループディスカッション等をとおして、コミュニティワークの全体像を理解する。また、事例をとおして、社会資源や制度開発、地域福祉計画の評価を理解する。さらに、まちづくり計画を立案することをとおして、コミュニティワークの概念化、理論化、体系化を図る。

各セッションごとに宿題としてワークシートが課されますが、教員によるワークシートへの添削をとおして自己の知識・技術・価値観を振り返ります。

キーワード : コミュニティワーク、社会福祉援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で体験した援助技術や専門職倫理に関する知識等を理解し、コミュニティワークの全体像及び各プロセスの必要性を理解することができる。

評価方法 : 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合 : 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 事例及びまちづくり計画ロールプレイングにおけるコミュニティワーク展開過程をとおして、思考する力や表現力を伸ばすことができる。また、ワークシートやグループ発表をとおして、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができる。

評価方法 : 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合 : 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

グループ等で取り組む事例課題について、自主的にグループ学習を行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期内に提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習によって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション／地域を基盤とした支援の理解(1)ー地域の理解とコミュニティワークの理解ー
 - 2 地域を基盤とした支援の理解(2)ーコミュニティワークのプロセスの理解ー
 - 3 地域を基盤とした支援の理解(3)ー事例を基にしたプレゼンテーションの計画①ー
 - 4 地域を基盤とした支援の理解(4)ー事例を基にしたプレゼンテーションの計画②ー
 - 5 地域を基盤とした支援の理解(5)ー事例を基にしたプレゼンテーションの試行ー
 - 6 事例学習(1)ー障害者の支援事例を基にした社会資源の活用・調整・開発の理解ー
 - 7 事例学習(2)ー障害児の生活支援事例を基にしたソーシャルアクションの理解ー
 - 8 事例学習(3)ー地域福祉計画のサービス評価事例を基にした組織化の理解ー
 - 9 事例学習(4)ー災害時における支援事例を基にしたコミュニティワークの理解①ー
 - 10 事例学習(5)ー災害時における支援事例を基にしたコミュニティワークの理解②ー
 - 11 まちづくり計画の立案(1)ー地域課題の発見ー
 - 12 まちづくり計画の立案(2)ー地域課題のアセスメントー
 - 13 まちづくり計画の立案(3)ー地域課題解決のための組織化支援計画立案ー
 - 14 まちづくり計画の立案(4)ー地域課題解決のための組織化支援計画プレゼンテーション準備ー
 - 15 まちづくり計画の立案(5)ー地域課題解決のための組織化支援計画の振り返りー／まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
- ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(1時間程度)。
 - ・授業終了後は、授業内容を復習するとともに授業内容に関する理論等を調べる(30分)。
 - ・ワークシートの返却後は、教員のスーパービジョンの内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める(1時間程度)。
 - ・各自の発表前は、発表の用意をする。
 - ・各自の発表後は、教員の講評内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
 - ・以下の参考文献を推薦する。
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規出版、2021年
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規出版、2021年
『社会福祉学習双書』編集委員会編『第8巻 地域福祉と包括的支援体制』全国社会福祉協議会出版部、2022年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、事前に必ず学務部・担当教員に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPA又はオフィスアワー(初回の授業でお伝えします)

留意事項： ・本授業を履修するには、「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ」の単位を修得済みであることが必要です。

また2年次「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」を履修中、もしくは習得済であることを原則とします。

- ・クラス分けは教員が行います。
- ・本授業を履修するにあたり、報告・連絡・相談を怠らないこと。
- ・ワークシート等は添削及びコメントし、返却します。スーパービジョンとして活用すること。

科目コード：21025 科目ナンバリング：WP23C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ソーシャルワーク演習(専門)II b (Seminar in Social Work (Speciality) II b)

担当者：田家 英二

基本情報

年次：カリキュラム	単位数：2	授業形式：演習
曜時：木曜4限		履修可能学科・専攻：W
関連資格：教職 社福士 福祉心理		AL要素：o3.実験・実技・体験 07発表 10資料調査課題 11討論 15レポート指導

授業の概要：【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

ソーシャルワーク演習(専門) I に続く授業です。
社会福祉援助技術や社会福祉制度等に関する講義で学習した知識や技術、価値などを、事例におけるロールプレイングやグループディスカッション等をとおして、コミュニティワークの全体像を理解する。また、事例をとおして、社会資源や制度開発、地域福祉計画の評価を理解する。さらに、まちづくり計画を立案することをとおして、コミュニティワークの概念化、理論化、体系化を図る。
各セッションごとに宿題としてワークシートが課されますが、教員によるワークシートへの添削をとおして自己の知識・技術・価値観を振り返ります。

キーワード：コミュニティワーク、社会福祉援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で体験した援助技術や専門職倫理に関する知識等を理解し、コミュニティワークの全体像及び各プロセスの必要性を理解することができる。

評価方法：学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：事例及びまちづくり計画ロールプレイングにおけるコミュニティワーク展開過程をとおして、思考する力や表現力を伸ばすことができる。また、ワークシートやグループ発表をとおして、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができる。

評価方法：学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ等で取り組む事例課題について、自主的にグループ学習を行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。
直接的な評価対象にならないが、学期内に提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映され

る。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習によって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 1 オリエンテーション／地域を基盤とした支援の理解(1)ー地域の理解とコミュニティワークの理解ー
 - 2 地域を基盤とした支援の理解(2)ーコミュニティワークのプロセスの理解ー
 - 3 地域を基盤とした支援の理解(3)ー事例を基にしたプレゼンテーションの計画①ー
 - 4 地域を基盤とした支援の理解(4)ー事例を基にしたプレゼンテーションの計画②ー
 - 5 地域を基盤とした支援の理解(5)ー事例を基にしたプレゼンテーションの試行ー
 - 6 事例学習(1)ー障害者の支援事例を基にした社会資源の活用・調整・開発の理解ー
 - 7 事例学習(2)ー障害児の生活支援事例を基にしたソーシャルアクションの理解ー
 - 8 事例学習(3)ー地域福祉計画のサービス評価事例を基にした組織化の理解ー
 - 9 事例学習(4)ー災害時における支援事例を基にしたコミュニティワークの理解①ー
 - 10 事例学習(5)ー災害時における支援事例を基にしたコミュニティワークの理解②ー
 - 11 まちづくり計画の立案(1)ー地域課題の発見ー
 - 12 まちづくり計画の立案(2)ー地域課題のアセスメントー
 - 13 まちづくり計画の立案(3)ー地域課題解決のための組織化支援計画立案ー
 - 14 まちづくり計画の立案(4)ー地域課題解決のための組織化支援計画プレゼンテーション準備ー
 - 15 まちづくり計画の立案(5)ー地域課題解決のための組織化支援計画の振り返りー／まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(1時間程度)。
 - ・授業終了後は、授業内容を復習するとともに授業内容に関する理論等を調べる(30分)。
 - ・ワークシートの返却後は、教員のスーパービジョンの内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める(1時間程度)。
 - ・各自の発表前は、発表の用意をする。
 - ・各自の発表後は、教員の講評内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
 - ・以下の参考文献を推薦する。
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規出版、2021年
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規出版、2021年
『社会福祉学習双書』編集委員会編『第8巻 地域福祉と包括的支援体制』全国社会福祉協議会出版部、2022年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はオフィスアワー(初回の授業でお伝えします)

留意事項: ・本授業を履修するには、「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ」の単位を修得済みである必要があります。また2年次「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」を履修中、もしくは習得済であることを原則とします。
・クラス分けは教員が行います。
・本授業を履修するにあたり、報告・連絡・相談を怠らないこと。
・ワークシート等は添削及びコメントし、返却します。スーパービジョンとして活用すること。

科目コード:21025 科目ナンバリング:WP23C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱc(Seminar in Social Work (Speciality) Ⅱc)

担当者: 池田 幸也

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 03.実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要: 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

社会福祉援助技術演習Ⅱに続く授業です。

社会福祉援助技術や社会福祉制度等に関する講義で学習した知識や技術、価値などを、事例におけるロールプレイングやグループディスカッション等をとおして、コミュニティワークの全体像を理解する。また、事例をとおして、社会資源や制度開発、地域福祉計画の評価を理解する。さらに、まちづくり計画を立案することをとおして、コミュニティワークの概念化、理論化、体系化を図る。

各セッションごとに宿題としてワークシートが課されますが、教員によるワークシートへの添削をとおして自己の知識・技術・価値観を振り返ります。

キーワード: コミュニティワーク、社会福祉援助技術、専門的価値観、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で体験した援助技術や専門職倫理に関する知識等を理解し、コミュニティワークの全体像及び各プロセスの必要性を理解することができる。

評価方法: 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 事例及びまちづくり計画ロールプレイングにおけるコミュニティワーク展開過程をとおして、思考する力や表現力を伸ばすことができる。また、ワークシートやグループ発表をとおして、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができる。

評価方法: 学期内でワークシートを提出。学期末にレポートを提出 **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ等で取り組む事例課題について、自主的にグループ学習を行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期内に提出するワークシートや学期末に提出するレポートに反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習によって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等がワークシートやレポートに反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 1 オリエンテーション／地域を基盤とした支援の理解(1)ー地域の理解とコミュニティワークの理解ー
 - 2 地域を基盤とした支援の理解(2)ーコミュニティワークのプロセスの理解ー
 - 3 地域を基盤とした支援の理解(3)ー事例を基にしたプレゼンテーションの計画①ー
 - 4 地域を基盤とした支援の理解(4)ー事例を基にしたプレゼンテーションの計画②ー
 - 5 地域を基盤とした支援の理解(5)ー事例を基にしたプレゼンテーションの試行ー
 - 6 事例学習(1)ー障害者の支援事例を基にした社会資源の活用・調整・開発の理解ー
 - 7 事例学習(2)ー障害児の生活支援事例を基にしたソーシャルアクションの理解ー
 - 8 事例学習(3)ー地域福祉計画のサービス評価事例を基にした組織化の理解ー
 - 9 事例学習(4)ー災害時における支援事例を基にしたコミュニティワークの理解①ー
 - 10 事例学習(5)ー災害時における支援事例を基にしたコミュニティワークの理解②ー
 - 11 まちづくり計画の立案(1)ー地域課題の発見ー
 - 12 まちづくり計画の立案(2)ー地域課題のアセスメントー
 - 13 まちづくり計画の立案(3)ー地域課題解決のための組織化支援計画立案ー
 - 14 まちづくり計画の立案(4)ー地域課題解決のための組織化支援計画プレゼンテーション準備ー
 - 15 まちづくり計画の立案(5)ー地域課題解決のための組織化支援計画の振り返りー／まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(1時間程度)。
 - ・授業終了後は、授業内容を復習するとともに授業内容に関する理論等を調べる(30分)。
 - ・ワークシートの返却後は、教員のスーパービジョンの内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める(1時間程度)。
 - ・各自の発表前は、発表の用意をする。
 - ・各自の発表後は、教員の講評内容について復習するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
 - ・以下の参考文献を推薦する。
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規出版、2021年
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座 精神保

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はオフィスアワー(初回の授業でお伝えします)

留意事項: ・本授業を履修するには、「相談援助技術演習Ⅱ」の単位を修得済みである必要があります。また「心理福祉実習」「心理福祉実習指導」を履修中、もしくは習得済であることを原則とします。
・クラス分けは教員が行います。
・ワークシート等は添削及びコメントし、返却します。スーパービジョンとして活用すること。

科目コード:21027 科目ナンバリング:WP34C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ a(Seminar in Social Work (Speciality) Ⅲ a)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 07.発表

10.資料調査課題

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

16.振り返り用氏と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

分野別事例におけるロールプレイングやグループディスカッション等を通して、実践モデルとアプローチの活用方法を理解する。また、援助計画の策定を通して、実践的に支援方法を理解する。さらに、様々な分野別事例を通して、ソーシャルワークの展開過程を実践的に理解し、ソーシャルワークの概念化、理論化、体系化を図る。

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 事例のグループディスカッションやグループ活動において、ソーシャルワークの知識・技術・価値観を活用して議論ができ、振り返りのワークシートやレポートにおいてそれらの用語を活用して技術できる。

評価方法: 事前課題

評価割合: 50%

ワークシート

レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 演習で扱った事例について、事前学習によって得た知見、実習での経験を踏まえた考察ができ、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 事前課題

評価割合: 50%

ワークシート

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワーク

シートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：オリエンテーション、実践モデルとアプローチの活用(1)
 - 第2回：実践モデルとアプローチの活用(2)～事例を基にしたケースワーク活用～
 - 第3回：実践モデルとアプローチの活用(3)～事例を基にした生活モデルアプローチの理解～
 - 第4回：実践モデルとアプローチの活用(4)
～事例を基にしたストレングスモデルアプローチの理解～
 - 第5回：実践モデルとアプローチの活用(5)～事例を基にした問題解決アプローチの理解～
 - 第6回：援助計画の策定(1)～高齢者・障がい者・児童：ニーズ把握
 - 第7回：援助計画の策定(2)～高齢者・障がい者・児童：アセスメント
 - 第8回：援助計画の策定(3)～高齢者・障がい者・児童：プランニング
 - 第9回：援助計画の策定(4)～高齢者・障がい者・児童：プレゼンテーション
 - 第10回：援助計画の策定(5)～高齢者・障がい者・児童：プレゼンテーション
 - 第11回：事例学習(1)～DV事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第12回：事例学習(2)～終末期ケア事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第13回：事例学習(3)～退院援助事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第14回：事例学習(4)～認知症高齢者支援事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第15回：事例学習(5)～非行少年の支援事例を基にしたアプローチの理解～

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・(授業前)事前に提示される事前課題を基に事例の理解・整理、分からない用語を調べる(90分)。
- ・(授業後)事後課題ワークシートを基に授業内容について、これまで受講した以下の関連科目のノートや参考文献を基にソーシャルワークの知識、技術、価値観とのリンキングに努め、ワークシートを提出する。

【関連科目】

ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法 I・II、ソーシャルワークの理論と方法(専門) I・II

【参考文献】

- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『11ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』中央法規出版
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『12ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規出版
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『6ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』中央法規出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項： ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ～Ⅱおよびソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱの単位が修得済みであること。
ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳが同時履修中であること。
課題のフィードバックは、授業内ないしはTeams等でコメントを付して返却する。

科目コード：21027 科目ナンバリング：WP34C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ b(Seminar in Social Work (Speciality) Ⅲ b)

担当者：田家 英二

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：07.発表

10.資料調査課題

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

16.振り返り用紙と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

分野別事例におけるロールプレイングやグループディスカッション等を通して、実践モデルとアプローチの活用方法を理解する。また、援助計画の策定を通して、実践的に支援方法を理解する。さらに、様々な分野別事例を通して、ソーシャルワークの展開過程を実践的に理解し、ソーシャルワークの概念化、理論化、体系化を図る。

キーワード： ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 事例のグループディスカッションやグループ活動において、ソーシャルワークの知識・技術・価値観を活用して議論ができ、振り返りのワークシートやレポートにおいてそれらの用語を活用して技術できる。

評価方法： 事前課題

評価割合： 50%

ワークシート

レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習で扱った事例について、事前学習によって得た知見、実習での経験を踏まえた考察ができ、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 事前課題

評価割合： 50%

ワークシート

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：オリエンテーション、実践モデルとアプローチの活用(1)
 - 第2回：実践モデルとアプローチの活用(2)～事例を基にしたケースワーク活用～
 - 第3回：実践モデルとアプローチの活用(3)～事例を基にした生活モデルアプローチの理解～
 - 第4回：実践モデルとアプローチの活用(4)
～事例を基にしたストレングスモデルアプローチの理解～
 - 第5回：実践モデルとアプローチの活用(5)～事例を基にした問題解決アプローチの理解～
 - 第6回：援助計画の策定(1)～高齢者・障がい者・児童：ニーズ把握
 - 第7回：援助計画の策定(2)～高齢者・障がい者・児童：アセスメント
 - 第8回：援助計画の策定(3)～高齢者・障がい者・児童：プランニング
 - 第9回：援助計画の策定(4)～高齢者・障がい者・児童：プレゼンテーション
 - 第10回：援助計画の策定(5)～高齢者・障がい者・児童：プレゼンテーション
 - 第11回：事例学習(1)～DV事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第12回：事例学習(2)～終末期ケア事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第13回：事例学習(3)～退院援助事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第14回：事例学習(4)～認知症高齢者支援事例を基にしたアプローチの理解～
 - 第15回：事例学習(5)～非行少年の支援事例を基にしたアプローチの理解～

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・(授業前)事前に提示される事前課題を基に事例の理解・整理、分からない用語を調べる(90分)。
- ・(授業後)事後課題ワークシートを基に授業内容について、これまで受講した以下の関連科目のノートや参考文献を基にソーシャルワークの知識、技術、価値観とのリンキングに努め、ワークシートを提出する。

【関連科目】

ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ・Ⅱ

【参考文献】

- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『11ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』中央法規出版
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『12ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規出版
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『6ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』中央法規出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項： ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ～Ⅱおよびソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱの単位が修得済みであること。
ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳが同時履修中であること。
課題のフィードバックは、授業内ないしはTeams等でコメントを付して返却する。

科目コード：21028

科目ナンバリング：WP20C08K

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 社会保障論(Studies in Social Security)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次: 2

単位数: 4

授業形式: 講義

曜時: 前期(火曜1限)、後期(火曜1限)

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素: 10.資料調査課題

11.討論

16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、前期は社会保障の現状・体系・歴史的経緯など基本的な枠組みと医療保険制度と介護保険制度を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている医療、介護に関わる社会課題を取り上げながら、その制度の現状と課題について学びます。また、後期には年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている社会問題の現状について考える機会を提供し、今後の社会保障制度のあり方について考えます。

キーワード: 社会保障、社会保険、医療保険、介護保険、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: ワークシート
小テスト
期末試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
期末試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【前期】

- 第1回：現代社会と社会保障
- 第2回：社会保障の範囲と対象
- 第3回：社会保障の役割と意義
- 第4回：社会保障の方法
- 第5回：社会保障の史的展開(1)社会保障前史
- 第6回：社会保障の史的展開(2)社会保障の拡充
- 第7回：社会保障の史的展開(3)社会保障の再編と全世代型社会保障
- 第8回：医療保険(1)国民医療費
- 第9回：医療保険(2)加入と被扶養者
- 第10回：医療保険(3)保険診療と診療報酬制度
- 第11回：医療保険(4)保険給付
- 第12回：医療保険(5)海外の医療保障制度
- 第13回：介護保険(1)介護認定とケアマネジメント
- 第14回：介護保険(2)介護給付と予防給付
- 第15回：介護保険(3)地域支援事業

【後期】

- 第16回：社会保障の財政(1)社会保障給付費と社会支出
- 第17回：社会保障の財政(2)社会保障の財源
- 第18回：年金保険(1)年金制度の沿革
- 第19回：年金保険(2)年金制度へ加入と負担
- 第20回：年金保険(3)高齢期の年金給付と在職老齢年金
- 第21回：年金保険(4)障害・遺族年金
- 第22回：年金保険(5)年金財政と世代間格差
- 第23回：年金保険(6)企業年金と個人年金
- 第24回：労働者災害補償保険(1)労災の責任の負担
- 第25回：労働者災害補償保険(2)労働災害の現状と給付
- 第26回：労働者災害補償保険(3)過労死・精神疾患の認定と給付
- 第27回：雇用保険(1)失業の現状と高年齢雇用
- 第28回：雇用保険(2)介護・育児休業の現状と支援
- 第29回：雇用保険(3)長期失業と求職者支援制度
- 第30回：社会手当：子どもと所得保障

使用テキスト：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座 社会保障』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等：・授業終了時に事前課題を提示する場合があります、次回までに取り組んで参加すること。

【参考資料等】

・『厚生指標増刊 保険と年金の動向 2022/2023』厚生労働統計協会

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：21029

科目ナンバリング：WP20C09K

主な使用言語：日本語|

授業名(英文)：貧困に対する支援(Social Support for Poverty)

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜 時：木曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：08共同学修

11討論

16振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

わが国の公的扶助の概念や貧困の概念を理解します。また、わが国の低所得者に対する法制度を理解します。

最初に、公的扶助の概念や貧困の概念を解説し、続いて公的扶助制度を代表する生活保護制度の内容、実施方法について解説します。次に、生活保護制度がどのように実施されているかを理解するために、事例をとおして支援の実際を模擬体験し、模擬体験を通して生活保護制度の理念や原則を理解します。さらに、生活保護制度が適用されない人びとなどへの支援として、低所得者に対する法制度を理解します。最後に、現代の貧困問題を取り上げ、社会における公的扶助の役割について理解を深めます。

キーワード：公的扶助、生活保護制度、低所得者、貧困問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：公的扶助制度の全体像および生活保護制度の理念や原理、原則等について概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法：学期末筆記試験及び小テスト

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で取り上げた事例問題などを通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法：学期末筆記試験及び小テスト

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって得た知見等が期末試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中の教員の呼びかけに応じることによって、授業への自発的参加の精神を身につける。直接的な評価対象としないが、自発的な学修によって得た知見等が定期試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や筆記試験等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1. オリエンテーション(授業の概略と到達目標、評価方法)
2. 公的扶助の概念と意義
3. 貧困の概念

4. 生活保護の種類(8つの扶助)と保護施設
5. 保護の内容・方法1(生活扶助、教育扶助、住宅扶助)
6. 保護の内容・方法2(医療扶助、介護扶助、出産扶助、生業扶助、葬祭扶助)
7. 事例と保護の種類
8. 事例と支援方法
9. 生活保護制度の目的と原理
10. 生活保護の原則
11. 生活保護基準と収入の認定
12. 生活保護基準の推移と不服申し立て
13. 生活困窮者自立支援制度
14. 生活福祉資金貸付制度
15. 現代の貧困問題

使用テキスト: ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規出版、最新版。
・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後は、教科書や配付資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・日頃からニュースや福祉関係の問題に関心を向け、現代の貧困問題を意識してください。
・課題に対しては、コメントを付して返却します。
・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード: 21030 **科目ナンバリング:** WP10C02K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 児童福祉論(Studies in Child Welfare)

担当者: 田家 英二

基本情報

年次: カリキュラム **単位数:** 4 **授業形式:** 講義
曜時: 前期(木曜5限)、後期(木曜5限) **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: 教職 福祉主 社福士 福祉心理 **AL要素:** 10.資料調査課題
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、授業内課題(UNIPAの課題管理での課題提出)
少子・高齢化の進行とともに、児童虐待の問題等子どもや家庭をとりまく問題が複雑化してきているなかで、これからの児童福祉は、子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子ども家庭福祉への転換が求められるようになってきています。そのような社会状況の変化を踏まえて、子ども家庭福祉の理念や歴史、制度に関する知識についての理解を深めます。講義内容は、現代社会における子どもや子育て家庭の現状、子ども家庭福祉の理念、日本および諸外国における児童福祉の歴史、法体系と制度、子ども家庭福祉サービスの現状などについての解説を予定しています。
授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可(情報端末必携)。
質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。
授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。
評価は、期末試験及び授業内課題(レポート)で行う。

キーワード: 子ども家庭福祉の理念、少子高齢化、子どもの権利、児童福祉法、子育て支援、母子保健、社会的養護、障害児支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 児童福祉関係法規の理解、子ども家庭福祉の現状とサービスの理解、並びに課題や実践に関する知識を修得し、理解を深めることができる。
さらに、母子保健および子ども子育て支援、社会的養護、障害児支援の現状に関する知識を修得し、理解を深めることができる。

評価方法: 授業内課題およびレポートにより評価。 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 児童福祉の理念や歴史、制度や子ども子育て支援についての知識を修得し、理解を深め、さらに、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業内課題およびレポートにより評価。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートや期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

レポートや筆記試験等における不正行為については厳正に対処する。

評価割合: レポートや筆記試験等における不

授業計画: 【前期】

特例期間中の資料はUNIPAで提供する。質問は、ICメールまたはTeamsを活用する予定。

第1回: 子供の理解—子ども家庭福祉を学ぶにあたって

第2回: 子どもたちを取り巻く社会の現状

第3回: 子どもとその家族が直面している問題—子ども・子育てに関する問題—

第4回: 子ども家庭福祉とは

第5回: 子どもの権利と子ども家庭福祉の理念

第6回: 子ども家庭福祉の理念と概念

第7回: 子どもの権利

第8回: 西欧の児童福祉の歴史

第9回: 日本の児童福祉の歴史

第10回: 子ども家庭福祉に関する法制度

第11回: 子ども家庭福祉の行財政と実施体制

第12回: 児童福祉施設と専門職

第13回: 少子化対策と保育施策

第14回: 子どもの健全育成・地域子育て支援に関するサービス

第15回: 現代社会と子ども家庭福祉についてのまとめ

授業内課題およびレポート

【後期】

- 第16回: 母子保健
 - 第17回: 障害児と家族への支援
 - 第18回: 児童健全育成
 - 第19回: 保育
 - 第20回: 子育て支援
 - 第21回: ひとり親家庭の福祉
 - 第22回: 児童の社会的養護
 - 第23回: 非行児童と支援
 - 第24回: 情緒障害児と支援
 - 第25回: 児童虐待対策
 - 第26回: 女性福祉
 - 第27回: 子ども家庭への相談援助
 - 第28回: 施設ケア
 - 第29回: 子ども家庭福祉と地域援助
 - 第30回: 子ども家庭福祉についてのまとめ
- 授業内課題およびレポート

使用テキスト: 比嘉真人監修『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論【第2版】』みらい、2022.

*必ず【第2版】を購入してください。

資料は、UNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。(90分)
復習:新聞や雑誌で取り上げられた記事や社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。(90分)
参考書・参考資料等については授業時に随時紹介します。
情報端末の活用を認めます。

障がいのある履修者への対応: 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー、研究室で対応致します。来校できない場合は、メールを活用します。

留意事項: 本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属の学生の受講を優先します。

【課題に対するフィードバック方法】

授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード:21031 科目ナンバリング:WP10C03K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 障害者福祉論(Studies in Social Welfare for People with Disabilities)

担当者: 清原 舞

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:4

授業形式:講義

曜時:前期(月曜1限)、後期(月曜1限)

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 社福祉

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 本講義は社会福祉の専門科目です。社会福祉士国家試験の必須科目となります。「障害とは何か」を多角的に捉え、障害者福祉に関わる法制度や当事者の生活課題について理解を深めることを目的としています。さまざまな事例や新聞記事等も活用しながら、障害者が抱えている生活のしづらさや背景を理解した上で、法律・制度がどのように関わり、支援に繋がっているのかを学びます。そして、障害児・者の家族の心理や当事者の心理面につ

いても理解し、当事者主体の支援とは何かを考えます。また、世界の動向も視野に入れながら、日本の障害者福祉の課題についても考察していきます。

講義形式ですが、身近な問題としてとらえ、考えることを通して、専門職としてキャリアに繋げることを重視していますので、受講の際には、「自分には関係のないこと」ではなく、常に問題意識をもって取り組んでください。また、社会福祉の法制度も学んでいくので、福祉の法制度にも関心をもって受講してください。

- ・日本と世界の障害者福祉の理解
- ・障害の概念の理解
- ・障害者福祉に関する法律、サービスについての学び
- ・障害者の権利擁護
- ・当事者及び家族の心理面

キーワード： 障害者福祉、当事者主体の支援、障害者総合支援法、権利擁護

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
- ・障害者福祉サービスや障害者総合支援法について理解し、説明することができる。
 - ・障害者福祉に関する法律(障害者基本法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法など)の内容を理解することができる。
 - ・障害者の権利擁護の仕組みについて具体的に説明できる。

評価方法： 小テスト、定期試験、期末レポート、振り返り **評価割合：** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
- ・障害者福祉における理念や概念を理解することができる。
 - ・障害者福祉に関連する法律の背景や障害者福祉の現状、課題を理解し、考察することができる。
 - ・海外の障害者福祉の現状から日本の障害者福祉のあり方を考察することができる。

評価方法： 定期試験、期末レポート、振り返り **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等がレポートや定期試験等に反映されると思われる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：【前期】

- 第1回：オリエンテーション(授業の進め方)、「障害」のイメージ
- 第2回：障害者福祉の理念と障害の定義(1)
- 第3回：障害者福祉の理念と障害の定義(2)
- 第4回：障害者福祉の歴史
- 第5回：障害者の生活実態と社会環境
- 第6回：障害者の権利条約と障害者基本法

第7回:身体障害の理解と身体障害者福祉法(1)
第8回:身体障害者の理解と身体障害者福祉法(2)
第9回:知的障害の理解と知的障害者福祉法(1)
第10回:知的障害の理解と知的障害者福祉法(2)
第11回:精神障害の理解と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(1)
第12回:精神障害の理解と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(2)
第13回:難病、その他の障害の理解
第14回:発達障害の理解
第15回:まとめ
原則定期試験を実施

【後期】

第16回:オリエンテーション(前期の復習と後期の進め方)
第17回:障害者総合支援法(1)
第18回:障害者総合支援法(2)
第19回:障害者総合支援法(3)
第20回:障害者総合支援法(4)
第21回:相談支援と相談支援専門員の役割
第22回:障害者雇用・就労支援(1)
第23回:障害者雇用・就労支援(2)
第24回:障害児・者と家族(1)
第25回:障害児・者と家族(2)
第26回:権利擁護(1)
第27回:権利擁護(2)
第28回:障害者福祉の関連法令(住宅、バリアフリー等)
第29回:諸外国における障害者福祉(北欧)
第30回:全体のまとめ(世界の障害者福祉の動向と日本の障害者福祉の課題)
期末レポート

※講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト: 柿木志津江・清原舞編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉15 障害者福祉』ミネルヴァ書房、2023年、2,640円(税込)
資料も毎回配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 疑問やわからないところは、質問したり自分自身で調べるなどをしながら、必ず解決しておいてください。その意味でも、テキストは、予習復習をする上で役立つかと思います。予習として、障害者福祉に関するニュース、新聞記事等もチェックしておいてください(1時間)。復習は、テキスト・配布資料を参考にしながら必ず行うこと(1時間)。理解していることを前提に進めていきます。

参考文献として以下のテキストを推奨します。

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規、2021年、2,750円(税込)

その他の参考文献については、必要に応じて、講義内で紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はTeams

留意事項: ・社会福祉の専門科目のため、社会福祉の基礎知識があることを前提に授業を進めていきます。
・テキストは必ず購入しておいてください。
・小テストは前期2回、後期2回実施します。自分自身の知識の確認に役立てください。
・小テストは解説、リアクションペーパー等は全体へのフィードバックを行います。

科目コード : 21032

科目ナンバリング : WP10C04K

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 高齢者福祉論(Studies in Welfare of the Aged)

担当者 : 池田 幸也

基本情報

年次 : カリキュラム

単位数 : 4

授業形式 : 講義

曜時 : 前期(木曜2限)、後期(木曜2限)

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素 : 16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要 : 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

高齢者に関する理解を中心とし、高齢者を取り巻く社会情勢を解説し、高齢者福祉の発展過程をたどることで、老人福祉法をはじめとした介護保険制度を中心に高齢者福祉に関わる法制度の体系を学びます。

そのうえで、高齢者介護の実際に対する理解を深めつつ、介護保険制度の具体的サービスの内容や今後の課題について自ら考察できるように講義を進めます。

キーワード : 老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法 : 試験

評価割合 : 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法 : 試験

評価割合 : 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回アクションペーパーの提出を求める。

提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

- 授業計画：**
- 【第01回】授業のオリエンテーション、高齢者の定義と特性
 - 【第02回】高齢化率と高齢社会
 - 【第03回】日本の高齢化の特徴と課題
 - 【第04回】高齢者の生活実態
 - 【第05回】高齢者世帯の特徴と課題
 - 【第06回】家族介護の現状と課題
 - 【第07回】高齢者観の変遷
 - 【第08回】社会福祉前史と高齢者福祉
 - 【第09回】老人福祉法の誕生から在宅福祉への移行
 - 【第10回】介護保険制度の誕生と地域包括ケアシステムの構築
 - 【第11回】高齢者福祉の理念
 - 【第12回】介護保険制度と財政
 - 【第13回】介護認定の仕組みと介護保険事業計画
 - 【第14回】地域支援事業
 - 【第15回】介護保険サービスの体系 前期のまとめ
前期試験
 - 【第16回】高齢者保健福祉の法体系
 - 【第17回】老人福祉法
 - 【第18回】高齢者医療確保法
 - 【第19回】高齢者虐待防止法
 - 【第20回】バリアフリー法
 - 【第21回】高齢者住まい法
 - 【第22回】高年齢者雇用安定法
 - 【第23回】育児・介護休業法
 - 【第24回】市町村独自の高齢者支援
 - 【第25回】高齢者と家族等の支援・関係機関の役割
 - 【第26回】高齢者と家族等の専門職等の役割
 - 【第27回】高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割
 - 【第28回】家族の介護負担軽減と就労支援
 - 【第29回】高齢者虐待や近隣トラブルがある高齢者への対応
 - 【第30回】地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者 後期のまとめ
後期試験

使用テキスト： 専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』編集 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の際に適宜必要の応じて紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： なし

科目コード： 21033 **科目ナンバリング：** WP20C10K **主な使用言語：** 日本語

授業名(英文)： ジェンダー福祉論(Studies in Gender and Social Welfare)

担当者： 吉田 滋

基本情報

年次： 2

単位数： 2

授業形式： 講義

曜時： 火曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 10 資料調査課題

- 11 討論
- 16 振り返り用紙と応答
- 17 発問と回答

授業の概要: ジェンダーやフェミニズムとは何かという基本的な概念を明らかにしたうえで、例えば平塚らいてう対与謝野晶子論争などの母性論争も含めて、現在の男女共同参画社会や、出生前診断問題などの最新の話題まで取り扱う。

キーワード: フェミニズム
ジェンダー
男女同権
男尊女卑
男女共同社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 近年、世界的に女性の社会進出が進んできている。日本でも男女共同参画という言葉に代表されるような考え方が政策や制度の中に取り入れられつつある。しかし、雇用や賃金の面に代表して見られるように男女の格差は歴然と存在している。福祉においても女性と男性との違いは考慮されていたとは言えない。
日常生活の中でもありきたりに存在しながら見過ごされているジェンダー化された規範や知識を問い直すことで、新しい福祉社会のあり方を考える力を身に着ける。

評価方法: 試験 **評価割合:** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 男性中心社会である現在の問題点や改善点についてジェンダー視点からの提言や考察が出来るようになる。

評価方法: 試験 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回配布するリアクションペーパーの記述や出席により評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会福祉的な言動行為がみられた場合は、減点や嚴重注意の対象となりうる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【01回】オリエンテーション
【02回】ジェンダーという言葉の概念。男らしさ、女らしさとは何か。フェミニズムとその歴史。
【03回】教育とジェンダー格差1 大学と女性、リケ女
【04回】教育とジェンダー格差2 良妻賢母教育、平塚対与謝野論争
【05回】就職とキャリア形成1 ガラスの天井問題、就職活動、挫折と活躍、
【06回】就職とキャリア形成2 障害を持つ女性
【07回】結婚1 独身キャリアウーマン、寿退社
【08回】結婚2 結婚制度の終焉
【09回】妊娠、出産、子育て

- 【10回】性別分業
- 【11回】主婦と奥様家事労働を考える、パート主婦問題、女性と派遣労働、同一労働同一賃金、日本型雇用制度と女性差別、終身雇用と女性
- 【12回】ジェンダー平等とは何か。
- 【13回】世界の女性の権利保障1
- 【14回】世界の女性の権利保障2世界の面白法律編
- 【15回】総まとめ及びジェンダーと性について。
- 【16回】テスト

使用テキスト： テキストは指定しないが適宜講義の中で紹介する。
講義は毎回オリジナルの資料を配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 講義の中で取り上げる話題や、キーワードで挙げた事柄などの方法に注意して、普段から問題意識や疑問を持ってもらいたい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り配慮を行う。事前に学務部へ相談しておくこと。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業で連絡先等を周知する。

留意事項： 毎回オリジナルの資料を配布するのでファイリングしておくこと。
コロナのためにリモートになった場合は、双方向型の講義を行う。
事前にteamsへの登録を済ませておくこと。

科目コード： 21034 **科目ナンバリング：** WP20C11K **主な使用言語：** 日本語

授業名(英文)： ファミリーソーシャルワーク論(Studies in Family Social Work)

担当者： 吉田 滋

基本情報

年次： 2

単位数： 4

授業形式： 講義

曜時： 前期(火曜4限)、後期(火曜4限)

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 10 資料調査課題
11 討論
16 振り返り用紙と応答
17 発問と応答

授業の概要： [特例期間中の授業形態]遠隔授業 双方向型
[ソーシャルワークの実践的な課題と現状について、主として学校をキーワードにそれに関連した基本的な社会福祉の用語、理論を学びながら、スクールソーシャルの現場で起きている現実課題を可能な範囲でやさしく解説していきます。対象は児童分野だけではなく、高齢、障害、貧困、外国人とさまざまな分野に及びます。
日本で今起きているソーシャルワークの現実について学びます。

キーワード： 家族福祉、ファミリー、児童福祉、引きこもり、不登校、スクールソーシャルワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 課題を抱えている家庭への支援の現状を理解し、問題解決に必要とされる知識や技能について理解し、対応可能な総合的知識を習得する。

評価方法： 前期後期末にそれぞれ試験を行う。

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義の中で具体的支援事例についての演習を行い、それについての支援を自ら記述できる。

評価方法： 講義の中で具体的支援事例についての演習を行う。

評価割合： 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回オリジナルの資料を配布し、リアクションペーパーを記述してもらうことで学習態度や積極性を評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会福祉的な言動行為がみられた場合は、減点や嚴重注意の対象となりうる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【01回】オリエンテーション

【02回】社会的養護における家族支援の意義と課題1社会的養護と家族責任、家族支援における新たな視点・実践

【03回】家族論と家族を支援するための基礎知識1家族の定義、家族の形態と家族の歴史

【04回】家族論と家族を支援するための基礎知識2家族の機能、現代家族の特徴

【05回】家族論と家族を支援するための基礎知識3家族を理解するための理論

【06回】家族のアセスメントと支援計画1家族アセスメントの要点・基本、ジェノグラム、エコマップ

【07回】家族のアセスメントと支援計画2ケースストーリーのまとめかた、実際例、家族支援計画の作成と合意

【08回】児童福祉施設における子どものケアと家族支援1子どもの気持ち、子どもへの説明、子どもの描く家族への思い

【09回】児童福祉施設における子どものケアと家族支援2SWと家族との関係、子どもと家族の交流支援、家族引き取りの支援、不適切な家庭引き取りの防止

【10回】家族療法、家族療法で用いられる主な支援ツール、考え方、社会的養護における適用の基本と留意点

【11回】虐待ケースにおける家族支援プログラム。虐待ケースの増加と家族支援。

【12回】家族支援の基本と展開過程1。家族支援の基本、家族支援の展開過程。

【13回】家族支援の基本と展開過程2。乳児院で行う家族支援、児童養護施設で行う家族支援。

【14回】家族支援の基本と展開過程3。児童心理治療施設で行う家族支援、児童自立支援施設で行う家族支援、母子生活支援施設で行う家族支援。

【15回】まとめ

前期末テスト

後期

1. スクールソーシャルワーカーに必要な知識。
2. スクールソーシャルワーク活動に向けた準備。
3. スクールソーシャルワーク活動における留意点。
4. スクールソーシャルワーク活動に使う用紙等の実際。
5. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例1 発達障害。
6. スクールソーシャルワーク活動の実際事例2 自殺念慮。リストカット。
7. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例3 生活保護。
8. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例4 引きこもり、不登校。
9. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例5 外国籍児童。生徒。
10. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例6 児童虐待。
11. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例7 家庭崩壊。

12. スクールソーシャルワーク活動の実際 実例8 貧困からの進学。
13. スクールソーシャルワーク活動の実際 実例9 非行。
14. スクールソーシャルワーカーの行う研修。
15. 現場で起きていること。
16. 期末試験。

使用テキスト: 『家族支援と子育て支援ファミリーソーシャルワークの方法と実践(やさしくわかる社会的養護5)(やさしくわかる社会的養護シリーズ)』相澤仁編集、宮島清編集、明石書店。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 講義の中で興味のある部分や知らない分野については徹底的に専門所を読むなどして知識を身に着けること。可能な限り当日の記憶のあるうちに行って欲しい。
日ごろから福祉に関する報道に留意しどのような支援がされていたのか、されなかったのか注意してほしい。
参考文献等については講義の中で随時紹介していく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限りの対応をするので、事前に学務部に相談しておくこと。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法等については初回に指示する。

留意事項: 毎回オリジナルの資料を配布するので、散逸ないようにファイルしておくこと。

科目コード: 21036 **科目ナンバリング:** WP20C12K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 司法福祉論(Studies in Judicial Welfare)

担当者: 山中 俊克、高橋 活夫

基本情報

年次: 2

単位数: 4

授業形式: 講義

曜時: 前期(金曜4限)、後期(木曜2限)

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 罪を犯した人、少年はどのように社会に復帰するのでしょうか。それは社会の受け入れ、私たちの問題です。罪が繰り返されれば、本人にとってはもちろん、社会にとっても大きな損失です。

ここで取り扱うテーマは、私たちの身近に起こることがらでありながら、社会では正しく理解されていない大切な課題です。

前期は、更生保護制度と医療観察制度を取り上げ、後期は少年非行と司法制度について取り上げます。

【前期】

近年、高齢者及び障害者による犯罪件数や再犯率は増加し、これらの人々の支援にむけて社会福祉と更生保護との連携がとても重要なものとなっています。そのため、社会福祉機関及び施設の業務では更生保護制度の理解が求められています。前期の授業では、更生保護制度の現状と課題について、テキストと適宜配付します資料に依拠して解説していきます。

【後期】

講義で取り上げるテーマは受講者である学生の身近にある問題です。少年事件と法、処遇について考えていきます。具体的なケースを大切に対応を深めていきます。少年事件をどう理解するのか、審判と処遇はどう行われているのかを明らかにしていきます。

キーワード: 司法臨床 人間行動科学 当事者性 環境の調整 社会復帰 連携 要保護性 少年の立ち直り 可塑性 贖罪意識

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：【前期】

前期の授業では次の4点を目標にします。

①更生保護制度について理解できます。②刑事司法で活動する組織、団体及び専門職の役割について理解することができます。③刑事司法分野におけるソーシャルワーカーの他機関・多職種との連携について理解することができます。④医療観察制度について理解することができます。

【後期】

後期の授業では、家庭裁判所とはどういう所かを正確に知ること、少年事件はどのように扱われているのか基礎的知識を獲得し、少年の立ち直り(更生保護)についての実践を正しく知ることができます。また、具体的なケースについては、受講者がそれを分析し、問題点を明らかにし、対応策を考えるという実践的な力をもてるようにします。

評価方法： 学期末筆記試験、課題レポート
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた各テーマに関する知識を自ら深め、それを筋道立てて論述することができます。そして、実務現場で求められている内容について、要点を押さえた論理力、さらに表現する力(口頭での説明や討議、文章化)を身につけられるようにします。

評価方法： 学期末筆記試験、課題レポート
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にはしませんが、主体的な修習による深まりが、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にはしませんが、ボランティア活動などによって獲得された考えや理解が、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にはしませんが、先入観、偏見に基づく差別的言動や記述については注意します。そして話し合いたいと思います。それを通じて学び、深め、成長につなげてほしいと考えます。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【前期】

第1回：授業のオリエンテーション～到達目標と概略～

第2回：刑事司法と社会福祉

第3回：社会と犯罪

第4回：犯罪原因論と対策

第5回：刑罰とはなにか

第6回：刑事司法

第7回：施設内処遇(成人)

第8回：社会内処遇①

第9回：社会内処遇②

第10回：精神障害者を対象とした医療観察制度

第11回：高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉

第12回：薬物依存を抱える人と刑事司法

第13回:犯罪被害者等支援
第14回:コミュニティと刑事司法
第15回:まとめ
定期試験

【後期】

第1回:司法福祉の対象と方法
第2回:少年事件とメディア報道
第3回:非行統計をどう理解するか
第4回:犯罪学の非行理論—とくにトラビス・ハーシの「絆理論 (social bond theory)」
第5回:当事者主義の視点—更生(セカンドチャンス)の意義
第6回:ケースを検証する—家裁決定から何を讀むか
第7回:少年法の理念と構造
第8回:家庭裁判所の機能、審判の仕組み
第9回:家庭裁判所調査官の役割
第10回:家裁と専門機関との連携
—カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、弁護士(付添人)、学校、児童相談所、病院
第11回:家裁を支える研究と協働
—法律、福祉、教育、心理、医療(精神医学)
第12回:児童自立支援施設の役割と課題
第13回:少年院の処遇
第14回:社会内処遇の意義
第15回:少年法改正問題と子どもの育ち
定期試験

使用テキスト: 【前期】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座
10『刑事司法と福祉』中央法規 2021年(2,500円税別)

【後期】

各テーマごとに配付する資料に基づいて講義を進めます。資料は試験の際に必要となりますので、きちんと整理し、各テーマについて自分の考えを簡潔にまとめておいてください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

授業前には、次回取り上げるテキストのテーマや配付資料を読み、わからない用語や箇所を明らかにしておいてください。授業後は、わからなかったところについて明らかにし、質問してください。わからないままにしないでください。

普段から犯罪や少年事件、罪を犯した人の社会復帰に関するニュースに関心を持ち、調べてください。

参考文献は以下のものです。

【前期】

次の2点は支援計画書の作成の実際が学べます。

『刑事司法ソーシャルワークの実務—本人の更生支援に向けた福祉と司法の協働』千葉県社会福祉士会・千葉県弁護士会編、日本加除出版、2018年、3960円

『更生支援計画書をつくる: 罪に問われた障害のある人への支援』水藤昌彦監修、東京TSネット編、2016年、2090円

専門書として次の2点を挙げておきます。

『触法障害者の地域生活支援—その実践と課題』生島浩編著、金剛出版、2017年、3960円

『司法福祉学研究』日本司法福祉学会、生活書院(学会誌として毎年発行されています)

【後期】

『司法臨床入門』廣井亮一、日本評論社、2004年、1700円+税

『少年院のかたち』毛利甚八、現代人文社、2008年、1700円+税

なお、コミック『家裁の人』(毛利甚八・魚戸おさむ、小学館)は興味深い内容がたくさんあり、関心のある方は読んでください。

障がいのある履修者への対応: 障がいに応じて可能な限り適切に対応します。

授業時間外の連絡手段: 前期担当者・山中は6号館の研究室、後期担当者・高橋はシオン館の講師室をおたずねください。曜日・時間等については、最初の講義の際にお伝えします。

留意事項: 特になし

科目コード:21037 科目ナンバリング:WP20C13K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):介護概論(Social Care Work)

担当者:田家 英二

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 福祉主 福祉心理

AL要素: 10資料調査課題
16振り返り用紙と応答

授業の概要:【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

我が国は、少子・高齢化が急速なテンポで進み、介護を必要とする高齢者や障害者が増加しています。今や介護は国民的課題であり、大きな社会問題になっています。本来、ソーシャルワークとケアワークは違うものですが、介護に関わる生活課題に直面している個人や家族に対してケアワーカーが専門性を駆使して働きかける援助技術をソーシャルケアワークと呼ぶ動きもみられます。また、そのような人たちの介護ニーズを把握するためには、ケアワーカーとの連携や介護に対する知識が必要不可欠になってきます。そのためにも、ソーシャルワーカーが介護を学ぶ意義は大変大きいものになってきます。

1. 社会福祉に求められる介護の意味について理解する。
2. 介護を必要とする人間の理解を深める。
3. 介護に関わる関係職種について理解する。
4. 介護の意味・方法について理解する。
5. 福祉機器について理解する。
6. ケアマネジメントの実践(アセスメント、ケアプランの作成)を行う

なお、実務経験を活かし、以下のように授業をします。

- ・施設での介護の経験を、具体的な事例として取り上げ、生きた教材の提示に努めます。
- ・「介護福祉士」の資格をもち、具体的にどのように資格が活かされ、利用者支援にあたってきたのか学生に伝え、福祉の現場における専門職の役割について理解を促します。

キーワード: 介護、介護保険制度、ケアワーク、介護福祉士

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業の内容について、概ね80%の理解ができている。
記述式の授業内課題を出し、提出を求める。

評価方法: 授業内課題で評価

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内課題の提出により、思考力と判断力・表現力を身につけるようにする。

評価方法: 授業内課題で評価

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象にはならないが、主体的に授業に臨みノートを取ることで、介護の理解に反映されると思われる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、人に興味をもち、積極的に人と関わる体験は、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

福祉の専門職・介護士が持たなければいけない絶対価値は人権の尊重である。本授業においては、介護の基礎を学ぶにあたって真摯な授業参加態度を期待する。

直接的な評価の対象とはしないが、授業中の発言や授業内課題において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 資料をUNIPAで提供します。授業資料は各自ダウンロードする。情報端末の活用可。
質問は、授業終了時に受け付けます。

1. オリエンテーション、社会福祉に求められる介護とは
2. 介護を必要とする人と生活の理解
3. 介護の歴史
4. 介護保険法
5. 介護保険法改正のポイント
6. 介護のかかわる法制度
7. 介護保険制度とサービス内容
8. 介護保険の運用、利用、認定、費用
9. 介護サービスの担い手
10. 介護支援の実践(介護過程と実践)
11. 介護の具体的方法(移動・移乗)と福祉機器
12. 介護の具体的方法(食事・排泄・入浴・その他)と福祉用具
13. 認知症介護の支援方法
14. 介護ニーズとリスクマネジメント
15. これからの介護を考える

授業内課題の提出により評価

使用テキスト： 『福祉実践をサポートする 介護概論【第2版】』編著 菊池信子 保育出版社 2381円＋税

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。(90分)
- ・授業終了後には、授業内容を復習するとともに、ノートの整理を行う。(90分)

情報機器端末の活用を認めます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。来校ができない場合は、メールを利用します。

- 留意事項：** 1.ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱを履修する学生は、同時履修が望ましい。
2. ソーシャルワーク実習Ⅱを履修する学生は、本科目の単位修得済みであることが望ましい。
3.その他、高等学校教諭一種(福祉)の免許を希望している学生、介護に興味・関心のある学生を対象に行う。
4.この授業は講義形式であり、介護技術そのものの体験は行わない。

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントを付与する。

科目コード：21038 科目ナンバリング：WP10C05K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：福祉教育論(Studies in Welfare Education)

担当者：望月 珠美

基本情報

年次：1

単位数：4

授業形式：講義

曜時：前期(木曜1限)、後期(木曜1限)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：07 発表

08 協同学修

10 資料調査課題

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型もしくは同時双方向型
福祉教育をめぐる現状と課題およびその背景にある社会福祉問題について国内外における歴史的変遷や動向とともに具体的事例を用いながら学ぶ。あわせて、将来、福祉教育をファシリテートするために必要な知識、技術とともに倫理性の深化を図る。具体的には、福祉教育実践プログラムの立案、模擬実践、評価を行う。これらの学びを自らの職業選択や職業適性について主体的に理解、検討する職業指導の機会とする。

キーワード： 人権教育 生活教育 実践教育 市民教育 協働 ファシリテーター 福祉教育実践プログラム 職業指導

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 福祉教育の概念とともに現状と課題について国内外における歴史的経緯や実践例に基づいて具体的に説明することができる。

評価方法： 小レポート
期末レポート

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ファシリテーターとしての基本的知識、技能、倫理に基づいて、それらを適切に表現することができる。

評価方法： 小レポート
期末レポート

評価割合：50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に加味された成果等が学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 前期

- 01 オリエンテーション
- 02 福祉教育の歴史1(戦前)
- 03 福祉教育の歴史2(戦後から現在)
- 04 諸外国における福祉教育の取り組み
- 05 福祉教育の理念
- 06 福祉教育の構造
- 07 現代社会と福祉教育
- 08 福祉教育の目的
- 09 事例に学ぶ福祉教育の内容1(幼児、親子教室)
- 10 事例に学ぶ福祉教育の内容2(児童)
- 11 事例に学ぶ福祉教育の内容3(青年)
- 12 事例に学ぶ福祉教育の内容4(成人 生涯学習)
- 13 事例に学ぶ福祉教育の内容5(企業研修)
- 14 事例に学ぶ福祉教育の内容6(地域社会)
- 15 まとめ

期末試験

後期

- 01 オリエンテーション
- 02 福祉教育実践プログラムの構造的理解
- 03 発達段階と目的設定
- 04 方法論の検討
- 05 評価の在り方と方法
- 06 「きょうどう」の重要性
- 07 先行事例に学ぶプログラム作成のポイント
- 08 実践プログラムの作成1(目的と評価)
- 09 実践プログラムの作成2(方法の検討)
- 10 実践プログラムの作成3(内容と展開)
- 11 実践プログラムの作成4(評価)
- 12 実践プログラムの発表と評価1
- 13 実践プログラムの発表と評価2
- 14 実践プログラムの発表と評価3
- 15 総まとめー全体の振り返りと今後の課題ー

期末試験

使用テキスト： 坂野貢(2006)福祉教育のすすめ, ミネルヴァ書房, 2500円.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、各回のテーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておく。
復習：使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、在住する地域社会や自治体の取り組みなどについての自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項： なし

科目コード：21042 **科目ナンバリング：**WP20C16K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：感情・人格心理学(Psychology of Emotion and Personality)

担当者：渡邊 彰一

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 福祉心理 公認心理

AL要素：07.発表 13.役割演技と疑似体験 16.振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型
下記に示した4点についての理解を本講の目的とする。
・パーソナリティの概念とその形成過程
・パーソナリティの類型論と特性論
・感情に関する理論及び感情が喚起されるメカニズム
・感情が行動や認知に及ぼす影響

本講においては、心理学領域の中でも「人格心理学」と「感情心理学」の基礎を学ぶ。人格(パーソナリティ)の一側面に感情機能が含まれるため、主として人格に関する理論を先行して学び、その後、感情(情動・気分・情緒等)の生物学的基礎と神経生理学的秩序、およびそれらが認知や行動に及ぼす影響についての理解を深める。なお、指定したテキスト(受講者全員購入)を中心に、授業担当者としての実務経験を活かし、適宜事例を紹介しながら具体的な形で講義を進めることとする。
※授業開始までに指定教科書を購入しておくこと。

キーワード： パーソナリティとキャラクター 観察法 実験法 面接法 アイデンティティ ストレス 引きこもり 性同一性障害等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：①人格の形成過程や基礎的な理論についての理解を深め、そのアセスメントや障害への心理的支援に役立てることができる。
②人の感情に関する心理学的知見を得て、それらを人の精神的健康の維持や増進に寄与する支援に活用することができる。

評価方法：定期試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記,「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法: ・定期試験

・レポート

・コメントシート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

＜事前学修＞

次回の講義内容に向けて指示した教科書の部分を読み込むなどして自主的・主体的に授業に取り組むこと。

＜事後学修＞

講義・討議内容等の復習及び次回講義内容に向けた課題の予習並びに疑問点の確認を行っておくこと。基本的に毎講義時に、講義内容の復習、次回講義に向けた予習課題等の指示を行うので、講義のテーマに関連した学修を幅広く行っておくことが望まれる。

評価割合: 上記「思考力・判断力・表現力」に含む。

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が定期試験, レポート, コメントシート等の記述内容に顕著に認められる場合は, 上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

講義中の言動や定期試験及びレポート並びにコメントシートの記述等において, 人権侵害・差別的発言等, 著しく公共性を欠く記述等が確認された場合, 減点や嚴重注意の対象とするので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

各人が日常感じていること, 講義を通して感じたことなど, 受講学生間での討議・発表等を行うので, 積極的な参加姿勢・態度を期待したい。

評価割合: 各人が日常感じていること, 講義を

授業計画: 第1回:オリエンテーション(講義の目的・評価方法等)
第2回:パーソナリティの理論
第3回:類型論・特性論, パーソナリティの5つの次元(5因子モデル)
第4回:パーソナリティ測定方法1
第5回:パーソナリティ測定方法2
第6回:様々な心理学の立場によるパーソナリティのとらえ方
第7回:パーソナリティの発達とその関連要因
第8回:パーソナリティ障害(DSM-5・ICD10)
第9回:感情の定義と構成要素
第10回:感情喚起のメカニズムと理論
第11回:基本感情説と次元説
第12回:感情の生物学的基礎と神経生理学的メカニズム
第13回:感情の機能と役割
第14回:感情が行動や認知に及ぼす影響
第15回:まとめ(振り返り)
定期試験
なお, 上記授業計画に関して変更する可能性がある。

使用テキスト: 【教科書】島 義弘(編)『「パーソナリティと感情の心理学」ライブラリ心理学を学ぶ6』(サイエンス社 2017 本体 2200円)

※上記テキスト(教科書)が必須です。全員初回授業までに必ず購入・入手しておくこと。

予習・復習のポイントと <予習・復習>

参考文献・資料等: 「学修に主体的に取り組む態度」の項目に同じ

<参考文献・資料等>

鈴木公啓 ほか「パーソナリティ心理学入門 ストーリーとトピックで学ぶ心の個性」
(ナカニシヤ出版 2018)

二宮克美, 子安増生ほか(編)「『パーソナリティ心理学』キーワードで学ぶパーソナリティ心理学」(新曜社 2006~)

二宮克美 ほか(編)「パーソナリティ心理学ハンドブック」(福村出版 2013)
ほか, 講義で用いる資料は適宜配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部等に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 授業・講義の前後に直接申し出てください。

留意事項: 特になし

科目コード: 21043 科目ナンバリング: WP10C32K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理学的支援法(Methods of Psychological Support)

担当者: 櫻井 由美子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理

AL要素: 08.協同学習

11.討論

16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 本授業では、カウンセリングや心理療法の諸理論を理解したうえで、医療・教育・福祉・司法・産業等の領域で展開される心理学的支援の多様な在り方を学びます。授業内容の概要は以下のとおりです。

- ・代表的な心理療法およびカウンセリングの歴史, 概念, 意義, 適応及び限界
- ・訪問による支援(アウトリーチ)や地域支援の意義
- ・良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションの方法
- ・要支援者のプライバシーへの配慮と守秘義務
- ・要支援者の関係者への支援(コンサルテーション)
- ・心の健康教育

これらについて、授業担当者は、実務経験を踏まえた内容の授業を行います。

キーワード: 心理学的支援, カウンセリング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 各種心理療法の理論・方法および心理学的支援の実際についての知識を身につけ、適切に活用することができる。

評価方法: ・期末テスト(または
期末レポート)

評価割合: 70%

・小テスト

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 各種心理療法の理論・方法および心理学的支援の実際に関して、自らの関心や課題について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法:・期末テスト(または
期末レポート)
・リアクションシート

評価割合:30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、リアクションシートや期末試験において、自身の探求と気づきが主体的・意欲的に表現される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、リアクションシートや期末試験において、利他的言動が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やリアクションシート・期末テストにおける記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがあるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 心理学的支援とは
 - 第2回 心理学的支援を要する人々の心理的問題
 - 第3回 心理学的支援法のご概念と意義(1)クライアント中心療法
 - 第4回 心理学的支援法のご概念と意義(2)クライアント中心療法の発展的方法
 - 第5回 心理学的支援法のご概念と意義(3)精神分析的心理学療法
 - 第6回 心理学的支援法のご概念と意義(4)認知行動療法
 - 第7回 心理学的支援法のご概念と意義(5)その他の理論と方法
 - 第8回 心理学的支援法のご概念と意義(6)日本の心理学療法
 - 第9回 心理学療法およびカウンセリングの歴史
 - 第10回 要支援者の関係者への支援(コンサルテーション)
 - 第11回 心の健康教育
 - 第12回 訪問による支援(アウトリーチ)や地域支援の意義
 - 第13回 要支援者のプライバシーへの配慮と守秘義務
 - 第14回 心理学支援法の適応と限界
 - 第15回 良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションの方法

使用テキスト: 初回授業でテキストを指定しますので、ご準備ください。
その他、授業に必要な資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 本授業では、数回の小テストを実施する予定です。小テストの範囲は事前に指定しますので、十分に準備するよう努めてください。あわせて、小テストの復習にも努めてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと思っておりますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項: ・受講生の関心に即して、講義の順に変更を加える可能性があります。
・理解を深めるために、グループディスカッションの機会を設けます。グループメンバーの話に耳を傾けるとともに、自分の考えを自分の言葉で伝えるよう努めてください。

科目コード:21046

科目ナンバリング:WP10C08K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 臨床心理学概論(Introduction to Clinical Psychology)

担当者: 青木 万里

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理

AL要素: 07:発表

08:協同学習

10:資料調査課題

11:討論

17:発問と回答

授業の概要: 臨床心理学とは、心の問題を抱えた人々に対して心理学的な知識や技法を用いて援助を行う学問である。
本講義では臨床心理学の歴史から始まり、人間の心に関する諸原理及びそれらと結びついた心理的援助の方法を講じる。

なお科目担当者の公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、必要に応じて臨床事例を紹介・解説する。

キーワード: 臨床心理学
心理療法
アセスメントの理論と技法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 臨床心理学の成り立ちと代表的な理論を理解し、概ね80%説明できる。

評価方法: 定期試験
授業課題

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 学習を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。

評価方法: 定期試験
授業課題

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、履修取り消しの勧告もしくは減点や注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】臨床心理学の目的と方法
【第03回】臨床心理学の歴史
【第04回】性格の形成
【第05回】適応
【第06回】不適応
【第07回】アセスメントの理論と技法 観察
【第08回】アセスメントの理論と技法 面接
【第09回】アセスメントの理論と技法 心理テスト
【第10回】心理療法の理論 精神分析
【第11回】心理療法の理論 来談者中心療法
【第12回】心理療法の理論 行動療法
【第13回】心理療法の理論 遊戯療法
【第14回】心理療法の理論 森田療法ほか
【第15回】総括
定期試験

使用テキスト： 生きる力を育てる臨床心理学 小林芳郎編著 教育情報出版

予習・復習のポイントと 授業での学びをしっかりと振り返ること(90分)。

参考文献・資料等： そのうえで定期試験や授業課題に備えて、知識の定着を図ること(90分)が大切です。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項：

【履修を考えている方へ】

1. 初回の授業に必ず出席してください。授業の進め方を説明します。
2. 「心理学概論 I」「発達心理学」で学んだ知識を前提とします。これらの科目を履修済みであることが望ましいです。
3. 授業ではAL要素を多く取り入れる予定です。そのため他者への配慮と尊重・授業を休まないこと・積極的に討論に参加する態度などが求められます。
4. 臨床心理学では心の問題(人間の悩みや苦悩など心の不調)をテーマに扱います。それらのテーマが刺激となってメンタル不調を起こす可能性がある方は履修をお勧めしません。科目担当者が受講生の身の安全を守れないと判断したときは、履修あるいは履修の継続を認めない場合があります。

※上記項目は履修に必要な条件となりますので、科目担当者の指示にしたがってください。

科目コード：21048

科目ナンバリング：WP20C18K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：深層心理学(Depth Psychology)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：認心理 福祉心理

AL要素：16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 心理学は人の心(こころ)の理(ことわり)を探究する学問です。なかでも「深層心理学」は意識とは異なる私たちが普段は意識し得ないところ(無意識)の動き、の法則性を探求する学問領域です。心理学領域では「無意識の心理学」とされ、1800年代後半にフロイトやユング、アドラーといった力動的精神医学者たちによって確立され現在に至っています。本講義では、現代的なトピックや映画、作品などの視聴覚素材も活用しながら、現代のポストコロナ時代を生きる日本人の無意識について学びます。

キーワード： 意識、無意識、精神分析、分析心理学、分人主義、夢分析、文化、日本人 など

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 講義で学んだ事柄について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 中間・学期末レポート(2本)

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・無意識や意識に関する心理学的知見について理解することができる。
・講義の学びを自身の体験と照合しながら考察できる。

評価方法： 中間・学期末レポート(2本)

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーションー本授業のねらいと進め方ー

【第02回】こころの成り立ち:分かち合うこころ

【第03回】日本人の無意識の原風景

【第04回】感情の役割(1)

【第05回】感情の役割(2)

【第06回】分析心理学(1)

【第07回】分析心理学(2)

【第08回】無意識と文化

【第09回】影との対峙

【第10回】影との対話

【第11回】文化と幸福感

【第12回】こころの発達(1)

【第13回】こころの発達(2)

【第14回】コロナと無意識

【第15回】まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は随時印刷・配布しますが、下記テキストをレポート素材としますので生協等でご購入ください。

平野啓一郎(2012)私とは何かー「個人」から「分人」へ 講談社現代新書

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： teamsを介してアナウンスすることが多いので、そちらでもあるいはメールでも結構です。

留意事項：

- ・初回の講義には必ずご出席ください。15回の見直しをお伝えします。
- ・学習環境を保つため、他の受講生の迷惑になる行為(特に私語や携帯電話の使用など)をしないこと。
- ・W科以外の学生さんはオリエンテーション時にお伝えすることがありますので、初回の授業後にお集まりください。
- ・本講義は毎回出席を取ります、「出席状況(リアクション含む)」と「2本の間&最終レポート(teams上で電子媒体提出)」が大きな評価対象となりますのでご注意ください。
- ・何らかの実習等がある場合は、欠席届をご提出いただければ考慮します。
- ・コロナ感染状況や履修学生さんたちに応じて15回の講義編成内容に変更があるかもしれませんのでご理解ください。
- ・本講義では視聴覚素材を活用しますが、大きな音声や光に特異的な苦手さや苦痛を体験する学生さんはあらかじめお申し出ください(一時退出も検討します)、出席状況等に問題が無いようでしたら代替レポートを準備したいと思っております。

科目コード：21049 **科目ナンバリング：**WP20C19K **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)： 障害者・障害児心理学(Psychology for Adults and Children with Disabilities)
担当者： 望月 珠美

基本情報

年次： 2	単位数： 2	授業形式： 講義
曜時： 金曜2限		履修可能学科・専攻： W
関連資格： 教職 認心理 福祉心理 公認心理		AL要素： 10 資料調査課題 14 輪読活動 16 振り返り用紙と応答 17 発問と回答

授業の概要： 障害児・障害者とともにその家族に対する支援の充実が、今日の社会における重要な課題のひとつである。本講では、障害児・者をめぐる心理社会的課題の達成に向けて、権利性の遵守にもとづき、各障害の特性とニーズに応じた心理的支援の実践について理解を深めることをめざす。

キーワード： ICF ICD DSM BPSモデル 多職種連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：

- ・各障害特性について正しく記述できる。
- ・BPSモデルに基づき障害児・者をめぐる心理社会的課題について記述できる。
- ・障害児・者支援における心理職の機能と役割についての的確に記述できる。
- ・多職種との連携協働の重要性と具体についての的確に記述できる。

評価方法： 課題への取り組み **評価割合：**50%
期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義で取り上げられた内容について、関係する社会課題や自己の経験を含めて総合的、科学的かつ倫理的な観点をもって正しく表現することができる。

評価方法： 課題への取り組み **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が学期末試験等の記述内容に認められる場合には、「知識・技術」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末試験等の記述内容に認められる場合には、「知識・技術」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 01 オリエンテーション
02 障害とは何か、障害観の変遷と今日的課題
03 保育・教育現場における障害児への対応
04 知的障害の理解と支援
05 発達障害の理解と支援(1)
06 発達障害の理解と支援(2)
07 身体障害の理解と支援(1)
08 身体障害の理解と支援(2)
09 精神障害の理解と支援(1)
10 精神障害の理解と支援(2)
11 保護者・きょうだいへの支援
12 就労をめぐる支援
13 高齢と障害
14 地域社会と障害
15 まとめ

期末試験

使用テキスト： 本郷一夫・大伴潔編著(2022年)公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑬障害者・障害児心理学, 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫監修,ミネルヴァ書房,2400円.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習:使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、テーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語や知識については各自で調べ、確認しておくこと(例えば、人体の構造、各種法律など)。復習:使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、茨城県や在住する地域社会の統計資料や自治体の取り組みなどについて調べることでより地域の課題や特性に対する理解とともに社会的資源の現状についての知見を深めることにつなげたい。

将来、公認心理師をめざす学生は次の書籍もあわせて活用することを推奨する。
柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫編(2020)公認心理士師の基礎と実践13,野島一彦・繁樹算男監修,遠見書房,2600円.

障がいのある履修者への対応: ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項: なし。

科目コード: 21050 **科目ナンバリング:** WP20C20K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 老年心理学(Aged Psychology)

担当者: 塚本 美和子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 福祉心理

AL要素: 07発表09実地調査16振り返り用紙と応答

授業の概要: 高齢化社会がすすむ中、若いうちから老年期の問題に取り組んでおくことは一人一人の課題です。老年期は人生の集大成の時期であります。身体・心理・社会・文化の影響を大きく受けます。現代のそれらの影響についても学ぶことで、老年期の理解を深めていきます。また老年期への支援の心構えの視点を心得ることで、自分自身や家族がより良い将来を生きていくための準備ともなります。授業は講師の資料に基づいた講義形式が中心となりますが、時事問題から高齢者の話題を取り上げた資料や映像も使用して、興味や理解を深めます。さらに授業内で小アンケート、小レポートなどを提出することで、講義の理解度を確認します。可能な学生には身近な高齢者へのインタビューをし、そのことのレポート発表なども取り入れます。

キーワード: 老年期、高齢化社会、ライフサイクル、発達課題、認知症、介護、死

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 老年期の身体・心理・社会・文化的特徴や問題を理解し、支援の視点を持つことができる。

評価方法: 小アンケート・レポート。課題の発表。最終レポート。 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義などで得た知識・技能を実生活で活用することを考えられる。

- ①自分自身の周囲の高齢者
- ②自分自身の老年期
- ①②を考察し、他者に説明することができるようになる。

評価方法: 小アンケート、レポート。課題の発表。最終レポート。 **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

普段から高齢者と触れ合う機会を作ってほしい。身近に高齢者がいる場合にはインタビューが可能であれば、実施してもらおう。また授業の中で時事問題を取り上げるので、そのような話題へのアンテナもはっておくことをのぞむ。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

この講義の直接の評価対象としない。ただし高齢者へのボランティア活動などの実践により深められた知見が認められた場合には「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象としない。ただし、講義中の迷惑行為・人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション
第2回：現代における老年期の扱われ方
第3回：平均寿命と健康寿命
第4回：ライフサイクル
第5回：身体の変化
第6回：疾病とサポート
第7回：認知症(1)脳、記憶
第8回：認知症(2)本人の世界
第9回：認知症(3)サポート
第10回：認知症への理解を深める
第11回：さらに認知症への理解を深める
第12回：介護の世界
第13回：死を考える
第14回：ポジティブ・エイジング
第15回：まとめ

使用テキスト： 特に指定なし。講義に合わせ資料を配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 周囲に高齢者がいるとき(過去にいたことも含む)には、その人の生活をイメージしてみましょう。また高齢者関係のニュースにも敏感になってください。気になるニュースがある時にはその記事をとりにためておき、予習・復習に利用してください。
参考文献：必要に応じ、講義内で紹介する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： まずは学務部に連絡してください。

留意事項： リモート授業が行われる時には対応します。ただし対面授業を優先します。

科目コード：21051 科目ナンバリング：WP30C02K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：トランスパーソナル心理学(Transpersonal Psychology)

担当者：水柿 義之

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：認心理 福祉心理

AL要素：実験・実技・体験
振り返り用紙と応答
発問と回答

授業の概要：トランスパーソナルとは、「個」を超えるという意味です。

「個」とは、私たちが、生まれてから現在までに身につけたものから成り立っています。
「個」とは、家族や学校、日本という社会、この時代に適応するための「仮」の自分です。
私たちの価値観やプライド、性格や個性、自我やアイデンティティは「個」であり「仮」の自分

です。

現代社会で生きるには「仮」の自分は必要ですが、「仮」の自分だけで生きていると本当の私を見失います。

「仮」の自分は、「外」の世界に合わせようとします。そのため、他者からの評価やどう思われるかが気になり、SNSやスマホを見たい衝動に駆られます。周りの人から取り残されないようにと焦ります。その結果、やらなくてはならないことがどんどん増えます。

本当の私はどこに行ってしまったのでしょうか。

トランスパーソナル心理学では、「仮」の自分を越えた本当の私を探求していきます。

本当の私は「外」ではなく「内」にいます。

本授業では「外」の情報を記憶する知的学習ではなく「内」の本当の私と出会う体験的学習を行います。

禅や瞑想は、本当の私とつながる方法のひとつです。

初めて瞑想すると、雑念ばかり浮かび、眠たくなります。

それでも瞑想を続けていくと、雑念が静かになり、気持ちが穏やかになる時があります。

「仮」の自分から自由になると、本当の私に出会うことができます。

キーワード：トランスパーソナル、瞑想、禅、マンダラ、マインドフルネス、スピリチュアル

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：授業で扱った内容の体験的学習を通し、トランスパーソナル心理学の知識を身につけている。

評価方法：期末レポート

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：授業における経験を踏まえて、トランスパーソナル心理学について、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：期末レポート

評価割合：50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし自主活動の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼ その他

遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。

評価割合：遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 瞑想と心の健康(レポート)
第3回 今を生きるとは
第4回 発心(レポート)
第5回 マンダラとは

- 第6回 マンダラ塗り絵をやってみよう(レポート)
- 第7回 悟りとは
- 第8回 マンダラを描いてみよう(レポート)
- 第9回 音に耳を澄ませてみよう
- 第10回 身体に触れて感じてみよう
- 第11回 マインドフルに動いてみよう
- 第12回 チョコレートを瞑想的に食べてみよう(レポート)
- 第13回 歩く瞑想をやってみよう(レポート)
- 第14回 自然とつながってみよう
- 第15回 まとめ(レポート)

使用テキスト: 授業で使用する資料は教室で配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習として、日々の生活の中に瞑想を取り入れてください。(20分)

参考図書
 悟りの冒険～深層心理学と東洋思想 鈴木研二

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 連絡はIC-Mail :アドレス mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項: ①デバイスの持参を推奨します。

②授業では瞑想の体験的学習をたくさん行います。
 また、絵を描いたり、体に触れたり、体を動かしたり、チョコレートなどを食べたり、歩いたり、外を散歩することも行います。このような活動への積極的な参加が求められます。

③期末レポートについて
 各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード: 21053 科目ナンバリング: WP30C04K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 癒しのセラピー(Therapy for Healing)

担当者: 山川 誠司

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 福祉心理

AL要素: 07 発表

11 討論

14 輪読活動

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要: 「癒し」を科学的視点から適切に捉えるとともに、それを日常生活に活用できる方法を体得するために、さまざまな体験を行います。体験の前後に解説とともに関連文献等の詳読を行い理解を深めます。

キーワード: Well-being 健康 QOL 自律神経 科学的根拠

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 現代社会において多様な観点から注目される「癒し」を科学的な視点から適切に捉えることができるようになる。あわせてその効果を自他の生活の質の向上や自己実現にいかすために必要な知識や技術について理解する。

評価方法: 発表

評価割合: 50%

レポート
授業内確認テスト

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義で取り上げた内容について、関連する講義や経験を含めて総合的な観点から考察し、論理的かつ倫理性を踏まえた視点をもって正しく表現することができる。

評価方法: 発表

評価割合: 50%

レポート

授業内確認テスト

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション
 2. 体験を通して「癒し」を感じる
 3. 体験の振り返りと解説
 4. 「癒し」の定義
 5. 現代社会における「癒し」の実際
 6. セラピーの実際1(音楽療法)
 7. セラピーの実際2(音楽療法体験)
 8. セラピーの実際3(芸術療法とダンス)
 9. セラピーの実際4(芸術療法と絵画)
 10. セラピーの実際5(森林療法)
 11. セラピーの実際6(森林療法体験)
 12. セラピーの実際7(園芸療法)
 13. セラピーの実際8(動物介在療法)
 14. セラピーをめぐる現状と課題
 15. まとめ

授業計画は、順序、回数、内容等が変更になることがあります。詳しくはIC-UNIPAによる配信でご確認ください。

使用テキスト: 授業に必要な資料はすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 心理学の学びが基礎になる科目です。専門用語については、予習復習をしておくといでしょう。また、セラピーが実践されている主要な場や参加者として障害児・者やその家族が挙げられますが、それらの方々やその特性についての基本的理解についても事前学習の段階で行っておくといよりよい学びにつながるでしょう。なおセラピー体験の内容によっては、集合場所が教室以外であったり特別な持ち物が必要になる場合があります。持ち物については、コロナ等感染症拡大防止のために個別で持参することし、相互の貸し借りや貸し出しは行いません。忘れ物があると授業に参加できないことがあります。事前準備の段階で忘れ物や誤りのないよう、各自で確認を行ってください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 特になし。

科目コード: 21056 科目ナンバリング: WP20C23J 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理学基礎実験(Psychological Experiments)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次: 2

単位数: 3

授業形式: 実験

曜時: 前期(金曜3限 金曜4限)、後期(金曜3

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】教室で行う通常授業、遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

心理学の実証的研究がどのように行われているかを体験的に理解するために、さまざまな心理学基礎実験を行う。その中で、仮説の設定、実験方法、結果の整理と分析について学び、心理学のレポート作成を習得する。これにより、人が無意識に行っている行動に一定の法則のあることを学ぶ。

なお、数量的なデータ分析に関してはHAD(清水,2016)を用いる。※清水裕士(2016). フリーの統計分析ソフトHAD:機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.

キーワード: 認知, 知覚, 脳, 実験, 統計

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 実験を通して心理学の基本的知識を学び、実験手続きを習得する。またそれを実行する技能を持つ。

評価方法: 提出されたレポートと最終課題を総合して決定する。なお、最終課題は提出までに、担当教員により複数回の添削を行う。 **評価割合: 70%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 変数の意味とそれらの関係を理解し、心理現象における原因を思考、判断、表現できる。

評価方法: 同上。 **評価割合: 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし実験への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【前期】

以下のテーマで実験を行う。

- 1:オリエンテーション、レポートの書き方、心理学研究法の確認
- 2:語の記銘 b**
- 3:日常記憶 b**
- 4:メンタルローテーション b**
- 5:逆さメガネ a*
- 6:ミューラー・リヤーの錯視 a*
- 7:鏡映描写 a*
- 8:パーソナルスペース a*
- 9:ストループ a**
- 10:コミュニケーションの変容b**
- 11:自己評価と他者評価 b*
- 12:個別指導
- 13:個別指導
- 14;囚人のジレンマa*
- 15:分析手法の説明と研究計画立案***

【後期】

グループごとに調査、実験テーマを設定し、次のような手順でその実証を行うc***。

- 16:前期の復習とオリエンテーション
- 17:実験計画の立案
- 18:実験準備
- 19:実験実施
- 20:データ分析
- 21:グループ指導
- 22:これからの心理学基礎実験
- 23:まとめ

*印は目的、方法、結果、考察を含むレポートを「授業外に」作成・提出する。

**印は「授業中に」上記形式のレポートを作成・提出する。

***印は上記以外のレポートを提出する。

【前期】

a印は実験者と参加者の両方になる。

b印は参加者のみになる。

【後期】

c印は実験企画者・実験実施者になる。

1～22までの授業時間は各180分であり、23の授業時間は90分である。

使用テキスト： 使用しない。

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等： 心理学研究法の内容を前提とする部分が多いため、適宜、復習を行っておくこと。

【参考文献】

日本心理学会認定心理士資格認定委員会(編集)(2015). 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 単行本. 金子書房.

松井 豊 (2010). 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 1. 心理学研究法I・IIが受講済み、もしくは同時履修が望ましい。
2. 就職活動などで欠席する場合、あらかじめ担当教員に連絡すること。
3. 基本的に、実験はグループで実施する。そのため、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となる。
4. 心理学実験は物理的環境が実験参加者へ与える身体的・精神的影響を十分考慮せねばならない。また、実験用機材の適切な利用のため、定められた手続きは厳守せねばならない。研究倫理に基づいた安全な実験を実施するため、これらの理由から教員の指示に従えない者、指示外の行動をする者は本科目を履修することができない。

科目コード：21058 科目ナンバリング：WP20C25K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：知覚・認知心理学(Psychology of Perception and Cognition)

担当者： 國見 充展

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：講義

曜時：木曜1限 履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 福祉心理 公認心理 AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 外界情報獲得後の脳内の情報処理系を説明し、「入力系」、「中枢処理系」、「出力系」の機序を、研究事例をもとに説明する。さらに、それぞれの障害や加齢変化を解説し、心の働きに関する障害は、これらの系のどこで生じるかによって様相が異なることを説明する。

キーワード： 知覚 認知 脳

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ① 人の感覚・知覚等の機序及びその障害の理解
② 人の認知・思考等の機序及びその障害の理解

評価方法： 定期試験 **評価割合：** 50%
課題

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ① 心の働きを情報処理過程の流れで把握できる。
② 脳内における感覚-知覚-認知の情報処理系それぞれの機序とその障害を説明できる。

評価方法： 同上 **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. 感覚知覚認知処理の基礎
 2. 視覚
 3. 聴覚
 4. 触覚・味覚・嗅覚
 5. 感覚間統合・共感覚
 6. 意識
 7. 記憶の過程と区分
 8. 符号化のメカニズムと忘却のメカニズム
 9. 記憶の本質
 10. 推論
 11. 問題解決
 12. 知識
 13. 言語
 14. 脳機能の加齢変化
 15. 脳機能計測技術を用いた神経科学への展開
- 定期試験

使用テキスト： 指定しない。資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと 予習内容は授業において指示します。

参考文献・資料等： 多岐にわたる心理学という学問領域のなかで、認知心理学とはどういったジャンルか、ということを知っておくこと。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

- 留意事項：
1. 本科目の単位修得後に「**神経・生理心理学**」を履修することを推奨する。
 2. 講義中の私語、電話や食事等、他の学生の履修や授業進行の妨げとなる行為を禁止する。途中退室を認めるので、それらを済ませてから再度入室すること。
 3. 2. を繰り返す場合、妨害の意図の有無に関わらず以降の受講を断る場合がある。

科目コード：21059

科目ナンバリング：WP10C12K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人間観と倫理(Concept of Man and Ethics)

担当者：佐々木 徹

基本情報

年次：1

単位数：4

授業形式：講義

曜時：前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：18. その他

授業の概要： (前半(前期)) おそらく現代は、倫理の危機を迎えている時代であると言える。近代の様々な問題を解決できないまま、我々は21世紀の時代を生きている。近代思想の反省を通じて倫理思想の基本を確認し、人間の問題を捉えなおす。そして、倫理の再生について考察し、我々の将来への希望を開く道を探る。

授業時に、しばしば受講者から質問を募る。

(後半(後期)) 人間の倫理の問題について考察するにあたり、まず人間存在の外側に中心をずらして、そこから根源的な次元を探るという方途を取る。人間と緊密に関係している、生きていく人間の外側の中心とは、環境、死者、動物そして神などである。具体的事例を通して、人間とその倫理に関する哲学的考察の基本を学ぶ。現代の人間の問題について反省し、希望の将来へとつなげる倫理学の構築を考える。

授業時に、しばしば受講者から質問を募る。

キーワード： (前半(前期)) 他者、個人と社会、民主主義の母体としての批判精神

(後半(後期))共生、環境保護、平和の構築、生と死

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義で得た知識を概ね覚え、それを素材として自ら主体的に倫理の問題について思索できる。

評価方法: 前期の毎回の授業ごとに提出された課題
と後期の学期末筆記試験の結果を総合して成績を出す。 **評価割合:** 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 人間倫理の諸問題についてに自らの思索を論理的にまとめ上げ、文章で表現できる。

評価方法: 前期の毎回の授業ごとに提出された課題と
後期の学期末筆記試験の結果を総合して成績を出す。 **評価割合:** 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしないが、試験の論述問題で、主体的、意欲的に独創的な論究を展開した場合は、評価対象となることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしないが、講義内容が、受講者の日々の歩みに直接かかわることもあるのは明白であろう。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業時や試験で、人間倫理に反する著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回: 導入(倫理的存在者としての人間)
 - 第2回: 日本の哲学(東洋と西洋・思想の風土性)
 - 第3回: 「他者」との遭遇
 - 第4回: 社会と個人(人間存在の社会性)
 - 第5回: 人間存在は間柄的か?(和辻倫理学の検討)
 - 第6回: 人権の思想
 - 第7回: ホブズにおける人間と国家
 - 第8回: 人間の尊厳と国家(あるいは近代の悲運としての国家)
 - 第9回: ナチズムはなぜ生まれたか。
 - 第10回: 倫理の危機を乗り越えて平和を構築すること(フロイトを超えて)
 - 第11回: 自我の自覚(私が私であること)
 - 第12回: 実存の世界(キルケゴールなど)
 - 第13回: フォイエルバッハにおける人間、マルクスにおける人間の歴史
 - 第14回: サルトルにおける〈実存と人類〉から諸宗教の〈世界倫理〉へ
 - 第15回: 人類の将来に向かう倫理の再生
- 定期試験
- 第16回: 講義後半への導入(人間の真の幸福とは何か)
 - 第17回: 宮沢賢治におけるデクノボー(利他の境涯)
 - 第18回: 人間中心主義からの真の脱却(ニーチェを超えて)
 - 第19回: 森の生活と倫理(環境破壊を阻止するために)

- 第20回: アイヌ民族の生活と倫理(アニミズムの倫理に学ぶ)
 - 第21回: 呪術と科学(科学の権限と限界、我々の時代の世界像)
 - 第22回: 学術の倫理と技術開発の問題
 - 第23回: 原子力と人類(核兵器の廃絶に向かって)
 - 第24回: 人間存在の歴史性と自然性
 - 第25回: 身体現象学と<魂>の所在
 - 第26回: いのちの尊厳について考える(生命倫理に関して)
 - 第27回: 生の向こう側からの声(死者の未来、生者の歴史的責任)
 - 第28回: 動物の幸福(野生動物、ペット、実験動物などをめぐって)
 - 第29回: 宗教と倫理はいかに関係するか
 - 第30回: 倫理学の再構築と神中心的キリスト教倫理
- 定期試験

使用テキスト: 授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: やさしいものでよいから、正式な哲学書、倫理学書に慣れ親しんでおくとう理解が深まる。人間を抑圧している問題の解決をめぐる、新たな次元が見えてくるまで粘り強く思索し続ける習慣を持つこと。自己中心、自分の周囲中心、人間中心の習慣から離れて考え続けることをやってみると、新しい次元が開けてくるかもしれない。参考文献等は授業時に指示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したりする。

留意事項: 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード: 21061 科目ナンバリング: WP20C26K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会病理学(Social Pathology)

担当者: 渡邊 健蔵

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 振り返り用紙と回答

授業の概要: 本講義では、社会病理学の基礎をふまえ、身近にある様々な社会病理現象について扱い、具体的に学ぶ。心理学のみならず、社会学の視点を取り入れ、より広い視野で物事を考える力を身に付けることで、心理臨床にいかせるようにする。

キーワード: 社会病理, 心理学, 社会学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 社会病理の心理社会的な要因を理解し、それを社会全体の問題として捉えられる。また、それぞれの社会病理現象の特徴、課題を説明できる。

評価方法: レポート

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会病理について、多角的に自分の考えを述べ、今後の社会参加のあり方について問い直すことができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、講義内容について関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢は学生として望ましい。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度等において著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1.社会病理学とその理論
 - 2.自殺
 - 3.いじめ
 - 4.不登校
 - 5.ひきこもり
 - 6.児童虐待
 - 7.DV
 - 8.摂食障害
 - 9.アルコール依存症
 - 10.うつ
 - 11.発達障害①
 - 12.統合失調症
 - 13.視聴覚教材を用いた授業(1)
 - 14.視聴覚教材を用いた授業(2)
 - 15.まとめ

使用テキスト： 特になし。講義で使用する資料は全てこちらで印刷し配布する。

予習・復習のポイントと 予習：予告した次回の授業内容について、調べておくことが望ましい。

参考文献・資料等： 復習：授業後、配布資料について復習し、知見を深めておく。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 最初の講義でお知らせするメールアドレスにご連絡ください。何かありましたら個別に対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：21062

科目ナンバリング：WP21C06K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉特講A(Special Lecture A)

担当者：山川 誠司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07 発表
08 協同学修
11 討論
17 発問と応答

授業の概要： コミュニケーションは日々の生活の中で必要なものです。語源では多くの人に共通のものとするというニュアンスがあります。何かを伝える行為や聴き方だけでなく、コミュニケーションを通して、「意味を共有する」という視点を理解し、円滑な対人関係を築く土台にしていけることを主題として授業を進めていきます。

キーワード： 自己理解、他者理解、関係理解、多様性、

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・コミュニケーションの基本を理解し、実際に活用する土台をつくることができる
・コミュニケーションを通して、自己や他者理解を深める視点を獲得することができる
・コミュニケーションによるストレスの仕組みと対処法を理解することができる

評価方法： 授業内での小テスト2回

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・コミュニケーションの多様性、多層性、多面性を理解し、対人関係に葛藤が生じた時に、その視点を踏まえた自己表現ができる。

評価方法： 課題レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション :コミュニケーション概論で目指すもの
第2回 コミュニケーションの基礎
第3回 コミュニケーションをする自己理解
第4回 コミュニケーションをする他者理解
第5回 コミュニケーションをする関係性理解
第6回 言語的コミュニケーション1:伝え方
第7回 言語的コミュニケーション2:伝わり方
第8回 非言語的コミュニケーション1:伝え方
第9回 非言語的コミュニケーション2:伝わり方
第10回 インターネット・コミュニケーション
第11回 組織・集団内のコミュニケーション1
第12回 組織・集団内のコミュニケーション2
第13回 コミュニケーション効果
第14回 対人ストレスの自覚と対処法
第15回 授業全体のまとめ

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： コミュニケーションは今までとは少し違った視点を持つだけでも対人関係が変化します。医療や福祉領域で仕事をする上でも必要になります。授業では自分自身の対人関係を振り返り、実際の生活の中で活用する意識で授業に臨んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 特になし

科目コード：21063 **科目ナンバリング：**WP22C06K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理福祉特講B(Special Lecture B)

担当者：渡邊 健蔵

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：振り返りシートと応答

授業の概要： 本講義では、社会心理学及び犯罪心理学の観点から、反社会的行動や多様な犯罪への理解を深めることを目的とする。特に加害者及び被害者の心理を中心に学んでいく。

キーワード： 社会心理, 犯罪心理, 加害者及び被害者の心理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会心理学及び犯罪心理学の観点から、様々な反社会的行動や犯罪について理解できる。また、それぞれの現象の特徴や心の働きについて説明できる。

評価方法： レポート

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 様々な反社会的行動や犯罪における加害者及び被害者の心理を理解し、自身の興味・関心を有するテーマについて、自分自身の考えを多角的に述べることができる。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、講義内容について関心を持ち、疑問を持って考え、主体的に学ぶ姿勢をもつことが望ましい。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度等において著しく公正性を欠く場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 1.はじめに
2.反社会的行動をもたらす認知の歪み①

- 3.反社会的行動をもたらす認知の歪み②
- 4.反社会的行動をもたらす認知の歪み③
- 5.いじめ①
- 6.いじめ②
- 7.サイバー攻撃
- 8.殺人①
- 9.殺人②
- 10.パーソナリティ障害①
- 11.パーソナリティ障害②
- 12.パーソナリティ障害③
- 13.ストーカー
- 14.性依存症
- 15.まとめ

使用テキスト: 特になし。講義で使用する資料は全てこちらで印刷し配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習: 予告した次回の授業内容について、調べておくことが望ましい。
 復習: 授業後、配布資料について復習し、知見を深めておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 最初の講義でお知らせするメールアドレスにご連絡ください。何かありましたら、個別に対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 21067 **科目ナンバリング:** WP10C26J **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク実習I a (Practical Training in Social Work I a)

担当者: 山中 俊克、藤島 稔弘、今橋 みづほ、呉 恩恵

基本情報

年次: カリキュラム **単位数:** 2 **授業形式:** 実習

曜時: 前期(実習)、後期(実習) **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理 **AL要素:** 01.実地訓練

授業の概要: ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。そのために、①支援を必要とする人や地域の状況を理解し、ニーズを把握する。②ニーズに対応するため、社会資源等を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。③施設や機関等が地域社会の中で果たす役割を理解する。④多職種・多機関・地域住民等との連携を理解する。

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習体験をとおし、実習施設・機関と多職種や社会資源等との連携に関する知識や技能、地域のニーズ把握の方法、ソーシャルワークに関する知識や技術等、チームアプローチの知識や技能等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 実習計画書 **評価割合:** 50%
 実習記録
 実習先評価
 実習報告書

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: 実習計画書
実習記録
実習報告書

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

実習中、著しく公正性を欠く言動があった場合以外でも、著しく実習生にふさわしくない言動があった場合は、実習を中止することがある。

評価割合: 実習中、著しく公正性を欠く言動が

授業計画: 【実習時間】60時間以上(8日間)

- ・社会福祉士国家試験の受験資格に必要な240時間の実習時間の内、60時間分(8日間)に該当する実習を行う。

【実習時期】

- ・10月第2週～第3週の期間のうちの8日間
※2023年度は10月1日(火)～10月20日(金)のうち8日間
※上記8日間以外に、帰校指導を受けることが必要です。
そのため、実習期間中に実習8日間に加えて、大学に通学する日が1日あります。

【実習先】

- ・茨城県内(主に県北、県央地区)にある大学が指定する社会福祉施設・病院
- ・高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童養護施設、救護施設、病院、社会福祉協議会の中から1か所で行う。
※具体的な実習先については、4月ガイダンスで提示予定
- ・実習先の決定については希望する領域を可能な限り尊重し、配属を決定する予定です。しかし、各実習先には受け入れ人数に上限があり、希望が集中したり、交通手段などから必ずしも希望通りにならない場合があります。また、感染症など状況によって急遽受け入れが中止されてしまう場合もあります。そのため、希望する実習先、種別とならない場合もあることを了解して履修してください。
※4月ガイダンスに希望調書を配布し、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の初回授業時に提出を求めます。

【実習内容】

- ・ソーシャルワーク実践の場の理解やソーシャルワーカーの理解を中心とした実習
 - ①コミュニケーション技術の試行と円滑な人間関係の形成
 - ②利用者主体や個別化、ストレンクス視点による支援の体験等と援助関係の形成
 - ③実習先施設等における他職種の業務の見学・体験
 - ④他施設・機関の見学、同行
 - ⑤実習記録の作成

⑥実習指導者及び教員によるスーパービジョン

※具体的な実習内容については、実習先の種別によって異なるため、同時履修となる「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」において、実習に必要な事前準備を行う。

使用テキスト： テキストは特に使用しない。

実習に必要な資料については、必要に応じて随時印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・実習前は、『実習計画書』の作成を通し、自分の実習先の領域・実習先の学習にあたること。またソーシャルワークの理論についても確認を行うこと。
- ・実習中は、実習担当職員及び実習担当教員への報告・連絡・相談に努め、スーパービジョンの活用を心がけること。
- ・実習後は、『実習報告書』の作成を通し、自己のソーシャルワーカーとしての課題を明らかにすること。また、『実習報告会』を通し、ソーシャルワーク理論等の理解を深めること。

【参考文献等】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項：【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ
ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
ソーシャルワーク演習
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ・Ⅱ、
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- ・実習先の種別に応じて、以下の科目を履修済みか、同時履修すること。
高齢者福祉施設 … 高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、介護概論、介護技術
障害者福祉施設 … 障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、介護概論、介護技術
児童福祉施設 … 児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ
救護施設 … 貧困に対する支援
病院 … 保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱ
社会福祉協議会 … 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ
※必ずしも希望の種別の実習先に決まると限らないので、
複数の領域に対応できるように履修しておくこと。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで行うので、履修希望者は必ず参加して確認すること。

科目コード : 21067 科目ナンバリング : WP10C26J 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : ソーシャルワーク実習I b(Practical Training in Social Work I b)

担当者 : 藤島 稔弘、山中 俊克、今橋 みづほ、呉 恩恵

基本情報

年次 : カリキュラム

単位数 : 2

授業形式 : 実習

曜時 : 前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻 : W

関連資格 : 教職 社福士 福祉心理

AL要素 : 01. 実地訓練

授業の概要 : ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。そのために、①支援を必要とする人や地域の状況を理解し、ニーズを把握する。②ニーズに対応するため、社会資源等を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。③施設や機関等が地域社会の中で果たす役割を理解する。④多職種・多機関・地域住民等との連携を理解する。

キーワード : ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 実習体験をとおし、実習施設・機関と多職種や社会資源等との連携に関する知識や技能、地域のニーズ把握の方法、ソーシャルワークに関する知識や技術等、チームアプローチの知識や技能等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法 : 実習計画書
実習記録
実習先評価
実習報告書

評価割合 : 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 実習での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法 : 実習計画書
実習記録
実習報告書

評価割合 : 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

実習中、著しく公正性を欠く言動があった場合以外でも、著しく実習生にふさわしくない言動があった場合

は、実習を中止することがある。

評価割合：実習中、著しく公正性を欠く言動が

授業計画：【実習時間】60時間以上(8日間)

- ・社会福祉士国家試験の受験資格に必要な240時間の実習時間の内、60時間分(8日間)に該当する実習を行う。

【実習時期】

- ・10月第2週～第3週の期間のうちの8日間
※2023年度は10月1日(火)～10月20日(金)のうち8日間
※上記8日間以外に、帰校指導を受けることが必要です。
そのため、実習期間中に実習8日間に加えて、大学に通学する日が1日あります。

【実習先】

- ・茨城県内(主に県北、県央地区)にある大学が指定する社会福祉施設・病院
- ・高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童養護施設、救護施設、病院、社会福祉協議会の中から1か所で行う。
※具体的な実習先については、4月ガイダンスで提示予定
- ・実習先の決定については希望する領域を可能な限り尊重し、配属を決定する予定です。しかし、各実習先には受け入れ人数に上限があり、希望が集中したり、交通手段などから必ずしも希望通りにならない場合があります。また、感染症など状況によって急遽受け入れが中止されてしまう場合もあります。そのため、希望する実習先、種別とまらない場合もあることを了解して履修してください。
※4月ガイダンスに希望調書を配布し、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の初回授業時に提出を求めます。

【実習内容】

- ・ソーシャルワーク実践の場の理解やソーシャルワーカーの理解を中心とした実習
 - ①コミュニケーション技術の試行と円滑な人間関係の形成
 - ②利用者主体や個別化、ストレングス視点による支援の体験等と援助関係の形成
 - ③実習先施設等における他職種の業務の見学・体験
 - ④他施設・機関の見学、同行
 - ⑤実習記録の作成
 - ⑥実習指導者及び教員によるスーパービジョン※具体的な実習内容については、実習先の種別によって異なるため、同時履修となる「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」において、実習に必要な事前準備を行う。

使用テキスト：テキストは特に使用しない。

実習で必要な資料については、必要に応じて随時印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・実習前は、『実習計画書』の作成を通し、自分の実習先の領域・実習先の学習にあたること。またソーシャルワークの理論についても確認を行うこと。
- ・実習中は、実習担当職員及び実習担当教員への報告・連絡・相談に努め、スーパービジョンの活用を心がけること。
- ・実習後は、『実習報告書』の作成を通し、自己のソーシャルワーカーとしての課題を明らかにすること。また、『実習報告会』を通し、ソーシャルワーク理論等の理解を深めること。

【参考文献等】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項:【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ
ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
ソーシャルワーク演習
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ・Ⅱ、
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- ・実習先の種別に応じて、以下の科目を履修済みか、同時履修すること。
高齢者福祉施設 … 高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、介護概論、介護技術
障害者福祉施設 … 障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、介護概論、介護技術
児童福祉施設 … 児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ
救護施設 … 貧困に対する支援
病院 … 保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱ
社会福祉協議会 … 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ
※必ずしも希望の種別の実習先に決まると限らないので、
複数の領域に対応できるように履修しておくこと。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで行うので、履修希望者は必ず参加して確認すること。

科目コード: 21069 科目ナンバリング: WP40C02S 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究 a(Graduation Study a)

担当者: 岩崎 真和

基本情報

年次: 4	単位数: 4	授業形式: 演習
曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)	履修可能学科・専攻: W	
関連資格:	AL要素: 07:発表 15:レポート指導	

授業の概要: 履修要覧『卒業研究規定』の該当ページ(W科)を必ず熟読しておくこと。

キーワード: 自身の研究テーマのキーワード

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 卒業研究(卒研)の作成と提出

評価方法: 卒業研究

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することができる。

評価方法: 発表と研究進捗プロセス

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、研究への主体性が見られない場合は減点の対象とする場合がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。著しく研究倫理や研究不正に関する行為や不適切な引用等がみられた場合には、卒業研究作成自体が不可能になるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: ・卒業研究の作成に向け、履修者全員を対象とした集団指導と必要に応じた個別の指導を随時行いながら進める。
・調査系論文(量的研究)と実践体験ベースの論文(質的研究)、文献研究とでその論文構成や研究手法が異なるため、各グループごとの小集団指導を行うこともある。

使用テキスト: 必要に応じて資料等を配布予定。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために- 河出書房新社
平井明代(編著)(2012). 教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版-理論と実践から学ぶSPSS活用法- 東京図書
他, 必要に応じて文献紹介等を行います。

※事前に履修要覧『卒業研究規定』該当ページを熟読し、計画的に提出できるよう研究を進めていくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 演習や他の講義の機会等にお声掛けください、アポイントをとって対応したいと思います。

留意事項: 3年次の心理福祉演習 I aで研究、発表したテーマや関心に基づいて文献収集およびレビューを行い、そのテーマを明らかにするのに適した研究法(文献研究、量的研究、質的研究等)を用いて12月上旬の提出期限までに卒業研究を仕上げてください。規定の分量、様式に則った論文の作成が必要ですので留意してください。

科目コード: 21069

科目ナンバリング: WP40C02S

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究 b(Graduation Study b)

担当者: 清原 舞

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 演習

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻: W

関連資格：

AL要素：07. 発表

15. レポート指導

授業の概要： これまでの学びをもとに、自らの研究テーマを選び、主体的に卒業論文を作成する、4年間の集大成である。卒業論文作成を通して、自らの探究心を深めていくことを目的とする。

キーワード： マイノリティへの支援、社会福祉学、心理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 卒論作成

評価方法： 卒業論文

評価割合：70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らの研究テーマに関する知見や探究心をふまえ、考察することができる

評価方法： 作成におけるプロセス(主体的に取り組む力、プレゼンテーション)

評価割合：30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修やグループ活動に主体的に取り組むなど成果が認められた場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自身の課題や行動力に反映されると認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- ・卒業論文作成に向け、集団・個別指導を行いながら進めていく。
- ・前半は文献レビューを丁寧に行いながら、知見を深めていく。
- ・後半は、文献(または調査等)から自らの考察を深めていく。

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと ・履修要覧『卒業研究規定』を熟読しておくこと

参考文献・資料等：

・卒論作成において、計画的に作成すること。また、個別指導等での助言は参考にしながら主体的に取り組むこと。

障がいのある履修者への対応： 事前に必ず学務部・担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業時にお知らせします。

留意事項：

- ・他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となります。
- ・プレゼンテーション時の総評、卒論作成時の個別指導を行います。

科目コード：21069

科目ナンバリング：WP40C02S

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 卒業研究 c(Graduation Study c)

担当者: 黒澤 泰

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 演習

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 07 発表,10資料調査課題, 11 討論,17発問と回答

授業の概要: 心理学の理論、視点、方法論を用いて、疑問を解き明かし、卒業論文という形でまとめる。

キーワード: 卒業研究、リサーチクエスション、文献レビュー、アカデミックライティング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 知識・技能は研究遂行の前提であり、直接的な評価対象とはしない。

評価方法: 特になし

評価割合: 0%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自身の関心あるテーマに関して、自主学修や研究実施によって得たデータを踏まえて考察し、卒業研究の形で表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 100%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究に主体的に取り組む姿勢は、研究を進める上での前提である。よって、直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、フィールドとの関係構築において、ボランティアなどの実践活動が求められる場合もある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、論文内では、他者尊重・人権尊重な表現を求める。

評価割合: 0%

▼その他

これまでの心理学の学びを振り返ること、自身の問題意識と関心に沿い、自身のペースで作業を進めていくことを求める。

評価割合: これまでの心理学の学びを振り返

授業計画: 個別面談がベースとなる。また、卒業論文提出までのスケジュールは、各自の設定したテーマや各自が用いる研究手法によって異なることに留意すること。履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト: 【調査・実験の場合】小塩 真司・宅 香菜子(2015).心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの10ステージ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: これまでの心理学の学びの復習が前提となる。自分が興味を持てるトピックを、心理学的な方法論を用いて明らかにしていく姿勢を強く求める。

【参考書】

授業内で配布する参考資料に加えて、Ciniiや図書館で収集した図書や文献を用いることが必要となる。

障がいのある履修者への対応: ケースバイケースで対応するが、到達すべき基準があることは理解してから受講すること。

授業時間外の連絡手段： 心理福祉演習I c内で周知した教員のアドレスにアクセスすること。

留意事項： 受講生の興味関心に沿い、オーダーメイド的に進めていく予定である。担当教員、担当外の教員、同じ授業を履修している受講生との報告・連絡・相談の姿勢を大事にすること。

”Wisdom begins in wonder” Socrates

科目コード：21069 科目ナンバリング：WP40C02S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究 d(Graduation Study d)

担当者：櫻井 由美子

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：7. 発表

10. 資料調査課題

15. レポート指導

授業の概要： 前年度に履修した心理福祉演習 I・II で見出した自分自身の研究課題に対し、各自が実際に取りくみ研究を完成させる。

キーワード： 心理学 研究 データ収集 調査 分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究を遂行するための知識と技術を身につけている。

評価方法： レポート

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究課題を明確にしたうえで、その課題を明らかにする方法を論理的に選択し遂行することができる。さらに、得られた知見をベースに、論理的に論文を完成させることができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、完成に至るまでの取りくみにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、研究課題の着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

研究の着想や論点において、著しく公正性を欠く記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【前期】

- 第1回:研究課題の検討
- 第2回:研究方法の検討
- 第3回:分析方法の検討
- 第4回:研究倫理の確認
- 第5回:研究計画の完成
- 第6回:予備調査の実施
- 第7回:予備調査の結果の検討
- 第8回:本調査の実施(1) 調査協力者および文献についての検討
- 第9回:本調査の実施(2) データの収集
- 第10回:本調査の実施(3) データのカテゴリー化
- 第11回:データの仮分析
- 第12回:データの分析
- 第13回:調査結果の整理
- 第14回:調査結果の解釈
- 第15回:調査の振り返り

【後期】

- 第1回:研究の振り返り(1) 結果の検討
- 第2回:研究の振り返り(2) 研究方法について
- 第3回:研究の振り返り(3) 分析方法について
- 第4回:研究の振り返り(4) 研究倫理について
- 第5回:研究のアウトライン(1) 研究全体の振り返り
- 第6回:研究のアウトライン(2) アウトラインの作成
- 第7回:研究の完成(1) 結果の記述① 図表の作成
- 第8回:研究の完成(2) 結果の記述② 結果の文章化
- 第9回:研究の完成(3) 研究の動機
- 第10回:研究の完成(4) 研究の社会的意義
- 第11回:研究の完成(5) 結果の考察① 研究動機との整合性
- 第12回:研究の完成(6) 結果の考察② 考察の論理的展開
- 第13回:研究の完成(7) 研究論文の完成
- 第14回:研究結果の報告
- 第15回:卒業研究の振り返り

使用テキスト: 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

参考文献:

白井利明・高橋一郎 2013 よくわかる卒論の書き方(やわからかアカデミズム・わかるシリーズ)
ミネルヴァ書房

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 21069 科目ナンバリング: WP40C02S 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究 e(Graduation Study e)

担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

3年生から始めた卒業研究の準備まとめ、卒業研究論文を完成させます。

キーワード： 研究論文、研究テーマ、文献調査、社会調査、

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに関する知識を深め、
また、文献調査や社会調査の方法、研究方法を身に付け、概ね80%の完成度で研究論を作成することができる。

評価方法： 卒業研究論文を提出

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 卒業研究論文作成過程における、グループディスカッションを通して説明する力や表現力を伸ばすことができる。また、論文執筆を通して、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度で研究論文を完成させることができる。

評価方法： 卒業研究論文を提出

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究テーマや研究方法を自主的に設定し、研究テーマに関する文献調査等を自主的に行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。
直接的な評価対象にならないが、学期末に提出する卒業研究や卒業レポートの作成に反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

卒業研究論文作成過程における、ゼミメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的なディスカッションによって得た知見等が研究論文に反映されると思われる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし卒業研究論文において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 3年生から始めた卒業研究の準備まとめ、卒業研究論文を完成させる。完成した卒業研究論文を期日に提出する。

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・各自の研究テーマに関することについて、ニュース等に注意しておく。
- ・各自の発表前は、発表の用意をする。
- ・各自の発表後は、ディスカッションの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
- ・以下の参考文献を推薦する。
平山 尚・武田 丈・呉 裁喜他『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、最新版。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 日頃から社会のできごとやニュースに注意してください。

科目コード: 21069 科目ナンバリング: WP40C02S 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究 f(Graduation Study f)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 集中講義

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 07.発表
08.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要: 社会保障、社会福祉にかかわる特定の社会問題や社会現象を取り上げ、調査計画を立案し、調査を実施し、調査報告書を執筆するまでの一連の過程を習得することを目的とする。

キーワード: 社会問題、社会保障、社会調査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: これまでの学びを基に、特定の社会問題や社会現象を社会調査の手法を用いて理解することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【前期】

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 研究テーマの検討
- 第3回: 文献レビュー報告(1)
- 第4回: 文献レビュー報告(2)
- 第5回: 文献レビュー報告(3)
- 第6回: 文献レビュー報告(4)
- 第7回: 文献レビュー報告(5)
- 第8回: 文献レビュー報告(6)
- 第9回: 既存データの収集・活用(1)
- 第10回: 既存データの収集・活用(2)
- 第11回: 既存データの収集・活用(3)
- 第12回: 研究計画の検討(1)
- 第13回: 研究計画の検討(2)
- 第14回: 研究計画の検討(3)
- 第15回: 研究計画の検討(4)

【後期】

- 第16回: 調査準備(1)
- 第17回: 調査準備(2)
- 第18回: 調査準備(3)
- 第19回: データ収集(1)
- 第20回: データ収集(2)
- 第21回: データ集計(1)
- 第22回: データ集計(2)
- 第23回: データ分析(1)
- 第24回: データ分析(2)
- 第25回: データ分析(3)
- 第26回: データ分析(4)
- 第27回: 発表報告・報告書の作成(1)発表準備
- 第28回: 発表報告・報告書の作成(2)発表
- 第29回: 発表報告・報告書の作成(3)報告書作成
- 第30回: 発表報告・報告書の作成(4)振り返り

使用テキスト： 特に指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 初回授業時に説明する。

留意事項： 特になし。

科目コード：21069 科目ナンバリング：WP40C02S 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：卒業研究 g(Graduation Study g)
担当者：望月 珠美

基本情報

年次：4 単位数：4 授業形式：集中

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻：

関連資格： AL要素：07 発表
10 資料調査
11 討論
12 課題討論法
14 輪読活動
15 レポート指導
17 発問と回答

授業の概要： これまでの学修の集大成として、自ら設定した研究課題と計画に基づき、実際に研究活動に従事し、それを論文としてまとめ、発表する。

キーワード： 研究倫理 批判的思考 計画性 プレゼンテーション 科学性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 人間福祉にかかわる幅広い視野にたつ研究テーマを自ら選択、決定した上で、心理学の知識や技術を用いて探求し、新たな知見を見出すことができる。

評価方法： 発表および論文 **評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： これまでの学修や体験を通して得られた知見を科学的な視点をもって論理的かつ端的に表現することができる。

評価方法： 発表および論文 **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

期限ある中で、研究の視点とともに自らを律し、主体的かつ計画的に課題に取り組み、それを成果としてまとめ、提示できる。

評価割合： 40%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が研究遂行や論文作成に活かされている認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 時間割上の設定はなく、また授業回数として固定されたものもありません。自らが主体的に、また計画的に作業を進めていく必要があります。なお、定められた期限までに指定の様式にそって卒業研究が提出されない場合には、単位を修得することができません。期限等の詳細については、学務部から配信されるお知らせや履修要覧に示された指示(別刷りを含む)に従ってください。

1. 研究構想(4月)
2. デザイン報告会(5月)
3. 中間報告会(10月)
4. 「卒業研究」提出(12月)
5. 最終報告会(1月)

使用テキスト： 松井豊(2010)改訂新版心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―、河出書房新社、1700円。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 時間割上の設定がないため、予習・復習に該当する学習については、年間を通して同時進行となる心理福祉演習ⅢおよびⅣにおける学びとの積極的な連動を図りながら、自らの研究計画に従ってマネジメントしていくことがポイントとなります。参考文献・資料については、必要に応じてご紹介します。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは、担当者もしくは学務部までご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項： 学務より示された期限、様式等を厳守すること。詳細は、履修要覧、UNIPAにおいて各自、確認することとします。

科目コード：21069 科目ナンバリング：WP40C02S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究 h(Graduation Study h)

担当者：山中 俊克

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：集中講義

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：07. 発表

10. 資料調査課題

授業の概要： 本クラスでは履修者各自が社会福祉または心理領域より研究テーマを選択し、研究をすすめていき、卒業研究としてまとめていきます。大学を卒業するという事は、小学校から大学までの16年間の学びをおける一つの重要な区切りとして位置付けることができます。その意味からも履修者が今までの学びの総まとめとして自分が選択したテーマを真剣に研究していくことが望まれます。授業は基本的に履修者による研究の発表とクラスディスカッションを中心にすすめていきます。また、研究テーマに沿ってグループおよび個別指導を随時行います。

キーワード： 専門書購読、資料収集、研究方法、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 生活課題に対して、課題の要因や支援の在り方について説明し、卒業研究としてまとめることができる。

評価方法：個人発表および卒業研究の内容

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：取り上げたテーマについて課題検討を行い、自らの所見を述べるができる。

評価方法：個人発表および卒業研究の内容

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により得られ、深められた知見等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や試験の記述等において差別、偏見、決めつけ、人権侵害など著しく公正性に欠ける言動や研究等における不正行為があった場合減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 前期

【第01回】授業のオリエンテーション

【第02回】研究課題の構想

【第03回】テーマの選び方

【第04回】論文の書き方

【第05回】文献および資料の収集法

【第06回】社会福祉課題(1)(児童領域)

【第07回】社会福祉課題(2)(障害領域)

【第08回】社会福祉課題(3)(高齢領域)

【第09回】テーマの発表

【第10回】第1のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第11回】第2のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第12回】第3のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第13回】第4のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第14回】第5のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第15回】学術的研究のあり方(まとめ)

後期

【第16回】後期授業のオリエンテーション

【第17回】第1グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第18回】第2グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第19回】第3グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第20回】第4グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第21回】第5グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第22回】第1グループによる研究発表

【第23回】第2グループによる研究発表

【第24回】第3グループによる研究発表

【第25回】第4グループによる研究発表

- 【第26回】第5グループによる研究発表
- 【第27回】研究発表の振り返り、講評
- 【第28回】今後の研究課題(社会福祉の原理)
- 【第29回】今後の研究課題(社会福祉の実践)
- 【第30回】学術的研究のあり方(まとめ)

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 履修前までに自分の興味や関し、問題意識を確認して卒業研究のテーマ設定にむけた準備をして下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： なし。

科目コード：21069 科目ナンバリング：WP40C02S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究 i(Graduation Study i)

担当者： 國見 充展

基本情報

年次：4	単位数：4	授業形式：演習
曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)	履修可能学科・専攻：	
関連資格：	AL要素：7. 発表	
	10. 資料調査課題	
	15. レポート指導	

授業の概要： 心理福祉演習 I で決めた自身の研究課題を進め、研究を完成させる。

キーワード： 心理学 研究 データ収集 調査 分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究を遂行するための知識と技術を身につけている。

評価方法： レポート等, 課題 評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究課題を明確にしたうえで、その課題を明らかにする方法を論理的に選択し遂行することができる。さらに、得られた知見をベースに、論理的に論文を完成させることができる。

評価方法： 期末レポート 評価割合：80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、完成に至るまでの取りくみにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、研究課題の着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

研究の着想や論点において、著しく公正性を欠く記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【前期】

- 第1回：研究課題の検討
- 第2回：研究方法の検討
- 第3回：分析方法の検討
- 第4回：研究倫理の確認
- 第5回：研究計画の完成
- 第6回：予備実験／予備調査の実施
- 第7回：予備実験／予備調査の結果の検討
- 第8回：本実験／本調査の実施(1)
- 第9回：本実験／本調査の実施(2)
- 第10回：本実験／本調査の実施(3)
- 第11回：データの仮分析
- 第12回：データの分析
- 第13回：実験／調査結果の整理
- 第14回：実験／調査結果の解釈
- 第15回：実験／調査の振り返り

【後期】

- 第1回：研究の振り返り(1) 結果の検討
- 第2回：研究の振り返り(2) 研究方法について
- 第3回：研究の振り返り(3) 分析方法について
- 第4回：研究の振り返り(4) 研究倫理について
- 第5回：研究のアウトライン(1) 研究全体の振り返り
- 第6回：研究のアウトライン(2) アウトラインの作成
- 第7回：研究の完成(1) 結果の記述① 図表の作成
- 第8回：研究の完成(2) 結果の記述② 結果の文章化
- 第9回：研究の完成(3) 研究の動機
- 第10回：研究の完成(4) 研究の社会的意義
- 第11回：研究の完成(5) 結果の考察① 研究動機との整合性
- 第12回：研究の完成(6) 結果の考察② 考察の論理的展開
- 第13回：研究の完成(7) 研究論文の完成
- 第14回：研究結果の報告
- 第15回：卒業研究の振り返り

使用テキスト： 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと 全てのステップで70%を目指し、その段階で相談すること。

参考文献・資料等： 最初から100%を目指さないこと。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：21069

科目ナンバリング：WP40C02S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究 j(Graduation Study j)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻： GP GP

関連資格：

AL要素： 07: 発表
09: 実地調査
10: 資料調査課題
11: 討論
15: レポート指導

授業の概要： 4年間の学びの集大成として卒業論文を作成する。
そのために必要な基礎的な研究能力を身につける。

キーワード： 卒業論文作成
論理的思考力
文章構成力
プレゼンテーション力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分自身の研究テーマに沿って、文献購読をはじめ研究の推進に必要な力を醸成し、論文を執筆。最終的には卒業論文を完成させることができる

評価方法： 論文
発表
評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究活動を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。考察を深めて発表することができる

評価方法： 論文
発表
評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし卒業研究の遂行の支障となる問題が生じた場合は指導や履修継続可否の対象となる

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし論文記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は指導や履修継続可否の対象となる

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 前期：
【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究テーマの選定-1
【第03回】研究テーマの選定-2
【第04回】研究テーマの選定-3
【第05回】研究方法の検討-1
【第06回】研究方法の検討-2

- 【第07回】研究方法の検討-3
- 【第08回】研究進捗状況の中間報告
- 【第09回】先行研究の整理-1
- 【第10回】先行研究の整理-2
- 【第11回】先行研究の整理-3
- 【第12回】研究計画の立案-1
- 【第13回】研究計画の立案-2
- 【第14回】研究計画の立案-3
- 【第15回】研究進捗状況の中間報告
- 後期:
- 【第01回】前期の振り返り
- 【第02回】卒業論文完成に向けたスケジュール確認
- 【第03回】研究倫理の確認
- 【第04回】論文執筆-1
- 【第05回】論文執筆-2
- 【第06回】論文執筆-3
- 【第07回】論文執筆-4
- 【第08回】研究進捗状況の中間報告
- 【第09回】論文指導-1
- 【第10回】論文指導-2
- 【第11回】論文指導-3
- 【第12回】論文の完成-1
- 【第13回】論文の完成-2
- 【第14回】論文の完成-3
- 【第15回】卒業論文の報告と振り返り

使用テキスト: 研究に必要な資料収集の相談にはのります。
ただし、個人が研究を進める上で必要な資料は自身で収集すること

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 各自の研究テーマについて日頃から意識して、情報収集に努めること

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 初回の授業でお伝えします

留意事項: 卒業論文作成にあたり、心理学の専門的な知識や論理的な思考力はもちろん、主体性やコミュニケーション力も求められますので、自覚をもって研究に取り組んでください。

科目コード: 21070 科目ナンバリング: WP30C01K 主な使用言語: 日本語|

授業名(英文): 福祉行財政論(Social Services Administration and Finance)

担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次: 3 単位数: 4 授業形式: 講義

曜時: 前期(水曜3限)、後期(水曜3限) 履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 福祉主 社福士 福祉心理 AL要素: 07発表
08共同学修
10資料調査課題
11討論
15レポート指導
16振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

社会福祉に関する行政や財政は、国家体制の中で実施されます。この授業では、国家体制を理解したうえで、福祉行財政の理念や仕組みについての理解を深めることを目的とします。近年、福祉制度の実施に欠かせない福祉計画の手法についても取り上げます。前期では、知識の習得を目指します。そのため、グループレポートの提出があります。後期では、その知識をベースに福祉行政の理念について考えを深めることを目指します。そのため、グループ発表を行います。講義のほかに、行政機関等から職員をお招きして、社会問題や福祉計画等の実際をお話しいたします。

キーワード： 国家のしくみ、福祉行政、福祉計画、社会問題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 国家の仕組みや福祉サービスを行う行政組織の役割と実施体制、実施方法等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 小テスト及び学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 福祉政策やその問題点等について、グループ学習や自主的な学習を通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 小テスト及び学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

小テストやグループレポート、グループ学習、グループ発表をとおして、主体的な学修態度を培う。直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって得た知見等が小テストやグループレポート、グループ発表等の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習やディスカッションによって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的なグループ学習や学修によって得た知見等が小テストやグループレポートの記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や小テスト、グループレポート、グループ活動、発表等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 前期

1. この授業の概略と到達目標、評価方法
2. 国家の仕組みと行政の業務
3. 国家の行政組織
4. 行政の骨格
5. 社会福祉と法制度
6. 地方自治体の組織
7. 社会福祉基礎構造改革とサービス利用方式
8. 相談過程・相談体制
9. 専門機関と専門職

10. 地域の相談システム
 11. 財政とは
 12. 国家における財政
 13. 地方自治体における財政
 14. 福祉計画の概要
 15. 福祉計画の目的・意義
- 期末試験

後期

1. 後期授業の進め方
 2. 福祉計画の基本的視点
 3. 福祉計画の過程
 4. PERT法を使ってみよう
 5. ニーズの把握と評価
 6. 住民参加
 7. グループ発表の準備
 8. グループ発表1(各グループ 1組)
 9. グループ発表2(各グループ 1組)
 10. グループ発表3(各グループ 1組)
 11. グループ発表4(各グループ 1組)
 12. グループ発表5(各グループ 1組)
 13. グループ発表6(各グループ 1組)
 14. グループ発表7(各グループ 1組)
 15. 行政機関職員等による講義
- 期末試験

使用テキスト：・社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画』発行所・中央法規出版(第5版)
・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後は、教科書や配布資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：・前期の授業中に行う小テスト、グループレポート等を100点、後期の期末試験を100点とし、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめ評価する。
・日頃からニュースや福祉政策問題に関心を向け、わが国の福祉政策を意識してください。
・課題に対しては、コメントを付して返却します。
・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード：21073 科目ナンバリング：WP20C03K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：福祉運営管理論(Social Services Management)

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：2

単位数：4

授業形式：講義

曜時：前期(月曜5限)、後期(月曜5限)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：08共同学修

11討論

16振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

今や福祉サービス提供施設は、施設独自の努力による経営手腕が求められています。前期では、組織の形態としての法人を概説し、福祉サービスを提供する社会福祉法人等について理解を深めます。また、社会学・経営学の基礎理論に基づいた組織の基礎理論や集団力学・リーダーシップ理論を理解します。後期では、事例を使い組織管理・運営方法の理論についての理解を深めます。また、組織の財政・会計を表す財務諸表を読み解きます。

キーワード： 施設経営、経営学理論、財務諸表

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会福祉法人等の組織・機関の役割や体制や組織管理の基礎的理論、財務管理・会計について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた事例問題や自発的学修を通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって得た知見等が期末試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

授業中の教員の呼びかけに応じることによって、授業への自発的参加の精神を身につける。直接的な評価対象としないが、自発的な学修によって得た知見等が定期試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や筆記試験等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 前期

1. オリエンテーション(授業の概略と到達目標、評価方法)
2. 福祉サービスにおける組織と法人
3. 社会福祉法人
4. 特定非営利活動法人
5. 医療法人
6. その他の組織や団体
7. 福祉サービスの沿革
8. 公益法人制度
9. 組織間連携の基礎理論
10. 組織間連携のマネジメント
11. 組織運営の基礎理論

12. コンクリフト
 13. 集団力学の基礎理論
 14. リーダーシップの基礎理論
 15. フォロアーシップ理論
- 学期末試験

後期

1. オリエンテーション(後期授業の進め方)
 2. 福祉サービス組織の経営体制
 3. 福祉サービス組織のコンプライアンスとガバナンス
 4. 福祉サービス組織の経営管理
 5. 経営管理と事例1(理論)
 6. 経営管理と事例2(戦略)
 7. 苦情解決とリスクマネジメント
 8. サービスの質の向上とサービスマネジメント
 9. 情報管理
 10. 会計管理と財務管理
 11. 財務諸表1(貸借対照表)
 12. 財務諸表2(事業活動計算書と資金収支計算書)
 13. 福祉人材のマネジメント
 14. 福祉人材の育成
 15. 労働環境の整備
- 学期末試験

使用テキスト： ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』中央法規出版、最新版。
 ・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
 ・授業後は、教科書や配付資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
 ・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： いよいよ心理福祉実習や社会福祉援助技術現場実習が始まります。実習に行った人たちは、各自の実習先施設の組織体制や経営方法と経営理論を照らし合わせてみましょう。実習に行かない人たちは、これまで属した組織の体制や運営方法と照らし合わせてみましょう。

科目コード：21075 **科目ナンバリング：**WP20C06K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：医療福祉論(Medical Social Work)

担当者：福田 潤

基本情報

年次：2

単位数：4

授業形式：講義

曜時：前期(木曜6限)、後期(木曜6限)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：08協同学修

10資料調査課題

13役割演技と疑似体験

14輪読活動

17発問と回答

授業の概要： 対面授業を基本とします。{但し、県の感染症等の指標がstage4になった場合は、遠隔授業（オンデマンド型を中心に時々同時双方向型あり）に変更することもあります。}

医療という一見すると福祉とは無関係のフィールドで、ソーシャルワーカーという社会福祉の職種がなぜ必要なのかを一緒に考えていきたいと思います。

また、医療ソーシャルワーカーの実習を希望する学生のために、実習前までに身につけておきたい社会資源や面接技術等も取り上げます。
前期は知識を身につけるための講義を、後期には事例を用いた演習を中心に授業を展開していきます。

なお、実務経験を活かし、以下のように授業を行います。

- ・テーマごとに、テーマに沿った実体験の事例を折り返しながら、講義を進めていきます。
- ・授業中、テーマに沿った専門講師も招き、講義をしていただく機会も設けます。

キーワード： 医療ソーシャルワーク、業務指針、倫理綱領、社会資源、自己覚知、面接技術、チーム医療、記録

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
- ・医療ソーシャルワーカーの歴史の変遷及び存在価値について理解する。
 - ・医療ソーシャルワーカーの業務指針及び倫理綱領について理解する。
 - ・医療ソーシャルワーカーの業務内容及び役割について理解する。
 - ・医療機関の特徴を知る。
 - ・実習前に身につけておきたい様々な社会資源について理解する。
 - ・医療ソーシャルワークの展開過程を理解する。
 - ・面接技術を身につける。
 - ・チーム医療の中の医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
 - ・電子カルテと記録の仕方について理解する。

評価方法： 前・後期試験

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 事例を使用したグループワークを通して自己覚知を行い、思考力や判断力、表現力を体得する。

評価方法： 直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題をいくつか出します。レポートを提出した場合、定期試験とは別に加点評価を行います。

評価割合： + α

▼ 実践的ボランティア

(指定する)医療福祉に関する外部の研修会等に自発的に参加し、レポートを提出した場合、定期試験とは別に加点評価を行う。

評価割合： + α

▼ 公正性

特になし

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： [前期]

【第01回】オリエンテーション、医療ソーシャルワーカーの仕事って？

【第02回】医療機関の種類(機能別)
【第03回】医療ソーシャルワーカーの歴史の変遷
【第04回】医療ソーシャルワーカーの業務指針(1)
【第05回】医療ソーシャルワーカーの業務指針(2)及び倫理綱領(1)(ソーシャルワーク定義)
【第06回】倫理綱領(2)(価値・視点)
【第07回】医療ソーシャルワーカーの資格問題について
【第08回】実習前に知っておきたい社会資源(1)～社会資源とは、権利擁護～
【第09回】実習前に知っておきたい社会資源(2)～社会保険(医療保険1)～
【第10回】実習前に知っておきたい社会資源(3)～社会保険(医療保険2)～
【第11回】実習前に知っておきたい社会資源(4)～社会保険(介護保険1)～
【第12回】実習前に知っておきたい社会資源(5)～社会保険(介護保険2)～
【第13回】実習前に知っておきたい社会資源(6)～障害者1(身体・知的・精神)～
【第14回】実習前に知っておきたい社会資源(7)～障害者2(難病)
【第15回】病院機能別医療ソーシャルワーカーの業務(1)～急性期～
前期定期試験

[後期]

【第16回】医療ソーシャルワークの展開過程(1)
【第17回】医療ソーシャルワークの展開過程(2)
【第18回】医療ソーシャルワークの展開過程(3)
【第19回】コミュニケーションと自己覚知(1)
【第20回】コミュニケーションと自己覚知(2)
【第21回】面接技術(1)
【第22回】面接技術(2)
【第23回】面接技術(3)
【第24回】面接技術(4)
【第25回】病院機能別医療ソーシャルワーカーの業務(2)～回復期・療養型～
【第26回】演習(1)(事例検討～グループワーク)
【第27回】演習(2)(事例検討～グループワーク)
【第28回】演習(3)(事例検討～グループワーク)
【第29回】診療録(カルテ)について～カルテの書き方(SOAP方式)～
【第30回】チーム医療と連携について
後期定期試験

使用テキスト: ・対人援助のための相談面接技術『逐語で学ぶ21の技法』
岩間 伸之 著 中央法規出版
{<http://www.chuohoki.co.jp/products/welfare/3073/>}
※後期の授業で使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に事業計画で示された箇所の資料やテキストを読んでおいてもらえると、授業の理解度が向上すると思われま

★参考テキスト

・(改訂版)新・医療福祉学概論～利用者主体の保健医療サービスをめざして～
佐藤 俊一・竹内 一夫・村上 須賀子 編著 川島書店
{<http://kawashima-pb.kazekusa.co.jp/>}

・ソーシャルワークシリーズ『医療ソーシャルワーク』
杉本 敏夫・岡田 和敏 編著 株式会社電気書院-久美部門-
{<http://www.kumi-web.co.jp/book/2004/04/247.html>}

※このテキストは2019年に廃刊になっています。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールまたは電話にての対応となります。

留意事項： 病院での実習や、卒業後の就職先として医療ソーシャルワーカー(MSW)を希望している学生は、必ず履修してください。
そうでない学生でも、社会に出てから役に立つ講義もあります。

科目コード：21076 科目ナンバリング：WP20C07K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会福祉調査の基礎(Methods for Social Research)

担当者：藤島 稔弘

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：講義

曜時：木曜2限 履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉主 社福士 福祉心理 AL要素：05.即時応答
07.発表
08.協同学修
10.資料調査課題
11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型
社会調査法の基本的なプロセスやデザイン、手法など解説していきます。社会調査のプロセスに沿った解説を行うとともに、グループ単位で調査のデザイン、実査、データ分析、報告などのプロセスを体験する。

キーワード： 社会福祉調査法、量的調査法、質的調査法、データ分析

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた社会調査の基本的な種類、プロセス、デザイン、方法、サンプリング、分析について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： ワークシート **評価割合：** 50%
小テスト
期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート **評価割合：** 50%
期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差

別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：社会福祉調査の意義と目的(1)
第2回：社会福祉調査の意義と目的(2)
第3回：社会福祉調査における倫理と個人情報保護
第4回：社会福祉調査のデザイン(1)調査における考え方と論理
第5回：社会福祉調査のデザイン(2)調査のプロセス
第6回：社会福祉調査のデザイン(3)調査の目的と対象
第7回：社会福祉調査のデザイン(4)データ収集と分析
第8回：量的調査の方法(1)量的調査の概要
第9回：量的調査の方法(2)量的調査のデータ収集方法
第10回：量的調査の方法(3)量的調査の分析
第11回：質的調査の方法(1)質的調査の概要
第12回：質的調査の方法(2)質的調査のデータ収集方法
第13回：質的調査の方法(3)質的調査の分析
第14回：ソーシャルワークにおける評価(1)評価対象
第15回：ソーシャルワークにおける評価(2)評価方法

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座 社会福祉調査の基礎』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと 授業終了時に事前課題を提示する場合があります。次回までに組み込んで参加すること。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：21077 科目ナンバリング：WP35C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： ソーシャルワーク演習(専門)IV a(Seminar in Social Work (Speciality) IV a)

担当者： 藤島 稔弘

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：社福士 福祉心理

AL要素：07.発表

10.資料調査課題

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

16.振り返り用氏と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

学生個々の実習体験についてのグループディスカッション等を通して、事例研究を行う。その際、体験の振り返り指導を通して、ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。また、事例研究への指導を通して、研究方法を学ぶ。さらに、学生個々の実習体験についての事例検討を通して、ソーシャルワークの概念化・理論家・体系化を習得する。

キーワード： ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン、事例研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 事例のグループディスカッションやグループ活動において、ソーシャルワークの知識・技術・価値観を活用して議論ができ、振り返りのワークシートやレポートにおいてそれらの用語を活用して技術できる。

評価方法： 事前課題
ワークシート
レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習で扱った事例について、事前学習によって得た知見、実習での経験を踏まえた考察ができ、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 事前課題
ワークシート
レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回：オリエンテーション
事例研究(1) ～障がい者の生活支援事例を基にした事例研究～
第2回：事例研究(2) ～不登校の子どもへの支援事例を基にした事例研究～
第3回：事例研究(3) ～認知症高齢者の生活支援事例を基にした事例研究～
第4回：事例研究(4) ～医療機関における相談事例を基にした事例～
第5回：スーパービジョン(1) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第6回：スーパービジョン(2) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第7回：スーパービジョン(3) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第8回：スーパービジョン(4) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第9回：スーパービジョン(5) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第10回：事例検討(1) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
：高齢者・障がい者・児童～
第11回：事例検討(2) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
：高齢者・障がい者・児童～
第12回：事例検討(3) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化

- :高齢者・障がい者・児童～
 第13回:事例検討(4) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
 :高齢者・障がい者・児童～
 第14回:事例検討(5) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
 :高齢者・障がい者・児童～
 第15回:事例検討(6) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
 :高齢者・障がい者・児童～

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

・(授業前)事前に提示される事前課題を基に事例の理解・整理、分からない用語を調べる(90分)。

・(授業後)事後課題ワークシートを基に授業内容について、これまで受講した以下の関連科目のノートや参考文献を基にソーシャルワークの知識、技術、価値観とのリンキングに努め、ワークシートを提出する(90分)。

【関連科目】

ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法 I・II、ソーシャルワークの理論と方法(専門) I・II

【参考文献】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟『11ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』中央法規出版

日本ソーシャルワーク教育学校連盟『12ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規出版
 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『6ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』中央法規出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

ソーシャルワーク実習I、ソーシャルワーク実習指導I・IIを同時履修とする。

ソーシャルワーク演習・ソーシャルワーク演習(専門)I・IIを修得済みとする。

ソーシャルワーク演習(専門)IIIを同時履修とするが、前期で単位取得できなかった場合は、ソーシャルワーク演習IV(専門)の履修の継続はできない。また、ソーシャルワーク実習指導Iを中断した場合も同様である。

課題のフィードバックは、授業内ないしはTeams等でコメントを付して返却する。

科目コード:21077 科目ナンバリング:WP35C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク演習(専門)IV b(Seminar in Social Work (Speciality) IV b)

担当者: 池田 幸也

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 社福士 福祉心理

AL要素: 07.発表

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

学生個々の実習体験についてのグループディスカッション等を通して、事例研究を行う。その際、体験の振り返り指導を通して、ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。また、事例研究への指導を通して、研究方法を学ぶ。さらに、学生個々の実習体験についての事例検討を通して、ソーシャルワークの概念化・理論家・体系化を習得す

る。

キーワード： 相談援助技術、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自己の体験事例のグループディスカッションを通して、自己の実習体験を振り返る。
自己の体験事例のグループディスカッションやスーパービジョンを受けて、事例研究の方法を身につける。

評価方法： ワークシート
レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自己の体験事例の検討を通して、ソーシャルワークを概念化し、理論化し、体験立てて理解する。
授業後ワークシートの添削指導を通して、スーパービジョンを体験する。

評価方法： ワークシート
レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回:オリエンテーション
事例研究(1) ～障がい者の生活支援事例を基にした事例研究～
第2回:事例研究(2) ～不登校の子どもへの支援事例を基にした事例研究～
第3回:事例研究(3) ～認知症高齢者の生活支援事例を基にした事例研究～
第4回:事例研究(4) ～医療機関における相談自レオを基にした事例～
第5回:スーパービジョン(1) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第6回:スーパービジョン(2) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第7回:スーパービジョン(3) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第8回:スーパービジョン(4) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第9回:スーパービジョン(5) ～振り返り指導と事例研究の指導～
第10回:事例検討(1) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
:高齢者・障がい者・児童～
第11回:事例検討(2) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
:高齢者・障がい者・児童～
第12回:事例検討(3) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
:高齢者・障がい者・児童～

- 第13回:事例検討(4) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
:高齢者・障がい者・児童～
- 第14回:事例検討(5) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
:高齢者・障がい者・児童～
- 第15回:事例検討(6) ～ソーシャルワークの概念化・理論化・体系化
:高齢者・障がい者・児童～

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 相談援助技術演習I～IVでの学びを再確認した上で授業に臨むこと。
【参考文献】

社会福祉士養成講座編集委員会『6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版
社会福祉士養成講座編集委員会『7 相談援助の理論と方法 I』中央法規出版
社会福祉士養成講座編集委員会『8 相談援助の理論と方法 II』中央法規出版

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

相談援助実習I、相談援助実習指導I・IIを同時履修とする。

相談援助技術演習I・II・III・IVを修得済みとする。

相談援助技術IV(前期)を同時履修とするが、前期で単位取得できなかった場合は、演習Vの履修の継続はできない。また、相談援助実習Iを中断した場合も同様である。

課題のフィードバックは、授業内ないしはTeams等でコメントを付して返却する。

科目コード:21078

科目ナンバリング:WP20C14E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):介護技術 a(Care Work a)

担当者:沼田 恵子

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 福祉心理

AL要素:発問と回答

授業の概要: 生活支援技術としての介護技術理論と実技演習

キーワード: 生活支援技術、高齢者、障がい者、高齢社会、ユニバーサルデザイン、福祉用具、介護過程

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: この科目は、高等学校教諭一種(福祉)の必修となっている。

人間福祉実習を控えている学生、介護に興味・関心のある学生を対象に行う。

一つひとつの介護行為の裏側には、知識や技術が統合化されており、根拠に基づいて介護は行われている。この授業では、単に正しい介護技術を学ことを目的とするのではなく、介護を受ける側の体験を何よりも大切にしたい。安心安楽な介護技術の重要性と介護を受けることの理解を深め、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。

評価方法: 出席、
提出物、

評価割合: 70%

実技試験、授業時の参加態度を総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 介護技術というと、「食事」「排泄」「入浴」の三大介護に目が向きがちになる。それぞれの技術

は独立しているものではなく、利用者の生活を支えるという視点をもって技術を組み立てていかなければならないことを理解できる。

評価方法: 出席、
提出物、
実技試験、授業時の参加態度を総合的に
評価する。

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

実技演習については、授業時間を効率的に活用できるよう積極的な態度で取り組むこと。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や提出物の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. ガイダンス(授業の進め方、評価、介護技術の学び方、介護者の健康管理)
 2. コミュニケーション技術
 3. 健康観察 観察すべきこと
 4. 住環境の整備 安眠を支援する: ベッドメイキング
 5. 移動の介護① 移動介助の基本: ベッド上での移動と体位変換)
 6. 移動の介護② 立ち上がりと移乗の介護
 7. 移動の介護③ 車いすでの移動の介護
 8. 歩行の介護
 9. 食事の介護 食事介護の基本
 10. 整容の介護 衣類着脱の介護の基本
 11. 排泄の介護① 排泄介護の基本: トイレでの介助
 12. 排泄の介護② おむつ介助
 13. 入浴・清潔保持の介護 身体を清潔にする方法
 14. 障害別の介護
 15. まとめ

使用テキスト: 介護職員初任者研修テキスト 自立に向けた介護の実際 2 中央法規出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ※必要に応じてプリントを配布する。
心理福祉実習及び心理福祉実習指導を履修中の学生は、介護概論と同時履修を原則とする。社会福祉士を希望する学生は2年次必修。実際に介護を体験するため、一クラスの人数30名程度とする。クラスによって人数の偏りがないように、クラス分けは原則として教員が行う。授業の際には動きやすい服装で参加すること。自前のエプロンを用意すること。(エプロンには、大学名と氏名を書いたハガキ大の白い布を縫いつけておくこと)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 学務部等に連絡して下さい。

留意事項: 特になし

科目コード:21078

科目ナンバリング:WP20C14E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):介護技術 b(Care Work b)

担当者:沼田 恵子

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 福祉心理

AL要素:発問と回答

授業の概要:生活支援技術としての介護技術理論と実技演習

キーワード:生活支援技術、高齢者、障がい者、高齢社会、ユニバーサルデザイン、福祉用具、介護過程

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標:この科目は、高等学校教諭一種(福祉)の必修となっている。

人間福祉実習を控えている学生、介護に興味・関心のある学生を対象に行う。

一つひとつの介護行為の裏側には、知識や技術が統合化されており、根拠に基づいて介護は行われている。この授業では、単に正しい介護技術を学ことを目的とするのではなく、介護を受ける側の体験を何よりも大切にしたい。安心安楽な介護技術の重要性と介護を受けることの理解を深め、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。

評価方法:出席、

評価割合:70%

提出物、

実技試験、授業時の参加態度を総合的に

評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:介護技術というと、「食事」「排泄」「入浴」の三大介護に目が向きがちになる。それぞれの技術は独立しているものではなく、利用者の生活を支えるという視点をもって技術を組み立てていかなければならないことを理解できる。

評価方法:出席、

評価割合:30%

提出物、

実技試験、授業時の参加態度を総合的に

評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

実技演習については、授業時間を効率的に活用できるよう積極的な態度で取り組むこと。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や提出物の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 1.ガイダンス(授業の進め方、評価、介護技術の学び方、介護者の健康管理)
2.コミュニケーション技術
3.健康観察 観察すべきこと
4.住環境の整備 安眠を支援する:ベッドメイキング
5.移動の介護① 移動介助の基本:ベッド上での移動と体位変換)
6.移動の介護② 立ち上がりと移乗の介護
7.移動の介護③ 車いすでの移動の介護
8.歩行の介護
9.食事の介護 食事介護の基本
10.整容の介護 衣類着脱の介護の基本
11.排泄の介護① 排泄介護の基本:トイレでの介助
12.排泄の介護② おむつ介助
13.入浴・清潔保持の介護 身体を清潔にする方法
14 障害別の介護
15.まとめ

使用テキスト： 介護職員初任者研修テキスト 自立に向けた介護の実際 2 中央法規出版

予習・復習のポイントと ※必要に応じてプリントを配布する。
参考文献・資料等： 心理福祉実習及び心理福祉実習指導を履修中の学生は、介護概論と同時履修を原則とする。社会福祉士を希望する学生は2年次必修。実際に介護を体験するため、一クラスの人数30名程度とする。クラスによって人数の偏りがないように、クラス分けは原則として教員が行う。授業の際には動きやすい服装で参加すること。自前のエプロンを用意すること。(エプロンには、大学名と氏名を書いたハガキ大の白い布を縫いつけておくこと)

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部等に連絡して下さい。

留意事項： 特になし

科目コード：21081 科目ナンバリング：WP21C07J 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： ソーシャルワーク実習Ⅱ a (Practical Training in Social Work II a)

担当者： 山中 俊克、富樫 ひとみ、清原 舞、田家 英二

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：6

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻： W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素： 01 実地訓練
03 実験・実技・体験
07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要： ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。そのために、①支援を必要とする人や地域の状況を理解し、ニーズを把握する。②ニーズに対応するため、社会資源等を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。③施設や機関等が地域社会の中で果たす役割を理解する。④多職種・多機関・地域住民等との連携を理解する。

キーワード： ソーシャルワーク、社会福祉士、ソーシャルワーカー、スーパービジョン、自己覚知、社会資源

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習体験をとおし、実習施設・機関と多職種や社会資源等との連携に関する知識や技能、地域のニーズ把握の方法、ソーシャルワークに関する知識や技術等、チームアプローチの知識や技能等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 『実習計画書』及び『実習の記録』、『実習巡回』、実習で作成した支援計画書、その他の課題ワークシート等、『実習報告書』、面接試験で評価する。

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 実習での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる

評価方法: 『実習計画書』及び『実習の記録』、『実習巡回』、実習で作成した支援計画書、その他の課題ワークシート等、『実習報告書』、面接試験で評価する。

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、実習の取り組みに認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見が、課題の取り組みに反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、実習中、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、実習を中止することがある。

評価割合: 0%

▼ その他

実習中、著しく公正性を欠く言動があった場合以外でも、著しく実習生にふさわしくない言動があった場合は、実習を中止することがある。

評価割合: 実習中、著しく公正性を欠く言動が

授業計画: 夏季休暇中に実習体験を行う。
実習体験中は、1週間に1度、巡回指導もしくは帰校指導を受ける。
実習での学びは、以下のとおり。

- 初期:・コミュニケーション技術の試行と円滑な人間関係の形成
 - ・逐語記録作成と自身のコミュニケーション技術の振り返り
 - ・利用者主体や個別化、ストレングス視点による支援の体験等と援助関係の形成
 - ・実習先施設等の組織・業務等についての講義を受講
- 中期:・実習先施設等における他職種の業務の見学・体験
 - ・カンファレンス等の陪席
 - ・他施設・機関の見学、同行
 - ・個別支援計画書作成の準備
- 終期:・個別支援計画についての模擬カンファレンス開催と振り返り
 - ・地域社会に対する福祉関連事業の講義・同行
 - ・実習先施設等の施設運営会議等への陪席
- 全般:・実習記録の作成
 - ・実習指導者及び教員によるスーパービジョン

使用テキスト: テキストは特に使用しない。
実習に必要な資料については、必要に応じて随時印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習・復習のポイント】
・実習前は、『実習計画書』の作成を通し、自分の実習先の領域・実習先の学習にあたること。またソーシャルワークの理論についても確認を行うこと。
・実習中は、実習担当職員及び実習担当教員への報告・連絡・相談に努め、スーパービジョンの活用を心がけること。
・実習後は、『実習報告書』の作成を通し、自己のソーシャルワーカーとしての課題を明らかにすること。また、『実習報告会』を通し、ソーシャルワーク理論等の理解を深めること。

【参考文献等】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。
- ・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: 心理福祉学科実習教育室の助手を通して行うこと。

留意事項: 【履修上の注意】

- 1.ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳと同時履修とする。ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- 2.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 3.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 4.実習希望領域については、領域論が単位修得済みであることを原則とする。
- 5.クラス分けは教員が行う。
- 6.実習先で利用者や施設及び職員に対し著しい迷惑をかけた場合や著しく不適切な言動があった場合、実習を中止することがある。

【課題に対するフィードバック方法】

実習計画書及び実習報告書の作成にあたっては、教員との個別やり取りをとおして完成させる。

【実習中のフィードバック方法】

実習先施設・機関の実習指導職員及び実習担当教員よりスーパービジョンを受ける。

科目コード:21081 科目ナンバリング:WP21C07J 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク実習Ⅱ b(Practical Training in Social Work Ⅱ b)

担当者: 富樫 ひとみ、山中 俊克、清原 舞、田家 英二

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:6

授業形式:実習

曜時:前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 01 実地訓練
03 実験・実技・体験
07 発表
10 資料調査課題
11 討論
15 レポート指導

授業の概要: ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理

に基づく支援を行うための実践能力を養う。そのために、①支援を必要とする人や地域の状況を理解し、ニーズを把握する。②ニーズに対応するため、社会資源等を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。③施設や機関等が地域社会の中で果たす役割を理解する。④多職種・多機関・地域住民等との連携を理解する。

キーワード： ソーシャルワーク、社会福祉士、ソーシャルワーカー、スーパービジョン、自己覚知、社会資源

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実習体験をとおし、実習施設・機関と多職種や社会資源等との連携に関する知識や技能、地域のニーズ把握の方法、ソーシャルワークに関する知識や技術等、チームアプローチの知識や技能等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 『実習計画書』及び『実習の記録』、『実習巡回』、実習で作成した支援計画書、その他の課題ワークシート等、『実習報告書』、面接試験で評価する。
評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 実習での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる

評価方法： 『実習計画書』及び『実習の記録』、『実習巡回』、実習で作成した支援計画書、その他の課題ワークシート等、『実習報告書』、面接試験で評価する。
評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、実習の取り組みに認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見が、課題の取り組みに反映されると思われる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、実習中、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、実習を中止することがある。

評価割合： 0%

▼その他

実習中、著しく公正性を欠く言動があった場合以外でも、著しく実習生にふさわしくない言動があった場合は、実習を中止することがある。

評価割合： 実習中、著しく公正性を欠く言動が

授業計画： 夏季休暇中に実習体験を行う。
実習体験中は、1週間に1度、巡回指導もしくは帰校指導を受ける。
実習での学びは、以下のとおり。

- 初期：・コミュニケーション技術の試行と円滑な人間関係の形成
・逐語記録作成と自身のコミュニケーション技術の振り返り
・利用者主体や個別化、ストレングス視点による支援の体験等と援助関係の形成
・実習先施設等の組織・業務等についての講義を受講
- 中期：・実習先施設等における他職種の業務の見学・体験
・カンファレンス等の陪席
・他施設・機関の見学、同行

- ・個別支援計画書作成の準備
- 終期: ・個別支援計画についての模擬カンファレンス開催と振り返り
- ・地域社会に対する福祉関連事業の講義・同行
- ・実習先施設等の施設運営会議等への陪席
- 全般: ・実習記録の作成
- ・実習指導者及び教員によるスーパービジョン

使用テキスト: テキストは特に使用しない。
実習で必要な資料については、必要に応じて随時印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

- 参考文献・資料等:**
- ・実習前は、『実習計画書』の作成を通し、自分の実習先の領域・実習先の学習にあたること。またソーシャルワークの理論についても確認を行うこと。
 - ・実習中は、実習担当職員及び実習担当教員への報告・連絡・相談に努め、スーパービジョンの活用を心がけること。
 - ・実習後は、『実習報告書』の作成を通し、自己のソーシャルワーカーとしての課題を明らかにすること。また、『実習報告会』を通し、ソーシャルワーク理論等の理解を深めること。

【参考文献等】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。
- ・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: 心理福祉学科実習教育室の助手を通して行うこと。

留意事項: 【履修上の注意】

1. ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳと同時履修とする。ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ・Ⅳの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
2. 高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
3. 介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
4. 実習希望領域については、領域論が単位修得済みであることを原則とする。
5. クラス分けは教員が行う。
6. 実習先で利用者や施設及び職員に対し著しい迷惑をかけた場合や著しく不適切な言動があった場合、実習を中止することがある。

【課題に対するフィードバック方法】

実習計画書及び実習報告書の作成にあたっては、教員との個別やり取りをとおして完成させる。

【実習中のフィードバック方法】

実習先施設・機関の実習指導職員及び実習担当教員よりスーパービジョンを受ける。

科目コード: 21083 科目ナンバリング: WP20C21K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理的アセスメント(Psychological Assessment)

担当者: 岩崎 真和

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: W

授業の概要： 心理アセスメントとは、生育歴や行動観察、心理検査の結果などの幅広い情報を収集し、それらを統合して包括的に解釈していく作業であり、その基盤としてバイオ・サイコ・ソーシャルモデルなどの総合的視座の理解が必須となる。講義の中では、担当教員の医療、教育臨床での実務経験を共有しながら、心理アセスメントの中核である心理検査に加え、面接法や“関与しながらの観察”を通じたアセスメントについて受検体験やロールプレイなどを通じて実践的に学ぶ。

[授業の目的・ねらい]

- ・心理的アセスメントの目的と倫理
- ・心理的アセスメントの観点と展開
- ・心理的アセスメントの方法
- ・適切な記録と報告(フィードバック・セッション)

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・心理的アセスメントに有用な情報とその把握のための手法を理解する。
- ・要心理的支援者への関与しながらの観察について理解する。
- ・心理検査の種類と成り立ち、特徴、意義及び限界について理解する
- ・心理検査の適応と実施方法を理解し、検査結果を読めるようになる。
- ・生育歴などの情報や行動観察、心理検査の結果などを統合できる視点を持つ。
- ・心理アセスメント所見の適切な記録の仕方、報告、振り返り、管理の仕方を理解する。

キーワード： 心理検査、知能検査、質問紙法、投影法など

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 講義内容について、概ね8割の事項を暗記し、試験とレポートで6割以上の得点を得ること。

評価方法： レポートと期末試験

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義内容について、自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法： レポートと期末試験

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学びや経験が期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、講義内の発言や期末試験の記述等において人権の侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 1 オリエンテーション

- 2 心理的アセスメントに有用な情報とその把握の手法
- 3 アセスメントとインタビュー面接
- 4 情報を把握する手法としての面接法と観察法
- 5 心理検査の種類と成り立ち
- 6 代表的な心理検査とその限界
- 7 投映法と質問紙法
- 8 知能検査
- 9 成人と子どもの心理アセスメントの留意点
- 10 心理検査の適用とテスト・バッテリー
- 11 心理検査の実施から所見の作成およびフィードバック・セッション
- 12 バイオ・サイコ・ソーシャルモデルに基づく心理アセスメント
- 13 因果論的理解と円環論的理解, 疾病生成論と健康生成論
- 14 ケース・フォーミュレーションの実際
- 15 総括

使用テキスト: 下山晴彦(監)(2021). 公認心理師のための「心理査定」講義 北大路書房
 ※上記テキストが必須となりますので, 本学生協で購入してください。なお, 本テキストは「心理検査法実習」でも活用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: テキスト以外に必要な資料等は随時配布または紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと思いますので, まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 講義の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項: 本科目は後期の「心理検査法実習」で必須の事柄を学ぶ履修要件科目なので, 後期に心理検査法実習の履修を希望する場合は必ず受講し, 単位取得に励んでください。

- ・授業計画の内容や順番については, 受講生のニーズに応じて変更可能性があります。
- ・学習環境を保つため, 他の受講生の迷惑になる行為(特に私語や携帯電話の使用など)をしないこと。
- ・レポート課題が未提出の場合, 単位認定ができませんので注意してください。
- ・必要や状況に応じてチームによる授業展開が入る可能性もあるので常にチームチャットや諸連絡を確認しておいてください。
- ・講義内で動画素材を用いますので, 視聴覚刺激に対して苦手さのある学生はその時間だけ席を外すなどの対応は相談次第で許容します。
- ・授業態度やレポート, 試験の合計得点が合格点の60点に達しない場合には単位認定に至らない可能性がある科目ですので, 十分に考慮した上でご受講ください(例年, 数名は単位認定に至りません)。

科目コード: 21085 **科目ナンバリング:** WP21C04K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理学研究法I(Research Methods in Psychology I)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 木曜4限 **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理 **AL要素:** 11. 討論
 17. 発問と回答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

心理学の基本的な研究法(観察法, 実験法, 質問紙法, 心理検査法, 面接法, 事例研究法)を解説するとともに, データを用いた実証的な思考方法の実践を行う。また, 授業後半では心理学における研究倫理を説明し, 倫理に関する専門的知識・価値観の獲得とその重要性の理解を求める。

キーワード: 科学的思考, 研究法, 変数, 統計

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ① 心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の理解

② 研究における倫理の理解

評価方法: 定期試験
課題

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ③ データを用いた実証的な思考方法の獲得

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加, 他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 1. 心理学における実証的研究法(量的研究および質的研究)

2. 主観の客観化, 実証の手続き

3. 独立変数の操作

4. 従属変数の測定

5. 剰余変数の統制

6. 観察法

7. 実験法

8. 質問紙法

9. 心理検査法

10. 面接法

11. 事例研究法

12. 統計的分析

13. 結果の解釈

14. 研究における倫理

15. 心理学における研究倫理

定期試験

使用テキスト: 使用しない。

予習・復習のポイントと 図書館などで「〇〇心理学」と書かれている本を読むなど。

参考文献・資料等: 心理学の研究法の講義であるため、日常生活で知りたい心理や興味関心について考えることを推奨する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 本科目の単位修得後に「**心理学研究法II**」の履修が可能となる。

科目コード: 21086 **科目ナンバリング:** WP22C04K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理学研究法II(Research Methods in Psychology II)

担当者: 黒澤 泰

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 認心理 福祉心理

AL要素: 05.即時応答

10.資料調査課題

15.レポート指導

16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 心理学界では研究不正や疑わしい研究実践(QRP)に関する大きな問題が次々と発覚している。そして、そういったやり方で得られたとされる研究結果が追試で再現できないことも報告されている。つまり、心理学の知見には証拠の乏しい再現不可能なものが多く存在することが懸念されている。

本講では、事前登録制度(pre-registration:プレレジ)の考え方を元に、問題、方法、仮説から構成される模擬研究計画の作成と対応したグーグルフォームの回答画面の提出を最終目標とし、座学と作業を通して心理学研究法について発展的に学習する。

本講の目的

- 1) 心理学の実証的な論文が読めるようになる。
- 2) 心理統計学、および、心理学研究法の専門用語を知る。
- 3) 自分で研究計画を立案できるようになる。
- 4) Googleフォームが使えるようになる。

キーワード: 実証科学、ウェブ調査、事前登録制度(pre-registration:プレレジ)、多変量解析、論文購読

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 心理学研究法Iや心理学統計法で学んだ専門用語を用い、研究計画立案の際、表現すること。

評価方法: 最終課題(研究計画)

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 立案した研究計画をウェブ調査の画面という形で表現できるようになること

評価方法: 最終課題(ウェブ調査画面)

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

研究計画の立案、および、ウェブ調査の画面作成に対し、自分で考え、自分で論文を探す等の主体的に取り組む態度が必要とされる。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、剽窃などの研究不正行為は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

履修を希望する学生は、授業に先立ち、Google アカウントを作成しておくこと。

評価割合：履修を希望する学生は、授業に先

- 授業計画：
- 01.オリエンテーション
 - 02.座学：論文の読み方
 - 03.座学：望ましくない研究手続き
 - 04.座学：妥当性と信頼性
 - 05.座学：データの性質(名義, 順序, 連続, 比)
 - 06.論文購読:t検定と因子分析(1)
 - 07.論文購読:t検定と因子分析(2)
 - 08.論文購読:分散分析と相関係数(1)
 - 09.論文購読:分散分析と相関係数(2)
 - 10.論文購読:重回帰分析
 - 11.演習:テーマを考える
 - 12.演習:質問項目の作り方
 - 13.演習:オンライン調査の画面を作る
 - 14.演習:オンライン調査を実施する
 - 15.まとめ

使用テキスト： 浦上 昌則・脇田 貴文 (2020). 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版 .東京図書.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 自分の経験や体験と関連づけながら、学習すること。授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ、知見を深めることが望ましい(90分)

【参考文献】

心理学の7つの大罪—真の科学であるために私たちがすべきこと(日本語) 単行本？
2019/4/2
クリス・チェインバーズ(著), 大塚 紳一郎(翻訳). みすず書房.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まず学務部等に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 初回授業にて、担当教員のメールアドレスとTeamsのチームコードを伝える。

- 留意事項：
- ・本講履修にあたり、心理学研究法Iの単位修得を推奨する。
 - ・授業内ではグループディスカッションを行う。そのため、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となる。
 - ・演習的な要素も盛り込んでいるため、授業外での学習時間の確保が求められる。
 - ・Google アカウントを各自で作成しておくこと。
 - ・本講は卒業研究・修士論文のための研究に資することを目的としているため、公認心理師受験科目的な内容に触れることは少ないことは留意しておくこと。

科目コード：21087 科目ナンバリング：WP20C24E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理演習 a(Seminar in Psychology a)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉心理 公認心理

AL要素：03 実技・体験

11 討論

13 役割演技と疑似体験

授業の概要:

【目的】本演習では、公認心理師の主要な業務である心理学的支援や地域支援活動および心理的アセスメント等を行う上で必要とされる知識や基礎的スキルの修得を目的とする。

【概要】具体的な臨床場面を想定した役割演技(ロールプレイ)や事例検討(ケースカンファレンス)、支援計画の作成、受検体験等を行いながら、要支援者との円滑な関係構築のための基本的なコミュニケーション・スキル、心理面接、心理検査、多職種連携によるチームアプローチおよび地域支援活動等に関する知識や実践的スキルを修得する。また教員の臨床実践も共有しながら、より実践的な形で演習を展開する。

【到達目標】

- ① 対人援助職としての基本的なコミュニケーションスキルの獲得
- ② 心理検査や心理面接の基礎的スキルの修得
- ③ 要心理支援者のニーズの把握と実際の支援計画を作成する力の獲得
- ④ チームアプローチと多職種連携および地域援助活動等に関する知識の修得
- ⑤ 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解し、実践で活かせる力の獲得

キーワード: カウンセリングマインド、ロールプレイ、心理学的支援、心理アセスメント、倫理など

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標: 演習で解説を受けた内容について、概ね8割程度を理解し、レポートを作成することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 演習内容について、自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法: レポートとリアクションペーパー

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学びや経験がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、演習内の発言やレポートの記述等において人権の侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

1. オリエンテーション
2. 自分をどのように理解するか
3. 相手をどのように理解するか
4. 教育領域における事例理解

5. 公認心理師としての職業倫理
6. 記録技術
7. 傾聴(良い聞き方・悪い聞き方)
8. カウンセリングの基本的技法(質問、要約)
9. 模擬カウンセリング(聞く、見る、話す)
10. 心理実習の実際と心理演習
11. 心理検査の実習～アセスメントの一環としての
12. 福祉施設における公認心理士の仕事と多職種連携
13. 心理支援計画～福祉分野の事例を用いて
14. 支援を必要とする人に関わる際に大切なこと
15. 全体のまとめ

使用テキスト: 特に指定はありません。講義内で用いる資料は随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献は適宜紹介し、必要資料は随時配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと思いますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 演習の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項:

- 【履修要件】心理学概論Ⅰと臨床心理学概論の2科目を単位修得済であること。
- 【評価】試験は行わないが、途中のレポート課題が大きな評価対象となる。
- また演習科目のため、出席状況とその主体性や積極性も重要な要素となるので留意すること(欠席回数
が6回以上になったり代返等が発覚した場合には、学則に基づき単位取得不可)。
- 履修上の注意として、出席が前提となる。私語や居眠りなどは厳禁である。遅刻・欠席の場合は授業科
目担当者に事前に連絡を必要とする。
- 演習の効果을上げるためには、15回通して欠席や遅刻をしないことが大切である。
- 無断欠席は減点や厳重注意の対象となる。また演習の継続に支障が出る場合がある。
- 【その他】本科目はグループワークやロールプレイが含まれる演習科目である。教員からの指示に従わ
ない場合適宜注意し、それでも指示に従わない場合は教員から退室をうながす場合がある。
- ※ 履修登録人数や学生のニーズ等を鑑み、演習内容やその順番に変更や修正可能性がある。

科目コード: 21087 **科目ナンバリング:** WP20C24E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理演習 b(Seminar in Psychology b)

担当者: 黒澤 泰

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 福祉心理 公認心理

AL要素: 03 実技・体験

11 討論

13 役割演技と疑似体験

16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態】対面授業

【目的】本演習では、公認心理師の主要な業務である心理学的支援や地域支援活動および心理的アセスメント等を行う上で必要とされる知識や基礎的技術の修得を目的とする。

【概要】具体的な臨床場面を想定した役割演技(ロールプレイ)や事例検討(ケースカンファレンス)、支援計画の作成、受検体験等を行いながら、要支援者との円滑な関係構築のための基本的なコミュニケーション・スキル、心理面接、心理検査、多職種連携によるチームアプローチおよび地域支援活動等に関する知識や実践的スキルを修得する。また教員の臨床実

践も共有しながら、より実践的な形で演習を展開する。

【到達目標】

- ① 対人援助職としての基本的なコミュニケーション技能の獲得
- ② 心理検査や心理面接の基礎的技能の修得
- ③ 要心理支援者のニーズの把握と実際の支援計画を作成する力の獲得
- ④ チームアプローチと多職種連携および地域援助活動等に関する知識の修得
- ⑤ 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解し、実践で活かせる力の獲得

キーワード： カウンセリングマインド、ロールプレイ、心理学的支援、心理アセスメント、倫理など

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 演習で解説を受けた内容について、概ね8割程度を理解し、レポートを作成することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習内容について、自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法： レポートとリアクションペーパー

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学びや経験がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、演習内の発言やレポートの記述等において人権の侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

- 授業計画：**
- 1.オリエンテーション
 - 2.記録技術
 - 3.傾聴(良い聞き方・悪い聞き方)
 - 4.カウンセリングの基本的技法(質問、要約)
 - 5.模擬カウンセリング(聞く、見る、話す)
 - 6.心理実習の実際と心理演習
 - 7.心理検査の実習～アセスメントの一環としての
 - 8.福祉施設における公認心理士の仕事と多職種連携
 - 9.心理支援計画～福祉分野の事例を用いて
 - 10.自分をどのように理解するか
 - 11.相手をどのように理解するか
 - 12.教育領域における事例理解
 - 13.公認心理師としての職業倫理
 - 14.支援を必要とする人に関わる際に大切なこと
 - 15.全体のまとめ

使用テキスト: 特に指定はありません。講義内で用いる資料は随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献は適宜紹介し、必要資料は随時配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。
なお、対応しうる配慮の範囲が座学とは異なりますので、“必ず”事前に学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 演習の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項: 【履修要件】心理学概論Ⅰと臨床心理学概論の2科目を単位修得済であること。
【評価】試験は行わないが、途中のレポート課題が大きな評価対象となる。
また演習科目のため、出席状況とその主体性や積極性も重要な要素となるので留意すること(欠席回数が6回以上になったら代返等が発覚した場合には、学則に基づき単位取得不可)。
履修上の注意として、出席が前提となる。私語や居眠りなどは厳禁である。遅刻・欠席の場合は授業科目担当者に事前に連絡を必要とする。演習の効果を上げるためには、15回通して欠席や遅刻をしないことが大切である。無断欠席は減点や厳重注意の対象となる。また演習の継続に支障が出る場合がある。
【その他】本科目はグループワークやロールプレイが含まれる演習科目である。教員からの指示に従わない場合適宜注意し、それでも指示に従わない場合は教員から退室をうながす場合がある。カウンセラー役/クライアント役として安全な体験を確保するため、教員の指示に従えない者は本科目を履修することができない。

※ 履修登録人数や学生のニーズ等を鑑み、演習内容やその順番に変更や修正可能性がある。

科目コード: 21087 科目ナンバリング: WP20C24E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理演習 c(Seminar in Psychology c)

担当者: 渡邊 孝憲

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 福祉心理 公認心理

AL要素: 03 実技・体験

11 討論

13 役割演技と疑似体験

16 振り返り用紙と応答

授業の概要:

【目的】本演習では、公認心理師の主要な業務である心理学的支援や地域支援活動および心理的アセスメント等を行う上で必要とされる知識や基礎的技術の修得を目的とする。

【概要】具体的な臨床場面を想定した役割演技(ロールプレイ)や事例検討(ケースカンファレンス)、支援計画の作成、受検体験等を行いながら、要支援者との円滑な関係構築のための基本的なコミュニケーション・スキル、心理面接、心理検査、多職種連携によるチームアプローチおよび地域支援活動等に関する知識や実践的スキルを修得する。また教員の臨床実践も共有しながら、より実践的な形で演習を展開する。

【到達目標】

- ① 対人援助職としての基本的なコミュニケーション技能の獲得
- ② 心理検査や心理面接の基礎的技術の修得
- ③ 要心理支援者のニーズの把握と実際の支援計画を作成する力の獲得
- ④ チームアプローチと多職種連携および地域援助活動等に関する知識の修得
- ⑤ 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解し、実践で活かせる力の獲得

キーワード: カウンセリングマインド、ロールプレイ、心理学的支援、心理アセスメント、倫理など

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 演習で解説を受けた内容について、概ね8割程度を理解し、レポートを作成することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 演習内容について、自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法: レポートとリアクションペーパー

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学びや経験がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、演習内の発言やレポートの記述等において人権の侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動や剽窃等の不正行為があった場合は、減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. オリエンテーション
 2. 心理士は実際にどのようなことをしているのか
 3. 心理検査の紹介と実習
 4. 多職種連携の実際と留意点
 5. クライアント中心・人間中心の立場の基本的態度
 6. 自分をどのように理解するか
 7. 相手をどのように理解するか
 8. 教育領域における事例理解
 9. 公認心理師としての職業倫理
 10. 記録技術
 11. 傾聴(良い聞き方・悪い聞き方)
 12. カウンセリングの基本的技法(質問、要約)
 13. 模擬カウンセリング(聞く、見る、話す)
 14. 実習に向けて 心理職の専門性と実習の目的
 15. 全体のまとめ

使用テキスト: 特に指定はありません。講義内で用いる資料は随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献は適宜紹介し、必要資料は随時配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと思っておりますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 演習の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項:

【履修要件】心理学概論 I と臨床心理学概論の2科目を単位修得済であること。

【評価】試験は行わないが、途中のレポート課題が大きな評価対象となる。

また演習科目のため、出席状況とその主体性や積極性も重要な要素となるので留意すること(欠席回数
が6回以上になったり代返等が発覚した場合には、学則に基づき単位取得不可)。
履修上の注意として、出席が前提となります。私語や居眠りなどは厳禁です。遅刻・欠席の場合は授業
科目担当者に事前に連絡をしてください。
演習の効果を上げるためには、15回通して欠席や遅刻をしないことが大切です。
無断欠席は減点や厳重注意の対象となります。また演習の継続に支障が出る場合があります。

※ 履修登録人数や学生のニーズ等を鑑み、演習内容やその順番に変更や修正可能性があります。

科目コード:21088 科目ナンバリング:WP30C05K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):産業・組織心理学(Industrial and Organizational Psychology)

担当者:黒澤 泰

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻:W

関連資格:認心理 福祉心理 公認心理

AL要素:09 実地調査

11 討論

16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業の進め方】対面授業をベースにするが、授業内容に関しては録画し、Stream上にて
アップロードする。また、授業資料に関しては、Teams上にアップロードする。Google フォー
ムにて、授業後三日間以内の感想・コメントを求める。

”労働は最良のものでもあり、最悪のものでもある。自由な労働であるならば、最善のもので
あり、奴隷的な労働であるならば、最悪のものである。”アラン との言葉があるように、仕事や
労働は我々と切っては離せない存在である。この授業では「働くこと」に関連した多種多様な
心理学理論、研究、実践を学び、それらの心理学理論を体得することを目的とする。

キーワード: 組織、働くこと、産業保健、心理支援、質的研究法

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた産業・組織心理学の基本的な理論と専門用語について、概ね80%の事項
を理解し、レポートの形で表現することができる。

評価方法: 最終レポート

評価割合: 25%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自主学習によって得た知見を踏まえて、文献検討/面接調査を行うことができる。

評価方法: 最終レポート

評価割合: 25%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

産業・組織心理学と質的研究法について学ぶこと、面接における質問項目を考えることなど、中間レポート
作成にあたり、学習に主体的に取り組む態度を求める。

評価割合: 25%

▼ 実践的ボランティア

面接協力者とアポイントメントをとること、同意書を取り交わすこと、面接内容を産業・組織心理学の専門用
語と対応させることなど、実践的ボランティアが必要とされる。

評価割合: 25%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害や差別などの行為で、著しく公正性を欠く場合は、減点

や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

最終課題は匿名化した後、冊子とする。この冊子は受講生全員に配布する予定である。そのことは留意しておくこと。

評価割合：最終課題は匿名化した後、冊子と

授業計画：【産業・組織を理解する】

第一回：産業・組織倫理学とは？：働くことと群れること

第二回：組織とはなにか？

第三回：組織における労働契約・法規

第四回：移民とグローバリゼーション

【産業・組織における人を理解する】

第五回：ワークモチベーション

第六回：リーダーシップ

第七回：キャリア

第八回：産業・組織心理学の研究手法（質的心理学の手法を学ぶ）

【産業・労働分野の心理学的支援を考える】

第九回：ゲストスピーカー

第十回：職場を巡る問題（1）

第十一回：職場を巡る問題（2）

第十二回：従業員支援プログラム(EAP)

【働くことと生きること】

第十三回：ストレスチェック or 仕事図鑑と心理学（1）

第十四回：仕事図鑑と心理学（2）

第十五回：まとめ：働くこと、群れること、愛すること

使用テキスト：加藤容子・三宅美樹 編著(2020). 産業・組織心理学(公認心理師の基本を学ぶテキスト)ミネルヴァ書房. (2200円+税)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：本講において、産業・組織心理学と質的研究法という二つの側面を同時並行しながら学ぶ。それぞれの領域について、授業内容を踏まえ、発展的に学習を深めること(各回あたりの目安:90分)。

【参考図書】

・新田 泰生(編集)(2019).公認心理師の基礎と実践.産業・組織心理学.遠見書房

・米山他(2019)なるほど! 心理学面接法(心理学ベーシック).北大路書房.

・外島 裕(2019).産業・組織心理学エッセンシャルズ【第4版】

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、まず学務部等に相談すること。ただし、この授業が座学だけの授業ではなく、インタビューという他者と関わる要素を含んだ授業であることは留意して受講すること。

授業時間外の連絡手段：メール対応を基本とする。メールアドレスは初回の授業で伝える。

留意事項：デバイスの持参を推奨します。

授業において各履修者にインタビューを行うことを求める。そのため、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となる。

授業内にて行われるゲストスピーカーのトークには(特別な事情がない限り)参加すること。

欠席回数が六回を超える場合、いかなる成績であっても評価の対象としない(失とする)。課題を遅れて提出することは減点の対象となり、課題の未提出は失とする。初回に受講ルールを説明するので、受講

希望者は(やむを得ない事情がない限りは)、必ず出席すること。なお、適切な学習環境を保つため、私語、携帯電話や携帯音楽プレイヤーなどの使用、他の受講生の迷惑になる行為を禁じる。

科目コード : 21092 科目ナンバリング : WP20C28K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 愛と死の人間学(Philosophical Anthropology of Love and Death)

担当者 : 佐々木 徹

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N M

関連資格 :

AL要素 : 18. その他

授業の概要 : この授業での「人間学」とは「哲学的人間学」(Philosophical Anthropology)のことである。さて、愛といえば、エロスとアガペーがよく知られている。エロスは価値追求的な愛で、アガペーは無償の愛だと説明される。前者はギリシア的で、後者はキリスト教的であるとも言われる。しかしながらキリスト教においてアガペーはエロスを導きながら包み、一般に人間においてはエロスとアガペーは分かちがたく交錯している。エロスとアガペーの間はどのようになっているのだろうか。これは決して経験科学だけで解明できる問題ではない。エロスとアガペーの交錯するところ、結節点としての死があると言えよう。哲学はエロスの営みとして、プラトンによって「死の訓練」とされた。キリスト教では、イエス・キリストの十字架上の死と復活において、アガペーたる神の愛の貫徹が説かれる。哲学的に思索し宗教的真理を探究する「人間」に焦点を定めて言うならば、エロスは死へと向かい、アガペーは死から始まると考えられる。我々が人間であること、即ち「人間らしさとは何か」と問われた際の答えが、「知性と意志と情緒において愛をわきまえ知ること」であるなら、それは人間である自らが死にゆく存在者であることの自覚に支えられている。死の自覚を介して、我々は愛の奥深さを知り、愛は個人的にも社会的にもエロスとアガペーの双方向に連関しながら展開していく。これが、人間の真の歴史形成であろう。根源的な意味において人間であることとはいかなる事であるのか、あるいは人間として死んで愛することとはいかなる事であるのかを考える。講義時に、しばしば受講者の質問を募る。

キーワード : 愛と死、深淵と超越、根源、宗教と哲学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業を通して得た、哲学的人間学を軸とする際の西洋思想の知識を覚え、活用できる。

評価方法 : 学期末筆記試験

評価割合 : 25%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 愛と死の問題を通して、人間存在の深淵あるいは根源に迫って思索し、それを論理的に表現できる。

評価方法 : 学期末筆記試験

評価割合 : 75%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしないが、定期試験の論述問題で、主体的、意欲的に独創的な考察をしている場合、評価される場合がある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしこの講義の内容は当然、受講者の日々の生活に深いところがかかわることであるのは明白であろう。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接の評価対象とはしないが、授業時や試験で著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：導入・哲学的人間学・・・なぜ「人間」を問うのか
第2回：名前と顔・ヘブライズムにおける人間
第3回：古代ギリシアにおける人間(1)・・・人間への問いの始まり
第4回：古代ギリシアにおける人間(2)・・・ソクラテス
第5回：古代ギリシアにおける人間(3)・・・プラトン
第6回：死生観の涵養・・・プラトン哲学を手掛かりとして
第7回：古代ギリシアにおける人間(4)・・・アリストテレス
第8回：愛の両極性・・・キリスト教の中世におけるエロースとアガペー
第9回：近代的人間の自覚(1)・・・近代の世界像における人間
第10回：近代的人間の自覚(2)・・・デカルト
第11回：近代的人間の自覚(3)・・・パスカル
第12回：近代的人間の自覚(4)・・・思想における近代の確立とイギリス経験論
第13回：近代的人間の自覚(5)・・・哲学的人間論としてのカント哲学とドイツ観念論
第14回：現代人の愛と死(1)・・・現代の哲学的人間学(シェーラーを中心として)
第15回：現代人の愛と死(2)・・・現代の哲学的人間学(シェーラーを中心として)
定期試験

使用テキスト： 授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： やさしいものでよいから、正式な哲学書に慣れ親しんでいると講義が理解しやすくなると思われる。又、日常の些細なことの中にも問題を見つけ、それにこだわって粘り強く考え続ける習慣を持つことも大切である。参考文献などは、適宜指示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したりする。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード：21096 科目ナンバリング：WP20C22J 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理検査法実習(Psychological Testing Method Practice)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：実習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 福祉心理

AL要素：03. 実技・体験

16. 振り返り用紙と応答

18. その他

授業の概要： パーソナリティの測定を目的とする心理検査の種類を理解することと、心理検査の受検体験やその結果の整理(スコアリング)、意味づけ(解釈)を行いながら自分自身と心理検査の理解を深めることを目標とします。パーソナリティ測定を目的とした質問紙法や投影法の心理検査群と、作業検査法の1つである内田クレペリン精神検査について学びます。本講では担当教員の保健医療(司法)、教育臨床での実務経験を共有しながら「心理的アセスメント」と同

様に受検体験とその結果を意味づけていく振り返りの作業を通じ、各検査を体験的に学びます。なお、上述したように講義の進行状態や受講生の要望等を加味し、講義内で扱う検査の種類を増減あるいはスイッチしたり、架空事例についての検討を行ったり、検査結果のフィードバック・セッションについて学ぶなど、部分的な変更があるかもしれませんのでご了承ください。

キーワード： 心理検査, 知能検査, 質問紙法, 投影法など

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 受検体験→セルフレポートのサイクルを繰り返します。レポート回数が多く、原則全レポートが提出されない場合単位認定できません。

評価方法： レポート

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義内容について、自主的な学びで得た知見や経験も踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に論じることができる。

評価方法： レポートとリアクションペーパー

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学びや経験がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目の評価に含めることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、実習内の発言やレポートの記述等において人権の侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や注意の対象となるので留意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【第01回】ガイダンス(講義の進め方, 概要, 到達目標, 評価方法など)
【第02回】心理尺度の要件
【第03回】パーソナリティ検査の概要と特徴
【第04回】TEG東大式エゴグラム: 概論と体験実習
【第05回】矢田部ギルフォード(Y-G)性格検査(1): 受検と結果処理
【第06回】矢田部ギルフォード(Y-G)性格検査(2): 解釈とレポート作成
【第07回】TAT(1): 概論
【第08回】TAT(2): 体験実習
【第09回】精研式文章完成法テスト(SCT)(1): 概論
【第10回】精研式文章完成法テスト(SCT)(2): 体験実習
【第11回】投影法によるパーソナリティ検査(1)
【第12回】投影法によるパーソナリティ検査(2)
【第13回】内田クレペリン精神検査(1): 実施と結果処理
【第14回】内田クレペリン精神検査(2): 解釈とレポート作成
【第15回】まとめ

使用テキスト： 下山晴彦(監)(2021)公認心理師のための「心理査定」講義 北大路書房
※上記テキストが必須となりますので、本学生協で購入してください。なお、本テキストは「心理的アセ

メント」と同一です。なお、21年度に心理的アセスメントを履修した学生さんは異なるテキストがお手元にあると思いますので、そちらをお持ちいただくことで上記テキストの購入はご不要です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキスト以外に必要な資料等は随時配布または紹介していきます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。
なお、対応しうる配慮の範囲が座学とは異なりますので、必ず事前に学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 講義の前後等にアポイントを取ってください。

留意事項：【注意事項1】準備可能な心理検査の数量により、受講可能人数を30人前後とし、大幅にその人数を超過した場合は「心理的アセスメント」での出席状況やレポート、評価などを考慮して次年度の受講をお願いすることがあります(相談の上、4年生は優先的に取りますが、場合によっては抽選を行いますので必ず第1回に出席してください)。

【注意事項2】後期の追加履修は認められません。原則的には同一年度内の「心理的アセスメント」とのセット受講を推奨しますが、前期の履修登録時に各々判断してください。なお、何らかの理由によって前期に「心理的アセスメント」を履修して本科目は翌年に受講予定の方は、「心理的アセスメント」の第1回目に申し出てください。

- ・就職活動などで欠席する場合、あらかじめ担当教員に連絡すること。
- ・本実習では検査機材の適切な利用のため、定められた手続きは厳守せねばならない。これらの条件を満たし、研究倫理に基づいた安全な実験を実施するため、教員の指示に従えない者は本科目を履修することができない。
- ・授業計画の内容や順番、実習に用いる検査については、受講生のニーズに応じて変更可能性があります。
- ・学習環境を保つため、他の受講生の迷惑になる行為(特に私語や携帯電話の使用など)をしないこと。
- ・欠席回数が前期と後期を合わせて6回以上になると、学則に基づき単位取得できません。
- ・本実習はレポート提出が必須であり、未提出が重なると単位認定できません。検査の実施とレポート作成というリズムをこなしていくタフさが必要となりますので、難しそうな場合は翌年に受講をずらすなど各自ご判断してみてください。ただ、慣れてくると面白さも感じる科目ですので、頑張れそうな方は是非にご受講ください。
- ・レポート提出やアナウンスはすべてteamsを介しますので、こまめにチェックして、そちらから提出できるような心づもりをしておいてください。

科目コード：21097 科目ナンバリング：WP20C31E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：発展演習A(Advanced Seminar A)

担当者：國見 充展、呉 恩恵

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：演習

曜時：月曜2限 履修可能学科・専攻：W

関連資格： AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

生活科学部心理福祉学科の学生としての基本的知識の修得を目指す基礎演習に続き、本講座では、ゼミ生になる準備として、踏まえておくべき基礎的な知識と技術の修得を目指す。本学科で学べる心理学および福祉学の理解をしたうえで、各ゼミ近年の動向、ゼミ配属までの流れなど、ゼミ選択の際に必要な知識の修得に取り組む。

キーワード：ゼミ配属、本学科で学べる心理学と福祉学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ゼミ生になる準備として、踏まえておくべき基礎的な知識と技術の修得

評価方法: レポート

評価割合: 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 本学科で学べる心理学および福祉学の理解, 各ゼミ近年の動向, ゼミ配属までの流れなどの修得

評価方法: 同上。

評価割合: 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加, 他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 【第01回】オリエンテーション
- 【第02回】心理学&福祉学概論
- 【第03回】ゼミ配属の流れ
- 【第04回】心理系教員の専門領域とキーワードを学ぶ①
- 【第05回】心理系教員の専門領域とキーワードを学ぶ②
- 【第06回】心理系教員の専門領域とキーワードを学ぶ③
- 【第07回】心理系教員の専門領域とキーワードを学ぶ④
- 【第08回】心理系教員の専門領域とキーワードを学ぶ⑤
- 【第09回】福祉系教員の専門領域とキーワードを学ぶ①
- 【第10回】福祉系教員の専門領域とキーワードを学ぶ②
- 【第11回】福祉系教員の専門領域とキーワードを学ぶ③
- 【第12回】福祉系教員の専門領域とキーワードを学ぶ④
- 【第13回】福祉系教員の専門領域とキーワードを学ぶ⑤
- 【第14回】シミュレーションー心理系or福祉系に進路をとった場合ー
- 【第15回】希望調査と授業振り返り

使用テキスト: 特に指定しない。講義で用いる資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等: 必要な情報は授業中に過不足なく伝えるので予習の必要はない。しかし、本講座で伝える内容は、ゼミ配属の際に有効な知識である。必ず授業の振り返りを行うこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項:

1. 本講座では各自の進路選択において有効な知識を学ぶものである。心理学および福祉学という学問の本質に触れたり、知識や理解を深めるといった主旨の講座ではないので注意すること。
2. 本講座はゼミ担当教員の専門領域を概説するものであり、2024年度の心理福祉演習(ゼミ)の内容を事前に伝えるものではない。ゼミの内容は担当教員の方針によって毎年変わることを承知しておくこと。

と。

科目コード : 21098 科目ナンバリング : WP20C32E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 発展演習B(Advanced Seminar B)

担当者 : 富樫 ひとみ

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : W

関連資格 :

AL要素 : 07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要 : 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

児童虐待やいじめなど、子どもに関するニュースは後を絶ちません。

この授業では、児童虐待やいじめ、里親制度を取り上げ、その発生の仕組みなどを理解します。また、子どもに関する社会問題について、関心のある問題をグループで調べ、調べたこと・考えたことを発表します。グループでの発表やグループディスカッションを行うことで、社会問題の背景や子どもの心理を理解し、これからの社会のあり方を考える力を身に付けます。

キーワード : 子ども、虐待、いじめ、里親、子ども問題への支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標 : 児童虐待やいじめ、里親等の子どもの関する福祉・心理分野問題の知識を深め、概ね80%の完成度で期末レポートを作成することができる。

評価方法 : 期末にレポートを提出

評価割合 : 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業での講義やグループでの発表、グループディスカッションを通して説明する力や表現力を伸ばすことができる。また、期末レポート執筆を通して、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度で期末レポートを完成させることができる。

評価方法 : 期末にレポートを提出

評価割合 : 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

子どもに関する社会問題や福祉心理学的問題について、問題意識をもつことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、期末に提出するレポートに反映される。

評価割合 : 0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習やディスカッションによって、授業メンバー間の助け合いの精神を身につける。直接的な評価対象としないが、自発的なグループ学習やディスカッションによって得た知見等が期末レポートに反映されると思われる。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や期末レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション
 - 2 児童虐待①ー定義ー
 - 3 児童虐待②ートラウマ体験ー
 - 4 児童虐待③ー支援方法と支援制度ー
 - 5 いじめ①ーDVD視聴ー
 - 6 いじめ②ーいじめ認定の仕組みと支援ー
 - 7 里親①ー外部講師ー
 - 8 里親②ー里親制度と支援ー
 - 9 発表準備
 - 10 グループ発表①
 - 11 グループ発表②
 - 12 グループ発表③
 - 13 グループ発表④
 - 14 グループ発表⑤
 - 15 期末レポート作成
- 試験：レポート提出

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
- ・子どもを取り巻く社会問題に関することについて、ニュース等に注意しておく。
 - ・各自・各グループの発表前は、発表の用意をする。
 - ・発表後は、ディスカッションの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
 - ・以下の参考文献を推薦する。
下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫監修、渡部純夫・本郷一夫編『公認心理師スタンダードテキストシリーズ17 福祉心理学』ミネルヴァ書房、2021年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

- 留意事項：
- ・日頃から社会のできごとやニュースに注意してください。
 - ・質問等に関しては、授業の中で説明します。
 - ・外部講師の講義内容は、変更する場合があります。

科目コード：21099 科目ナンバリング：WP11A01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理学概論I(Introduction to Psychology I)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉主 社福士 認心理 福祉心理
公認心理

AL要素：17:発問と回答

授業の概要： 心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きを心理学の様々な分野の紹介を中心に講義する。

キーワード： 心の成り立ち

心の仕組み
心の働き

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 心理学の主要分野を幅広く学ぶことで心理学を概観し、心理学の基礎知識を習得する。

評価方法: 定期試験
小テスト

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 人の心の機能について、基本的理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養う。

評価方法: 定期試験
小テスト

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】オリエンテーション

【第02回】心理学とは何か

【第03回】人は周りの世界をどのように知覚するのか-1

【第04回】人は周りの世界をどのように知覚するのか-2

【第05回】人は物事をどのように覚えるのか-1

【第06回】人は物事をどのように覚えるのか-2

【第07回】人は物事をどのように学ぶのか-1

【第08回】人は物事をどのように学ぶのか-2

【第09回】人は物事をどのように考えるのだろうか-1

【第10回】人は物事をどのように考えるのだろうか-2

【第11回】人はどのように成長するのだろうか-1

【第12回】人はどのように成長するのだろうか-2

【第13回】人はどのように言葉をはしゃげるようになるのか-1

【第14回】人はどのように言葉をはしゃげるようになるのか-2

【第15回】総括

定期試験

使用テキスト： 資料は適宜、印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業での学びをしっかりと復習(90分)し、定期試験に備えて知識の定着(90分)を図ってください。
※授業で扱うテーマについて自分の心に照らし合わせて考え、心理学の視点から物事を理解する力を養うようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします

留意事項：

- 卒業のための必修科目となります。
- 授業を進めるにあたって大事な話をするため、初回の授業には必ず出席してください。
- やむを得ず初回の授業を休む場合は、事前に科目担当者(maoki@icc.ac.jp)にメールで欠席の理由などを連絡してください。
- 初回の授業で座席の指定を行います。
- 履修要覧の「授業を受ける際のマナー」を遵守してください。

※小テストの実施は受講生の学習状況に合わせて検討します。

科目コード：21100 科目ナンバリング：WP12A01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理学概論II(Introduction to Psychology II)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：1 単位数：2 授業形式：講義

曜時：水曜2限 履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉主 社福士 認心理 福祉心理 AL要素：17:発問と回答

授業の概要：

心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きを心理学の様々な分野の紹介を中心に講義する。

キーワード： 心の成り立ち

心の仕組み

心の働き

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 心理学の主要分野を幅広く学ぶことで心理学を概観し、心理学の基礎知識を習得する。

評価方法： 授業時内試験もしくはレポート(複数回) **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 人の心の機能について、基本的理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養う。

評価方法： 授業時内試験もしくはレポート(複数回) **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-1
【第02回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-2
【第03回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-3
【第04回】人は周りの世界にどうやって適応していくのか-4
【第05回】人の性格はどうやって作られるのか-1
【第06回】人の性格はどうやって作られるのか-2
【第07回】人の性格はどうやって作られるのか-3
【第08回】集団・社会との関わりについて考える-1
【第09回】集団・社会との関わりについて考える-2
【第10回】集団・社会との関わりについて考える-3
【第11回】脳と心の働きについて考える-1
【第12回】脳と心の働きについて考える-2
【第13回】心の問題について考える-1
【第14回】心の問題について考える-2
【第15回】心の問題について考える-3

使用テキスト： 資料は適宜、印刷・配布もしくは配信する。

予習・復習のポイントと 授業での学びをしっかりと復習(90分)し、試験やレポートに備えて知識の定着(90分)を図っ
参考文献・資料等： てください。

※授業で扱うテーマについて自分の心に照らし合わせて考え、心理学の視点から物事を理解する力を養うようにしてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項：

- 卒業のための必修科目となります。
- 「心理学概論Ⅰ」で学んだ知識を前提に授業が進みます。
- 初回の授業からテーマに沿った学習をしていくので、必ず出席してください。
- 一つのテーマを回数を重ねて深めていくため、授業を欠席すると試験やレポート作成に学習成果が期待できません。成績評価や単位取得に支障が出ます。

※受講状況に合わせて授業テーマの順番や回数などは変更する可能性があります。

※受講状況に合わせて評価方法を変更する可能性があります。

科目コード：21101

科目ナンバリング：WP11A02K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会福祉の原理と政策I(Social Welfare Principles and Policies I)

担当者：清原 舞

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 本講義では、社会福祉の様々な制度の意義や理念、手法について理解し、社会福祉の基本的な理念や原理に結びつけることを目的としています。そして、現在の社会における課題や福祉の課題について、気づき、自ら考察することができるように学んでください。どの講義でも同じですが、幅広い視点で、「自らの問題」として捉え、気づいていく力が大切になります。日本のことだけでなく、世界の現状にも触れながら、「気づき」を増やしてください

キーワード： 社会福祉の理念、社会福祉政策の歴史、社会問題と福祉

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・社会福祉制度や理念について理解し、説明することができる。

評価方法： 定期試験、小テスト、振り返り

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：・社会福祉政策の発展から背景を理解し、現在の社会福祉の課題などに気づき、関連付けて考察することができる。

評価方法： 定期試験、振り返り

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等がレポートや定期試験等に反映されると思われる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション／現代における社会問題

第2回：社会福祉の全体像

第3回：世界の社会福祉の発展(1) (イギリス)

第4回：世界の社会福祉の発展(2) (アメリカ)

第5回：日本の社会福祉の発展(1)

第6回：日本の社会福祉の発展(2)

第7回：社会福祉の理念

第8回：福祉の原理をめぐる哲学・倫理

第9回：福祉政策の基本的な視点(1)

第10回：福祉政策の基本的な視点(2)

第11回：福祉政策のニーズと資源

- 第12回: 福祉サービスの供給と利用過程(1)
- 第13回: 福祉サービスの供給と利用過程(2)
- 第14回: 福祉サービスの供給と利用過程(3)
- 第15回: 前期のまとめ
- ※原則、定期試験を実施

講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト: 『社会福祉学習双書2023』編集委員会編『第1巻 社会福祉の原理と政策』全国社会福祉協議会出版部、2023年、2,750円(税込)
 ※講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: その日のうちに講義内容を復習し、理解しておくこと。疑問点等があれば、質問や自分自身で調べるなど、必ず解決しておいてください。
 ・予習は、新聞やニュース(インターネットも含む)で、社会の時事問題や国際的な動き、課題についてチェックしておくこと(30分)。
 ・復習は、講義内で配布する資料を理解しておくこと(1時間)。特に社会福祉に関する法律・制度に関することを抜きにすることはできません。わからないところは必ず質問をしてください。
 また、知識面に関しては習得済みであることを前提に進めていきます。

※参考文献として、次の2点を紹介します。その他、適宜、参考文献があれば、講義内で紹介します。

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』中央法規、2021年、3,190円(税込)(社会福祉士国家試験対策用に便利です)
- ・社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向2023』中央法規、2023年、3,190円(税込)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部・担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はTams

留意事項: ・テキストは必ず購入しておいてください。
 ・新聞やニュースを確認し、いま、どのような社会問題があるのか、そして、自分自身の関心を深めて、受講してください。
 ・小テストは3回実施します。
 ・リアクションペーパーは全体にフィードバック、小テストは解説を行います。

科目コード: 21102 **科目ナンバリング:** WP12A02K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会福祉の原理と政策II(Social Welfare Principles and Policies II)

担当者: 清原 舞

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 木曜3限 **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 福祉主 社福士 福祉心理 **AL要素:** 16. 振り返り用紙と応答
 17. 発問と回答

授業の概要: 本講義では、「社会福祉の原理と政策 I」を踏まえ、具体的な支援や関連領域との関連性、そして、世界の社会福祉政策を学びます。世界の社会福祉政策と比較しながら、現在の社会における課題や福祉の課題について、気づき、自ら考察することができるように学んでください。どの講義でも同じですが、幅広い視点で、「自らの問題」として捉え、気づいていく力が大切になります。日本のことだけでなく、世界の現状にも触れながら、「気づき」を増やしてください

キーワード: 社会福祉と関連領域の制度・政策、専門職、国際社会福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：・社会福祉に関するサービスについて理解することができる。

評価方法： 期末レポート、小テスト、振り返り **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：・世界の社会福祉制度から比較し、日本の社会福祉の課題に気づくことができる。

評価方法： 期末レポート、振り返り **評価割合：40%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合：10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等がレポートや定期試験等に反映されると思われる。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：前期の復習と後期の進め方
第2回：社会福祉を担う専門職
第3回：相談援助の原則・視点・考え方と方法
第4回：社会福祉の実践分野(1)
第5回：社会福祉の実践分野(2)
第6回：社会福祉の実践分野(3)
第7回：福祉政策の動向と課題
第8回：福祉政策と関連領域(1)(保健医療)
第9回：福祉政策と関連領域(2)(所得保障、雇用)
第10回：福祉政策と関連領域(3)(教育、災害、住宅)
第11回：社会福祉政策と権利擁護システム
第12回：福祉政策の国際比較
第13回：世界の社会福祉政策と実践(1)(北欧1)
第14回：世界の社会福祉政策と実践(2)(北欧2)
第15回：後期のまとめ(日本と世界の福祉政策から)
※期末レポート

講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト：『社会福祉学習双書2023』編集委員会編『第1巻 社会福祉の原理と政策』全国社会福祉協議会出版部、2023年、2,750円(税込)。
※講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： その日のうちに講義内容を復習し、理解しておくこと。疑問点等があれば、質問や自分自身で調べるなど、必ず解決しておいてください。
・予習は、新聞やニュース(インターネットも含む)で、社会の時事問題や国際的な動き、課題についてチェックしておくこと(30分)。
・復習は、講義内で配布する資料を理解しておくこと(1時間)。特に社会福祉に関する法律・制度に関する内容を抜きにすることはできません。わからないところは必ず質問をしてください。

また、知識面に関しては習得済みであることを前提に進めていきます。

※参考文献として、次の2点を紹介します。その他、適宜、参考文献があれば、講義内で紹介します。

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』中央法規、2021年、3,190円(税込)(社会福祉士国家試験対策用に便利です)
- ・社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向2023』中央法規、2023年、3,190円(税込)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPA又はTeams

留意事項：

- ・新聞やニュースを確認し、いま、どのような社会問題があるのか、そして、自分自身の関心を深めて、受講してください。
- ・テキストは必ず購入しておいてください。
- ・小テストは3回実施します。
- ・リアクションペーパーは全体にフィードバック、小テストは解説を行います。
- ・社会福祉の原理と政策Ⅰと社会福祉の原理と政策Ⅱは、半期ずつに分かれています。1つの科目です。前期に「社会福祉の原理と政策Ⅰ」後期に「社会福祉の原理と政策Ⅱ」を履修すること。

科目コード：21103 **科目ナンバリング：**WP31A02E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理福祉演習Ⅰa(Seminar on Psychological Welfare I a)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07:発表

11:討論

15:レポート指導

授業の概要： 本演習では、各受講生の興味や関心に基づく研究テーマの探索、追究を目的とします。前期の前半は指定テキストの輪読を通して精神力動的視点を学び、同時並行で自らの研究テーマの探求を行います。後期以降は各々の研究テーマを追究し、最低2回の発表を行います。年度末には、卒業研究作成ステップの一環として目次原案の作成と文献レビューレポートの提出を求めます。

キーワード： 青年期のセルフ・アイデンティティの発達に焦点を当てつつ、他に自身が興味や関心を抱くキーワードをみつけて各自研究を進めます。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自らの設定したテーマに関し、臨床心理学的視点から思考し、研究を進めることができる。

評価方法： ゼミ内での研究姿勢および学期末レポート **評価割合：**80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することができる。

評価方法： ゼミ内での発表と学期末レポート

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

ゼミ内での発表や他のメンバーの発表に対するコメントを考慮する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、ゼミ内で著しく非協力であったり、公正性を欠く言動等があった場合には、減点や注意の対象とするので留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2-6回 テキスト輪読
第7-8回 心理系の研究論文の構造と読み方
第9-14回 自身の研究テーマのプレゼンテーション
第15回 前期総括

使用テキスト： 4月のオリエンテーションで使用テキストについてアナウンスしますので、その後、必要に応じて生協でご購入ください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・教員からの各学生へのコメントは、各々自身の研究テーマを進める上でのコメントととらえて活用してください。
・自身の発表の直前だけでなく、日ごろから自身の研究テーマについてアンテナを張り、思考し続けていくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 演習や他の講義の機会等にお声掛けください、アポイントをとって対応したいと思います。

留意事項： 自身の研究テーマの追究とあわせて、ゼミメンバーと協調、協力していきましょう。また必要や状況に応じてチームによる授業展開が入る可能性もあるので常にチームチャットや諸連絡をこまめに確認してください。

科目コード：21103 科目ナンバリング：WP31A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習I b(Seminar on Psychological Welfare I b)

担当者：清原 舞

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：06. 遠隔交流
07. 発表
08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： 本演習は、学生主体となり、各自の興味や関心に基づく研究のテーマを追究し、視野を広げることを目的としています。

前期では、さまざまなテーマから学生同士のディスカッションやプレゼンテーションを通し、学び合い、視野を広げていきます(主にグループ活動)。また、後期では、各自、関心をもっている研究テーマを掘り下げていきます。

さらに、フィールドワークで日立市内の地域の人と一緒に活動したり、国内外で活躍する福祉現場の実践者の話から見聞を広めていきます。

※自分自身が何を学び、何をしたいのか明確にしていくことと他者との繋がりを持ち、自分の視野を広げてください。

キーワード： 世界の社会福祉、社会問題、当事者主権、支援の在り方、生活保障

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： これまでの学びを基に、自らの研究テーマを設定し、社会福祉学及び心理学的な視点から思考することができる。

評価方法： レポート、発表、ゼミ内での研究姿勢 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自身の経験や体験を踏まえて考察し、かつ幅広い視点から探究・表現することができる。

評価方法： レポート、発表、ゼミ内での研究姿勢 **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修やグループ活動に主体的に取り組むなど成果が認められた場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自身の課題や行動力に反映されると認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会福祉の現状と課題(1)
- 第3回 社会福祉の現状と課題(2)
- 第4回 社会福祉の現状と課題(3)
- 第5回 社会福祉の現状と課題(4)
- 第6回 社会福祉の現状と課題(5)
- 第7回 研究手法の学び(1)
- 第8回 研究手法の学び(2)
- 第9回 グループディスカッションからの学び(1)
- 第10回 グループディスカッションからの学び(2)
- 第11回 グループディスカッションからの学び(3)
- 第12回 グループディスカッションからの学び(4)
- 第13回 グループディスカッションからの学び(5)
- 第14回 グループディスカッションからの学び(6)

第15回 前期総括

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習
・日頃からさまざまなテーマに関心を持ち、調べる癖をつけること(30分)
復習
・授業でのメンバー間、教員からのコメントについて振り返ること(30分)

※参考文献等は授業内で指示します。

障がいのある
履修者への対応： 事前に必ず学務部・担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業時にお知らせします。

留意事項： ・他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となります。
・プレゼンテーション、ディスカッション時の総評を行う。
・個別に指導することもある。
・グループでの活動も多いことや、フィールドワークで地域活動に参加するため、メンバー同士・先輩たちとの協調性を重視する。

科目コード：21103 科目ナンバリング：WP31A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習I c(Seminar on Psychological Welfare I c)

担当者：黒澤 泰

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07.発表
10.資料調査課題
11.討論
17.発問と回答

授業の概要： 本講の目的は心理学の書籍や論文を活用し、“読む：読解すること”、“考える：思考すること”、そして、“書く：思考した内容を書くこと”の3点を身につけ、4年次の卒業論文につなげることである。

キーワード： プレゼンテーション、ジャーナルクラブ、ウェブ調査、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた心理学の基本的な専門用語について、概ね80%の事項を自分の言葉で説明できる。

評価方法： 中間発表

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教員が指定したテーマと自身が選択した論文に関して、概ね80%の基準で表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的に取り組む姿勢は、ゼミでの学修を進める上での前提である。よって、直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ゼミ生同士の関係の構築・維持において、自発的な関わりが求められる場合もある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業内では、他者尊重・人権尊重などの姿勢を強く求める。減点の対象とはしないが、気になる表現を教員が注意する場合もあることは留意しておくこと。

評価割合：0%

▼その他

これまでの心理学の学びを振り返ること、自身の問題意識と関心に沿い、自身のペースで作業を進めていくことを求める。

評価割合：これまでの心理学の学びを振り返

- 授業計画：
- 第一回：オリエンテーション(授業概要の説明を含む)
 - 第二回：ファイブエイト
 - 第三回：スタディスキル(メモをとること、アイデアをまとめること)
 - 第四回：PC Tips/Googleの活用
 - 第五回：プレゼン入門
 - 第六回：前期末課題の提示
 - 第七回：文献輪読(1)
 - 第八回：文献輪読(2)
 - 第九回：文献輪読(3)
 - 第十回：文献輪読(4)
 - 第十一回：振り返り
 - 第十一回：NEO-FFI体験
 - 第十二回：”ふつう”について考える
 - 第十三回：やっかいな人との接し方
 - 第十四回：ストレスをやりくりするために
 - 第十五回：まとめと後期のオリエンテーション

使用テキスト： 鈴木淳子(2016).質問紙デザインの技法[第2版].ナカニシヤ出版.

予習・復習のポイントと 参考書

参考文献・資料等： 日経PC21. パソコン仕事 最速時短術115 そのやり方、9割がムダ!

加藤 司(2008). 心理学の研究法. 北樹出版。
その他の参考資料は必要に応じて、適宜紹介する。

障がいのある 履修者への対応： ケースバイケースで対応するが、到達すべき基準があることは理解してから受講すること。
と。

授業時間外の連絡手段： 履修生に対して教員のメールアドレス、および、Zoom IDを伝える。

留意事項：【留意事項】Zoomをダウンロードしておくこと。

【その他】受講生の興味関心に沿い、オーダーメード的に進めていく予定である。担当教員、担当外の教員、同じ授業を履修している受講生との報告・連絡・相談の姿勢を大事にすること。

科目コード：21103

科目ナンバリング：WP31A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習I d(Seminar on Psychological Welfare I d)

担当者：櫻井 由美子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：7.発表
8.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要： 履修者一人ひとりが、自分自身の心理福祉に関する研究課題を見だし、それに関連する心理学的知見についての理解を深める。

キーワード： 心理学的研究 心理学的支援 テーマ学習 相互理解 自己理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1・2年次の心理学と社会福祉学の学びのなかで得た知識を、ディスカッションや報告、レポート等において、適切に活用することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1・2年次で得た知識をもとに、あるいはそれらを発展させて、自らの関心について論理的に思考し、レポートで表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやレポートの取りくみにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートの着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

グループワークもしくはレポートの着想や論点において、著しく公正性を欠く言動や記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション
第2回：表現療法を学ぶ(1) 表現療法の体験
第3回：表現療法を学ぶ(2) 作品の比較検討
第4回：表現療法を学ぶ(3) 文献検討
第5回：表現療法を学ぶ(4) 手法の比較検討
第6回：表現療法を学ぶ(5) 表現療法と個人差
第7回：研究課題の検討(1) 心理学のテーマの広がり
第8回：研究課題の検討(2) 心理学の現代的トピックス
第9回：研究課題の検討(3) 心理学の研究手法
第10回：心理学における現代的課題(1) 映画の視聴と理解
第11回：心理学における現代的課題(2) 映画の視聴と批判的検討

- 第12回:グループ研究(1) テーマの設定と先行文献の検討
 第13回:グループ研究(2) データの収集と分析
 第14回:グループ研究(3) 結果と考察
 第15回:グループ研究(4) 報告と振り返り

使用テキスト: 福山清蔵 2008 実践カウンセリングワークブック 日本・精神技術研究所
 その他、必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にするよう努めてください。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

参考文献:
 白井利明・高橋一郎 2013 よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)
 ミネルヴァ書房

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 21103 **科目ナンバリング:** WP31A02E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習I e (Seminar on Psychological Welfare I e)

担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次: 3	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 火曜2限		履修可能学科・専攻: W
関連資格:		AL要素: 03.実験・実技・体験 07発表 10資料調査課題 11討論 15レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

社会には、さまざまな課題が存在します。たとえば児童虐待やワーキングプア、依存症、家庭内暴力、孤独死などです。これらは人生のどの段階においても生じる可能性があり、しかも簡単に解決できる問題ではありません。

この授業では、社旗問題を扱ったトピックス等を取り上げたり各自が関心をもっている作品紹介を通して社会問題を発表したりして、グループ学習やディスカッションを行います。ディスカッションを行うことで、社会問題の背景やヒトの心理を理解し、これからの社会のあり方を考える力を身に付けます。また、自身の関心テーマを見つけます。さらに、行政機関等への見学やボランティア活動を行い、見分を広めたり実践的ボランティアリズムを身に付けます。

キーワード: 研究論文、社会問題、福祉心理的問題、研究テーマ

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 福祉・心理分野、その他社会全体における自身の関心領域と課題を発見し、研究テーマに関する知識等を深め、概ね80%の完成度で中間レポートを作成することができる。

評価方法: 学期末に中間レポートを提出 **評価割合:** 40%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 各自の研究中間発表やグループディスカッションを通して説明する力や表現力を伸ばすことができる。また、中間レポート執筆を通して、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度で研究論文を完成させることができる。

評価方法: 学期末に中間レポートを提出

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会問題や福祉心理学的問題についてのグループ学習及び研究テーマを自主的に設定することで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期末に提出する中間レポートに反映される。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習やディスカッションによって、ゼミメンバー間の助け合いの精神を身につける。

評価割合: 20%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や中間レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 1 オリエンテーション
自己紹介(趣味、特技:話せる範囲で)
 - 2 社会問題DVDの視聴とグループディスカッションー引きこもりー
 - 3 社会問題DVDの視聴とグループディスカッションーいじめ問題ー
 - 4 気になる図書、DVD(ドラマ等でもよい)、ドキュメント等番組を探そう。
 - 5 探した教材を、読書・視聴をしよう。
 - 6 読書・視聴した選んだ図書、DVD、ドキュメント等番組について
課題:以下の内容を整理(レポート作成)
 - ①あらすじ
 - ②興味をもった事項(何に惹かれたか?)
 - ③興味をもったのは、なぜだと思うか
 - 7 レポートの発表① 1コマ2人(司会者も2人)
 - 8 レポートの発表② 1コマ2人(司会者も2人)
 - 9 レポートの発表③ 1コマ2人(司会者も2人)
 - 10 レポートの発表④ 1コマ2人(司会者も2人)
 - 11 レポートの発表⑤ 1コマ2人(司会者も2人)
 - 12 施設等見学
 - 13 施設等見学
 - 15 中間レポート作成
試験:中間レポート提出

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと ・各自の研究テーマに関することについて、ニュース等に注意しておく。

参考文献・資料等: ・各自・各グループの発表前は、発表の用意をする。
・発表後は、ディスカッションの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
・以下の参考文献を推薦する。
平山 尚・武田 丈・呉 裁喜他『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、最新版。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・日頃から社会のできごとやニュースに注意してください。
・課題に対しては、コメントを付して返却します。
・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード: 21103 科目ナンバリング: WP31A02E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習I f (Seminar on Psychological Welfare I f)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 07.発表
08.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要: 社会保障、社会福祉にかかわる特定の社会問題や社会現象を取り上げ、調査計画を立案し、調査を実施し、調査報告書を執筆するまでの一連の過程を習得することを目的とする。

キーワード: 社会問題、社会保障、社会調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: これまでの学びを基に、特定の社会問題や社会現象を社会調査の手法を用いて理解することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回: ガイダンス
第2回: 研究テーマの検討
第3回: 文献レビュー報告(1)
第4回: 文献レビュー報告(2)
第5回: 文献レビュー報告(3)
第6回: 文献レビュー報告(4)
第7回: 文献レビュー報告(5)
第8回: 文献レビュー報告(6)
第9回: 既存データの収集・活用(1)
第10回: 既存データの収集・活用(2)
第11回: 既存データの収集・活用(3)
第12回: 研究計画の検討(1)
第13回: 研究計画の検討(2)
第14回: 研究計画の検討(3)
第15回: 研究計画の検討(4)

使用テキスト: 特に指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 初回授業時に説明する。

留意事項: 特になし。

科目コード: 21103 **科目ナンバリング:** WP31A02E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習I g (Seminar on Psychological Welfare I g)

担当者: 望月 珠美

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 07 発表
10 資料調査課題
11 討論
12 課題討議法
14 輪読活動
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要: 文献等の詳読、文芸作品や芸術、映画・音楽など様々なものを題材にして幸福や豊かさの意味するところやそれらがもたらされ、維持・向上するしくみ、さらにはその行方や共有化を図るための方法について、個人を原則とした研究活動への取り組みを通して具体的かつ実

践的に学びます。

自他に対する肯定的理解を育むとともに、自分自身の将来や社会とのかかわり、役割遂行に対する積極的な展望をもって、将来、心理専門職をはじめとする様々な立場や役割において他者の生活やその成長にかかわる際に求められる知識や技術、倫理観の向上をめざします。

キーワード: 幸福 well-being 自己理解 他者理解 心理的支援 連携 社会資源 発達課題 研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 心理学に関する基本的知識と技術を活用し、研究への応用と遂行を図る。

評価方法: 発表

評価割合: 50%

課題への取り組み

期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 設定した研究テーマに関する経過報告を通して、自らの専門性や将来への展望を広げるとともにコミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上を図る。

評価方法: 発表

評価割合: 50%

課題への取り組み

期末レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学習によって自身の知見に加味された成果等が発言や学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回 全期および前期講義に関するオリエンテーション
第02回 自己の内面を知るためのワーク1
第03回 自己の内面を知るためのワーク2
第04回 人とかかわりに関するワーク1
第05回 人とかかわりに関するワーク2
第06回 ライフ・サイクルに関するワーク1
第07回 ライフ・サイクルに関するワーク2
第08回 体験学習1(目的と方法)
第09回 体験学習2(計画の立案)
第10回 体験学習3(実践)
第11回 体験学習4(まとめ)

- 第12回 体験学習5(報告と振り返り)
- 第13回 関連文献の詳読1
- 第14回 関連文献の詳読2
- 第15回 前期のまとめ

期末レポート

使用テキスト: 白井利明・高橋一郎(2013年)やわかアカデミズム・わかるシリーズ,よくわかる卒論の書き方第2版,ミネルヴァ書房.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必要な資料は、担当者が印刷、配布、もしくはUNIPAを介して配信します。次年度の卒業研究の作成にあたっての基本的資料も含まれます。各自でファイル(A4版)し、必要に応じて用いることができるよう整理、保管の上、積極的に活用してください。

障がいのある履修者への対応: ニーズに応じたさまざまな支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部までご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 担当者の研究室(大学6号館4階6415研究室)を直接、お訪ねください。不在の場合や急を要する場合には、学務部にご相談ください。

留意事項:

- ・原則、3および4年次の2年間を通して同教員、同メンバーで進行します。
- ・本演習における取り組みは、卒業研究(選択)と連動しています。
- ・実地調査(フィールドワーク)を行う場合には、別途、交通費や宿泊費がかかることがあります。
- ・使用テキストは、演習Ⅱにおいても使用します。

科目コード: 21103 **科目ナンバリング:** WP31A02E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習I h(Seminar on Psychological Welfare I h)

担当者: 山中 俊克

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答
07. 発表

授業の概要: 私たちの生活は多様化しており、一人ひとりが抱える課題も多様化・複雑化しています。生活課題のなかには多くの人びとが抱える共通の課題もあります。しかし、共通の課題であってもその様相や課題に対する受け止め方については一人ひとり異なります。社会という大きな枠組みの中で、かけがいのないいのちを有する一人ひとりの生活を的確に支えていくことが社会福祉の中心課題といえます。授業では基礎的な文献の購読し、教員による発問と履修者の回答と発表を通して社会福祉に関する基礎知識を習得することを目指します。また研究レポートや論文作成にむけた文献の資料の収集方法についても学びます。

キーワード: 社会福祉、生活課題、生活支援、人権、社会と人、文献の集め方・読み方、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 社会福祉の理念、思想、歴史について概ね80%の事項について解答することができる。

評価方法: 個人発表、課題、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ現代社会における生活課題について考察し、支援の視点とその在り方について概ね80%の理解度を示し、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 個人発表、課題、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により得られ、深められた知見等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や試験の記述等において差別、偏見、決めつけ、人権侵害など著しく公正性に欠ける言動、発表や試験等における不正行為があった場合減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01回】授業のオリエンテーション
【第02回】社会福祉とは何か1(概要)
【第03回】社会福祉とは何か2(歴史的変遷-日本-)
【第04回】社会福祉とは何か3(歴史的変遷-欧米-)
【第05回】社会福祉の現状と課題1(貧困問題)
【第06回】社会福祉の現状と課題2(現代家族と福祉)
【第07回】社会福祉の現状と課題3(児童福祉-養護-)
【第08回】社会福祉の現状と課題4(児童福祉-保育-)
【第09回】社会福祉の現状と課題5(高齢者福祉-家族-)
【第10回】社会福祉の現状と課題6(高齢者福祉-介護-)
【第11回】社会福祉の現状と課題7(障害者福祉-身体障害-)
【第12回】社会福祉の現状と課題8(障害者福祉-精神障害-)
【第13回】社会福祉の現状と課題9(障害者福祉-知的障害-)
【第14回】社会福祉の現状と課題10(今後の展望)
【第15回】社会福祉とは何か(まとめ)
定期試験

使用テキスト: 一番ヶ瀬康子編著『新・社会福祉とは何か』第3版 ミネルヴァ書房、2007年

予習・復習のポイント: ・授業前にはその回の部分における分からない用語を調べる。

参考文献・資料等: ・日本内外の社会でのできごとや課題について知るために新聞やニュースを活用する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: なし。

科目コード:21103 科目ナンバリング:WP31A02E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 心理福祉演習I i (Seminar on Psychological Welfare I i)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次:3 単位数:2 授業形式:演習

曜時:木曜3限 履修可能学科・専攻: W

関連資格: AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

主に実験的手法によって、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決など、あらゆる心の働きについての普遍的な構造のあり方を探究する。各自、興味のあるテーマを決め、実験を行い、統計解析を加えて卒業までに卒業研究としてまとめる。

キーワード: 知覚, 認知, 生理, 神経

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ①各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。
②卒業研究の準備を行う。

評価方法: 発表, レポート 評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 各自が定めたテーマについて理解し、考察し、自分自身の意見を論理的に主張することができる。

評価方法: 授業への参加, コメント 評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、また、研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画： 前期

- 1.この授業の到達目標と概略
- 2.心理学研究の基礎知識(1)
- 3.心理学研究の基礎知識(2)
- 4.心理学研究の基礎知識(3)
- 5.学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)
- 6.学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)
- 7.論文発表(1)
- 8.論文発表(2)
- 9.論文発表(3)
- 10.論文発表(4)
- 11.論文発表(5)
- 12.論文発表(6)
- 13.論文発表(7)
- 14.論文発表(8)
- 15.まとめ

使用テキスト： 特に指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習】

参考文献・資料等： 自身の興味関心領域を明確にする

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 国見ゼミは性質上、心理学実験の受講を必須とします。
心理学実験を受講出来るよう履修計画を立ててください。

実験データを統計的に処理しますので、統計および数学の知識があると有利ですが、ゼミ配属後に改めて統計技術を教えますので必須条件ではありません。「数学が苦手」という方も歓迎します。
*「応用心理学(臨床系など)をテーマにしたいが、実験的手法を用いて仮説を明らかにしたい」という方も相談に乗ります。

国見ゼミは“研究”を求めます。
研究を進めさえすれば単位習得は容易ですが、そうでなければ単位を認めることは難しくなります。
就職、進学等、進路は様々ですので、各自の研究に対するハードル(研究の最終ゴール)に差が生じるのは当たり前です。
就職希望者には就職希望者なりの、進学希望者には進学希望者なりのハードルとスケジュール設定を行いますので、教員との報連相を密に取ることを必須条件として求めます。

科目コード：21104 **科目ナンバリング：**WP32A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理福祉演習II a(Seminar on Psychological Welfare II a)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07:発表

11:討論

15:レポート指導

授業の概要： 本演習では、3年次前期に引き続き各受講生の興味や関心に基づく研究テーマの探索、追究を目的とします。各自の研究の進捗に応じて、演習内で発表、議論を通じて4年次に取り組む卒研テーマへと収束させていきます。

キーワード： 各自の研究テーマに応じます。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自らの設定したテーマに関し、心理学的視点から思考し、研究を進めることができる。

評価方法： ゼミ内での研究姿勢および学期末の研究
成果 **評価割合：80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することができる。

評価方法： ゼミ内での発表と議論 **評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

ゼミ内での発表や他のメンバーの発表に対するコメントを考慮する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、ゼミ内で非協力であったり、公正性を欠く言動等があった場合には、減点や注意の対象とするので留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第16-20回 研究論文の作成方法とアウトラインの作成
第21-25回 データ収集と分析
第26-27回 研究成果のまとめ
第28-30回 発表とディスカッション
※研究の進捗状況に応じて発表予定

使用テキスト： 4月のオリエンテーションで使用テキストについてアナウンスしますので、その後、必要に応じて生協でご購入ください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・教員からの各学生へのコメントは、各々自身の研究テーマを進める上でのコメントととらえて活用していくこと。
・自身の発表の直前だけでなく、日ごろから自身の研究テーマについてアンテナを張り、思考し続けていくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 演習や他の講義の機会等にお声掛けください、アポイントをとって対応したいと思います。

留意事項： 自身の研究テーマの追求とあわせて、ゼミメンバーと協調、協力していきましょう。基本的な留意事項は3年次前期ゼミと同様です。なお、常にチームチャットや諸連絡をこまめに確認しながらフォローできるようにしておいてください。

科目コード：21104

科目ナンバリング：WP32A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習II b (Seminar on Psychological Welfare II b)

担当者：清原 舞

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：06. 遠隔交流
07. 発表
08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： 本演習は、学生主体となり、各自の興味や関心に基づく研究のテーマを追究し、視野を広げることが目的としています。

各自、関心をもっている研究テーマを掘り下げていきます。他者のテーマにも関心を持つこと、自分自身が何を学び、何をしたいのか明確にすること。

後期もフィールドワークとして地域の人たちの活動と一緒に参加していく。

キーワード： 世界の社会福祉、社会問題、当事者主権、支援の在り方、生活保障

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： これまでの学びを基に、自らの研究テーマを設定し、社会福祉学及び心理学的な視点から思考することができる。

評価方法： レポート、発表、ゼミ内での研究姿勢

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自身の経験や体験を踏まえて考察し、かつ幅広い視点から探究・表現することができる。

評価方法： レポート、発表、ゼミ内での研究姿勢

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修やグループ活動に主体的に取り組むなど成果が認められた場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自身の課題や行動力に反映されると認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 レポートや論文の書き方
第3回 資料収集方法(1)

- 第4回 資料収集方法(2)
- 第5回 研究発表(1)
- 第6回 研究発表(2)
- 第7回 研究発表(3)
- 第8回 研究発表(4)
- 第9回 研究発表(5)
- 第10回 研究発表(6)
- 第11回 研究発表(7)
- 第12回 研究発表(8)
- 第13回 次年度に向けた研究テーマ報告書作成(1)
- 第14回 次年度に向けた研究テーマ報告書作成(2)
- 第15回 後期総括

使用テキスト: 特になし

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**
- 予習
 - ・日頃からさまざまなテーマに関心を持ち、調べる癖をつけること(30分)
 - 復習
 - ・授業でのメンバー間、教員からのコメントについて振り返ること(30分)

※参考文献等は授業内で指示します。

障がいのある履修者への対応: 事前に必ず学務部・担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 初回授業時にお知らせします。

- 留意事項:**
- ・他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となる。
 - ・プレゼンテーション、ディスカッション時に総評を行う。
 - ・個別に指導を行う場合もある。
 - ・グループでの活動も多いことや、フィールドワークで地域活動に参加するため、メンバー同士・先輩たちとの協調性を重視する。

科目コード: 21104 **科目ナンバリング:** WP32A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習Ⅱc(Seminar on Psychological Welfare II c)

担当者: 黒澤 泰

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 木曜3限 **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: **AL要素:** 07.発表,
10.資料調査課題,
11.討論,
14.輪読活動
17.発問と回答

授業の概要: 本講の目的は、家族心理学・社会心理学・臨床心理学の書籍や論文を通して、“読解すること”、“思考すること”、そして、“書くこと”の3点を身につけ、4年次の卒業論文につなげることである。

キーワード: プレゼンテーション、ジャーナルクラブ、実証的研究、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた心理学の基本的な専門用語について、概ね80%の事項を自分の言葉で説明できる。

評価方法: 中間発表

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教員が指定したテーマと自身が選択した論文に関して、概ね80%の基準で表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

主体的に取り組む姿勢は、ゼミでの学修を進める上での前提である。よって、直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ゼミ生同士の関係の構築・維持において、自発的な関わりが求められる場合もある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業内では、他者尊重・人権尊重などの姿勢を強く求める。減点の対象とはしないが、気になる表現を教員が注意する場合もあることは留意しておくこと。

評価割合: 0%

▼ その他

これまでの心理学の学びを振り返ること、自身の問題意識と関心に沿い、自身のペースで作業を進めていくことを求める。

評価割合: これまでの心理学の学びを振り返

- 授業計画:**
- 第一回: 後期のオリエンテーション
 - 第二回: 写真鑑賞会
 - 第三回: 論文の探し方
 - 第四回: 論文の読み方
 - 第五回: 論文のまとめ方
 - 第六回: 発表(1)
 - 第七回: 発表(2)
 - 第八回: 発表(3)
 - 第九回: 発表(4)
 - 第十回: 悪い知らせの伝え方(テリングバッドニュース)
 - 第十一回: 視聴覚教材から学ぶ
 - 第十二回: 視聴覚教材から学ぶ
 - 第十三回: 繰り返すことに気づく(パターン把握)
 - 第十四回: 弊社と御社の関係
 - 第十五回: まとめ(テイクホームメッセージ)

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと 参考書

参考文献・資料等: 加藤 司(2008). 心理学の研究法. 北樹出版。
その他の参考資料は必要に応じて、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応: ケースバイケースで対応するが、到達すべき基準があることは理解してから受講すること。

授業時間外の連絡手段: 授業内で教員のメールアドレス、Zoom ID、Teamsコードを伝える。

留意事項: 【その他】受講生の興味関心に沿い、オーダーメイド的に進めていく予定である。担当教員、担当外の

教員、同じ授業を履修している受講生との報告・連絡・相談の姿勢を大事にすること。

科目コード : 21104 科目ナンバリング : WP32A01E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 心理福祉演習Ⅱ d (Seminar on Psychological Welfare Ⅱ d)

担当者 : 櫻井 由美子

基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 木曜3限

履修可能学科・専攻 : W

関連資格 :

AL要素 : 7.発表

8.協同学習

10.資料調査課題

11.討論

14.輪読活動

15.レポート指導

授業の概要 : 履修者一人ひとりが、自分自身の心理福祉に関する研究課題に取り組み、研究やレポートを完成させる。

キーワード : 心理学的研究 心理学的支援 テーマ学習 相互理解 自己理解

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 心理福祉演習Ⅰの学びのなかで得た知識を、ディスカッションや報告、レポート等において、適切に活用することができる。

評価方法 : レポート

評価割合 : 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 心理福祉演習Ⅰで得た知識をもとに、あるいはそれらを発展させて、自らの関心について論理的に思考し、レポートで表現することができる。

評価方法 : レポート

評価割合 : 80%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやレポートの取り組みにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートの着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

グループワークもしくはレポートの着想や論点において、著しく公正性を欠く言動や記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 【前期】

第1回:オリエンテーション

第2回:研究課題の検討(1) 研究テーマの焦点化

- 第3回:研究課題の検討(2) 研究の進め方
- 第4回:カウンセリングを学ぶ(1) カウンセラーの自己理解
- 第5回:カウンセリングを学ぶ(2) 傾聴
- 第6回:カウンセリングを学ぶ(3) 共感的理解
- 第7回:グループ研究(1) テーマの設定と先行文献の検討
- 第8回:グループ研究(2) データの収集と分析
- 第9回:グループ研究(3) 結果と考察
- 第10回:グループ研究(4) 報告と振り返り
- 第11回:カウンセリングを学ぶ(4) カウンセラーの応答
- 第12回:カウンセリングを学ぶ(5) 事例の検討
- 第13回:研究課題の検討(3) 文献データの検討
- 第14回:研究課題の検討(4) 調査データの検討
- 第15回:研究課題の検討(5) データ分析の手法の検討

【後期】

- 第1回:心理学的研究の意義(1) 個人レベルにおける意義
- 第2回:心理学的研究の意義(2) 社会システムにおける意義
- 第3回:研究課題の検討(6) データ分析
- 第4回:研究課題の検討(7) 分析結果の解釈
- 第5回:カウンセリングを学ぶ(6) クライエントの自己開示
- 第6回:カウンセリングを学ぶ(7) クライエントの心の変容
- 第7回:研究の完成(1) 研究課題の社会的意義
- 第8回:研究の完成(2) 研究倫理
- 第9回:研究の完成(3) 研究アウトラインの検討
- 第10回:心理学における現代的課題(1) 映画の視聴と理解
- 第11回:心理学における現代的課題(2) 映画の視聴と批判的検討
- 第12回:研究の完成(4) 研究結果の整理とまとめ
- 第13回:研究の完成(5) 研究結果の批判的検討
- 第14回:研究の完成(6) 研究結果の発表
- 第15回:まとめ

使用テキスト: 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

参考文献:

白井利明・高橋一郎 2013 よくわかる卒論の書き方(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)
ミネルヴァ書房

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:21104 科目ナンバリング:WP32A01E 主な使用言語:日本語|

授業名(英文): 心理福祉演習Ⅱ e(Seminar on Psychological Welfare II e)

担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: o3.実験・実技・体験

07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

社会には、さまざまな課題が存在します。たとえば児童虐待やワーキングプア、依存症、家庭内暴力、孤独死などです。これらは人生のどの段階においても生じる可能性があり、しかも簡単に解決できる問題ではありません。

この授業では、論文の作成スキルの基礎を学びます。論文の書き方や文献調査の方法に基づいて、各自の関心テーマの論文を作成し始めます。自身の関心テーマに関する論文を順番に発表し、その発表についてのディスカッションをとおして、考えを深めます。また、発表したりディスカッションをしたりすることで、他者への説明力を高めます。さらに、ボランティア活動を行うことによって、見分を広めます。

キーワード： 研究論文、社会問題、福祉心理的問題、研究テーマ

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標： 福祉・心理分野、社会問題全般における自身の関心領域と課題を発見し、研究テーマに関する知識等を深め、概ね80%の完成度で中間レポートを作成することができる。

評価方法： 学期末に中間レポートを提出 **評価割合：40%**

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標： 各自の研究中間発表やグループディスカッションを通して説明する力や表現力を伸ばすことができる。また、中間レポート執筆を通して、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度で研究論文を完成させることができる。

評価方法： 学期末に中間レポートを提出 **評価割合：40%**

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

社会問題や福祉心理学的問題についてのグループ学習及び研究テーマを自主的に設定することで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。

直接的な評価対象にならないが、学期末に提出する中間レポートに反映される。

評価割合：0%

▼ **実践的ボランティアリズム**

授業中に行うグループ学習やディスカッションによって、ゼミメンバー間の助け合いの精神を身につける。実際にボランティア活動を行うことによって、ボランティアリズムを身に付けます。

評価割合：20%

▼ **公正性**

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や中間レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ **その他**

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 1 オリエンテーション
- 2 論文の書き方
- 3 文献の収集方法

- 4 社会問題DVDの視聴とグループディスカッションーアクションー
 - 5 社会問題DVDの視聴とグループディスカッションー高齢者福祉問題ー
 - 6 社会問題DVDの視聴とグループディスカッションー発達障害ー
 - 7 ボランティア活動準備
 - 8 ボランティア活動
 - 9 論文収集と中間発表準備
 - 10 中間発表① 2人(司会者も2人)
 - 11 中間発表②
 - 12 中間発表③
 - 13 中間発表④
 - 14 中間発表⑤
 - 15 中間レポート作成
- 期末試験:中間レポートの戻出
 ＊見学・ボランティア活動がある場合は、見学・ボランティア活動を優先

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・各自の研究テーマに関することについて、ニュース等に注意しておく。
 ・各自・各グループの発表前は、発表の用意をする。
 ・発表後は、ディスカッションの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ見を深める。
 ・以下の参考文献を推薦する。
 平山 尚・武田 丈・呉 裁喜他『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、最新版。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・日頃から社会のできごとやニュースに注意してください。
 ・課題に対しては、コメントを付して返却します。
 ・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード:21104 科目ナンバリング:WP32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 心理福祉演習II f(Seminar on Psychological Welfare II f)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次:3	単位数:2	授業形式:演習
曜時:火曜2限		履修可能学科・専攻: W
関連資格:		AL要素: 07.発表 08.協同学習 10.資料調査課題 11.討論 14.輪読活動 15.レポート指導

授業の概要: 社会保障、社会福祉にかかわる特定の社会問題や社会現象を取り上げ、調査計画を立案し、調査を実施し、調査報告書を執筆するまでの一連の過程を習得することを目的とする。

キーワード: 社会問題、社会保障、社会調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: これまでの学びを基に、特定の社会問題や社会現象を社会調査の手法を用いて理解すること

ができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:調査準備(1)
第2回:調査準備(2)
第3回:調査準備(3)
第4回:データ収集(1)
第5回:データ収集(2)
第6回:データ集計(1)
第7回:データ集計(2)
第8回:データ分析(1)
第9回:データ分析(2)
第10回:データ分析(3)
第11回:データ分析(4)
第12回:発表報告・報告書の作成(1)発表準備
第13回:発表報告・報告書の作成(2)発表
第14回:発表報告・報告書の作成(3)報告書作成
第15回:発表報告・報告書の作成(4)振り返り

使用テキスト: 特に指定しない。

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** 授業内で指示する。

**障がいのある
履修者への対応:** 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 初回授業時に説明する。

留意事項： 特になし。

科目コード：21104 科目ナンバリング：WP32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習II g (Seminar on Psychological Welfare II g)

担当者：望月 珠美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07 発表
10 資料調査課題
11 討論
12 課題討議法
14 輪読活動
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要： 心理福祉演習 I gの発展演習です。

文献等の詳読、文芸作品や芸術、映画・音楽など様々なものを題材にして幸福や豊かさの意味するところやそれらがもたらされ、維持・向上するしくみ、さらにはその行方や共有化を図るための方法について、個人を原則とした研究活動への取り組みを通して具体的かつ実践的に学びます。

自他に対する肯定的理解を育むとともに、自分自身のキャリアや社会とのかかわり、役割遂行に対する積極的な展望をもって、将来、心理専門職をはじめとする様々な立場や役割において他者の生活やその成長にかかわる際に求められる知識や技術、倫理観の向上をめざします。

キーワード： 幸福 well-being 自己理解 他者理解 心理的支援 連携 社会資源 発達課題 研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 豊かな自己表現とともに心理学に関する基本的知識と技術を活用し、研究への応用と遂行を図る。

評価方法： 発表 **評価割合：** 50%
課題への取り組み
期末レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 設定した研究テーマに関する経過報告を通して、自らの専門性や将来への展望を広げるとともにコミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上を図る。

評価方法： 発表 **評価割合：** 50%
課題への取り組み
期末レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学習によって自身の知見に加味された成果等が発言や学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回 後期講義に関するオリエンテーション
第02回 自己の内面を知るためのワーク3
第03回 自己の内面を知るためのワーク4
第04回 人とのかかわりに関するワーク3
第05回 人とのかかわりに関するワーク4
第06回 ライフ・サイクルに関するワーク3
第07回 ライフ・サイクルに関するワーク4
第08回 体験学習6(目的と方法)
第09回 体験学習7(計画の立案)
第10回 体験学習8(実践)
第11回 体験学習9(まとめ)
第12回 体験学習10(報告と振り返り)
第13回 関連文献の詳読3
第14回 関連文献の詳読4
第15回 後期のまとめ

期末レポート

使用テキスト： 白井利明・高橋一郎(2013年)やわらかアカデミズム・わかるシリーズ,よくわかる卒論の書き方第2版,ミネルヴァ書房。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な資料は、担当者が印刷、配布、もしくはUNIPAを介して配信します。次年度の卒業研究の作成にあたっての基本的資料も含まれます。各自でファイル(A4版)し、必要に応じて用いることができるよう整理、保管の上、積極的に活用してください。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じたさまざまな支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部までご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 担当者の研究室(大学6号館4階6415研究室)を直接、お訪ねください。不在の場合や急を要する場合には、学務部にご相談ください。

留意事項： ・実地調査(フィールドワーク)を行う場合には、別途、交通費や宿泊費がかかることがあります。
・使用テキストは次年度の演習Ⅲおよび演習Ⅳにおいても使用します。

科目コード：21104 科目ナンバリング：WP32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習Ⅱh(Seminar on Psychological Welfare II h)

担当者：山中 俊克

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻： W

関連資格：

AL要素： 17. 発問と回答
07. 発表

授業の概要：「心理福祉演習Ⅰ」では、社会福祉とは何かについて学びました。その中で児童・高齢、障害など領域における生活課題の特性について理解しつつ、人間としての共通の課題に対して社会福祉が目指すものについても着目し、理解を深めることができたのではないのでしょうか。
「心理福祉演習Ⅱ」では文献の読み方、文献や資料などの収集方法、レポートや論文作成にむけた基礎的な研究方法について学びます。また、履修者各自が関心のあるテーマを選択し、それについて基礎的研究方法を実践し、研究内容を発表します。また研究内容についてグループでの話し合いを行います。

キーワード： 社会福祉、生活課題、生活支援、人権、人と社会、研究方法、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会福祉の理念、思想、歴史について概ね80%の事項について解答することができる。

評価方法： 個人発表、課題、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ現代社会における生活課題について考察し、支援の視点とその在り方について概ね80%の理解度を示し、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 個人発表、課題、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により得られ、深められた知見等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や試験の記述等において差別、偏見、決めつけ、人権侵害など著しく公正性に欠ける言動、発表や試験等における不正行為があった場合減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【第1回】後期授業のオリエンテーション/個人発表および準備にむけた説明
【第2回】基礎的文献や論文の読み方
【第3回】文献や資料の取(蒐)集方法

- 【第4回】レポートや論文の書き方
 - 【第5回】テーマの選び方
 - 【第6回】テーマの設定
 - 【第7回】個人発表①
 - 【第8回】個人発表②
 - 【第9回】個人発表③
 - 【第10回】個人発表④
 - 【第11回】個人発表⑤
 - 【第12回】スペシャルトピックス?
 - 【第13回】スペシャルトピックス②
 - 【第14回】スペシャルトピックス③
 - 【第15回】社会福祉の展望(まとめ)
- 定期試験

使用テキスト: 特に指定図書はありませんが、論文およびレポートの書き方に関する文献は授業時に紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・日本内外の社会でのできごとや課題について知るために新聞やニュースを活用する。

・日常生活に目をむけて問題意識を持つようにする。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: なし。

科目コード: 21104 科目ナンバリング: WP32A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習Ⅱ i (Seminar on Psychological Welfare II i)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

主に実験的手法によって、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決など、あらゆる心の働きについての普遍的な構造のあり方を探究する。各自、興味のあるテーマを決め、実験を行い、統計解析を加えて卒業までに卒業研究としてまとめる。

キーワード: 知覚、認知、生理、神経

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** ①各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。
②卒業研究の準備を行う。

評価方法: 発表、レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 各自が定めたテーマについて理解し、考察し、自分自身の意見を論理的に主張することができる。

評価方法: 授業への参加, コメント

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加, 他者の尊重, 報告・連絡・相談の姿勢, 他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は, 減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合, また, 研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は, 減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. この授業の到達目標と概略
 2. 心理学研究の基礎知識(4)
 3. 心理学研究の基礎知識(5)
 4. 心理統計の基礎知識(1)
 5. 心理統計の基礎知識(2)
 6. 心理統計の基礎知識(3)
 7. 論文発表(1)
 8. 論文発表(2)
 9. 論文発表(3)
 10. 論文発表(4)
 11. 論文発表(5)
 12. 論文発表(6)
 13. 論文発表(7)
 14. 論文発表(8)
 15. まとめ

使用テキスト: 特に指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等: 自身の興味関心領域を明確にする

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 心理福祉演習 I i(国見ゼミ I)の単位習得後履修可能。

実験データを統計的に処理しますので, 統計および数学の知識があると有利ですが, ゼミ配属後に改めて統計技術を教えますので必須条件ではありません。「数学が苦手」という方も歓迎します。

*「応用心理学(臨床系など)をテーマにしたいが, 実験的手法を用いて仮説を明らかにしたい」という方も相談に乗ります。

国見ゼミは“研究”を求めます。

研究を進めさえすれば単位習得は容易ですが、そうでなければ単位を認めることは難しくなります。就職、進学等、進路は様々ですので、各自の研究に対するハードル(研究の最終ゴール)に差が生じるのは当たり前です。就職希望者には就職希望者なりの、進学希望者には進学希望者なりのハードルとスケジュール設定を行いますので、教員との報連相を密に取ることを必須条件として求めます。

科目コード: 21105 科目ナンバリング: WP43A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習III a (Seminar on Psychological Welfare III a)

担当者: 岩崎 真和

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 07:発表

11:討論

15:レポート指導

授業の概要: 本演習では、3年次に引き続き各受講生の興味や関心に基づく研究テーマの探索、追究を目的とします。各自の研究の進捗に応じて、演習内で発表、議論を通じて4年間の集大成の作成を目指します。

キーワード: 各自の研究テーマに応じます。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自らの設定したテーマに関し、心理学的視点から思考し、研究を進めることができる。

評価方法: ゼミ内での研究姿勢および学期末の研究 **評価割合:** 80%
成果

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することができる。

評価方法: ゼミ内での発表と議論 **評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

ゼミ内での発表や他のメンバーの発表に対するコメントを考慮する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、ゼミ内で非協力であったり、公正性を欠く言動等があった場合には、減点や注意の対象とするので留意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1-5回 研究論文の作成方法とアウトラインの作成
第6-10回 データ収集と分析

第11-15回 研究成果のまとめとディスカッション

※研究の進捗状況に応じて発表予定

使用テキスト: 4月のオリエンテーションで使用テキストについてアナウンスしますので、その後、必要に応じて生協でご購入ください。他の参考図書についても演習内で随時紹介していきます。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・教員からの各学生へのコメントは、各々自身の研究テーマを進める上でのコメントととらえて活用してください。
- ・自身の発表の直前だけでなく、日ごろから自身の研究テーマについてアンテナを張り、思考し続けていくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 演習や他の講義の機会等にお声掛けください、アポイントをとって対応したいと思います。

留意事項: 自身の研究テーマの追求とあわせて、ゼミメンバーと協調、協力していきましょう。基本的な留意事項は3年次ゼミと同様です。なお、卒研を作成する学生と作成しない学生とで評価方法が若干異なりますので、演習内で確認しながら進めましょう。常にチームチャットや諸連絡をこまめに確認してください。

科目コード: 21105 科目ナンバリング: WP43A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習III b (Seminar on Psychological Welfare III b)

担当者: 清原 舞

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 07. 発表
08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要: 3年次に引き続き、興味関心に基づく研究テーマの設定、追究を行います。各自の進捗状況に合わせ、プレゼンテーションや議論を通じ、4年間の集大成を目標とします。

キーワード: 世界の社会福祉、社会問題、当事者主権、支援の在り方、生活保障

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: これまでの学びを基に、自らの研究テーマを設定し、社会福祉学及び心理学的な視点から思考することができる。

評価方法: プレゼンテーション、レポート、研究に取り組む姿勢 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 取り上げたテーマに対し、幅広い視点から探究・表現し、論理的に考察することができる。

評価方法: プレゼンテーション、レポート、研究に取り組む姿勢 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修やグループ活動に主体的に取り組むなど成果が認められた場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自身の課題や行動力に反映されると認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション
第2回：研究テーマの設定(1)
第3回：研究テーマの設定(2)
第4回：文献収集(1)
第5回：文献収集(2)
第6回：文献収集(3)
第7回：文献収集(4)
第8回：文献収集(5)
第9回：テーマ及び文献レビュー報告(1)
第10回：テーマ及び文献レビュー報告(2)
第11回：研究論文のアウトライン作成(1)
第12回：研究論文のアウトライン作成(2)
第13回：研究論文のアウトライン作成(3)
第14回：研究論文のアウトライン作成(4)
第15回：まとめ

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等：
予習
・日頃からさまざまなテーマに関心を持ち、調べる癖をつけること(30分)
復習
・授業でのメンバー間、教員からのコメントについて振り返ること(30分)

※参考文献等は授業内で指示します。

障がいのある 事前に必ず学務部・担当教員に相談してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回授業時にお知らせします。

留意事項： ・他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となります。
・個別に相談しながら進めていきます。
・プレゼンテーション、卒論時に個別にフィードバックを行う。
・受講生自ら目標を設定し、勉学に励むこと。

科目コード：21105

科目ナンバリング：WP43A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習III c(Seminar on Psychological Welfare III c)

担当者：黒澤 泰

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：**AL要素：** 07.発表

10.資料調査課題

11.討論,

14.輪読活動

17.発問と回答

授業の概要： 本演習の目的は、“疑問を持つこと”、及び、“心理学の理論、視点、方法論を用いて、疑問を解き明かすこと”の二点である。

キーワード： 卒業研究、リサーチクエスト、文献レビュー、プロジェクトマネジメント

学位授与方針との関係**▼知識・技能**

到達目標： 知識・技能は研究遂行の前提であり、直接的な評価対象とはしない。

評価方法： 特になし

評価割合：0%**▼思考力・判断力・表現力**

到達目標： 自身の関心あるテーマに関して、自主学修や研究実施によって得たデータを踏まえて考察し、卒業研究、もしくはゼミレポートの形で表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合：100%**▼学修に主体的に取り組む態度**

研究に主体的に取り組む姿勢は、研究を進める上での前提である。よって、直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、フィールドとの関係構築において、ボランティアなどの実践が求められる場合もある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、論文内では、他者尊重・人権尊重な表現を求める。

評価割合：0%

▼その他

これまでの心理学の学びを振り返ること、自身の問題意識と関心に沿い、自身のペースで作業を進めていくことを求める。

評価割合：これまでの心理学の学びを振り返

授業計画： 第一回：オリエンテーション(授業概要の説明を含む)
第二回：スタディスキル(メモをとること、アイデアをまとめること)
第三回：研究するって本当ですか？
第四回：疑問を持つ(テーマ設定)
第五回：問いを立てる(リサーチクエスト)
第六回：論文の構造
第七回：生老病死の心理学：映画観賞(1)
第八回：生老病死の心理学：映画観賞(2)
第九回：ジャーナルクラブ(1)：要旨を掴む
第十回：ジャーナルクラブ(2)：論文の読み解き方
第十一回：レジュメ作成法
第十二回：進捗報告(1)
第十三回：進捗報告(2)
第十四回：進捗報告(3)
第十五回：まとめと後期のオリエンテーション

使用テキスト： 【調査・実験の場合】小塩 真司・宅 香菜子(2015).心理学の卒業研究ワークブック：発想から論文完成

までの10ステージ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 加藤 司(2008). 心理学の研究法. 北樹出版。
その他の参考資料は必要に応じて、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： ケースバイケースで対応するが、到達すべき基準があることは理解してから受講すること。

授業時間外の連絡手段： 心理福祉演習I c内で周知した教員のアドレスにアクセスすること。

留意事項： 【留意事項】緊急事態宣言/非常事態宣言の際、ゼミはTeamsを用いて行う。
【その他】受講生の興味関心に沿い、オーダーメイド的に進めていく予定である。担当教員、担当外の教員、同じ授業を履修している受講生との報告・連絡・相談の姿勢を大事にすること。

科目コード：21105 **科目ナンバリング：**WP43A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理福祉演習III d (Seminar on Psychological Welfare III d)

担当者： 櫻井 由美子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素： 7.発表
8.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要： 履修者一人ひとりが、自分自身の心理福祉に関する研究課題に取り組み、研究やレポートを完成させる。

キーワード： 心理学的研究 心理学的支援 テーマ学習 相互理解 自己理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 心理福祉演習 I の学びのなかで得た知識を、ディスカッションや報告、レポート等において、適切に活用することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 心理福祉演習 I で得た知識をもとに、あるいはそれらを発展させて、自らの関心について論理的に思考し、レポートで表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやレポートの取り組みにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートの着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

グループワークもしくはレポートの着想や論点において、著しく公正性を欠く言動や記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション
第2回：研究課題の検討(1) 研究テーマの焦点化
第3回：研究課題の検討(2) 研究の進め方
第4回：カウンセリングを学ぶ(1) カウンセラーの自己理解
第5回：カウンセリングを学ぶ(2) 傾聴
第6回：カウンセリングを学ぶ(3) 共感的理解
第7回：グループ研究(1) テーマの設定と先行文献の検討
第8回：グループ研究(2) データの収集と分析
第9回：グループ研究(3) 結果と考察
第10回：グループ研究(4) 報告と振り返り
第11回：カウンセリングを学ぶ(4) カウンセラーの応答
第12回：カウンセリングを学ぶ(5) 事例の検討
第13回：研究課題の検討(3) 文献データの検討
第14回：研究課題の検討(4) 調査データの検討
第15回：研究課題の検討(5) データ分析の手法の検討

使用テキスト： 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

参考文献：

白井利明・高橋一郎 2013 よくわかる卒論の書き方(やわからかアカデミズム・わかるシリーズ)

ミネルヴァ書房

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：21105 科目ナンバリング：WP43A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習Ⅲ e (Seminar on Psychological Welfare III e)

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

この授業では、3年生での研究をさらに発展させ、各自の研究のテーマにしたがって調査及び中間発表・ディスカッションを行います。この調査や中間発表・ディスカッションをとおして、卒業研究や研究レポートの作成に取り組みます。

キーワード： 研究論文、研究テーマ、文献調査、社会調査、

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに関する知識を深め、
また、文献調査や社会調査の方法、研究方法を身に付け、概ね80%の完成度で研究論を作成することができる。

評価方法： 学期末に中間レポート、卒業論文を提出 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 各自の研究中間発表やグループディスカッションを通して説明する力や表現力を伸ばすことができる。また、論文執筆を通して、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度で研究論文を完成させることができる。

評価方法： 学期末に中間レポート、卒業論文を提出 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

研究テーマや研究方法を自主的に設定し、研究テーマに関する文献調査等を自主的に行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。
直接的な評価対象にならないが、学期末に提出する卒業研究や卒業レポートの作成に反映される。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行う文献調査やディスカッションによって、ゼミメンバー間の助け合いの精神を身につける。

評価割合：20%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や中間レポート・研究論文において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 1 オリエンテーション
 - 2 社会問題DVDとグループディスカッションー非行・更生保護ー
 - 3 社会問題DVDとグループディスカッションーヤングケアラー
 - 4 社会問題DVDとグループディスカッションー認知症ー
 - 5 個人情報保護学習
 - 6 中間発表準備
 - 7 中間発表準備
 - 8 研究論文の発表とディスカッション1
 - 9 研究論文の発表とディスカッション2
 - 10 研究論文の発表とディスカッション3
 - 11 研究論文の発表とディスカッション4

- 12 研究論文の発表とディスカッション5
- 13 研究論文の発表とディスカッション6
- 14 研究論文の発表とディスカッション7
- 15 中間レポート作成準備

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・各自の研究テーマに関することについて、ニュース等に注意しておく。
- ・各自の発表前は、発表の用意をする。
- ・各自の発表後は、ディスカッションの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
- ・以下の参考文献を推薦する。
平山 尚・武田 丈・呉 裁喜他『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、最新版。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項：

- ・日頃から社会のできごとやニュースに注意してください。
- ・課題に対しては、コメントを付して返却します。
- ・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード：21105 **科目ナンバリング：**WP43A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理福祉演習III f(Seminar on Psychological Welfare III f)

担当者：藤島 稔弘

基本情報

年次： 4	単位数： 2	授業形式： 演習
曜時： 月曜3限		履修可能学科・専攻： W
関連資格：		AL要素： 07.発表 08.協同学習 10.資料調査課題 11.討論 14.輪読活動 15.レポート指導

授業の概要： 社会保障、社会福祉にかかわる特定の社会問題や社会現象を取り上げ、調査計画を立案し、調査を実施し、調査報告書を執筆するまでの一連の過程を習得することを目的とする。

キーワード： 社会問題、社会保障、社会調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： これまでの学びを基に、特定の社会問題や社会現象を社会調査の手法を用いて理解することができる。

評価方法： レポート
発表
報告書 **評価割合：**50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート
発表 **評価割合：**50%

報告書

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回:ガイダンス
第2回:研究テーマの検討
第3回:文献レビュー報告(1)
第4回:文献レビュー報告(2)
第5回:文献レビュー報告(3)
第6回:文献レビュー報告(4)
第7回:文献レビュー報告(5)
第8回:文献レビュー報告(6)
第9回:既存データの収集・活用(1)
第10回:既存データの収集・活用(2)
第11回:既存データの収集・活用(3)
第12回:研究計画の検討(1)
第13回:研究計画の検討(2)
第14回:研究計画の検討(3)
第15回:研究計画の検討(4)

使用テキスト： 特に指定しない。

予習・復習のポイントと 授業内で指示する。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回授業時に説明する。

留意事項： 特になし。

科目コード：21105 科目ナンバリング：WP43A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習III g (Seminar on Psychological Welfare III g)

担当者：望月 珠美

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：**AL要素：** 07 発表

- 10 資料調査課題
- 11 討論
- 12 課題討議法
- 14 輪読活動
- 15 レポート指導
- 16 振り返り用紙と応答
- 17 発問と回答

授業の概要： 前年度履修済みのⅠ，Ⅱの発展授業です。

文献等の詳読、文芸作品や芸術、映画・音楽など様々なものを題材にして幸福や豊かさの意味するところやそれらがもたらされ、維持・向上するしくみ、さらにはその行方や共有化を図るための方法について、個人を原則とした研究活動への取り組みを通して具体的かつ実践的に学びます。

自分自身のキャリアや社会とのかかわり、役割遂行に対する積極的な展望をはぐくむとともに、将来、心理専門職をはじめとする様々な立場や役割において他者の生活やその成長にかかわる際に求められる知識や技術、倫理観の向上をめざします。

キーワード： 幸福 wee-being 自己理解 他者理解 心理的支援 連携 社会資源 発達課題 研究倫理

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標： 豊かな自己表現とともに心理学に関する基本的知識と技術を活用し、研究への応用と遂行を図る。

評価方法： 発表

評価割合： 50%

課題への取り組み

期末レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 設定した研究テーマに関する経過報告を通して、自らの専門性や将来への展望を広げるとともにコミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上を図る。

評価方法： 発表

評価割合： 50%

課題への取り組み

期末レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に加味された成果等が発言や学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第01回 全期および前期講義に関するオリエンテーション
第02回 これまでの学びの振り返り、グループディスカッション
第03回 これからの学びの計画化、グループディスカッション
第04回 テーマの選択と決定
第05回 研究倫理
第06回 研究計画の立案
第07回 先行研究の収集
第08回 先行研究のまとめ
第09回 目的の設定
第10回 デザイン発表
第11回 個別指導(1)
第12回 個別指導(2)
第13回 グループディスカッション
第14回 研究計画の再立案
第15回 個別指導(4)

期末レポート

使用テキスト： 白井利明・高橋一郎(2013年)やわらかアカデミズム・わかるシリーズ,よくわかる卒論の書き方第2版,ミネルヴァ書房。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必要な資料はすべて、担当者が印刷、配布、もしくはUNIPAを介して配信します。次年度の卒業研究の作成にあたっての基本的資料も含まれます。各自でファイル(A4版)し、必要に応じて用いることができるよう整理、保管の上、積極的に活用してください。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じたさまざまな支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部までご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 担当者の研究室(大学6号館4階6415研究室)を直接、お訪ねください。不在の場合や急を要する場合には、学務部にご相談ください。

留意事項： 実地調査(フィールドワーク)を行う場合には、別途、交通費や宿泊費がかかることがあります。

科目コード：21105 科目ナンバリング：WP43A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習Ⅲ h (Seminar on Psychological Welfare III h)

担当者：山中 俊克

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答
07. 発表

授業の概要： このクラスでは履修者各自が社会福祉または心理領域より研究テーマを選択し、研究をすすめていきます。大学を卒業するということは、小学校から大学までの16年間の学びをおける一つの重要な区切りとして位置付けることができます。その意味からも履修者が今までの学びの総まとめとして自分が選択したテーマを真剣に研究していくことが望まれます。授業は基本的に履修者による研究の発表とクラスディスカッションを中心にすすめていきます。また、研究テーマに沿って、グループまたは個別指導も随時行います。

キーワード： 生活課題、生活支援、課題研究、テーマ設定、プレゼンテーション、グループディスカッション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 生活課題に対して、課題の要因や支援の在り方について説明することができる。

評価方法: 個人発表、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 取り上げたテーマについて、生活課題として考察し、自らの所見を表現し、研究としてまとめることができる。

評価方法: 個人発表、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により得られ、深められた知見等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や試験の記述等において差別、偏見、決めつけ、人権侵害など著しく公正性に欠ける言動、発表や試験等における不正行為があった場合減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 前期

【第01回】授業のオリエンテーション

【第02回】研究課題の構想

【第03回】テーマの選び方

【第04回】論文の書き方

【第05回】文献および資料の収集法

【第06回】社会福祉課題(1)(児童領域)

【第07回】社会福祉課題(2)(障害領域)

【第08回】社会福祉課題(3)(高齢領域)

【第09回】テーマの発表

【第10回】第1のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第11回】第2のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第12回】第3のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第13回】第4のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第14回】第5のグループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第15回】学術的研究のあり方(まとめ)

定期試験

使用テキスト: なし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 3年時の春休み中に自分の興味や関心、問題意識を確認して研究テーマの設定にむけた準備をして下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： なし。

科目コード：21105 科目ナンバリング：WP43A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習III i(Seminar on Psychological Welfare III i)

担当者：國見 充展

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

主に実験的手法によって、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決など、あらゆる心の働きについての普遍的な構造のあり方を探究する。各自、興味のあるテーマを決め、実験を行い、統計解析を加えて卒業までに卒業研究としてまとめる。

キーワード： 知覚、認知、生理、神経

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ①各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。
②卒業研究の準備を行う。

評価方法： 発表、レポート

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 各自が定めたテーマについて理解し、考察し、自分自身の意見を論理的に主張することができる。

評価方法： 授業への参加、コメント

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、また、研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画**：
1. この授業の到達目標と概略
 2. 卒業研究テーマ設定(1)
 3. 卒業研究テーマ設定(2)
 4. 卒業研究テーマ設定(3)
 5. 研究計画書作成
 6. 説明書及び同意書等、関係書類作成
 7. 研究状況報告(1)
 8. 研究状況報告(2)
 9. 研究状況報告(3)
 10. 研究状況報告(4)
 11. 中間報告(5)
 12. 中間報告(6)
 13. 中間報告(7)
 14. 中間報告(8)
 15. まとめ

使用テキスト： 特に指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習】

参考文献・資料等： 自身の興味関心領域を明確にする

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： **心理福祉演習 I i, II i(国見ゼミ I および II)の単位習得後に履修可能。**

国見ゼミは“研究”を求めます。

研究を進めさえすれば単位習得は容易ですが、そうでなければ単位を認めることは難しくなります。

就職、進学等、進路は様々ですので、各自の研究に対するハードル(研究の最終ゴール)に差が生じるのは当たり前です。

就職希望者には就職希望者なりの、進学希望者には進学希望者なりのハードルとスケジュール設定を行いますので、教員との報連相を密に取ることを必須条件として求めます。

科目コード：21105 **科目ナンバリング**：WP43A01E **主な使用言語**：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習III j(Seminar on Psychological Welfare III j)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07: 発表

08: 協同学習

10: 資料調査課題

11: 討論

14: 輪読活動

15: レポート指導

授業の概要： 人間の言動を心理学的視点から考える態度を身につける。
視聴覚教材や書籍、論文等を活用し、自分なりの人間理解を深める。

キーワード： 心理学的視点
自己理解
他者理解
人間理解

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分自身の研究テーマを意識しながら、自分や他者の言動を心理学的視点から考えることができる。

評価方法： 課題
発表 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。

評価方法： 課題
発表 **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言や課題内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】自己理解を深める-1
【第03回】自己理解を深める-2
【第04回】自己理解を深める-3
【第05回】人間理解を深める-1(課題の選定)
【第06回】人間理解を深める-2(課題の検討と整理)
【第07回】人間理解を深める-3(課題の検討と整理)
【第08回】人間理解を深める-4(発表)
【第09回】人間理解を深める-5(講評)
【第10回】人間理解を深める-1(課題の選定)
【第11回】人間理解を深める-2(課題の検討と整理)
【第12回】人間理解を深める-3(課題の検討と整理)
【第13回】人間理解を深める-4(発表)
【第14回】人間理解を深める-5(講評)

【第15回】前期のまとめと継続課題の準備と検討

使用テキスト： 課題に必要な資料は受講者自身が主体的に用意すること。
授業担当者が助言することも可能である。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日頃から意識して人間の言動を観察し、他者とのコミュニケーションを図るなどして、人間理解の促進に努めること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項： 演習は休まず参加することに意味があります。心身の健康に留意して、演習に臨んでください。

科目コード：21106 **科目ナンバリング：**WP44A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理福祉演習IV a(Seminar on Psychological Welfare IV a)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07:発表

11:討論

15:レポート指導

授業の概要： 本演習では、演習内で発表、議論を通じて4年間の各自の研究の集大成である卒研作成を目指します。

キーワード： 各自の研究テーマに応じます。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自らの設定したテーマに関し、心理学的視点から思考し、研究を進めることができる。

評価方法： ゼミ内での研究姿勢および学期末の研究成果 **評価割合：**80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが研究したテーマに関する知見や自己の体験を踏まえて考察し、論理的に表現することができる。

評価方法：ゼミ内での発表と議論

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

ゼミ内での発表や他のメンバーの発表に対するコメントを考慮する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、研究を進める過程や背景においてボランティア活動等の実践により深められた知見が認められる場合には、「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、ゼミ内で非協力であったり、公正性を欠く言動等があった場合には、減点や注意の対象とするので留意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第16-20回 研究論文の作成方法とアウトラインの作成
第21-25回 データ収集と分析
第26-27回 研究成果のまとめ
第28-30回 発表とディスカッション
※研究の進捗状況に応じて発表予定

使用テキスト： 4月のオリエンテーションで使用テキストについてアナウンスしますので、その後、必要に応じて生協でご購入ください。他の参考図書については演習内で随時紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・教員からの各学生へのコメントは、各々自身の研究テーマを進める上でのコメントととらえて活用していくこと。
・自身の発表の直前だけでなく、日ごろから自身の研究テーマについてアンテナを張り、思考し続けていくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応したいと考えているので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 演習や他の講義の機会等にお声掛けください、アポイントをとって対応したいと思います。

留意事項： 自身の研究テーマの追求とあわせて、ゼミメンバーと協調、協力していきましょう。基本的な留意事項はこれまでのゼミ活動と同様です。なお、卒研を作成する学生と作成しない学生とで評価方法が若干異なりますので、演習内で確認しながら進めましょう。常にチームチャットや諸連絡をこまめに確認してください。

科目コード：21106 科目ナンバリング：WP44A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習IV b(Seminar on Psychological Welfare IV b)

担当者：清原 舞

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07. 発表
08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
15. レポート指導

授業の概要： 3年次に引き続き、興味関心に基づく研究テーマの設定、追究を行います。各自の進捗状況に合わせ、プレゼンテーションや議論を通じ、4年間の集大成を目標とします。

キーワード： 世界の社会福祉、社会問題、当事者主権、支援の在り方、生活保障

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： これまでの学びを基に、自らの研究テーマを設定し、社会福祉学及び心理学的な視点から思考することができる。

評価方法： プレゼンテーション、レポート、研究に取り組む姿勢 評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 取り上げたテーマに対し、幅広い視点から探究・表現し、論理的に考察することができる。

評価方法: プレゼンテーション、レポート、研究に取り
組む姿勢 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、自主的な学修やグループ活動に主体的に取り組むなど成果が認められた場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自身の課題や行動力に反映されると認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション
第2回:研究成果のまとめ(1)
第3回:研究成果のまとめ(2)
第4回:研究成果のまとめ(3)
第5回:研究成果のまとめ(4)
第6回:中間発表(1)
第7回:中間発表(2)
第8回:研究成果のまとめ(5)
第9回:研究成果のまとめ(6)
第10回:発表とディスカッション(1)
第11回:発表とディスカッション(2)
第12回:発表とディスカッション(3)
第13回:発表とディスカッション(4)
第14回:研究成果の振り返り
第15回:まとめ

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと 予習

参考文献・資料等: ・日頃からさまざまなテーマに関心を持ち、調べる癖をつけること(30分)
復習
・授業でのメンバー間、教員からのコメントについて振り返ること(30分)

※参考文献等は授業内で指示します。

障がいのある履修者への対応: 事前に必ず学務部・担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 初回授業時にお知らせします。

留意事項: ・他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件です。
・個別に相談しながら進めていきます。
・各自目標を設定し、取り組むこと。

科目コード: 21106 **科目ナンバリング:** WP44A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習IV c(Seminar on Psychological Welfare IV c)

担当者：黒澤 泰

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07.発表

10.資料調査課題、

11.討論

14.輪読活動

17.発問と回答

授業の概要： 本演習の目的は、“疑問を持つこと”、及び、“心理学の理論、視点、方法論を用いて、疑問を解き明かすこと”の二点である。

キーワード： 卒業研究、リサーチクエスチョン、文献レビュー、プロジェクトマネジメント

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 知識・技能は研究遂行の前提であり、直接的な評価対象とはしない。

評価方法： 特になし

評価割合： 0%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自身の関心あるテーマに関して、自主学修や研究実施によって得たデータを踏まえて考察し、卒業研究、もしくはゼミレポートの形で表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 100%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究に主体的に取り組む姿勢は、研究を進める上での前提である。よって、直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、フィールドとの関係構築において、ボランティアなどの実践が求められる場合もある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、論文内では、他者尊重・人権尊重な表現を求める。

評価割合： 0%

▼その他

これまでの心理学の学びを振り返ること、自身の問題意識と関心に沿い、自身のペースで作業を進めていくことを求める。

評価割合： これまでの心理学の学びを振り返

授業計画：

- 01.後期のオリエンテーション
- 02.データの分析とその解釈
- 03.論文の枠組みを作る
- 04.問題を執筆する
- 05.方法を執筆する
- 06.結果を執筆する
- 07.考察を執筆する
- 08.進捗報告(1)
- 09.進捗報告(2)
- 10.進捗報告(3)
- 11.論文を仕上げる

- 12.個別面談
 - 13.報告会準備
 - 14.人生を振り返る
 - 15.まとめ(テイクホームメッセージ)
- 卒研発表会

(順番は前後する可能性がある)

使用テキスト: 【調査・実験の場合】小塩 真司・宅 香菜子(2015).心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの10ステージ.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 加藤 司(2008). 心理学の研究法. 北樹出版.
その他の参考資料は必要に応じて、適宜紹介する

障がいのある履修者への対応: ケースバイケースで対応するが、到達すべき基準があることは理解してから受講すること。

授業時間外の連絡手段: 授業内で周知した教員のアドレスにアクセスすること。

留意事項: 【その他】受講生の興味関心に沿い、オーダーメイド的に進めていく予定である。担当教員、担当外の教員、同じ授業を履修している受講生との報告・連絡・相談の姿勢を大事にすること。

科目コード: 21106 科目ナンバリング: WP44A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 心理福祉演習IV d(Seminar on Psychological Welfare IV d)

担当者: 櫻井 由美子

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:

AL要素: 7.発表
8.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要: 履修者一人ひとりが、自分自身の心理福祉に関する研究課題に取り組み、研究やレポートを完成させる。

キーワード: 心理学的研究 心理学的支援 テーマ学習 相互理解 自己理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 心理福祉演習 I の学びのなかで得た知識を、ディスカッションや報告、レポート等において、適切に活用することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 心理福祉演習 I で得た知識をもとに、あるいはそれらを発展させて、自らの関心について論理的に思考し、レポートで表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、ディスカッションやレポートの取り組みにおける主体性・積極性を、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートの着想や考察の着眼点において、社会貢献の観点が含まれる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

グループワークもしくはレポートの着想や論点において、著しく公正性を欠く言動や記述があった場合には、減点の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1回：心理学的研究の意義(1) 個人レベルにおける意義
- 第2回：心理学的研究の意義(2) 社会システムにおける意義
- 第3回：研究課題の検討(6) データ分析
- 第4回：研究課題の検討(7) 分析結果の解釈
- 第5回：カウンセリングを学ぶ(6) クライエントの自己開示
- 第6回：カウンセリングを学ぶ(7) クライエントの心の変容
- 第7回：研究の完成(1) 研究課題の社会的意義
- 第8回：研究の完成(2) 研究倫理
- 第9回：研究の完成(3) 研究アウトラインの検討
- 第10回：心理学における現代的課題(1) 映画の視聴と理解
- 第11回：心理学における現代的課題(2) 映画の視聴と批判的検討
- 第12回：研究の完成(4) 研究結果の整理とまとめ
- 第13回：研究の完成(5) 研究結果の批判的検討
- 第14回：研究の完成(6) 研究結果の発表
- 第15回：まとめ

使用テキスト： 必要な資料を随時配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 研究を進めるうえでの各自の課題を常に把握し明確にしておくこと。行き詰まりを感じたときには、随時相談してください。

参考文献：

白井利明・高橋一郎 2013 よくわかる卒論の書き方(やわからかアカデミズム・わかるシリーズ)
ミネルヴァ書房

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 連絡方法については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：21106 科目ナンバリング：WP44A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習Ⅳ e(Seminar on Psychological Welfare IV e)

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：**AL要素：** 03.実験・実技・体験
07発表
10資料調査課題
11討論
15レポート指導**授業の概要：**【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

この授業では、心理福祉演習Ⅲに引き続き調査結果をまとめ、中間発表・ディスカッションを通して研究論文に仕上げます。

キーワード： 研究論文、研究テーマ、文献調査、社会調査、**学位授与方針との関係****▼知識・技能**

到達目標： 研究テーマに関する知識を深め、
また、文献調査や社会調査の方法、研究方法を身に付け、概ね80%の完成度で研究論文を作成することができる。

評価方法： 学期末に中間レポート、卒業論文を提出 **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 各自の研究中間発表やグループディスカッションを通して説明する力や表現力を伸ばすことができる。また、論文執筆を通して、思考力や判断力、表現力を伸ばし、概ね80%の完成度で研究論文を完成させることができる。

評価方法： 学期末に中間レポート、卒業論文を提出 **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究テーマや研究方法を自主的に設定し、研究テーマに関する文献調査等を自主的に行うことで、主体的に学修に取り組む態度を身に付ける。
直接的な評価対象にならないが、学期末に提出する卒業研究や卒業レポートの作成に反映される。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

授業中に行う文献調査やディスカッションによって、ゼミメンバー間の助け合いの精神を身につける。
直接的な評価対象としないが、自発的な活動や自主的な学修によって得た知見等が卒業レポートに反映されると思われる。

評価割合： 10%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や中間レポート・研究論文において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 1 オリエンテーション
2 社会問題DVDとグループディスカッションー日本国憲法誕生ー

- 3 社会問題DVDとグループディスカッションー半グラー
 - 4 中間発表準備
 - 5 研究論文の発表とディスカッション1
 - 6 研究論文の発表とディスカッション2
 - 7 研究論文の発表とディスカッション3
 - 8 研究論文の発表とディスカッション4
 - 9 研究論文の発表とディスカッション5
 - 10 卒業研究または卒業レポート作成
 - 11 研究論文の発表とディスカッション6
 - 12 研究論文の発表とディスカッション7
 - 13 卒業研究または卒業レポートの校正・研究研究等の発表練習
 - 14 卒業研究または卒業レポートの校正・研究研究等の発表練習
 - 15 卒業研究または卒業レポートの校正・研究研究等の発表練習
- 期末試験:卒業研究または卒業レポートの提出

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・各自の研究テーマに関することについて、ニュース等に注意しておく。
- ・各自の発表前は、発表の用意をする。
- ・各自の発表後は、ディスカッションの内容について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深める。
- ・以下の参考文献を推薦する。
平山 尚・武田 丈・呉 裁喜他『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、最新版。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項:

- ・日頃から社会のできごとやニュースに注意してください。
- ・課題に対しては、コメントを付して返却します。
- ・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード:21106 科目ナンバリング:WP44A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 心理福祉演習IV f(Seminar on Psychological Welfare IV f)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次:4 単位数:2 授業形式:演習

曜時:月曜3限 履修可能学科・専攻: W

関連資格: AL要素: 07.発表
08.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要: 社会保障、社会福祉にかかわる特定の社会問題や社会現象を取り上げ、調査計画を立案し、調査を実施し、調査報告書を執筆するまでの一連の過程を習得することを目的とする。

キーワード: 社会問題、社会保障、社会調査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: これまでの学びを基に、特定の社会問題や社会現象を社会調査の手法を用いて理解することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート
発表
報告書

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:調査準備(1)
第2回:調査準備(2)
第3回:調査準備(3)
第4回:データ収集(1)
第5回:データ収集(2)
第6回:データ集計(1)
第7回:データ集計(2)
第8回:データ分析(1)
第9回:データ分析(2)
第10回:データ分析(3)
第11回:データ分析(4)
第12回:発表報告・報告書の作成(1)発表準備
第13回:発表報告・報告書の作成(2)発表
第14回:発表報告・報告書の作成(3)報告書作成
第15回:発表報告・報告書の作成(4)振り返り

使用テキスト: 特に指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 初回授業時に説明する。

留意事項: 特になし。

科目コード:21106

科目ナンバリング:WP44A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):心理福祉演習IV g(Seminar on Psychological Welfare IV g)

担当者:望月 珠美

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:W

関連資格:

AL要素:07 発表

10 資料調査課題

11 討論

12 課題討論法

14 輪読活動

15 レポート指導

17 発問と回答

授業の概要: これまでに履修した演習Ⅰ～Ⅲの応用発展、仕上げ編。個々人で定めた研究テーマに計画的に取り組むことを通して、研究遂行力、論文を執筆する力の獲得と向上をめざします。あわせて、定期的に設けられた発表および討論会への参加を通して、マネジメント力、生産的ディスカッションを行うための力、プレゼンテーション技術のさらなる向上を図ります。

キーワード: 幸福 well-being 自己理解 他者理解 心理的支援 連携 社会資源 発達課題 研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 人間福祉にかかわる幅広い視野にたつ研究テーマを自ら選択、決定し、それについて心理学の知識や技術を用いて探求することによって新たな知見を見出すことができる。

評価方法: 発表と討論
期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義で扱った内容について、学修や体験を通して得られた知見に基づいて科学的に考察し、倫理的かつ倫理的にもふさわしいかたちで自らの考えを表現することができる。

評価方法: 発表と討論
期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に加味された成果等が発表やレポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が発表やレポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 後期講義に関するオリエンテーション
- 第2回 中間発表
- 第3回 個別指導(4)
- 第4回 個別指導(5)
- 第5回 個別指導(6)
- 第6回 統計資料の活用(1)
- 第7回 統計資料の活用(2)
- 第8回 研究レポートの要素と項目(1)
- 第9回 研究レポートの要素と項目(2)
- 第10回 研究レポートの校正(1)
- 第11回 研究レポートの校正(2)
- 第12回 プレゼンテーション技法(1)
- 第13回 プレゼンテーション技法(2)
- 第14回 最終発表会
- 第15回 講評および今後に向けて(礼状、報告書の作成を含む)

期末レポート

使用テキスト： 白井利明・高橋一郎(2013年)やわらかアカデミズム・わかるシリーズ,よくわかる卒論の書き方第2版,ミネルヴァ書房。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 自ら定めた研究計画に従って、授業時間外にも主体的に研究テーマの探求に臨むこと。特に関連文献の収集と整理を図るために、学術論文検索サイト、学内図書館等の積極的な活用が求められます。
必要な資料は、適宜、担当者が印刷、配布、もしくはUNIPAを介して配信します。卒業研究の作成にあたっての基本的資料も含まれます。各自でファイル(A4版)し、必要に応じて用いることができるよう整理、保管の上、積極的に活用してください。
前年度から継続して使用しているテキストに加えて次の書籍を参考にするをお奨めします。

松井豊(2010)改訂新版心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー, 河出書房新社, 1700円。

障がいのある履修者への対応： ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは、担当者もしくは学務部までご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項： フィールドワーク等を行う場合には、別途、交通費や宿泊費が発生することがあります。詳細はすべてゼミナールの中で提案、決定します。

科目コード：21106

科目ナンバリング：WP44A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習IV h(Seminar on Psychological Welfare IV h)

担当者：山中 俊克

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：**AL要素：** 17. 発問と回答
07. 発表

授業の概要：「心理演習Ⅲ」に続き、このクラスでは履修者各自が社会福祉または心理領域より選択したテーマをもとに研究をすすめていきます。学生の選択によっては研究を基にしゼミレポートの作成、または卒業研究としてまとめます。自分が選択したテーマについて主体的に研究を進めていくことが求められます。授業は履修者による研究に関する中間発表と研究内容を踏まえたクラスディスカッションを中心にすすめていきます。ゼミレポートまたは卒業研究の執筆にむけてグループあるいは個別指導を随時行います。

キーワード： 生活課題、生活支援、課題研究、プレゼンテーション

学位授与方針との関係**▼知識・技能**

到達目標： 生活課題に対して、課題の要因や支援の在り方について説明することができる。

評価方法： 個人発表、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 取り上げたテーマについて、生活課題として考察し、自らの所見を表現し、研究としてまとめることができる。

評価方法： 個人発表、学期末筆記試験
学期末筆記試験、課題レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により得られ、深められた知見等が個人発表や学期末試験の内容により認められる場合は、上記の項目「思考・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や試験の記述等において差別、偏見、決めつけ、人権侵害など著しく公正性に欠ける言動、発表や試験等における不正行為があった場合減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【第1回】後期授業のオリエンテーション

【第2回】第1グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第3回】第2グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第4回】第3グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第5回】第4グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第6回】第5グループによる中間発表およびクラスディスカッション、講評

【第7回】第1グループによる研究発表

【第8回】第2グループによる研究発表

- 【第9回】第3グループによる研究発表
 - 【第10回】第4グループによる研究発表
 - 【第11回】第5グループによる研究発表
 - 【第12回】研究発表の振り返り、講評
 - 【第13回】スペシャルトピックス?
 - 【第14回】スペシャルトピックス②
 - 【第15回】社会福祉とは何か(まとめ)
- 定期試験

使用テキスト： なし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 3年時の春休み中に自分の興味や関心、問題意識を確認して研究テーマの設定にむけた準備をして下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： なし。

科目コード：21106 科目ナンバリング：WP44A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習IV i (Seminar on Psychological Welfare IV i)

担当者： 國見 充展

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻： W

関連資格：

AL要素： 07. 発表
08. 共同学習
09. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

主に実験的手法によって、感覚、知覚、注意、記憶、言語、思考、推論、問題解決など、あらゆる心の働きについての普遍的な構造のあり方を探究する。各自、興味のあるテーマを決め、実験を行い、統計解析を加えて卒業までに卒業研究としてまとめる。

キーワード： 知覚、認知、生理、神経

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標： ①各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。
②卒業研究の準備を行う。

評価方法： 発表、レポート

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標： 各自が定めたテーマについて理解し、考察し、自分自身の意見を論理的に主張することができる。

評価方法： 授業への参加、コメント

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、また、研究倫理に抵触する行動があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. この授業の到達目標と概略
 2. 研究状況報告(5)
 3. 研究状況報告(6)
 4. 研究状況報告(7)
 5. 研究状況報告(8)
 6. 研究状況報告(9)
 7. 研究状況報告(10)
 8. 研究状況報告(11)
 9. 研究状況報告(12)
 10. 研究状況報告(13)
 11. 卒業論文発表(1)
 12. 卒業論文発表(2)
 13. 卒業論文発表(3)
 14. 卒業論文発表(4)
 15. まとめ

使用テキスト： 特に指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習】

参考文献・資料等： 自身の興味関心領域を明確にする

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 心理福祉演習 I i, II i, III i(国見ゼミ I, II, III)の単位習得後履修可能。

国見ゼミは“研究”を求めます。

研究を進めさえすれば単位習得は容易ですが、そうでなければ単位を認めることは難しくなります。

就職、進学等、進路は様々ですので、各自の研究に対するハードル(研究の最終ゴール)に差が生じるのは当たり前です。

就職希望者には就職希望者なりの、進学希望者には進学希望者なりのハードルとスケジュール設定を行いますので、教員との報連相を密に取ることを必須条件として求めます。

科目コード：21106

科目ナンバリング：WP44A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理福祉演習IV j(Seminar on Psychological Welfare IV j)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：07：発表
08：協同学習
10：資料調査課題
11：討論
14：輪読活動
15：レポート指導

授業の概要： 人間の言動を心理学的視点から考える態度を身につける。
視聴覚教材や書籍、論文等を活用し、自分なりの人間理解を深める。

キーワード： 心理学的視点
自己理解
他者理解
人間理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自分自身の研究テーマを意識しながら、自分や他者の言動を心理学的視点から考えることができる。

評価方法： 課題
発表 **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 演習を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。

評価方法： 課題
発表 **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言や課題内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】人間理解を深める-1(課題の選定)
【第02回】人間理解を深める-2(課題の検討と整理)
【第03回】人間理解を深める-3(課題の検討と整理)
【第04回】人間理解を深める-4(発表)
【第05回】人間理解を深める-5(講評)

- 【第06回】人間理解を深める-1(課題の選定)
- 【第07回】人間理解を深める-2(課題の検討と整理)
- 【第08回】人間理解を深める-3(課題の検討と整理)
- 【第09回】人間理解を深める-4(発表)
- 【第10回】人間理解を深める-5(講評)
- 【第11回】人間理解を深める-1(課題の選定)
- 【第12回】人間理解を深める-2(課題の検討と整理)
- 【第13回】人間理解を深める-3(課題の検討と整理)
- 【第14回】人間理解を深める-4(発表)
- 【第15回】人間理解を深める-5(全体講評)

使用テキスト： 課題に必要な資料は受講者自身が主体的に用意すること。
授業担当者が助言することも可能である。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日頃から意識して人間の言動を観察し、他者とのコミュニケーションを図るなどして、人間理解の促進に努めること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項： 演習は休まず参加することに意味があります。心身の健康に留意して、演習に臨んでください。

科目コード：21107 科目ナンバリング：WP10C27K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人間観と倫理A (Concept of Man and Ethics A)

担当者：佐々木 徹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：18. その他

授業の概要： おそらく現代は、倫理の危機を迎えている時代であると言える。近代の様々な問題を解決できないまま、我々は21世紀の時代を生きている。近代思想の反省を通じて倫理思想の基本を確認し、人間の問題を捉えなおす。そして、倫理の再生について考察し、我々の将来への希望を開く道を探る。
授業時に、しばしば受講者から質問を募る。

キーワード： 他者、個人と社会、民主主義の母体としての批判精神

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で得た知識を概ね覚え、自ら主体的に倫理の問題について思索できる。

評価方法： 定期筆記試験。

評価割合： 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 人間倫理の諸問題についてに自らの思索を、論理的にまとめ上げ、文章で表現できる。

評価方法： 定期筆記試験。

評価割合： 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしないが、試験の論述問題で、主体的、意欲的に独創的な論究を展開した場合は、評価対象となることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしないが、講義内容が、受講者の日々の歩みに直接かかわることもあるのは明白であろう。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業時や試験で、人間倫理に反する著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は、『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回： 導入(倫理的存在者としての人間)
 - 第2回： 日本の哲学(東洋と西洋・思想の風土性)
 - 第3回： 「他者」との遭遇
 - 第4回： 社会と個人(人間存在の社会性)
 - 第5回： 人間存在は間柄的か？(和辻倫理学の検討)
 - 第6回： 人権の思想
 - 第7回： ホッブズにおける人間と国家
 - 第8回： 人間の尊厳と国家(あるいは近代の悲運としての国家)
 - 第9回： ナチズムはなぜ生まれたか。
 - 第10回： 倫理の危機を乗り越えて平和を構築すること(フロイトを超えて)
 - 第11回： 自我の自覚(私が私であること)
 - 第12回： 実存の世界(キルケゴールなど)
 - 第13回： フォイエルバッハにおける人間、マルクスにおける人間の歴史
 - 第14回： サルトルにおける(実存と人類)から諸宗教の(世界倫理)へ
 - 第15回： 人類の将来に向かう倫理の再生
- 定期試験

使用テキスト： 授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： やさしいものでよいため、正式な哲学書、倫理学書に慣れ親しんでおくとう理解が深まる。人間を抑圧している問題の解決をめぐって、新たな次元が見えてくるまで粘り強く思索し続ける習慣を持つこと。参考文献等は授業時に指示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したりする。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード：21108 科目ナンバリング：WP10C28K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人間観と倫理B(Concept of Man and Ethics B)

担当者：佐々木 徹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：18. その他

授業の概要： 人間の倫理の問題について考察するにあたり、まず人間存在の外側に中心をずらして、そ

こから根源的な次元を探るという方途を取る。人間と緊密に関係している、生きている人間の外側の中心とは、環境、死者、動物、そして神などである。具体的事例を通して、人間とその倫理に関する哲学的考察の基本を学ぶ。現代の人間の問題について反省し、希望の将来へとつなげる倫理学の構築を考える。

講義時に、しばしば受講者から質問を募る。

キーワード： 共生、環境保護、平和の構築、生と死

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義から得た、倫理の諸問題に関する知識を概ね体得し、自分で考える際の素材にできる。

評価方法： 定期筆記試験

評価割合： 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 倫理について主体的に思索し、それを論理的に文章で表現できる。

評価方法： 定期筆記試験

評価割合： 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしないが、試験の論述問題で、主体的、意欲的に、独創的な思索を展開する場合は、評価の対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価の対象とはしない。しかし、講義内容が受講者の日々の歩みに直接関連することは明白であろう。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業や試験で、人間の倫理に反する著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 第1回： 導入(人間の真の幸福とは何か)
- 第2回： 宮沢賢治におけるデクノボー(利他の境涯)
- 第3回： 人間中心主義からの真の脱却(ニーチェを超えて)
- 第4回： 森の生活と倫理(環境破壊を阻止するために)
- 第5回： アイヌ民族の生活と倫理(アニミズムの倫理に学ぶ)
- 第6回： 呪術と科学(科学の権限と限界、我々の時代の世界象)
- 第7回： 学術の倫理と技術開発の問題
- 第8回： 原子力と人類(核兵器の廃絶に向かって)
- 第9回： 人間存在の歴史性と自然性
- 第10回： 身体の現象学と<魂>の所在
- 第11回： いのちの尊厳について考える(生命倫理に関連して)
- 第12回： 生の向こう側からの声(死者の未来・生者の歴史的責任)
- 第13回： 動物の幸福(野生動物、ペット、実験動物などをめぐって)
- 第14回： 宗教と倫理はいかに関係するか
- 第15回： 倫理学の再構築と神中心的キリスト教倫理

定期試験

使用テキスト： 授業時にプリントを配る。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： やさしいものでいから、正式な哲学書、倫理学書に慣れ親しんでいると理解が深まる。自己中心、自分の周囲中心、人間中心の習慣から離れて考え続けることをやってみると、新し

い次元が開けてくるかもしれない。参考文献等は、授業時に指示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したり、オフィスアワーで担当者が直接対応したりする。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード：21109 科目ナンバリング：WP20C29K 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：人体の構造と機能及び疾病 a(Human Body Structure, Function and Diseases a)
担当者：大平 裕子

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：講義
曜時：火曜5限 履修可能学科・専攻：W
関連資格：福祉主 社福士 公認心理 AL要素：なし

授業の概要： 社会福祉士として必須とされる人体の解剖生理学ならびに臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を正しく理解すること、また難病疾患、高次脳機能障害、ICF、リハビリテーションなど、特に重要となる分野にも触れながら解説して行きます。

キーワード： 人体の正常解剖生理学。疾患と病態生理学。難病疾患。高次脳機能障害。ICF。リハビリテーション。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 人体の健常解剖生理学の病態生理学を知り、社会福祉士として、患者さまに対する妥当的対応とその意義を正しく理解出来ること。

評価方法： 前期試験100点満点のうち、6割相当の配当点で評価する **評価割合：** 55%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会福祉士として患者様に対応する上で、難病疾患や高次脳機能障害、ICFの考え方や対象としてのとらえ方や判断力を持てること。

評価方法： 前期試験100点満点のうち、4割相当の配当点で評価する **評価割合：** 35%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席状況や出席票問題正答率、課題提出物の態度から総合的に評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 1)前期15回の講義内容
1回 ガイダンス・一般臨床医学の概要

- 2回 人体の構造・機能:人体の構造と機能
- 3回 人体の構造・機能:各器官と機能
- 4回 人体の構造・機能:各器官と機能
- 5回 人体の構造・機能:成長と老化
- 6回 現代社会と疾病:先天性疾患・生活習慣病・メタボリック症候群
- 7回 現代社会と疾病:悪性腫瘍・感染症
- 8回 現代社会と疾病:神経疾患・精神疾患・難病
- 9回 高齢者と身体変化:加齢に伴う身体変化・高齢者に多くみられる疾患
- 10回 リハビリテーション医療の概要:理念・対象
- 11回 リハビリテーション医療の概要:関連職種・分類と今後の課題
- 12回 精神保健学:精神障害の診断と対応
- 13回 精神保健学:ライフサイクルにおける精神保健・職場における精神保健
・わが国の精神保健対策
- 14回 講義の振り返り・過去問の解説
- 15回 講義の振り返り・過去問の解説
- 別16回 定期試験(100点満点)

使用テキスト: 教科書1)『人体の構造と機能及び疾病』第4版 (弘文堂) 責任編集=朝元美利

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 講義内容の振り返りをしてください、その内容をもとに試験を出題します。

障がいのある履修者への対応: 授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応を行ないません。

授業時間外の連絡手段: 学務部へ問い合わせください。

留意事項: 社会福祉士を希望する学生や、福祉系の学びを深めたい学生は、aクラスを履修ようにしてください。公認心理士を希望する学生や、心理系の学びを深めたい学生は、bクラスを履修ようにしてください。

科目コード: 21109 **科目ナンバリング:** WP20C29K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 人体の構造と機能及び疾病 b(Human Body Structure, Function and Diseases b)

担当者: 渡辺 康志

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 福祉主 社福士 公認心理 **AL要素:** レポート

授業の概要: 正常の人体の構造と機能について解説します。そのうえで、異常な状態(疾病)の成立機序や、正常な老化現象などについても解説します。

キーワード: 解剖生理学。医学。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会福祉士や公認心理師に必要な医学的知識を得て、患者やその家族と適切に対応できる。

評価方法: レポート **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 妥当な判断ができる

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席状況

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 15回の講義内容

- 1回 ガイダンス・一般臨床医学の概要
- 2回 人体の構造・機能: 人体の構造と機能
- 3回 人体の構造・機能: 各器官と機能
- 4回 人体の構造・機能: 各器官と機能
- 5回 人体の構造・機能: 成長と老化
- 6回 現代社会と疾病: 先天性疾患・メタボリック症候群
- 7回 現代社会と疾病: 悪性腫瘍・感染症
- 8回 現代社会と疾病: 循環器疾患
- 9回 現代社会と疾病: 生活習慣病
- 10回 老化
- 11回 リハビリテーション医療の概要: 理念・対象
- 12回 リハビリテーション医療の概要: 関連職種・今後の課題
- 13回 精神保健学
- 14回 医事法制と保健・医療機関及び専門職
- 15回 振り返り

使用テキスト: 資料等を授業時に適宜配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書「公認心理師必携テキスト 改訂第2版」

障がいのある履修者への対応: 授業履修前に学務部に相談下さい。可能な限り対応します

授業時間外の連絡手段: 学務部へ問い合わせください。

留意事項: 社会福祉士を希望する学生や福祉系の学びを深めたい学生は、aクラスを履修するようにしてください。公認心理師を希望する学生や心理系の学びを深めたい学生は、bクラスを履修するようにしてください。

科目コード: 21110

科目ナンバリング: WP20C30K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 神経・生理心理学(Neuro and Physiological Psychology)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 公認心理

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 脳と心との関係を調べるヒト対象の非侵襲的脳機能測定法や自律神経系機能検査を、判り易く、具体的にその方法論に触れながら、授業を進めて行く。スライド提示による図譜や画像での内容紹介や機能解剖学的手技も実践的に取り入れながら、イメージし易いように授業内容の工夫を盛り込む予定である。

キーワード： 脳機能計測, 生理指標, 高次脳機能障害

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ① 脳神経系の構造及び機能の理解
② 記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解
③ 高次脳機能障害の概要の理解

評価方法： 定期試験
課題

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ① 神経・生理心理学の重要性とその内容を正しく説明できる
② 現代人が抱える諸問題をそれに呼応した具体的な検査手技とその使用法から、何をもって何が判明するのかを具体的に説明できる

評価方法： 同上

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

1. ガイダンス: 神経活動, 心理生理学の検査手技及び計算論とその統計解析の概説
2. 脳の構造と機能局在と検査手技
3. 脳神経と自律神経の構造と機能及び検査手技
4. 中枢神経と末梢神経の信号形成と神経伝達物質
5. 知覚とその心理物理学の特性及びその生理学的反応の機序
6. 記憶の種類と学習の神経回路
7. 情動行動・性行動とその神経回路及び生理学的反応の機序
8. 動機づけとその生理学的反応の機序
9. 心の病気とその生理学的反応の機序
10. 大脳側性化: 大脳半球の機能的非対称性の機能生理学的反応の機序
11. 睡眠と摂食行動とその生理学的反応の機序
12. 意識と無意識の脳内情報処理様式の機序
13. 高次脳機能障害総論(失語・失行・失認・原因・症候学と病態生理等)

- 14.高次脳機能障害各論-1(記憶障害・遂行機能障害・注意障害・社会的行動障害等)
15.高次脳機能障害各論-2(リハビリテーション・生活訓練・就労移行支援等)
定期試験

使用テキスト: 指定しない。資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 多岐にわたる心理学という学問領域のなかで、生理心理学とはどういったジャンルか、ということを知っておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 1. 事前に「**知覚・認知心理学**」を履修しておくことと理解が深まる(履修要件ではない)。
2. 講義中の私語、電話や食事等、他の学生の履修や授業進行の妨げとなる行為を禁止する。途中退室を認めるので、それらを済ませてから再度入室すること。
3. 2. を繰り返す場合、妨害の意図の有無に関わらず以降の受講を断る場合がある。

科目コード: 21112 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理福祉特講D(Special Lecture D)

担当者: 黒澤 泰、渡邊 健蔵、山川 誠司

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

心理学を修学するうえで英語によって書かれた概説書や論文を読むことは避けて通れない。しかし、これらの書籍には心理学特有の専門用語や言い回しが用いられており、これまで学生が学び修得してきた一般英語とは異なる。そのため、研究、進学、就職のために心理学英語の読解を求められた際、専門的なトレーニングなしでクリアするのは困難である。

本講義では英語で書かれた心理学テキストを輪読する形で授業を進め、心理学英語に慣れ、専門用語を知り、特有の表現を修得する専門的なトレーニングを実施する。

教員は複数名のオムニバスとし、基礎心理学、応用心理学、心理統計等の複数の心理学領域を網羅することを目指す。

キーワード: 心理英単語, 英語論文, APA Style

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 心理学英語に慣れ、専門用語を知り、特有の表現を修得する。

評価方法: 課題およびレポート

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ① 英語で書かれた心理学専門書の内容を理解、説明できる。
② 英語で書かれた心理学教材を適切な日本語に翻訳できる。

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュ

ニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1.オリエンテーション
 - 2.英語論文読解(初級)①
 - 3.英語論文読解(初級)②
 - 4.心理学論文の英語表現
 - 5.心理学研究法の英文読解
 - 6.教育心理学系の英文読解①
 - 7.教育心理学系の英文読解②
 - 8.教育心理学系の英文読解③
 - 9.社会心理学系の英文読解①
 - 10.社会心理学系の英文読解②+小テスト
 - 11.臨床心理学の英文読解①
 - 12.臨床心理学の英文読解②
 - 13.臨床心理学の英語読解③
 - 14.臨床心理学の英文読解④
 - 15.臨床系心理学の英文読解⑤+小テスト

*受講者の理解と進捗によって、講義内容は変更します。

使用テキスト： 指定しない。資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと 英語教材の読解が中心となるため、英語の基礎知識があると有利であるが、授業内容の予
参考文献・資料等： 習復習によって「英語が苦手」でも十分受講可能である。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 本科目は研究を進めるうえで英語論文に触れうる者や大学院進学希望者のほか、就職試験および就職後に英語読解を求められる者等に対するの受講を推奨する。それ以外の理由で履修を希望する学生も歓迎する。

科目コード：21113

科目ナンバリング：WP11C02K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ソーシャルワークの基盤と専門職(Common Base and Profession of Social Work I)

担当者： 呉 恩恵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：10資料調査課題
11討論

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(基本的には同時双方向型)但し、課題研究型やオンデマンドで実施する場合もあるので必ず、お知らせ(ユニパとチームズ)を確認してください。

本講義では、ソーシャルワークをその基盤から学ぶ。総合的かつ包括的なソーシャルワーク(相談援助)専門職の定義と形成過程に関する知識、ソーシャルワーク(相談援助)の基盤である価値と倫理を理解する。また、ソーシャルワーク(相談援助)を実践するための重要な課題について理解を深める。

ソーシャルワークを理解するために、動画資料や個人・グループワークを行いながら具体的に理解する。なお、ソーシャルワーカーである社会福祉士・精神保健福祉士の特徴を理解し、他職種との違いやチームワークについて理解を深める。

キーワード: 社会福祉、ソーシャルワーク(社会福祉援助技術)、ソーシャルワーカー、専門的価値観

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 以下のことを理解することができる。

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程
- ③ソーシャルワークの価値規範と倫理
- ④社会福祉士の職域と求められる役割
- ⑤ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
- ⑥ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性
- ⑦総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容

評価方法: リアクションペーパー提出、**評価割合: 60%**
前期試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ①ソーシャルワークはなぜ登場するようになったのか。
②現代社会と人々が抱えている課題は何か。
③いま、社会福祉士および精神保健福祉士にどのような役割が求められているのか。

上記の具体例をもとに議論し、まとめることができる。

評価方法: リアクションペーパー提出、**評価割合: 40%**
前期試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象にはならないが、主体的に授業に臨みノートを取ることで、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、人に興味をもち、積極的に人と関わる体験は、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

ソーシャルワーカーが持たなければいけない絶対価値は人権の尊重である。本授業においては、ソーシャルワークの基礎を学ぶにあたって真摯な授業参加態度を期待する。

直接的な評価の対象とはしないが、授業中の発言やワークシートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. オリエンテーション、社会福祉をとりまく状況と求められるソーシャルワーク
 2. 社会福祉士及び介護福祉士法
 3. 精神保健福祉法
 4. ソーシャルワークの定義
 5. ソーシャルワークの特徴
 6. ソーシャルワークの構成要素(1)
 7. ソーシャルワークの構成要素(2)
 8. ソーシャルワークの構成要素(3)
 9. ソーシャルワークと社会資源
 10. ソーシャルワークの原理と理念
 11. ソーシャルワークの理念(1)
 12. ソーシャルワークの理念(2)
 13. ソーシャルワークの倫理(3)
 14. ミクロ・メゾ・マクロ・レベルにおけるソーシャルワーク(1)
 15. ミクロ・メゾ・マクロ・レベルにおけるソーシャルワーク(2)
- 【定期試験】

16. 前期の内容の振り返り
 17. ソーシャルワークの源流(1)
 18. ソーシャルワークの源流(2)
 19. ソーシャルワークの基礎確立期
 20. ソーシャルワークの発展期(1)
 21. ソーシャルワークの発展期(2)
 22. ソーシャルワークの展開期(1)
 23. ソーシャルワークの展開期(2)
 24. 日本におけるソーシャルワークの形成過程(1)
 25. 日本におけるソーシャルワークの形成過程(2)
 26. ソーシャルワークの倫理(価値と倫理)
 27. ソーシャルワークの倫理(ジレンマ)
 28. 専門職の概念と範囲
 29. ソーシャルワークの職域と役割
 30. 後期のまとめ
- 【期末試験】

使用テキスト：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、中央法規、2021
・必要に応じて、資料等を印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと【予習・復習のポイント】

- 参考文献・資料等：
- ・授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
 - ・授業終了後には、授業内容を復習するとともに、ノートの整理を行う。
 - ・毎回、リアクションペーパーを提出する。

【参考文献等】

法律や用語は、以下の文献を活用し、知識の整理にあたる。

- ・『社会福祉小六法』ネルヴァ書房(最新版)
- ・『社会福祉の新たな展望』—現代社会と福祉、ドメス出版、古川孝順、2012

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段： まずは、メールで用件を送ってもらえるとありがたいです。

- ・Eメールのタイトル:簡単に用件を記入
- ・本文:学籍番号と氏名

留意事項: ・この授業は、後期から始まる「ソーシャルワーク演習 I」、及び次の年度の「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク演習(専門)」に向けて基礎知識を学ぶとともに、ソーシャルワーカーとしての心構えの形成を意図する。
・2年次以降履修する「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」の前提科目になる。
・社会福祉士の受験取得のための必修科目になる。
・授業時には、動画資料や個人・グループワークを行うことがある。
・受講において自主的に取り組む姿勢、他の受講生の学習を妨げることがないように教室マナーを要する。

科目コード:21114 科目ナンバリング:WP12C01K 主な使用言語:日本語
授業名(英文): ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)(Common Base and Profession of Social Work)
担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次:1 単位数:2 授業形式:講義
曜時:月曜3限 履修可能学科・専攻: W
関連資格: 教職 福祉主 社福士 福祉心理 AL要素: 10資料調査課題
11討論
16振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(基本的には同時双方向型)但し、課題研究型やオンデマンドで実施する場合もあるので必ず、お知らせ(ユニパとチームズ)を確認してください。

本講義では、ソーシャルワークをその基盤から学ぶ。総合的かつ包括的なソーシャルワーク(相談援助)専門職の定義と形成過程に関する知識、ソーシャルワーク(相談援助)の基盤である価値と倫理を理解する。また、ソーシャルワーク(相談援助)を実践するための重要な課題について理解を深める。

ソーシャルワークを理解するために、動画資料や個人・グループワークを行いながら具体的に理解する。なお、ソーシャルワーカーである社会福祉士・精神保健福祉士の特徴を理解し、他職種との違いやチームワークについて理解を深める。

キーワード: 社会福祉、ソーシャルワーク(社会福祉援助技術)、ソーシャルワーカー、専門的価値観

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 以下のことを理解することができる。

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程
- ③ソーシャルワークの価値規範と倫理
- ④社会福祉士の職域と求められる役割
- ⑤ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
- ⑥ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性
- ⑦総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容

評価方法: リアクションペーパー提出、**評価割合: 60%**
前期試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ①ソーシャルワークはなぜ登場するようになったのか。
②現代社会と人々が抱えている課題は何か。

③いま、社会福祉士および精神保健福祉士にどのような役割が求められているのか。

上記の具体例をもとに議論し、まとめることができる。

評価方法:リアクションペーパー提出、
前期試験

評価割合:40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象にはならないが、主体的に授業に臨みノートを取ることで、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、人に興味をもち、積極的に人と関わる体験は、ソーシャルワークの理解に反映されると思われる。

評価割合:0%

▼公正性

ソーシャルワーカーが持たなければいけない絶対価値は人権の尊重である。本授業においては、ソーシャルワークの基礎を学ぶにあたって真摯な授業参加態度を期待する。

直接的な評価の対象とはしないが、授業中の発言やワークシートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション、社会福祉をとりまく状況と求められるソーシャルワーク
 2. 社会福祉士及び介護福祉士法
 3. 精神保健福祉法
 4. ソーシャルワークの定義
 5. ソーシャルワークの特徴
 6. ソーシャルワークの構成要素(1)
 7. ソーシャルワークの構成要素(2)
 8. ソーシャルワークの構成要素(3)
 9. ソーシャルワークと社会資源
 10. ソーシャルワークの原理と理念
 11. ソーシャルワークの理念(1)
 12. ソーシャルワークの理念(2)
 13. ソーシャルワークの倫理(3)
 14. ミクロ・メゾ・マクロ・レベルにおけるソーシャルワーク(1)
 15. ミクロ・メゾ・マクロ・レベルにおけるソーシャルワーク(2)

【定期試験】

16. 前期の内容の振り返り
17. ソーシャルワークの源流(1)
18. ソーシャルワークの源流(2)
19. ソーシャルワークの基礎確立期
20. ソーシャルワークの発展期(1)
21. ソーシャルワークの発展期(2)
22. ソーシャルワークの展開期(1)
23. ソーシャルワークの展開期(2)
24. 日本におけるソーシャルワークの形成過程(1)
25. 日本におけるソーシャルワークの形成過程(2)
26. ソーシャルワークの倫理(価値と倫理)

- 27.ソーシャルワークの倫理(ミゼンマ)
- 28.専門職の概念と範囲
- 29.ソーシャルワークの職域と役割
- 30. 後期のまとめ

【期末試験】

使用テキスト: 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、中央法規、2021
 ・必要に応じて、資料等を印刷・配布を行う。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

- ・授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
- ・授業終了後には、授業内容を復習するとともに、ノートの整理を行う。
- ・毎回、リアクションペーパーを提出する。

【参考文献等】

- 法律や用語は、以下の文献を活用し、知識の整理にあたる。
- ・『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房(最新版)
- ・『社会福祉の新たな展望』—現代社会と福祉、ドメス出版、古川孝順、2012

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応をしたいので、まずは学務部等に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段: まずは、メールで用件を送ってもらえるとありがたいです。
 ・Eメールのタイトル:簡単に用件を記入
 ・本文:学籍番号と氏名

留意事項: ・この授業は、後期から始まる「ソーシャルワーク演習 I」、及び次の年度の「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク演習(専門)」に向けて基礎知識を学ぶとともに、ソーシャルワーカーとしての心構えの形成を意図する。
 ・2年次以降履修する「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」の前提科目になる。
 ・社会福祉士の受験取得のための必修科目になる。
 ・授業時には、動画資料や個人・グループワークを行うことがある。
 ・受講において自主的に取り組む姿勢、他の受講生の学習を妨げることがないように教室マナーを要する。

科目コード:21115 科目ナンバリング:WP20C01K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 社会福祉発達史A(History and Development of Social Work A)

担当者: 田家 英二

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N

関連資格:教職 福祉主 福祉心理

AL要素: 10. 資料調査課題

16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

欧米における社会福祉の発達過程についてふれることを通して、その先駆的な歴史の流れから、社会福祉の思想の変遷を学び、社会福祉における普遍的な思想や原理を理解する。社会福祉について時代背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。

授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可(情報端末必携)。

質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。

授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。

評価は、授業内課題(レポート)で行う。

キーワード： エリザベス救貧法、新救貧法、慈善組織化運動、セツルメント運動、ベヴァリッジ報告

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。
社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。

評価方法： 授業内課題で評価。

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ることにより、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。
授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業内課題で評価。

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。課題レポートの記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：【前期】

資料をUNIPAで提供します。質問は、メールでも受け付けます。

第1回：ガイダンスおよび社会福祉における歴史的研究の意義と課題

第2回：イギリスの社会福祉のあゆみ(1) 中世社会の慈善事業

第3回：イギリスの社会福祉のあゆみ(2) キリスト教の慈善事業

第4回：イギリスの社会福祉のあゆみ(3) 救貧法の成立

第5回：イギリスの社会福祉のあゆみ(4) 新救貧法の成立

第6回：イギリスの社会福祉のあゆみ(5) 社会事業の成立

第7回：イギリスの社会福祉のあゆみ(6) 福祉国家と社会福祉の展開と福祉改革

第8回：アメリカの社会福祉のあゆみ(1) 植民地時代の救貧体制から社会保障の成立まで

第9回：アメリカの社会福祉のあゆみ(2) 専門社会事業の確立

第10回：アメリカの社会福祉のあゆみ(3) 第二次世界大戦後の社会福祉と福祉権運動

第11回：スウェーデン・デンマークの社会福祉と社会保障制度

第12回：西欧の歴史と人物、そして福祉(1)

第13回：西欧の歴史と人物、そして福祉(2)

第14回：西欧の歴史と人物、そして福祉(3)

第15回：西欧の歴史と人物、そして福祉のまとめ

適宜、授業内課題の提出を求める。

使用テキスト： 授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習：各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくと理解が深まります。(90分)
復習：配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分)
参考文献：室田保夫編著『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房、2013年
右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史-政策と運動の展開-』(新版) 有斐閣選書、2012年
その他、授業時に随時紹介します。

障がいのある履修者への対応： 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応致します。来校ができない場合は、メールで対応します。

留意事項：【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントを付与する。

科目コード：21116 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：社会福祉発達史B(History and Development of Social Work B)

担当者：田家 英二

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N

関連資格：教職 福祉主 福祉心理

AL要素：10. 資料調査課題
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業(遠隔授業を希望する学生はメールにて連絡をください)

わが国の社会福祉の歴史について、前史としての古代社会や封建社会の動向から、近代社会以降、さらに戦前と戦後の時代的変遷とその特徴を検討することで、社会福祉について時代的背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。

授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可(情報端末必携)。

質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。

授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。

評価は、授業内課題(レポート)で行う。

キーワード： 恤救規則、救護法、社会福祉三法と社会福祉事業法、社会福祉六法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。
社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。

評価方法： 授業内課題で評価する

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ること

により、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。
授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業内課題で評価する

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。課題レポートの記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【後期】

- 第1回: 古代から中世社会の慈善救済
 - 第2回: 前期・後期封建社会と慈善救済
 - 第3回: 明治維新と公的救済制度(恤救規則)
 - 第4回: 社会事業の成立と展開(救護法)
 - 第5回: 社会事業から戦時厚生事業へ
 - 第6回: 戦後改革期の社会福祉
 - 第7回: 福祉三法の成立
 - 第8回: 社会福祉事業法と福祉の近代化
 - 第9回: 福祉六法体制
 - 第10回: 高度経済成長期の社会福祉
 - 第11回: 低成長期と福祉見直し論から現代社会福祉
 - 第12回: 日本の社会福祉と人物(1)
 - 第13回: 日本の社会福祉と人物(2)
 - 第14回: 日本の社会福祉と人物(3)
 - 第15回: 日本のソーシャルワークの歴史
- 適宜、授業内課題の提出を求める。

使用テキスト: 授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習: 各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくとう理解が深まります。(90分)

復習: 配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分)

参考文献: 室田保夫編著『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房、2010年
右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史-政策と運動の展開-』(新版) 有斐閣選書、2012年

その他、授業時に随時紹介します。

障がいのある履修者への対応: 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応致します。来校できない場合は、メールで対応します。

留意事項: 【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントを付与する。

科目コード: 21117 科目ナンバリング: WP11C03K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会・集団・家族心理学I(Social, Group and Family Psychology I)

担当者: 黒澤 泰

基本情報

年次: 1 単位数: 2 授業形式: 講義

曜時: 金曜4限 履修可能学科・専攻: W

関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理 AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 社会心理学とは、社会の中で生きる人の態度や行動の理解を目指す、心理学の一分野である。この講義では、1) 日常生活の様々な現象を社会心理学の視点から分析すること、2) よりよい社会構造や対人関係の構築に、社会心理学を生かすことを目指す。社会・集団・家族心理学Iでは、個人内過程に焦点を当て授業を進める。

キーワード: 社会的認知、感情、自己、対人行動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた社会・集団・家族心理学の基本的な専門用語について、概ね80%の事項を理解している。

評価方法: 期末試験 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの知見を提出課題を通して表現することができる。

評価方法: 期末試験 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修の成果が期末試験の記載内容に加えられた場合、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、カンニング等の不正行為があった場合、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第一回: 旅の始まり(社会心理学とは)

【個人内過程】

第二回: 自己認知
第三回: 社会的認知
第四回: 原因帰属
第五回: 帰属の誤り
第六回: 感情(1)
第七回: 感情(2)
第八回: 感情(3)

【対人過程】

第九回: 態度
第十回: 対人魅力・友情
第十一回: 恋愛
第十二回: 視聴覚教材
第十三回: 視聴覚教材

【対人過程・集団過程】

第十四回: 社会的ジレンマ
第十五回: 災害・防災

使用テキスト: 公認心理師の基礎と実践11 社会・集団・家族心理学(2,600円+税)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 自分の経験や体験と関連づけながら、学習すること。授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ、知見を深めることが望ましい(90分)

参考文献

・池上知子・遠藤由美(2008).グラフィック社会心理学. 第2版 サイエンス社
・加藤 司・谷口 弘一(2008). 対人関係のダークサイド. 北王路書房
・日本家族心理学会編著(2019). 家族心理学ハンドブック. 金子書房.
その他、必要な資料は適宜、配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まず学務部等に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メール対応を基本とする。メールアドレスは初回の授業で伝える。

留意事項: デバイスの持参を推奨します。

初回に受講ルールを説明するので、受講希望者は(やむを得ない事情がない限りは)、必ず出席すること。なお、適切な学習環境を保つため、私語、携帯電話や携帯音楽プレイヤーなどの使用、他の受講生の迷惑になる行為を禁じる。欠席回数が六回を超える場合、いかなる成績であっても評価の対象としない(失とする)。

科目コード: 21118 科目ナンバリング: WP12C02K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会・集団・家族心理学II(Social, Group and Family Psychology II)

担当者: 黒澤 泰

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 認心理 福祉心理 公認心理

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業の進め方】対面授業をベースにするが、授業内容に関しては録画し、Stream上にてアップロードする。また、授業資料に関しては、Teams上にアップロードする。Google フォームにて、授業後三日間以内の感想・コメントを求める。

社会心理学とは、社会の中で生きる人の態度や行動の理解を目指す、心理学の一分野である。この講義では、1) 日常生活の様々な現象を社会心理学の視点から分析すること、2) より

よい社会構造や対人関係の構築に、社会心理学を生かすことを目指す。社会・集団・家族心理学IIでは、対人過程と集団過程に焦点を当て授業を進める。

キーワード： 対人関係、家族、集団、相互作用、社会的行動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた社会心理学の基本的な専門用語について、概ね80%の事項を理解し、表現することができる。

評価方法： 最終レポート

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの知見を表現することができる。

評価方法： 最終レポート

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修の成果が期末試験の記載内容に加えられた場合、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、カンニング等の不正行為があった場合、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回:オリエンテーション(授業概要の説明)

【対人過程】

第2回:対人行動(1):攻撃

第3回:対人行動(2):差別

第4回:対人行動(3):援助

【集団過程】

第5回:集団過程(1):家族とシステム

第6回:集団過程(2):社会的手抜き

第7回:集団過程(3):社会的促進

第8回:視聴覚教材(1)

第9回:視聴覚教材(2)

第10回:ネット調査

【集団と個人】

第11回:文化

第12回:幸福(1)

第13回:幸福(2)

第14回:旅の終わりと旅の始まり

第15回:社会心理学とはなにであり、なにでないか

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 自分の経験や体験と関連づけながら、学習すること。

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：ソーシャルワーク実習の理解(1)「実習目的の学習」
 - 第2回：ソーシャルワーク実習の理解(2)「ソーシャルワークの理解」
 - 第3回：実習先施設等の事前学習(1)「実習領域。実習施設等の理解」
 - 第4回：実習先施設等の事前学習(2)「利用児者の理解」
 - 第5回：実習先施設等の事前学習(3)「施設見学」
 - 第6回：実習先施設等の事前学習(4)「施設見学の振り返り」
 - 第7回：実習先施設等の事前学習(5)「職種と業務の理解」
 - 第8回：実習での達成目標・課題の検討(1)「人間関係の形成」
 - 第9回：実習での達成目標・課題の検討(2)「援助関係の形成」
 - 第10回：実習での達成目標・課題の検討(3)「アセスメントとプランニング」
 - 第11回：実習での達成目標・課題の検討(4)「チームアプローチ」
 - 第12回：実習での達成目標・課題の検討(5)「地域社会と社会資源」
 - 第13回：実習での達成目標・課題の検討(6)「その他の課題」
 - 第14回：実習準備・確認(1)「基本的記録技術の活用」
 - 第15回：実習準備・確認(2)「経過記録SOAPの活用」

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等：

【予習・復習のポイント】

- ・(授業前)事前に提示される事前課題について文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら作成する(90分)。
- ・(授業後)事後課題(ワークシートなど)についてを文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら授業の内容について振り返りを行い、提出する(90分)。

【参考文献】

実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず参加すること。

科目コード: 21119

科目ナンバリング: WP11C04E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導I b(Seminar on Field Work for Social Work Practice I b)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 07.発表

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習に必要とされる価値・知識・技術を復習する。また、実習の意義の理解を深め、社会福祉士として習得すべき価値や知識、技術の試行を確実に身に付けられるよう、実習計画書を作成する。さらに、施設等の現場職員や実習体験者からの講話をとおして、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。

ワークシートや実習計画書の作成の際には、個別にスーパービジョンを受け、個別的スーパービジョンにより、ソーシャルワークに必要な専門性についての自己覚知を深める

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習前及び実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 事前課題

評価割合: 50%

ワークシート

レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り組んだ体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：ソーシャルワーク実習の理解(1)「実習目的の学習」
 - 第2回：ソーシャルワーク実習の理解(2)「ソーシャルワークの理解」
 - 第3回：実習先施設等の事前学習(1)「実習領域。実習施設等の理解」
 - 第4回：実習先施設等の事前学習(2)「利用児者の理解」
 - 第5回：実習先施設等の事前学習(3)「施設見学」
 - 第6回：実習先施設等の事前学習(4)「施設見学の振り返り」
 - 第7回：実習先施設等の事前学習(5)「職種と業務の理解」
 - 第8回：実習での達成目標・課題の検討(1)「人間関係の形成」
 - 第9回：実習での達成目標・課題の検討(2)「援助関係の形成」
 - 第10回：実習での達成目標・課題の検討(3)「アセスメントとプランニング」
 - 第11回：実習での達成目標・課題の検討(4)「チームアプローチ」
 - 第12回：実習での達成目標・課題の検討(5)「地域社会と社会資源」
 - 第13回：実習での達成目標・課題の検討(6)「その他の課題」
 - 第14回：実習準備・確認(1)「基本的記録技術の活用」
 - 第15回：実習準備・確認(2)「経過記録SOAPの活用」

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイント

参考文献・資料等：

- ・(授業前)事前に提示される事前課題について文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら作成する(90分)。
- ・(授業後)事後課題(ワークシートなど)についてを文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら授業の内容について振り返りを行い、提出する(90分)。

【参考文献】

実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず参加すること。

科目コード: 21119

科目ナンバリング: WP11C04E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導I c(Seminar on Field Work for Social Work Practice I c)

担当者: 今橋 みづほ

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 07.発表

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習に必要なとされる価値・知識・技術を復習する。また、実習の意義の理解を深め、社会福祉士として習得すべき価値や知識、技術の試行を確実に身に付けられるよう、実習計画書を作成する。さらに、施設等の現場職員や実習体験者からの講話をとおして、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。

ワークシートや実習計画書の作成の際には、個別にスーパービジョンを受け、個別的スーパービジョンにより、ソーシャルワークに必要な専門性についての自己覚知を深める

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習前及び実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 事前課題

評価割合: 50%

ワークシート

レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り組んだ体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート
レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:
- 第1回: ソーシャルワーク実習の理解(1)「実習目的の学習」
 - 第2回: ソーシャルワーク実習の理解(2)「ソーシャルワークの理解」
 - 第3回: 実習先施設等の事前学習(1)「実習領域。実習施設等の理解」
 - 第4回: 実習先施設等の事前学習(2)「利用児者の理解」
 - 第5回: 実習先施設等の事前学習(3)「施設見学」
 - 第6回: 実習先施設等の事前学習(4)「施設見学の振り返り」
 - 第7回: 実習先施設等の事前学習(5)「職種と業務の理解」
 - 第8回: 実習での達成目標・課題の検討(1)「人間関係の形成」
 - 第9回: 実習での達成目標・課題の検討(2)「援助関係の形成」
 - 第10回: 実習での達成目標・課題の検討(3)「アセスメントとプランニング」
 - 第11回: 実習での達成目標・課題の検討(4)「チームアプローチ」
 - 第12回: 実習での達成目標・課題の検討(5)「地域社会と社会資源」
 - 第13回: 実習での達成目標・課題の検討(6)「その他の課題」
 - 第14回: 実習準備・確認(1)「基本的記録技術の活用」
 - 第15回: 実習準備・確認(2)「経過記録SOAPの活用」

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等:

- ・(授業前)事前に提示される事前課題について文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら作成する(90分)。
- ・(授業後)事後課題(ワークシートなど)についてを文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら授業の内容について振り返りを行い、提出する(90分)。

【参考文献】

実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず参加すること。

科目コード: 21120

科目ナンバリング: WP12C03E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導Ⅱ a(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅱ a)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 07.発表

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習体験を整理・総括する。それらを記述する実習報告書の作成をとおして、自身の価値観や知識、技術を振り返る。また、実習報告会の準備をとおして、実習体験におけるソーシャルワーク技術を概念化・理念化・体系化する。

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 実習前及び実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 事前課題

評価割合: 50%

ワークシート

レポート

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート

評価割合: 50%

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回: 実習準備と確認(3)「スーパービジョンの活用」
 - 第2回: 実習準備と確認(4)「中間評価と実習計画書の活用」
 - 第3回: 実習準備と確認(5)「実習前確認: リスクマネジメントについて」
 - 第4回: 実習の振り返り(1)「実習目標・課題の評価」
 - 第5回: 実習の振り返り(2)「印象深いソーシャルワーク体験の再構成」
 - 第6回: 実習の振り返り(3)「印象深いソーシャルワーク体験の評価」
 - 第7回: 実習体験に基づくグループ研究(1)「グループ研究のテーマ検討」
 - 第8回: 実習体験に基づくグループ研究(2)「テーマと関わる先行研究の検討」
 - 第9回: 実習体験に基づくグループ研究(3)「テーマと先行研究の中間報告」
 - 第10回: 実習体験に基づくグループ研究(4)「テーマに関わる実践事例の検討」
 - 第11回: 実習体験に基づくグループ研究(5)「考察の検討」
 - 第12回: 実習体験に基づくグループ研究(6)「ポスター制作」
 - 第13回: 実習体験に基づくグループ研究(7)「リハーサル」
 - 第14回: ポスター発表会(1)
 - 第15回: ポスター発表会(2)

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・(授業前)事前に提示される事前課題について文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら作成する(90分)。
- ・(授業後)事後課題(ワークシートなど)についてを文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら授業の内容について振り返りを行い、提出する(90分)。

【参考文献】

実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず参加すること。

科目コード: 21120

科目ナンバリング: WP12C03E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導Ⅱ b(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅱ b)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 07.発表

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習体験を整理・総括する。それらを記述する実習報告書の作成をとおして、自身の価値観や知識、技術を振り返る。また、実習報告会の準備をとおして、実習体験におけるソーシャルワーク技術を概念化・理念化・体系化する。

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習前及び実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 事前課題

評価割合: 50%

ワークシート

レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート

評価割合: 50%

レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワーク

シートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：実習準備と確認(3)「スーパービジョンの活用」
 - 第2回：実習準備と確認(4)「中間評価と実習計画書の活用」
 - 第3回：実習準備と確認(5)「実習前確認：リスクマネジメントについて」
 - 第4回：実習の振り返り(1)「実習目標・課題の評価」
 - 第5回：実習の振り返り(2)「印象深いソーシャルワーク体験の再構成」
 - 第6回：実習の振り返り(3)「印象深いソーシャルワーク体験の評価」
 - 第7回：実習体験に基づくグループ研究(1)「グループ研究のテーマ検討」
 - 第8回：実習体験に基づくグループ研究(2)「テーマと関わる先行研究の検討」
 - 第9回：実習体験に基づくグループ研究(3)「テーマと先行研究の中間報告」
 - 第10回：実習体験に基づくグループ研究(4)「テーマに関わる実践事例の検討」
 - 第11回：実習体験に基づくグループ研究(5)「考察の検討」
 - 第12回：実習体験に基づくグループ研究(6)「ポスター制作」
 - 第13回：実習体験に基づくグループ研究(7)「リハーサル」
 - 第14回：ポスター発表会(1)
 - 第15回：ポスター発表会(2)

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・(授業前)事前に提示される事前課題について文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら作成する(90分)。
- ・(授業後)事後課題(ワークシートなど)についてを文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら授業の内容について振り返りを行い、提出する(90分)。

【参考文献】

実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

- ・以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- ・以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず参加すること。

科目コード: 21120 **科目ナンバリング:** WP12C03E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導Ⅱc(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅱc)
担当者: 今橋 みづほ

基本情報

年次: カリキュラム **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 水曜3限 **履修可能学科・専攻:** W
関連資格: 教職 社福士 福祉心理 **AL要素:** 07.発表
11.討論
13.役割演技と模擬体験
15.レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業
実習体験を整理・総括する。それらを記述する実習報告書の作成をとおして、自身の価値観や知識、技術を振り返る。また、実習報告会の準備をとおして、実習体験におけるソーシャルワーク技術を概念化・理念化・体系化する。

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 実習前及び実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通じ、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 事前課題 **評価割合:** 50%
ワークシート
レポート

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業での体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート **評価割合:** 50%
レポート

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：実習準備と確認(3)「スーパービジョンの活用」
 - 第2回：実習準備と確認(4)「中間評価と実習計画書の活用」
 - 第3回：実習準備と確認(5)「実習前確認：リスクマネジメントについて」
 - 第4回：実習の振り返り(1)「実習目標・課題の評価」
 - 第5回：実習の振り返り(2)「印象深いソーシャルワーク体験の再構成」
 - 第6回：実習の振り返り(3)「印象深いソーシャルワーク体験の評価」
 - 第7回：実習体験に基づくグループ研究(1)「グループ研究のテーマ検討」
 - 第8回：実習体験に基づくグループ研究(2)「テーマと関わる先行研究の検討」
 - 第9回：実習体験に基づくグループ研究(3)「テーマと先行研究の中間報告」
 - 第10回：実習体験に基づくグループ研究(4)「テーマに関わる実践事例の検討」
 - 第11回：実習体験に基づくグループ研究(5)「考察の検討」
 - 第12回：実習体験に基づくグループ研究(6)「ポスター制作」
 - 第13回：実習体験に基づくグループ研究(7)「リハーサル」
 - 第14回：ポスター発表会(1)
 - 第15回：ポスター発表会(2)

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと

- 参考文献・資料等：**
- ・(授業前)事前に提示される事前課題について文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら作成する(90分)。
 - ・(授業後)事後課題(ワークシートなど)についてを文献・ソーシャルワーク関連科目のノートなどを参考にしながら授業の内容について振り返りを行い、提出する(90分)。

【参考文献】

実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

以下の参考文献を推薦する。

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉の包括的支援体制』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『高齢者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『児童・家庭福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『権利擁護を支える法制度』中央法規(最新版)
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『福祉サービスの組織と経営』中央法規(最新版)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項: 【履修上の注意】

- 以下の科目が履修済みであること。
社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
- 以下の科目を同時履修すること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ
※ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

※詳細については、4月の資格別ガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず参加すること。

科目コード:21123 科目ナンバリング:WP10C29K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):福祉心理学(Psychology for Social Welfare)

担当者:望月 珠美

基本情報

年次:カリキュラム 単位数:2 授業形式:講義

曜時:水曜4限 履修可能学科・専攻:W

関連資格:認心理 福祉心理 公認心理 AL要素:10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要: ノーマライゼーション、ストレンクス、エンパワメントなど社会福祉の重要理念を土台とした上で、社会的弱者、マイノリティとしてその権利性が著しく阻害されてきた児・者、その家族や集団に対する心理的支援の現状と課題について学ぶ。
具体的には、児童虐待、高齢者虐待、障害児・者や認知症高齢者、貧困・自死・自殺等にかかわる事例を用いながら、それぞれのニーズや課題を把握し対応するための各種心理的技法とともにチームアプローチ、多職種多機関連携の実践についての学びを通して心理専門職従事者に求められる役割や機能について理解する。

キーワード: 社会福祉 心理社会的課題 虐待 障害 認知症 多職種連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
- 社会福祉をめぐる重要概念について正しく理解している。
 - 人権の尊重を旨とする各種関連法および制度について正しく理解している。
 - 今日の福祉現場における心理社会的課題について理解している。

評価方法: 課題への取り組み **評価割合:** 50%
期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 講義で扱った内容について、学修や体験を通して得られた知見に基づいて科学的に考察し、倫理的かつ端的に自らの考えを表現することができる。

評価方法: 課題への取り組み **評価割合:** 50%

期末レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が小レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末試験等の記述内容により認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1.オリエンテーション
 - 2.社会福祉の歴史と今日的課題
 - 3.人間理解とアタッチメント
 - 4.家族の理解と支援
 - 5.社会的養護の意味と課題
 - 6.貧困家庭への支援
 - 7.児童虐待(1)
 - 8.児童虐待(2)
 - 9.自死自殺をめぐって(1)
 - 10.自死・自殺をめぐって(2)
 - 11.障害、疾病の理解と支援
 - 12.高齢期の理解と対応(1)
 - 13.高齢期の理解と対応(2)
 - 14.多職種連携による支援
 - 15.まとめ

期末試験

使用テキスト： 渡部純夫・本郷一夫編著(2021年)公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑩福祉心理学,下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫監修,ミネルヴァ書房,2400円。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 社会との関連が深い領域学習となるため、日頃から新聞やニュースを通じて社会の動向に対する関心と理解を高めておくこと。

予習:使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、テーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については予め調べ、確認をしておく(例えば、障害名や疾患名、各種法律、その他読み方が分からない漢字など)。

復習:使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて授業内容を発展させ、茨城県や在住する地域社会の統計資料や自治体の取り組みなどについて自主的に調べるなどして知見を深めることが望ましい。

将来、公認心理師をめざす学生は次の書籍もあわせて活用することを推奨する。
中島健一編(2018年)福祉心理学,公認心理師の基礎と実践17,野島一彦・繁榊算男監修,遠見書房,2600円。

障がいのある履修者への対応: ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項: なし

科目コード: 21124 **科目ナンバリング:** WP10C30K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 健康・医療心理学(Health and Medical Psychology)

担当者: 渡邊 彰一

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 福祉心理 公認心理

AL要素: 11:討論

14:輪読活動

16:振返用紙・応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

本講では公認心理師等の資格取得に必要な医療保健領域における実践的な心理学的知見について学ぶ(公認心理師学部養成課程必須科目)。心理学領域として、健康心理学、医療心理学の双方に焦点を当て、テキスト各单元について輪読活動、グループ討論、まとめのサイクルを繰り返す。社会福祉士や医療福祉領域への就職を考えている学部生においても有用な知見を共有する。さらに、学びを促進するために、授業担当者として医療領域等での臨床(実務)経験を踏まえ、医療現場の実態に裏づけられた内容の授業を行う。

<授業の目的・ねらい>

- ・ストレスの生理と心身の疾病の発症メカニズム
- ・医療現場における心理社会的課題と支援方法
- ・保健活動における心理的支援の実際
- ・災害時における心理的支援の方法と実際

<達成課題>

- ・ストレスと心身の疾病との関係について説明できる。
- ・医療現場における心理社会的課題について説明できる。
- ・医療現場における必要な支援方法、連携の在り方について説明できる。
- ・さまざまな保健活動における必要な心理的支援について説明できる。
- ・災害時などの有事に際し、必要な心理的支援について説明できる。

キーワード: 健康心理学, 医療心理学, 災害心理学, 多職種協働など

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 講義内容に関して、おおむね8割の内容を理解した上で、グループレポート(含むプレゼンター

ション)と定期試験において解答することができる。

評価方法: グループレポート, 定期試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義内容に関して, 自主的な学びで得た知見や経験を踏まえて考察し, 論理的かつ簡潔に解答することができる。

評価方法: 定期試験, リアクションペーパー

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学び, 経験が授業態度や定期試験の記述内容に認められる場合は, 上記項目の評価に含める。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

講義時や筆記試験等において, 人権の侵害, 差別的な内容など著しく公正性を欠く言動, 記述等が認められた場合, またカンニング等の不正行為が認められた場合は, 減点や注意の対象とするので十分留意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 オリエンテーション(講義の目的と評価方法, テキストの各章の決定等)
※初回授業時, 輪読のグループ分けを行います。

第2回 健康心理学

第3回 健康心理学におけるアセスメントと支援

第4回 心の健康とストレスマネジメント

第5回 健康心理学における心理的支援法

第6回 医療心理学

第7回 医療心理学におけるアセスメントと支援

第8回 精神科と児童精神科

第9回 院内独立型心理室の実際

第10回 心療内科

第11回 小児期, 周産期, 緩和医療の領域

第12回 地域保健活動の実際

第13回 災害心理学

第14回 多職種協働と医療連携

第15回 まとめ

定期試験

※上記授業計画に関して, 変更する可能性がある。

使用テキスト: 宮脇 稔, 大野太郎他(編著) 2018 「公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学」医歯薬出版(株)

※上記テキスト(教科書)が必須です。テキストの各章を輪読しグループでまとめ, プレゼンテーションして授業を進めます。初回授業までに全員必ず購入してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業・講義時, 適宜必要な文献等を紹介しします。

障がいのある履修者への対応: ※可能な限り対応します。まずは学務部へ申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 授業・講義の前後に直接申し出てください。

留意事項： 本講は、グループでレポートを作成し、その内容をプレゼンテーションしながら各グループでの相互理解を深めていく輪読活動が必須です。各自が自主的・主体的に授業・講義に臨む姿勢が求められます。
※欠席回数が規定を超えると学則に基づき単位取得はできないので注意すること。

科目コード：21125 科目ナンバリング：WP10C31K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：発達心理学(Developmental Psychology)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：1 単位数：2 授業形式：講義

曜時：火曜2限 履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 認心理 福祉心理 公認心理 AL要素：17:発問と回答

授業の概要： 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達と各発達段階での特徴を理解することを目的とする。
認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達を含める。
発達障害等非定型発達および高齢者の心理社会的課題についての基礎的な知識や考え方を学び、より良い支援の方策を考える。

なお科目担当者の公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、必要に応じて様々な発達段階での事例を紹介・解説する。

キーワード： 心身の発達
発達段階
発達支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 発達心理学領域における既存の諸理論を概ね80%理解し、課題や試験に臨むことができる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：** 50%
授業課題

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学習を通して、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：** 50%
授業課題

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、履修取り消しの勧告もしくは減点や注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】発達の基礎理論-1
【第02回】発達の基礎理論-2
【第03回】胎児期
【第04回】乳児期
【第05回】幼児期前期
【第06回】幼児期後期
【第07回】児童期
【第08回】ふりかえりと確認-1
【第09回】青年期前期
【第10回】青年期中期
【第11回】青年期後期
【第12回】成人期
【第13回】高齢期
【第14回】発達の気になる側面
【第15回】ふりかえりと確認-2
定期試験

使用テキスト： 手にとるように発達心理学が分かる本 小野寺敦子著 かんき出版

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等：

授業での学びをしっかりと復習(90分)し、定期試験や課題に備えて知識の定着(90分)を図ってください。

※主体的、能動的に毎回の授業に取り組むことが求められます。

※人は一生涯に亘って成長発達していくものです。授業内容に関連して自分のことを内省する、自分と周囲の人との関係について考えるなどを積み重ねていくと学習効果が上がり、人間理解がいつそう深まると思います。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項：

科目について：

○この科目は選択科目です。卒業のための必修科目ではありません。

○公認心理師を目指す方は履修をお勧めします。

履修について：

○1年生に配置されている科目のため1年生の履修を優先にします。

○2年生以上の再履修はお勧めしません(ただし、公認心理師資格取得を目指して大学院進学を明確に希望する方はご相談ください。履修条件を提示しますので科目担当者の指示にしたがってください)。

授業について：

○教育効果が上がるように授業を進めてゆきたいと思いますが、授業運営に支障が出ると科目担当者が判断した場合は、履修あるいは履修の継続を認めない場合があります。

○履修を考えている方は、上記項目をよく理解したうえで、初回の授業に必ず出席してください。

科目コード:21126

科目ナンバリング:WP20C23J

主な使用言語:日本語

授業名(英文):心理学実験I(Psychological Experiments I)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:実験

曜時:金曜3限 金曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】教室で行う通常授業, 遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

心理学の実証的研究がどのように行われているかを体験的に理解するために, さまざまな心理学基礎実験を行う。その中で, 仮説の設定, 実験方法, 結果の整理と分析について学び, 心理学のレポート作成を習得する。これにより, 人が無意識に行っている行動に一定の法則のあることを学ぶ。

なお, 数量的なデータ分析に関してはHAD(清水,2016)を用いる。※清水裕士(2016). フリーの統計分析ソフトHAD:機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.

キーワード: 認知, 知覚, 脳, 実験, 統計

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 実験を通して心理学の基本的知識を学び, 実験手続きを習得する。またそれを実行する技能を持つ。

評価方法: 提出されたレポートと最終課題を総合して 評価割合: 70%
決定する。なお, 最終課題は提出までに,
担当教員により複数回の添削を行う。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 変数の意味とそれらの関係を理解し, 心理現象における原因を思考, 判断, 表現できる。

評価方法: 同上。 評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし実験への参加, 他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は, 減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合, 問題があると判断された場合は, 減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 以下のテーマで実験を行う。

- 1:オリエンテーション、レポートの書き方、心理学研究法の確認
- 2:語の記銘

- 3: 日常記憶
- 4: メンタルローテーション
- 5: 逆さメガネ
- 6: ミュラー・リヤーの錯視
- 7: 鏡映描写
- 8: パーソナルスペース
- 9: ストループ
- 10: コミュニケーションの変容
- 11: 自己評価と他者評価
- 12: 個別指導
- 13: 個別指導
- 14: 囚人のジレンマ
- 15: 分析手法の説明と研究計画立案

使用テキスト: 使用しない。

予習・復習のポイントと【参考文献】

参考文献・資料等: 日本心理学会認定心理士資格認定委員会(編集)(2015). 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 単行本. 金子書房.
松井 豊 (2010). 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。
なお、対応しうる配慮の範囲が座学とは異なりますので、**必ず事前に**学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項:

1. 「心理学統計法」および「心理学研究法Ⅰ」の単位修得の後に本科目を履修できる(履修要件)。
2. 就職活動などで欠席する場合、あらかじめ担当教員に連絡すること。
3. 実験はグループワークを主とする。そのため、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となる。
4. 心理学実験は物理的環境が実験参加者へ与える身体的・精神的影響を十分考慮せねばならない。また、実験用機材の適切な利用のため、定められた手続きは厳守せねばならない。これらの条件を満たし、研究倫理に基づいた安全な実験を実施するため、教員の指示に従えない者は本科目を履修することができない。

科目コード: 21127 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理学実験II(Psychological Experiments II)

担当者: 國見 充展

基本情報

年次: カリキュラム **単位数:** 1 **授業形式:** 実験

曜時: 金曜3限 金曜4限 **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 認心理 福祉心理 **AL要素:** 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】教室で行う通常授業、遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

心理学の実証的研究がどのように行われているかを体験的に理解するために、さまざまな心理学基礎実験を行う。その中で、仮説の設定、実験方法、結果の整理と分析について学び、心理学のレポート作成を習得する。これにより、人が無意識に行っている行動に一定の法則のあることを学ぶ。

なお、数量的なデータ分析に関してはHAD(清水,2016)を用いる。※清水裕士(2016). フリーの統計分析ソフトHAD:機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.

キーワード: 認知, 知覚, 脳, 実験, 統計

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 実験を通して心理学の基本的知識を学び, 実験手続きを習得する。またそれを実行する技能を持つ。

評価方法: 提出されたレポートと最終課題を総合して **評価割合: 70%**
決定する。なお, 最終課題は提出までに,
担当教員により複数回の添削を行う。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 変数の意味とそれらの関係を理解し, 心理現象における原因を思考, 判断, 表現できる。

評価方法: 同上。 **評価割合: 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし実験への参加, 他者の尊重, 報告・連絡・相談の姿勢, 他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は, 減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合, 問題があると判断された場合は, 減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: グループごとに調査, 実験テーマを設定し, 次のような手順でその実証を行う。

- 1:オリエンテーション
- 2:実験計画の立案
- 3:実験準備
- 4:実験実施
- 5:データ分析
- 6:グループ指導
- 7:これからの心理学基礎実験
- 8:まとめ

1～7までの授業時間は各180分であり, 8の授業時間は90分である。

使用テキスト: 使用しない。

予習・復習のポイントと 【予習・復習】

参考文献・資料等: 心理学研究法の内容を前提とする部分が多いため, 適宜, 復習を行っておくこと。

【参考文献】

日本心理学会認定心理士資格認定委員会(編集)(2015). 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 単行本. 金子書房.

松井 豊 (2010). 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

- 留意事項：**
1. 本科目は「心理学研究法Ⅰ」と「心理学統計法」、「心理学実験Ⅰ」の単位修得の後に履修できる。
 2. 就職活動などで欠席する場合、あらかじめ担当教員に連絡すること。
 3. 基本的に、実験はグループで実施する。そのため、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションは本科目履修上の必要条件となる。
 4. 心理学実験は物理的環境が実験参加者へ与える身体的・精神的影響を十分考慮せねばならない。また、実験用機材の適切な利用のため、定められた手続きは厳守せねばならない。研究倫理に基づいた安全な実験を実施するため、これらの理由から教員の指示に従えない者、指示外の行動をする者は本科目を履修することができない。

科目コード：21128 科目ナンバリング：WP30C03K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：司法・犯罪心理学(Forensic and Criminal Psychology)

担当者：渡邊 彰一

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉心理 公認心理

AL要素：07.発表 11.討論 13.役割演技と疑似体験
16.振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】 課題研究型

本講において、司法・矯正・犯罪領域に関して、主として、非行・犯罪を中心テーマに授業を進めます。警察、児童相談所、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、児童養護施設、保護観察所等の各関係機関における具体的な事例を題材として取り上げ、事例を基に、個人検討、グループ討議、全体討議等を重ね、皆さんの疑問や関心に答え理解を深める授業をめざします。さらに、これらの学びを促進するために、授業担当者として自身の臨床、実務経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行います。※事例研究に関しては、事例を書き取ってまとめる、という作業が事例概要を把握することに重要です(事例によっては長文に及ぶことがあります)。

なお、授業においては、外部講師を招へいし、具体的な実務の話を聴くとともに質疑応答等をおとし一層の理解を深めることのできる場を設けることを予定しています。ただし、状況によっては外部講師の授業が実施できないことがあります。ご了承ください。

キーワード： 精神疾患 DSM-5 心理的支援 司法 非行・犯罪

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 司法・矯正・犯罪領域に関する知識を得て理解を深め定着させることができる。また、心理や社会に関する諸問題を考えるうえでそれらの知識を適切に活用することができる。

評価方法： レポート
定期試験
小テスト

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業のテーマや授業で得た知識に関して、自らの関心や疑問に照合させつつ思考することができる。また、それらの関心や疑問を、文章を用いて適切に表現することができる。

評価方法： 定期試験
コメントシート
小テスト
レポート

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了時に取り組むコメントシートにおいて、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がコメントシートや学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

コメントシートや定期試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：オリエンテーション(講義の目的と評価方法)
第2回：非行・犯罪心理学を学ぶにあたって(定義・発達の視点・研究方法等)
第3回：非行・犯罪心理学を学ぶにあたって(職域と課題)
第4回：公的統計から見る近年の非行・犯罪傾向
第5回：事例—警察(性犯罪被害者への支援)
第6回：事例—家庭裁判所(少年事件)
第7回：事例—家庭裁判所(家事事件)
第8回：事例—更生保護(保護観察官)少年による特殊詐欺事犯
第9回：事例—更生保護(社会復帰調整官)精神障害者による事犯
第10回：事例—少年鑑別所収容事例
第11回：外部講師による講話(予定)
第12回：事例—刑事施設収容事例(刑務所収容者)
第13回：事例—児童養護施設・児童自立支援施設措置事例
第14回：事例—医療観察法対象行為事例(指定入院医療機関及び指定通院医療機関)
第15回：まとめ(振り返り)
定期試験
なお、上記授業計画に関して変更する可能性がある。

使用テキスト： 指定するものはありません(パワーポイント、配付資料等を基本とします。)

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等： シラバスに記載されている各回のテーマについて、下記の参考文献等を用いて、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むことを推奨する。

【復習】

配布資料について復習するとともに、関連事項について下記文献等を用いて、各自学修を進めることが期待される。

参考文献：

「犯罪白書」法務省総合研究所編、村瀬嘉代子(編)2015「臨床心理学 第15巻第4号 司法・矯正領域で働く心理職のスタンダード」金剛出版 その他犯罪心理学関連のテキストなど

参考事項：

事例等に対する理解をより深めるために、個人検討・グループ討議・全体討議等を重ねます。積極的・主体的姿勢での参加を求めます(発表者に当たった際は、より積極的な姿勢を求めます。)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業・講義の前後に直接申し出てください。

留意事項： 今年度も外部講師(実務者)による授業(講話)を予定しています。貴重な機会であり、講話に関する質問や日頃の疑問点等、積極的な発言(参加姿勢)を期待します。
※状況によっては実施できないことがあります。その際はご了承ください。

科目コード：21129 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：精神疾患とその治療(Psychiatric Disorders and Treatments)

担当者：山川 誠司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 福祉心理 公認心理

AL要素：11 討論
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型
※授業形態については、適宜、Teamsに発信します。お手数をおかけしますが、こまめにご確認ください。

本授業では、まず、代表的な精神疾患について、そのメカニズムや成因の捉え方の概要を学びます。そのうえで、代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について学びます。支援についてはさらに、薬物治療の機序と効果、ならびに医療機関との連携のポイントについて理解することを目指します。

授業修了時の到達目標は以下のとおりです。

- ・代表的な精神疾患の概要と患者・家族への心理的支援を説明できる。
- ・薬物治療の機序とその心身への影響を説明できる。

授業では、授業内容についての受講者のコメントをもとに、受講者の疑問や関心を踏まえた授業をめざします。さらに、これらの学びを促進するために、授業担当者は自身の実務経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行います。

キーワード： 精神疾患 治療法(薬物療法を含む) DSM-5 医療との連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 精神疾患の知識を理解し自らの知識として定着させることができる。また、心理的支援との関連でそれらの知識を適切に活用することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 精神疾患に関する知識と照合させつつ、自らの関心や疑問について思考することができる。また、それらの関心や疑問を、文章を用いて適切に表現することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 30%

コメントシート

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了時に取り組むコメントシートにおいて、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、利他的・愛他的活動(ボランティア活動等)の実践により深められた知見等がコメントシートや学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

コメントシートや定期試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1: 精神疾患の概要
 - 2: 精神疾患と心理的支援
 - 3: 医療機関との連携と薬物療法
 - 4: 神経発達症(1)知的能力障害および自閉スペクトラム症
 - 5: 神経発達症(2)注意欠如・多動症および限局性学習症
 - 6: 不安関連障害(1)パニック症・PTSD
 - 7: 不安関連障害(2)社会不安症・強迫症
 - 8: 摂食障害
 - 9: 心身症と解離症
 - 10: 物質関連障害および嗜癖性障害
 - 11: 高齢者の精神障害
 - 12: 身体疾患に伴う心理的問題
 - 13: 抑うつ障害・双極性障害
 - 14: 統合失調症
 - 15: パーソナリティ障害
- 定期試験

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて配布します。

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等： シラバスに記載されている各回のテーマについて、下記の参考文献等を用いて、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むことを推奨する。

【復習】

配布資料について復習するとともに、関連事項について下記文献等を用いて、各自学修を進めることが期待される。

参考文献：

下山晴彦他 2016 公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法 医学書院
三村将・幸田るみ子・成本迅 2019 精神疾患とその治療 医歯薬出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 対応の方法については、前期・後期の初回にお知らせします。

留意事項：

特になし

科目コード：21130

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理学統計法(Psychological Statistics)

担当者： 國見 充展

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 福祉心理 公認心理

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型

心理学研究を行う上で必要となる統計学の理論と方法、およびその基礎となる考え方を解説する。数学的側面よりも概念的な理解を重視し、具体的な心理学研究の事例に沿うよう授業をすすめる。

キーワード： 心理統計

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ① 心理学で用いられる統計手法の習得
② 統計に関する基礎的な知識の理解

評価方法： 定期試験
課題

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ① 心理学研究上において適切な統計手法を選択できる。
② 統計によって主張に客観的、理論的根拠を持たせられる。

評価方法： 同上

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

1. 統計法と測定値の取り扱い
2. 度数分布と統計図表
3. 中心傾向の測度
4. 変数の散布度の概念とその重要性
5. 分散と標準偏差
6. 正規分布・標準正規分布
7. パーセンタイル点・順位
8. 直線相関と直線回帰
9. 相関係数に影響する要因と解釈時の留意点
10. 統計的検定の考え方
11. 検定の方向性

- 12.第1種と第2種の誤り, 検出力
 - 13.t分布, 母平均と標本平均の検定
 - 14.母平均の区間推定
 - 15.2つの平均値の差の検定
- 定期試験

使用テキスト: 指定しない。資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実験データを統計的に処理するため, 統計および数学の知識があると有利。しかし授業内容の予習復習によって「数学が苦手」でも十分受講可能。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項:

1. 本科目の単位修得後に「心理学実験Ⅰ」を履修することができる。
2. 講義中の私語, 電話や食事等, 他の学生の履修や授業進行の妨げとなる行為を禁止する。途中退室を認めるので, それらを済ませてから再度入室すること。
3. 2. を繰り返す場合, 妨害の意図の有無に関わらず以降の受講を断る場合がある。

科目コード: 21131 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 学習・言語心理学(Psychology of Learning and Language)

担当者: 生駒 忍

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義
曜時: 水曜6限 **履修可能学科・専攻:** W
関連資格: 認心理 福祉心理 公認心理 **AL要素:** 16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(オンデマンド型)
 基礎的な条件づけから、社会的学習、行動療法、学校の中の学びといった発展的領域までの学習心理学と、言語の獲得と発達、対人コミュニケーションなどを扱う言語心理学を学ぶ。

キーワード: 学習、言語、発達、環境、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で扱った学習心理学ならびに言語心理学の主要な内容について、8割程度を目安に理解し解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 60%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 各回の講義で扱った内容について、自主学修によって得た知識や日常経験と合わせて考察し、客観的にまとめることができる。

評価方法: 振り返り用紙 **評価割合:** 40%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。
 ただし、講義中にミニ課題等を行うので、主体的に参加し体感的に理解を深められることを求める。

評価割合: 0%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ **公正性**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：【第1回】学習心理学の考え方
心理学における「学習」のとらえ方を大まかにつかむ。
- 【第2回】レスポナント条件づけ(1) 理論
条件づけの基礎的な考え方や実験手法を理解する。
- 【第3回】レスポナント条件づけ(2) 応用
臨床現場にレスポナント条件づけを応用する手法を理解する。
- 【第4回】オペラント条件づけ(1) 強化と弱体化
自発的な行動を変える方法をつかむ。
- 【第5回】オペラント条件づけ(2) 複雑な行動の学習
オペラント条件づけの発展的な理解を深める。
- 【第6回】オペラント条件づけ(3) 応用行動分析
臨床現場にオペラント条件づけを応用する手法を理解する。
- 【第7回】模倣と観察学習
他者からの影響について、学習心理学の考え方からとらえる。
- 【第8回】認知行動療法の基礎
学習心理学と認知心理学とから発展した心理臨床の世界を知る。
- 【第9回】言語獲得(1) 乳幼児のコミュニケーション
人生早期における音声を通じたかかわりから言語獲得への流れをとらえる。
- 【第10回】言語獲得(2) 音声言語とその障害
発話や聴解の能力とその障害について、心理学から理解を深める。
- 【第11回】言語獲得(3) 書記言語とリテラシー
読み書きの能力や機能について理解する。
- 【第12回】言語的コミュニケーション
ことばを用いての対人コミュニケーションについて考える。
- 【第13回】教育とことば
学校教育における言語と学習のかかわりについて理解を深める。
- 【第14回】社会と状況の中での学びとコミュニケーション
社会的な学習やコミュニケーションについて、心理学から考える。
- 【第15回】学習・進化・文化
人間が変わっていくことの本質や意味について考える。

使用テキスト：テキスト指定なし
講義プリントを配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 授業前に、各回のテーマに関して書籍等で概要を把握しておく。
授業後に、配付プリント等に基づき復習を行うと共に、講義で取り上げた事項について自主
学修を進める事が望ましい。

障がいのある
履修者への対応： 合理的配慮に務めるので、先だって学務部等に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 電子メールにて対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：21132 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育・学校心理学(Educational and School Psychology)

担当者：青木 万里

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：認心理 福祉心理 公認心理

AL要素：07:発表

08:協同学修

10:資料調査課題

11:討論

17:発問と回答

授業の概要： 授業を通して、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。

なお科目担当者の公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、必要に応じて教育現場の事例を紹介・解説する。

キーワード： 教育心理学
学校心理学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： (1) 教育心理学及び学校心理学に関する基礎的知識を理解できる。
(2) 教育現場の諸問題への支援について理解できる。

評価方法： 授業課題
定期試験
(レポート)

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業課題
定期試験
(レポート)

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし受講態度が他の学生の学修の模範となる場合は、上記の項目「知識・技能」もしくは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

また逆に、受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、履修取り消しの勧告もしくは減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合や問題があると判断された場合は、減点や注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】オリエンテーション
【第02回】公認心理師とは
【第03回】教育の諸問題
【第04回】特別支援教育
【第05回】学びのプロセス
【第06回】学びの環境
【第07回】学級集団
【第08回】学校問題-1
【第09回】学校問題-2
【第10回】学校問題-3
【第11回】教師への対応
【第12回】保護者への対応
【第13回】チーム学校-1
【第14回】チーム学校-2
【第15回】総括
定期試験(レポート)

使用テキスト：公認心理師の基本を学ぶテキスト⑱ 教育・学校心理学 水野・串崎編著 ミネルヴァ書房

予習・復習のポイントと 授業での学びを自分でしっかり振り返ること(90分)。

参考文献・資料等： そのうえで課題や試験に備えて、自主学修をしていくこと(90分)が大切です。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお伝えします。

留意事項：

【履修を考えている方へ】

1. 公認心理師受験資格のための指定科目となります。明確な目的意識を持って受講してください。
2. 「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」「発達心理学」「臨床心理学概論」で学んだ知識を前提に授業が進みます。これらの科目を履修済みであることが望ましいです。
3. 授業ではAL要素を多く取り入れる予定です。そのため他者への配慮と尊重・授業を休まないこと・積極的に討論に参加する態度などが求められます。
4. 授業では学校問題(いじめ・不登校・虐待等)を扱いますが、これらのテーマが刺激となってメンタル不調を起こす可能性がある方は履修をお勧めしません。科目担当者が受講生の身の安全を守れないと判断したときは、履修あるいは履修の継続を認めない場合があります。
5. 15回の授業を通して、遅刻や欠席はしないようにしてください。

※上記項目は履修に必要な条件となりますので、科目担当者の指示にしたがってください。

※初回の授業ではシラバス含め授業の進め方を詳しく説明します。そのため欠席してしまうと履修が難しくなります。

※なお初回の授業ではまだテキストを使いません。テキストは初回授業が終わってご自身の履修が確定してから購入してください。

科目コード：21133

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：関係行政論(Legal and Administrative Systems)

担当者：山川 誠司

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：公認心理

AL要素：07 発表

08 協同学修

11 討論

授業の概要： この講義では保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野に関する法律、制度を通して、各分野の現状・指針、具体的な対策等について学ぶとともに心理支援サービスへの理解を深めることを目的とします。

キーワード： 法律・制度の活用 施策と行政 連携・協働

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 公認心理師の職務にかかわる5領域に関する法律や制度の内容を理解できていること。

評価方法： 各分野ごとに提出された課題レポート **評価割合：70%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 公認心理師の職務に関して、各分野の法律や制度を踏まえ、遵守すべき要点を知識を筋道立てて説明できること。

評価方法： 各分野ごとに提出された課題レポート **評価割合：30%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1回:オリエンテーション、保健医療分野の制度・指針、法律の説明
- 第2回:保健医療分野の事例提示、事例にともづくグループワーク
- 第3回:グループワークのまとめ、評価レポートの作成と提出
- 第4回:福祉分野の制度・指針、法律の説明
- 第5回:福祉分野の事例提示、事例にともづくグループワーク
- 第6回:グループワークのまとめ、評価レポートの作成と提出
- 第7回:司法犯罪分野の制度・指針、法律の説明
- 第8回:司法犯罪分野の事例提示、事例にともづくグループワーク
- 第9回:グループワークのまとめ、評価レポートの作成と提出
- 第10回:教育分野の制度・指針、法律の説明
- 第11回:教育分野の事例提示、事例にともづくグループワーク
- 第12回:グループワークのまとめ、評価レポートの作成と提出
- 第13回:産業分野の制度・指針、法律の説明
- 第14回:産業分野の事例提示、事例にともづくグループワーク
- 第15回:グループワークのまとめ、評価レポートの作成と提出

授業計画は、順序、回数、内容等が変更になることがあります。詳しくはIC-UNIPAによる配信でご確認ください。

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 厚生労働省、文部科学省、法務省、内閣府のホームページから、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法犯罪分野、産業労働分野に関する制度、法律等のサイトを検索し、どのような制度や法律等があるかを調べて、要点をまとめる。
参考書としては、関係行政論 第2版(公認心理師の基礎と実践23 野島一彦・繁樹算男 監修、元永拓郎 編、遠見書房)としますが、その他、授業の中で適宜提示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 特になし

科目コード：21134 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：心理実習 a(Practical Training in Psychology a)

担当者：岩崎 真和

基本情報

年次：3

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(月曜4限)、後期(月曜4限)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：公認心理

AL要素：01 実地訓練
02 模擬実践
03 実験・実技・体験
04 課題解決
07 発表
08 協同学修
09 実地調査
10 資料調査課題
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要： 本授業では、公認心理師の職務に関する知識および技能の基本的な水準の修得を目的として、次に掲げる事項について、学内実習施設および保健医療、福祉、教育等の分野の施設において見学等による実習を行う。

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(イ) 多職種連携及び地域連携

(ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

また、各実習施設での体験についての理解を深め、学びとしての定着を図るために、学内における事前・事後指導を行う。

キーワード： 公認心理師 クライアント理解 心理的支援 多職種連携 地域連携 職業倫理 法的義務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学内外における施設機関での実習を通して、以下の点について理解することができる。

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(イ) 多職種連携及び地域連携

(ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

評価方法： ワークシート

評価割合：30%

レポート
実習記録
実習報告書

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。その上で、自らが感じていることや考えを適切に表現することができる。

評価方法: ワークシート

評価割合: 30%

レポート
実習記録
実習報告書

▼学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や学内外指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティアリズム

対人支援的な仕事にはボランティアリズムの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであってはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるように奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合: 10%

▼公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 学内外の以下の施設において実習を行う。

- ・茨城キリスト教大学カウンセリング子育て支援センター
- ・病院
- ・福祉施設等
- ・学校等
- ・司法機関

なお、これらの実習については、基本的に授業配置時間外に実施される。

また、事前事後指導として、以下の授業を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習目的について考える(1) 実習目的についての意見交換
- 第3回 実習目的について考える(2) 実習経験者の講話から学ぶ
- 第4回 実習目的について考える(3) 実習計画の立案
- 第5回 記録技術を学ぶ
- 第6回 司法領域について考える(1) 実習計画の立案
- 第7回 司法領域について考える(2) 実習の振り返り
- 第8回 教育領域(高校)についての事前学習(1) 事前学習

- 第9回 教育領域(高校)についての事前学習(2)実習計画の立案
- 第10回 障がい児児童クラブについての事前学習(1)事前学習
- 第11回 障がい児児童クラブについての事前学習(2)関連知識の確認と検討
- 第12回 障がい児児童クラブについての事前学習(3)事前訪問の振り返り
- 第13回 障がい児児童クラブについての事前学習(4)実習計画の立案
- 第14回 保健医療領域についての事前学習(1)事前学習
- 第15回 保健医療領域についての事前学習(2)実習計画の立案
- 第16回 障がい児児童クラブについての振り返り
- 第17回 教育領域(高校)についての振り返り
- 第18回 保健医療領域についての振り返り
- 第19回 福祉領域についての事前学習(1)事前学習
- 第20回 福祉領域についての事前学習(2)実習計画の立案
- 第21回 福祉領域についての振り返り
- 第22回 学内実習施設についての事前学習(1)事前学習
- 第23回 学内実習施設についての事前学習(2)実習計画の立案
- 第24回 学内実習施設の見学
- 第25回 学内実習施設についての振り返り
- 第26回 実習体験から要支援者について考える
- 第27回 実習体験から職業倫理と法的義務について考える
- 第28回 実習体験からチームアプローチと地域連携について考える
- 第29回 実習体験から心理的支援について考える
- 第30回 一年の学びを振り返る

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: これまで他の科目(とくに履修要件となっている科目)で学んできた内容を復習し、そこで得た知識と本授業における体験との積極的な関連付けを図ること。

障がいのある履修者への対応: 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 初回授業でお知らせします。

留意事項: ○履修要件等
 本授業の履修要件として、以下の科目の単位を修得していることが求められます。
 「心理学概論Ⅰ」
 「臨床心理学概論」
 「心理演習」
 「公認心理師の職責」
 「関係行政論」
 また、以下の科目の履修を推奨します。
 「心理学的支援法」
 「心理的アセスメント」

○履修にあたっての留意点
 ・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。
 ・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。
 ・コロナ禍であり、また、実習施設の状況に合わせて授業を展開します。そのため、社会情勢や各実習施設等の状況に鑑み、上記30回の授業構成、内容、順序等に適宜変更が生じる可能性があります。逐次授業やteamsでのアナウンスに注意を払ってください。

科目コード: 21134 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 心理実習 b(Practical Training in Psychology b)

担当者: 櫻井 由美子

基本情報

年次: 3

単位数: 3

授業形式: 実習

曜時：前期(月曜4限)、後期(月曜4限)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：公認心理

AL要素：01 実地訓練
02 模擬実践
03 実験・実技・体験
04 課題解決
07 発表
08 協同学修
09 実地調査
10 資料調査課題
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要： 本授業では、公認心理師の職務に関する知識および技能の基本的な水準の修得を目的として、次に掲げる事項について、学内実習施設および保健医療、福祉、教育等の分野の施設において見学等による実習を行う。

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(イ) 多職種連携及び地域連携

(ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

また、各実習施設での体験についての理解を深め、学びとしての定着を図るために、学内における事前・事後指導を行う。

キーワード： 公認心理師 クライアント理解 心理的支援 多職種連携 地域連携 職業倫理 法的義務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学内外における施設機関での実習を通して、以下の点について理解することができる。

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(イ) 多職種連携及び地域連携

(ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

評価方法： ワークシート

評価割合： 30%

レポート

実習記録

実習報告書

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。その上で、自らが感じていることや考えを適切に表現することができる。

評価方法： ワークシート

評価割合： 30%

レポート

実習記録

実習報告書

▼ 学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や学内外指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

対人支援的な仕事にはボランティアの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであつ

てはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるように奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合：10%

▼公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合：10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 学内外の以下の施設において実習を行う。

- ・茨城キリスト教大学カウンセリング子育て支援センター
- ・病院
- ・福祉施設等
- ・学校等
- ・司法機関

なお、これらの実習については、基本的に授業配置時間外に実施される。

また、事前事後指導として、以下の授業を行う。

第1回 オリエンテーション

第2回 実習目的について考える(1)実習目的についての意見交換

第3回 実習目的について考える(2)実習経験者の講話から学ぶ

第4回 実習目的について考える(3)実習計画の立案

第5回 記録技術を学ぶ

第6回 司法領域について考える(1)実習計画の立案

第7回 司法領域について考える(2)実習の振り返り

第8回 教育領域(高校)についての事前学習(1)事前学習

第9回 教育領域(高校)についての事前学習(2)実習計画の立案

第10回 障がい児児童クラブについての事前学習(1)事前学習

第11回 障がい児児童クラブについての事前学習(2)関連知識の確認と検討

第12回 障がい児児童クラブについての事前学習(3)事前訪問の振り返り

第13回 障がい児児童クラブについての事前学習(4)実習計画の立案

第14回 保健医療領域についての事前学習(1)事前学習

第15回 保健医療領域についての事前学習(2)実習計画の立案

第16回 障がい児児童クラブについての振り返り

第17回 教育領域(高校)についての振り返り

第18回 保健医療領域についての振り返り

第19回 福祉領域についての事前学習(1)事前学習

第20回 福祉領域についての事前学習(2)実習計画の立案

第21回 福祉領域についての振り返り

第22回 学内実習施設についての事前学習(1)事前学習

第23回 学内実習施設についての事前学習(2)実習計画の立案

第24回 学内実習施設の見学

第25回 学内実習施設についての振り返り

第26回 実習体験から要支援者について考える

第27回 実習体験から職業倫理と法的義務について考える

第28回 実習体験からチームアプローチと地域連携について考える

第29回 実習体験から心理的支援について考える

第30回 一年の学びを振り返る

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： これまで他の科目（とくに履修要件となっている科目）で学んできた内容を復習し、そこで得た知識と本授業における体験との積極的な関連付けを図ること。

障がいのある
履修者への対応： 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でお知らせします。

留意事項： ○履修要件等

本授業の履修要件として、以下の科目の単位を修得していることが求められます。

「心理学概論Ⅰ」

「臨床心理学概論」

「心理演習」

「公認心理師の職責」

「関係行政論」

また、以下の科目の履修を推奨します。

「心理学的支援法」

「心理的アセスメント」

○履修にあたっての留意点

・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。

・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。

・コロナ禍であり、また、実習施設の状況に合わせて授業を展開します。そのため、社会情勢や各実習施設等の状況に鑑み、上記30回の授業構成、内容、順序等に適宜変更が生じる可能性があります。逐次授業やteamsでのアナウンスに注意を払ってください。

科目コード：21134

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：心理実習 c(Practical Training in Psychology c)

担当者：山川 誠司

基本情報

年次：3

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(月曜4限)、後期(月曜4限)

履修可能学科・専攻：W

関連資格：公認心理

AL要素：01 実地訓練

02 模擬実践

03 実験・実技・体験

04 課題解決

07 発表

08 協同学修

09 実地調査

10 資料調査課題

15 レポート指導

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

授業の概要： 本授業では、公認心理師の職務に関する知識および技能の基本的な水準の修得を目的として、次に掲げる事項について、学内実習施設および保健医療、福祉、教育等の分野の施設において見学等による実習を行う。

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(イ) 多職種連携及び地域連携

(ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

また、各実習施設での体験についての理解を深め、学びとしての定着を図るために、学内における事前・事後指導を行う。

キーワード： 公認心理師 クライアント理解 心理的支援 多職種連携 地域連携 職業倫理 法的義務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学内外における施設機関での実習を通して、以下の点について理解することができる。

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- (イ) 多職種連携及び地域連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

評価方法： ワークシート

評価割合： 30%

レポート
実習記録
実習報告書

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 求められる知識・技能として掲げられているそれぞれの内容に関して、自らの到達度と課題について主体的に考えることができる。その上で、自らが感じていることや考えを適切に表現することができる。

評価方法： ワークシート

評価割合： 30%

レポート
実習記録
実習報告書

▼ 学修に主体的に取り組む態度

求められる知識・技能において挙げた各項目に関して積極的な関心を持ち、自ら問題を見出し、主体的に精査、検討するとともに、仲間や学内外指導者との積極的な協働や議論を通して公認心理師としての在り方や要支援者との関係性の構築を図ることに積極的に臨む態度を重視する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティアリズム

対人支援的な仕事にはボランティアリズムの精神・態度が不可欠である。しかし、それは独りよがりなものであってはならない。あくまでも支援を必要とする者が自らの責任で生きることができるように奉仕するものであることを忘れてはならない。そのためには常に自分の働きや動きを広い視野から検討、内省しながら活動することが必要である。その迷いを通して成長しようとする姿勢を重視する。

評価割合： 10%

▼ 公正性

支援を要する人たちに公正で在ろうとすることを意識化することが重要である。様々な歴史や過去、多様な価値観や課題をもつ要支援者に対して先入観や偏見、差別の意識なく接することは非常に困難であることを自覚し、自分の奥深くに潜む偏見、臆見、欺瞞、誤謬、差別意識に対して常に厳しく向き合おうとする態度を重視する。

評価割合： 10%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 学内外の以下の施設において実習を行う。

- ・茨城キリスト教大学カウンセリング子育て支援センター
- ・病院
- ・福祉施設等
- ・学校等
- ・司法機関

なお、これらの実習については、基本的に授業配置時間外に実施される。

また、事前事後指導として、以下の授業を行う。

第1回 オリエンテーション

第2回 実習目的について考える(1) 実習目的についての意見交換

第3回 実習目的について考える(2) 実習経験者の講話から学ぶ

第4回 実習目的について考える(3) 実習計画の立案

第5回 記録技術を学ぶ

第6回 司法領域について考える(1) 実習計画の立案

第7回 司法領域について考える(2) 実習の振り返り

第8回 教育領域(高校)についての事前学習(1) 事前学習

第9回 教育領域(高校)についての事前学習(2) 実習計画の立案

第10回 障がい児児童クラブについての事前学習(1) 事前学習

第11回 障がい児児童クラブについての事前学習(2) 関連知識の確認と検討

第12回 障がい児児童クラブについての事前学習(3) 事前訪問の振り返り

第13回 障がい児児童クラブについての事前学習(4) 実習計画の立案

第14回 保健医療領域についての事前学習(1) 事前学習

第15回 保健医療領域についての事前学習(2) 実習計画の立案

第16回 障がい児児童クラブについての振り返り

第17回 教育領域(高校)についての振り返り

第18回 保健医療領域についての振り返り

第19回 福祉領域についての事前学習(1) 事前学習

第20回 福祉領域についての事前学習(2) 実習計画の立案

第21回 福祉領域についての振り返り

第22回 学内実習施設についての事前学習(1) 事前学習

第23回 学内実習施設についての事前学習(2) 実習計画の立案

第24回 学内実習施設の見学

第25回 学内実習施設についての振り返り

第26回 実習体験から要支援者について考える

第27回 実習体験から職業倫理と法的義務について考える

第28回 実習体験からチームアプローチと地域連携について考える

第29回 実習体験から心理的支援について考える

第30回 一年の学びを振り返る

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： これまで他の科目(とくに履修要件となっている科目)で学んできた内容を復習し、そこで得た知識と本授業における体験との積極的な関連付けを図ること。

障がいのある履修者への対応： 個別の特性とニーズに応じた支援を行う。授業担当者もしくは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でお知らせします。

留意事項： ○履修要件等

本授業の履修要件として、以下の科目の単位を修得していることが求められます。

「心理学概論Ⅰ」

「臨床心理学概論」

「心理演習」

「公認心理師の職責」

「関係行政論」

また、以下の科目の履修を推奨します。

「心理学的支援法」

「心理的アセスメント」

○履修にあたっての留意点

- ・受講該当年度当初における健康診断を必ず受診すること。
- ・健康状態やそれを証明する書類に不備不足等がある場合には、実習に参加できないことがある。

・コロナ禍であり、また、実習施設の状況に合わせて授業を展開します。そのため、社会情勢や各実習施設等の状況に鑑み、上記30回の授業構成、内容、順序等に適宜変更が生じる可能性があります。逐次授業やteamsでのアナウンスに注意を払ってください。

科目コード : 21135 科目ナンバリング : WP21C01K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : ソーシャルワークの理論と方法I(Theory and Method of Social Work I)

担当者 : 田家 英二

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 水曜2限

履修可能学科・専攻 : W

関連資格 : 教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素 : 10.資料調査課題
13.役割演技と疑似体験
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要 : 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業
社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術についての理解を深めるために、必要に応じて視聴覚教材などを活用して講義を行います。

キーワード : ソーシャルワークの理論、ソーシャルワークの過程、ソーシャルワークの実践モデル、面接技術

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術を修得し、理解を深めることができる。

評価方法 : 授業内課題または期末試験による評価。 **評価割合 :** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術を修得し、理解を深め、さらに自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの考えを伝えることができる。

評価方法 : 期末試験による評価。 **評価割合 :** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、レポートや期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象となる。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。なおレポートや期末試験等の記述においては社会的倫理に適う公正性に十分留意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

期末試験等における不正行為については厳正に対処する。

評価割合：期末試験等における不正行為につ

授業計画：（質問は授業終了時にお願いします。）

- 第1回 ソーシャルワーカーが学ぶ理論
 - 第2回 システム理論と生態学的理論
 - 第3回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとマイクロ・メゾ・マクロの考え方
 - 第4回 ソーシャルワークの目標と展開過程
 - 第5回 ソーシャルワークの過程（ケースの発見から、インテークまで）
 - 第6回 ソーシャルワークの過程（アセスメント）
 - 第7回 ソーシャルワークの過程（プランニング）
 - 第8回 ソーシャルワークの過程（支援の実施とモニタリング、効果測定）
 - 第9回 ソーシャルワークの過程（支援の終結と結果評価、アフターケア）
 - 第10回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①（治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル）
 - 第11回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②（社会心理的アプローチ・機能的アプローチ・問題解決アプローチ・課題中心アプローチ）
 - 第12回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③（行動変容アプローチ・認知アプローチ・危機介入アプローチ）
 - 第13回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④（エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・解決思考アプローチ）
 - 第14回 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤（さまざまなアプローチ）
 - 第15回 ソーシャルワークの過程と実践モデルとアプローチ（まとめ）
- 期末試験

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『12. ソーシャルワークの理論と方法』【共通科目】中央法規出版、2021年
資料は、UNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【予習】教科書や参考図書に関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。
わからない用語を事前に調べること。（90分）
【復習】社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。授業内課題については復習の意味と理解度を自覚するために行います。（90分）
参考文献等については授業内容に即して随時紹介します。
また適宜、補助資料をプリントして配付します。

障がいのある履修者への対応： 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応致します。来校できない場合は、メールで対応します。

留意事項： 「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位修得済みであること。

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード：21136 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名（英文）：ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(Theory and Method of Social Work Ⅱ)

担当者：田家 英二

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：10.資料調査課題
13.役割演技と疑似体験
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業
社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術についての理解を深めるために、必要に応じて視聴覚教材などを活用して講義を行います。

キーワード：ソーシャルワークの面接、記録、ケアマネジメント、グループワーク、セルフヘルプグループ、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、組織運営と財源、コミュニティ・オーガナイズング、スーパービジョン、コンサルテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術を修得し、理解を深めることができる。

評価方法：期末試験により評価。

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：社会福祉の専門的援助の方法についての知識と技術を修得し、理解を深め、さらに自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの考えを伝えることができる。

評価方法：期末試験により評価。

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、課題や期末試験等の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それが課題や期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。なお課題や期末試験等の記述においては社会的倫理に合う公正性に十分留意すること。

評価割合：0%

▼その他

課題や筆記試験等における不正行為については厳正に対処する。

評価割合：課題や筆記試験等における不正行

授業計画： 第1回 ソーシャルワークの面接①(面接の目的から面接の場面、インテークまで)
第2回 ソーシャルワークの面接②(面施の技法、コミュニケーション技術から障害のある人へのかかわりまで)
第3回 ソーシャルワークの記録①(目的、内容、ジェノグラムまで)
第4回 ソーシャルワークの記録②(SORP)記録の実践
第5回 ケアマネジメント(歴史、原則、意義、モデル、プロセスまで)
第6回 グループを活用した支援(グループワーク)
第7回 グループワークの展開過程とセルフヘルプグループ

- 第8回 コミュニティーワークの意義と目的
- 第9回 コミュニティーワークの展開
- 第10回 コミュニティーワークの理論モデル
- 第11回 ソーシャルアドミニストレーション
- 第12回 組織運営と財源
- 第13回 ソーシャルアクション
- 第14回 コミュニティー・オーガナイズング
- 第15回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 期末試験

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『12. ソーシャルワークの理論と方法』【共通科目】 中央法規出版、2021
資料はUNIPAで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 【予習】教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。(90分)
【復習】社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。(90分)
参考文献等については授業内容に即して随時紹介します。

障がいのある履修者への対応： 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応致します。来校できない場合は、メールを活用します。

留意事項： 「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位修得済みであること。

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード： 21137 **科目ナンバリング：** WP22C01K **主な使用言語：** 日本語
授業名(英文)： ソーシャルワークの理論と方法(専門)I(Theory and Method of Social Work (Speciality))
担当者： 池田 幸也

基本情報

年次： 2	単位数： 2	授業形式： 講義
曜時： 木曜3限		履修可能学科・専攻： W
関連資格： 教職 福祉主 社福士 福祉心理		AL要素： 08協同学修 15レポート指導 16振り返り用紙と応答 17発問と回答

授業の概要： 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

前期開講の「ソーシャルワークの理論と方法(専門) I」は、後期開講の「ソーシャルワークの理論と方法(専門) II」と継続して履修するよう内容を構成している。主な内容は相談援助の対象、過程、援助関係、面接技術などの学習、それらの知識を相談援助実践に活用できるようにすることにある。その上で、ソーシャルワークの価値を理解し、理論や技術を活かした相談援助の在り方についての考察を深める。

キーワード： ソーシャルワーク、相談援助、ケースマネジメント

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で触れた理論や援助過程について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法: 試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。

提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第01回】総合的かつ包括的な支援 多様化・複雑化した生活課題への対応
- 【第02回】総合的かつ包括的な支援 分野や領域を超えた問題解決
- 【第03回】家族支援の実際 ソーシャルワークで出会う家族
- 【第04回】家族の基礎理論と複合的課題
- 【第05回】家族支援のツールと実際
- 【第06回】地域支援とその実際
- 【第07回】地域支援の特徴と必要な知識・スキル・価値
- 【第08回】非常時や災害時のソーシャルワークとその目的
- 【第09回】非常時や災害時のソーシャルワークの実際と留意点
- 【第10回】ソーシャルワークの定義、対象と援助関係
- 【第11回】ソーシャルワークの実践レベルの援助とクライアントシステム
- 【第12回】社会福祉士の倫理綱領を踏まえた援助関係
- 【第13回】ソーシャルワーカーの役割から見た援助関係
- 【第14回】ネットワーキング
- 【第15回】コーディネーション 前期まとめ

試験

使用テキスト: 専門科目『最新 社会福祉士養成講座 『6ソーシャルワークの理論と方法』 編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 発行 中央法規出版株式会社
ISBN978-4-8058-8249-8

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習に際しては、ソーシャルワークの理論について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。後期開講の「ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ」と合わせて履修すること。

科目コード：21138 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ(Theory and Method of Social Work (Speciality
担当者：池田 幸也

基本情報

年次：2 **単位数：**2 **授業形式：**講義
曜時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：**W
関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理 **AL要素：**08協同学修
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要： 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

前期開講の「ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ」の履修・修得を前提に本講座を履修するよう内容を構成している。相談援助の対象、過程、援助関係、面接技術を踏まえ、知識・技術を相談援助実践に活用できるよう展開する。さらに事例学習を通して、ソーシャルワークの過程における理論と適切な技術の活用について理解し、ソーシャルワーカーとしての基本的考え方を身に付けることができるよう講義を進める。

キーワード： ソーシャルワーク、相談援助、ケースマネジメント

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で触れた理論や援助過程について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法： 試験 **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 試験 **評価割合：** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回アクションペーパーの提出を求める。提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合に

は、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第1回】ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整
【第2回】ソーシャルワーク実践と社会資源の関係
【第3回】社会資源開発の目的と意義
【第4回】社会資源開発の方法とサービス改善
【第5回】社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキル
【第6回】カンファレンス 会議の種類と方法
【第7回】カンファレンス ミクロ・メゾ・マクロの会議
【第8回】ソーシャルワークにおける事例分析
【第9回】ソーシャルワークにおける事例検討
【第10回】ソーシャルワークにおける事例研究
【第11回】ソーシャルワーク技法 ネゴシエーション
【第12回】ソーシャルワーク技法 コンフリクト・レゾリューション
【第13回】ソーシャルワーク技法 ファシリテーション
【第14回】ソーシャルワーク技法 プレゼンテーション
【第15回】ソーシャルワーク技法 ソーシャル・マーケティング まとめ
試験

使用テキスト： 専門科目『最新 社会福祉士養成講座『6ソーシャルワークの理論と方法』編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 発行 中央法規出版株式会社
ISBN978-4-8058-8249-8

予習・復習のポイントと 予習に際しては、ソーシャルワークの理論について中心的に確認をする。
参考文献・資料等： 授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。
参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： *前期開講「ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ」の履修・修得した者が本講座を履修できる。
*教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード：21139 科目ナンバリング：WP11C06K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童・家庭福祉I(Child Welfare・Child and Family Welfare I)

担当者：田家 英二

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：10.資料調査課題

16.振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、授業内課題(UNIPAの課題管理での課題提出)。

少子・高齢化の進行とともに、児童虐待の問題等子どもや家庭をとりまく問題が複雑化してきているなかで、これからの児童福祉は、子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子ども家庭福祉への転換が求められるようになってきています。そのような社会状況の変化を踏まえて、子ども家庭福祉の理念や歴史、制度に関する知識についての理解を深めます。講義内容は、現代社会における子どもや子育て家庭の現状、子ども家庭福祉の理念、日本および諸外国における児童福祉の歴史、法体系と制度、子ども家庭福祉サービスの現状などについての解説をします。

授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可(情報端末必携)。

質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。

授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。

評価は、期末試験及び授業内課題(レポート)で行う。

キーワード: 子ども家庭福祉の理念、少子高齢化、子どもの権利、児童福祉法、子育て支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 児童福祉関係法規の理解、子ども家庭福祉の現状とサービスの理解、並びに課題や実践に関する知識を修得し、理解を深めることができる。

評価方法: 授業内課題およびレポートにより評価。

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 児童福祉の理念や歴史、制度や子ども子育て支援についての知識を修得し、理解を深め、さらに、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業内課題およびレポートにより評価。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題や期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それが課題や期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

授業内課題(レポート)における不正行為、他者の論文等のコピーについては厳正に対処する。

評価割合: 授業内課題(レポート)における不

授業計画: 資料をUNIPAで提供します。質問は、IC UNIPAのメールまたはTeamsを活用する予定。

第1回: 子供の理解—子ども家庭福祉を学ぶにあたって

第2回: 子どもたちを取り巻く社会の現状

第3回: 子どもとその家族が直面している問題—子ども・子育てに関する問題—

第4回: 子ども家庭福祉とは

第5回: 子どもの権利と子ども家庭福祉の理念

- 第6回:子ども家庭福祉の理念と概念
 - 第7回:子どもの権利
 - 第8回:西欧の児童福祉の歴史
 - 第9回:日本の児童福祉の歴史
 - 第10回:子ども家庭福祉に関する法制度
 - 第11回:子ども家庭福祉の行財政と実施体制
 - 第12回:児童福祉施設と専門職
 - 第13回:少子化対策と保育施策
 - 第14回:子どもの健全育成・地域子育て支援に関するサービス
 - 第15回:現代社会と子ども家庭福祉についてのまとめ
- 授業内課題およびレポート

使用テキスト: 比嘉真人監修『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論【第2版】』みらい、2022。
 *必ず【第2版】を購入してください。
 資料は、UNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。(90分)
 復習:新聞や雑誌で取り上げられた記事や社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。(90分)
 参考書・参考資料等については授業時に随時紹介します。
 情報端末機器の活用を認めます。

障がいのある履修者への対応: 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー、研究室で対応致します。来校できない場合は、メールを活用します。

留意事項: 本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属の学生の受講を優先します。

【課題に対するフィードバック方法】
 授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード:21140 科目ナンバリング:WP12C04K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童・家庭福祉II(Child Welfare・Child and Family Welfare II)

担当者: 田家 英二

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素: 10.資料調査課題

16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、授業内課題(UNIPAの課題管理での課題提出)。

少子・高齢化の進行とともに、児童虐待の問題等子どもや家庭をとりまく問題が複雑化してきているなかで、これからの児童福祉は、子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子ども家庭福祉への転換が求められるようになってきています。そのような社会状況の変化を踏まえて、子ども家庭福祉の理念や歴史、制度に関する知識についての理解を深めます。講義内容は、現代社会における子どもや子育て家庭の現状、子ども家庭福祉の理念、日本および諸外国における児童福祉の歴史、法体系と制度、子ども家庭福祉サービスの現状などについての解説をします。

授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可(情報端末必携)。

質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。

授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。
評価は、授業内課題(レポート)で行う。

キーワード: 子ども家庭福祉の理念、児童福祉法、子育て支援、母子保健、社会的養護、障害児支援

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 児童福祉関係法規の理解、子ども家庭福祉の現状とサービスの理解、並びに課題や実践に関する知識を修得し、理解を深めることができる。
さらに、母子保健および子ども子育て支援、社会的養護、障害児支援の現状に関する知識を修得し、理解を深めることができる。

評価方法: 授業内課題

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 児童福祉の理念や歴史、制度や子ども子育て支援についての知識を修得し、理解を深め、さらに、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 授業内課題

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題や定期試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それが課題や定期試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

授業内課題(レポート)における不正行為、他者の論文等のコピーについては厳正に対処する。

評価割合: 授業内課題(レポート)における不

授業計画: 第1回:母子保健
第2回:障害児と家族への支援
第3回:児童健全育成
第4回:保育
第5回:子育て支援
第6回:ひとり親家庭の福祉
第7回:児童の社会的養護
第8回:非行児童と支援
第9回:情緒障害児と支援
第10回:児童虐待対策
第11回:女性福祉
第12回:子ども家庭への相談援助
第13回:施設ケア
第14回:子ども家庭福祉と地域援助
第15回:子ども家庭福祉についてのまとめ

授業内課題

使用テキスト: 比嘉真人監修『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論【第2版】』みらい、2022。
必ず【第2版】を購入してください。
授業資料はUNIPAで提供します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:教科書や参考図書の関連項目に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます。(90分)
復習:新聞や雑誌で取り上げられた記事や社会福祉の他の専門科目で学んだ内容とリンクさせて復習すると一層理解が深まります。(90分)
参考書・参考資料等については授業時に随時紹介します。
情報機器端末の活用を認めます。

障がいのある履修者への対応: 合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー、研究室で対応致します。来校できない場合は、メールを活用します。

留意事項: 本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属の学生の受講を優先します。

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題などにコメントを付与する。

科目コード:21141 科目ナンバリング:WP11C07K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 障害者福祉I(Social Welfare for the Disabled I)

担当者: 清原 舞

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 本講義は、社会福祉の専門科目です。社会福祉士国家試験の必須科目となります。また、本講義を受講するにあたり、前期「障害者福祉Ⅰ」と後期「障害者福祉Ⅱ」は連続しています。どちらか片方だけ履修することは認めていません。

「障害とは何か」を多角的に捉え、障害者福祉に関わる法制度や当事者の生活課題について理解を深めることを目的としています。本講義では、社会の障害観、障害種別ごとの理解を中心に学びていきます。身近な問題としてとらえ、考えることを通して、専門職としてキャリアに繋げることを重視していますので、受講の際には、「自分には関係のないこと」ではなく、常に問題意識をもって取り組んでください。また、障害者福祉の法制度にも関心を持ち、法律が実践としてどのように結びついているのか関連づけてください。視覚教材(バラエティ番組風)からご自身の障害観についても深く考えていってまいります。

- ・障害の理解
- ・当事者主体
- ・障害者福祉に関する概念の整理

キーワード: 障害の理解、当事者主体の支援、障害者福祉に関する法律

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 障害者福祉に関する法律(身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害

者福祉に関する法律等)について内容を理解することができる。
・障害者福祉政策の発展についてその背景と関連付けて理解することができる。

評価方法: 定期試験、小テスト、振り返り **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・障害者福祉における理念や概念を理解することができる。
・障害者福祉に関連する法律の背景や障害者福祉の現状、課題を理解し、考察することができる。

評価方法: 定期試験、振り返り等 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等がレポートや定期試験等に反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション(授業の進め方)、「障害」のイメージ
第2回:障害者福祉の理念と障害の定義(1)
第3回:障害者福祉の理念と障害の定義(2)
第4回:障害者福祉の歴史
第5回:障害者の生活実態と社会環境
第6回:障害者の権利条約と障害者基本法
第7回:身体障害の理解と身体障害者福祉法(1)
第8回:身体障害者の理解と身体障害者福祉法(2)
第9回:知的障害の理解と知的障害者福祉法(1)
第10回:知的障害の理解と知的障害者福祉法(2)
第11回:精神障害の理解と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(1)
第12回:精神障害の理解と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(2)
第13回:難病、その他の障害の理解
第14回:発達障害の理解
第15回:まとめ
原則定期試験を実施(状況により期末レポートに変更)

※講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト: 柿木志津江・清原舞編『最新・はじめて学ぶ社会福祉15 障害者福祉』ミネルヴァ書房、2023年、2,640円(税込)
資料も毎回配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 疑問やわからないところは、質問したり自分自身で調べるなどしながら、必ず解決しておいてください。その意味でも、テキストは、予習復習をする上で役立つかと思います。
予習として、障害者福祉に関するニュース、新聞記事等もチェックしておいてください(1時間)。

復習は、テキスト・配布資料を参考にしながら必ず行うこと(1時間)。理解していることを前提に進めていきます。

参考文献として以下のテキストを推奨します。

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規、2021年、2,750円(税込)

その他の参考文献については、必要に応じて、講義内で紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部・教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はTeams

留意事項: ・社会福祉の専門科目のため、社会福祉の基礎知識があることを前提に授業を進めていきます。
・テキストは必ず購入しておいてください。
・小テストは2回実施します。自分自身の知識の確認に役立ててください。
・小テストは解説、リアクションペーパー等は全体へのフィードバックを行います。

科目コード: 21142 **科目ナンバリング:** WP12C05K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 障害者福祉II(Social Welfare for the Disabled II)

担当者: 清原 舞

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 社福士 福祉心理

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 本講義は、社会福祉の専門科目です。社会福祉士国家試験の必須科目となります。また、原則、前期に「障害者福祉 I」を受講していることを前提として進めていきます。

「障害者福祉 I」での学びを踏まえ、障害者福祉に関わる法制度や当事者の権利擁護について理解を深めることを目的とし、法律・制度がどのように関わり、支援に繋がっているのかを学びます。そして、障害児・者の家族の心理や当事者の心理面についても理解し、当事者主体とは何かを考えます。また、世界の動向も視野に入れながら、日本の障害者福祉の課題や、障害当事者中心の支援のあり方について考察していきます。

身近な問題としてとらえ、考えることを通して、専門職としてキャリアに繋げることを重視していますので、受講の際には、「自分には関係のないこと」ではなく、常に問題意識をもって取り組んでください。また、本講義では、「障害者総合支援法」の理解が鍵となります。障害者の生活を支える法律やサービスについても関心を持って受講してください。視覚教材(バラエティ番組風)からご自身の障害観についても深く考えていってもらいます。

- ・日本と世界の障害者福祉の理解
- ・障害者総合支援法
- ・障害者の権利擁護
- ・障害当事者及び家族の心理面

キーワード: 障害者総合支援法、権利擁護、世界の障害者福祉、家族を含めた支援

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** ・障害者福祉サービスや障害者総合支援法について理解し、説明することができる。
・障害者福祉に関する法律(障害者基本法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法など)の内容を理解することができる。
・障害者の権利擁護の仕組みについて具体的に説明できる。

評価方法: 期末レポート、小テスト

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・障害者福祉に関連する法律の背景や障害者福祉の現状、課題を理解し、考察することができる。
・海外の障害者福祉の現状から日本の障害者福祉のあり方を考察することができる。

評価方法: 期末レポート、振り返り

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等がレポート等に反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やワークシート・レポートにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:オリエンテーション(前期の復習と後期の進め方)
第2回:障害者総合支援法(1)
第3回:障害者総合支援法(2)
第4回:障害者総合支援法(3)
第5回:障害者総合支援法(4)
第6回:相談支援と相談支援専門員の役割
第7回:障害者雇用・就労支援(1)
第8回:障害者雇用・就労支援(2)
第9回:障害児・者と家族(1)
第10回:障害児・者と家族(2)
第11回:権利擁護(1)
第12回:権利擁護(2)
第13回:障害者福祉の関連法令(住宅、バリアフリー等)
第14回:諸外国における障害者福祉(北欧)
第15回:全体のまとめ(世界の障害者福祉の動向と日本の障害者福祉の課題)
期末レポート

※講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト: 柿木志津江・清原舞編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉15 障害者福祉』ミネルヴァ書房、2023年、2,640円(税込)
資料も配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 疑問やわからないところは、質問したり自分自身で調べるなどしながら、必ず解決しておいてください。その意味でも、テキストは、予習復習をする上で役立つかと思います。
予習として、障害者福祉に関するニュース、新聞記事等もチェックしておいてください(1時間)。
復習は、テキスト・配布資料を参考にしながら、必ず行うこと(1時間)。理解していることを前提に進めていきます。

参考文献として以下のテキストを推奨します。

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神

その他、参考文献については、必要に応じて、講義内で紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部・教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPA又はTeams

留意事項： ・「障害者福祉Ⅰ」と「障害者福祉Ⅱ」は、半期に分かれています。そのため、可能な限り、先に、前期に「障害者福祉Ⅰ」を修得してしてください。後期の「障害者福祉Ⅱ」のみを履修する場合は、必ず相談してください。
・テキストは購入しておいてください。
・小テストは2回実施します。
・小テストは解説、リアクションペーパー等は全体へのフィードバックを行います。

科目コード：21143 **科目ナンバリング：**WP11C08K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：高齢者福祉I(Social Welfare for the Elderly I)

担当者：池田 幸也

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素： 16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要：【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

前期の「高齢者福祉Ⅰ」では、高齢者に関する理解を中心に高齢者を取り巻く社会情勢の理解を深め、高齢者福祉の発展過程をたどる。高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。これらをもとに高齢者の生活実態を踏まえた、家族や地域社会の現状を理解し、介護サービスの実際の理解を深める。さらに介護保険制度の現状について、自ら考察できるように講義を進める。
本講義に引き続き、後期開講の「高齢者福祉Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。

キーワード： 老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法： 試験

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。

提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の

対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】授業オリエンテーション、高齢者の定義と特性
【第02回】高齢化率と高齢社会
【第03回】日本の高齢化の特徴と課題
【第04回】高齢者の生活実態
【第05回】高齢者世帯の特徴と課題
【第06回】家族介護の現状と課題
【第07回】高齢者観の変遷
【第08回】社会福祉前史と高齢者福祉
【第09回】老人福祉法の誕生から在宅福祉への移行
【第10回】介護保険制度の誕生と地域包括ケアシステムの構築
【第11回】高齢者福祉の理念
【第12回】介護保険制度と財政
【第13回】介護認定の仕組みと介護保険事業計画
【第14回】地域支援事業
【第15回】介護保険サービスの体系 前期のまとめ
試験

使用テキスト： 専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』 編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要の応じて適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード：21144 科目ナンバリング：WP12C06K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：高齢者福祉II(Social Welfare for the Elderly II)

担当者：池田 幸也

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要：【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

前期開講の「高齢者福祉Ⅰ」の履修し単位を修得した者を対象に高齢者福祉論を展開する。

高齢者を取り巻く社会情勢を踏まえて 高齢者福祉の発展過程をたどる。老人福祉法や介護保険制度などを中心に高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。

これらを踏まえて、高齢者介護の実際に対する理解を深め、介護保険サービスの内容と今後の課題について自ら考察できるように講義を進める。

キーワード： 老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。

評価方法： 試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 試験

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。

提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】高齢者保健福祉の法体系

【第02回】老人福祉法

【第03回】高齢者医療確保法

【第04回】高齢者虐待防止法

【第05回】バリアフリー法

【第06回】高齢者住まい法

【第07回】高年齢者雇用安定法

- 【第08回】育児・介護休業法
- 【第09回】市町村独自の高齢者支援
- 【第10回】高齢者と家族等の支援における関係機関の役割
- 【第11回】高齢者と家族等の支援における関連する専門職等の役割
- 【第12回】高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割
- 【第13回】家族の介護負担軽減と就労支援
- 【第14回】高齢者虐待や近隣トラブルがある高齢者への対応
- 【第15回】地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者 まとめ
試験

使用テキスト： 専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』編集 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： *講義は前期開講の「高齢者福祉Ⅰ」を履修し単位を修得した者を対象に開講する。
*教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード：21145 **科目ナンバリング：**WP20C04K **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：地域福祉と包括的支援体制I(Community Work and Comprehensive Support System I)
担当者： 呉 恩恵

基本情報

年次：2 **単位数：**2 **授業形式：**講義
曜時：水曜5限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F N M
関連資格：福祉主 社福士 福祉心理 **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要：【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

「地域は、人々の悩みの要因になるが、同時に、よりよく生きるための資源にもなる」(Charles A. Rapp)
社会福祉の専門領域となる地域福祉論は、「地域」と「地域住民」への働きかけ、社会福祉を総合的に捉える知識や理解、社会福祉政策にわたるまでの幅広い視点や知識が大切である。本講義では、近年求められている包括的支援体制の構築のための実践や地方自治、専門職としての役割について学ぶ。

キーワード： コミュニティーソーシャルワーク、地域福祉の理念と実践、包括的支援体制、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・地域福祉の概念、理念について説明することができる。
・地域福祉の推進主体の役割について、理解することができる。

評価方法： リアクションペーパー、期末試験 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・地域福祉の近年の動向から、日本における社会福祉の課題に気づき、考察することができる。

・コミュニティーソーシャルワークを活用し、家族や地域の支援について考察することができる。

評価方法:リアクションペーパー、期末試験

評価割合:40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合:10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等が提出物や定期試験等に反映されると思われる。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やアクティビティにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 【前期】

第1回:オリエンテーション(授業の進め方)

地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①(テキスト2~10頁)

第2回:地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②(テキスト11~30頁)

第3回:地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題の現状③(テキスト31~36頁)

第4回:地域福祉の基本的な考え方①(テキスト116~124頁)

第5回:地域福祉の基本的な考え方②(テキスト125~134頁)

第6回:地域福祉の基本的な考え方④(テキスト135~148頁)

第7回:地域福祉の基本的な考え方⑤(テキスト149~156頁)

第8回:地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①(テキスト38~43頁)

第9回:地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②(テキスト44~54頁)

第10回:地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制④(テキスト55~74頁)

第11回:地域福祉ガバナンスと多機関協働①(テキスト76~82頁)

第12回:地域福祉ガバナンスと多機関協働②(テキスト83~91頁)

第13回:地域福祉ガバナンスと多機関協働③(テキスト92~103頁)

第14回:地域福祉ガバナンスと多機関協働④(テキスト104~114頁)

第15回:総括・まとめ

講義1~14回までの学習内容を振り返り、当教科に対する理解を深める。

【後期】

第16回:オリエンテーション(前期の復習と後期の進め方)

第17回:地域を基盤としたソーシャルワークの展開①(テキスト158~167頁)

第18回:地域を基盤としたソーシャルワークの展開②(テキスト168~181頁)(テキスト182~197頁)

第19回:災害時における総合的かつ包括的な支援体制①(テキスト200~218頁)

第20回:災害時における総合的かつ包括的な支援体制②(テキスト200~218頁)

第21回:災害時における総合的かつ包括的な支援体制③(テキスト219~237頁)

第22回:福祉計画の意義と種類、策定と運用①(テキスト240~247頁)

第23回:福祉計画の意義と種類、策定と運用②(テキスト248~258頁)

第24回:福祉計画の意義と種類、策定と運用③(テキスト259~267頁)

第25回:福祉計画の意義と種類、策定と運用④(テキスト268~275頁)

第26回:福祉計画の意義と種類、策定と運用⑤(テキスト276~283頁)

第27回:福祉行財政システム①(テキスト286~291頁)

第28回:福祉行財政システム②(テキスト292~300頁)

第29回:福祉行政システム③(テキスト301～323頁)

第30回:全体のまとめ

※講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021年、3,190円(税込)

※今年度、「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ」を履修する学生は、演習Ⅱの授業内容と本講義内容が理論と実践でリンクしていく。そのため、テキストも演習Ⅲの授業にも参考書として使用できる。また、社会福祉士国家試験対策にも対応できると考える。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・予習・復習として資料や教科書からその日の内容を確認しておく(1時間)。
- ・その日のうちに講義内容を振り返り、疑問点等があれば、質問や自分自身で調べるなど、必ず解決しておく(リアクションペーパーを通じて質問してもよい)。
- ・自分自身の住んでいる地域の特徴の把握、新聞やインターネット等のニュースから時事問題に関心を持つ。

<参考文献> その他、適宜、参考文献があれば講義内で紹介する。

・松端克文『地域の見方を変えると福祉実践が変わるーコミュニティ変革の処方箋ー』ミネルヴァ書房、2018年、3,300円(税込)

・『社会福祉学習双書』編集委員会『第8巻 地域福祉と包括的支援体制』全国社会福祉協議会出版部、2022年、2,970円(税込)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部・教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はオフィスアワー(曜日・時限等は初回講義でお知らせします。)

留意事項:

- ・本講義は、社会福祉の基本的な事柄は既に習得済であることを前提として進めていく。
- ・本講義は、テキストと授業資料に沿って進める。状況によって章の順序が変わる可能性もある。
- ・授業の際には、動画資料や個人およびグループワークが行われることがある。
- ・毎回のリアクションペーパーは評価対象になる。
- ・当科目は、社会福祉士国家試験の必須科目となっており、社会福祉士を目指している学生には重要な科目である。そのために、授業中に他の学生の学習を妨げることがないようにお互いに授業マナーを守って臨んでほしい。

科目コード:21146

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):地域福祉と包括的支援体制II(Community Work and Comprehensive Support System I

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:福祉主 社福士 福祉心理

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 【オンライン授業の場合はteamsを使った同時双方向型】

「地域は、人々の悩みの要因になるが、同時に、よりよく生きるための資源にもなる」(Charles A. Rapp)

社会福祉の専門領域となる地域福祉論は、「地域」と「地域住民」への働きかけ、社会福祉を総合的に捉える知識や理解、社会福祉政策にわたるまでの幅広い視点や知識が大切である。本講義では、近年求められている包括的支援体制の構築のための実践や地方自治、専門職としての役割について学ぶ。

キーワード: コミュニティーソーシャルワーク、地域福祉の理念と実践、包括的支援体制、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・地域福祉の概念、理念について説明することができる。
・地域福祉の推進主体の役割について、理解することができる。

評価方法: リアクションペーパー、期末試験 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・地域福祉の近年の動向から、日本における社会福祉の課題に気づき、考察することができる。
・コミュニティソーシャルワークを活用し、家族や地域の支援について考察することができる。

評価方法: リアクションペーパー、期末試験 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度や講義内での振り返り等で、その日の講義内容を理解することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしないが、自主的な学修によって得た知見等が提出物や定期試験等に反映されると思われる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やアクティビティにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【前期】

- 第1回:オリエンテーション(授業の進め方)
地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①(テキスト2～10頁)
- 第2回:地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②(テキスト11～30頁)
- 第3回:地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題の現状③(テキスト31～36頁)
- 第4回:地域福祉の基本的な考え方①(テキスト116～124頁)
- 第5回:地域福祉の基本的な考え方②(テキスト125～134頁)
- 第6回:地域福祉の基本的な考え方④(テキスト135～148頁)
- 第7回:地域福祉の基本的な考え方⑤(テキスト149～156頁)
- 第8回:地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①(テキスト38～43頁)
- 第9回:地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②(テキスト44～54頁)
- 第10回:地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制④(テキスト55～74頁)
- 第11回:地域福祉ガバナンスと多機関協働①(テキスト76～82頁)
- 第12回:地域福祉ガバナンスと多機関協働②(テキスト83～91頁)
- 第13回:地域福祉ガバナンスと多機関協働③(テキスト92～103頁)
- 第14回:地域福祉ガバナンスと多機関協働④(テキスト104～114頁)
- 第15回:総括・まとめ
講義1～14回までの学習内容を振り返り、当教科に対する理解を深める。

【後期】

- 第16回:オリエンテーション(前期の復習と後期の進め方)
- 第17回:地域を基盤としたソーシャルワークの展開①(テキスト158～167頁)

- 第18回: 地域を基盤としたソーシャルワークの展開②(テキスト168～181頁)(テキスト182～197頁)
- 第19回: 災害時における総合的かつ包括的な支援体制①(テキスト200～218頁)
- 第20回: 災害時における総合的かつ包括的な支援体制②(テキスト200～218頁)
- 第21回: 災害時における総合的かつ包括的な支援体制③(テキスト219～237頁)
- 第22回: 福祉計画の意義と種類、策定と運用①(テキスト240～247頁)
- 第23回: 福祉計画の意義と種類、策定と運用②(テキスト248～258頁)
- 第24回: 福祉計画の意義と種類、策定と運用③(テキスト259～267頁)
- 第25回: 福祉計画の意義と種類、策定と運用④(テキスト268～275頁)
- 第26回: 福祉計画の意義と種類、策定と運用⑤(テキスト276～283頁)
- 第27回: 福祉行財政システム①(テキスト286～291頁)
- 第28回: 福祉行財政システム②(テキスト292～300頁)
- 第29回: 福祉行財政システム③(テキスト301～323頁)
- 第30回: 全体のまとめ

※講義内容は前後する場合があります。

使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021年、3,190円(税込)

※今年度、「ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ」を履修する学生は、演習Ⅱの授業内容と本講義内容が理論と実践でリンクしていく。そのため、テキストも演習Ⅲの授業にも参考書として使用できる。また、社会福祉士国家試験対策にも対応できると考える。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・予習・復習として資料や教科書からその日の内容を確認しておく(1時間)。
- ・その日のうちに講義内容を振り返り、疑問点等があれば、質問や自分自身で調べるなど、必ず解決しておく(リアクションペーパーを通じて質問してもよい)。
- ・自分自身の住んでいる地域の特徴の把握、新聞やインターネット等のニュースから時事問題に関心を持つ。

<参考文献> その他、適宜、参考文献があれば講義内で紹介する。

- ・松端克文『地域の見方を変えると福祉実践が変わるーコミュニティ変革の処方箋ー』ミネルヴァ書房、2018年、3,300円(税込)
- ・『社会福祉学習双書』編集委員会『第8巻 地域福祉と包括的支援体制』全国社会福祉協議会出版部、2022年、2,970円(税込)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部・教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPA又はオフィスアワー(曜日・時限等は初回講義でお知らせします。)

留意事項:

- ・本講義は、社会福祉の基本的な事柄は既に習得済であることを前提として進めていく。
- ・本講義は、テキストと授業資料に沿って進める。状況によって章の順序が変わる可能性もある。
- ・授業の際には、動画資料や個人およびグループワークが行われることがある。
- ・毎回のリアクションペーパーは評価対象になる。
- ・当科目は、社会福祉士国家試験の必須科目となっており、社会福祉士を目指している学生には重要な科目である。そのために、授業中に他の学生の学習を妨げることがないようにお互いに授業マナーを守って臨んでほしい。

科目コード: 21147 科目ナンバリング: WP20C08K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会保障I(Social Security I)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次: 2 単位数: 2 授業形式: 講義

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素： 10.資料調査課題
11.討論
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、社会保障の現状・体系・歴史的経緯など基本的な枠組みと医療保険制度と介護保険制度を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている医療、介護に関わる社会課題を取り上げながら、その制度の現状と課題について学びます。

キーワード： 社会保障、医療保険、介護保険

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： ワークシート
小テスト
期末試験

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート
期末試験

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回：現代社会と社会保障
第2回：社会保障の範囲と対象
第3回：社会保障の役割と意義
第4回：社会保障の方法
第5回：社会保障の史的展開(1)社会保障前史
第6回：社会保障の史的展開(2)社会保障の拡充
第7回：社会保障の史的展開(3)社会保障の再編と全世代型社会保障
第8回：医療保険(1)国民医療費
第9回：医療保険(2)加入と被扶養者

- 第10回: 医療保険(3)保険診療と診療報酬制度
- 第11回: 医療保険(4)保険給付
- 第12回: 医療保険(5)海外の医療保障制度
- 第13回: 介護保険(1)介護認定とケアマネジメント
- 第14回: 介護保険(2)介護給付と予防給付
- 第15回: 介護保険(3)地域支援事業

使用テキスト: 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座 社会保障』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等: ・授業終了時に事前課題を提示する場合があります、次回までに取り組んで参加すること。

【参考資料等】

・『厚生労働省の指標増刊 保険と年金の動向 2022/2023』厚生労働統計協会

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 21148 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会保障II(Social Security II)

担当者: 藤島 稔弘

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素: 10.資料調査課題

11.討論

16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている社会問題の現状について考える機会を提供し、今後の社会保障制度のあり方について考えます。

キーワード: 社会保障、所得保障、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: ワークシート

評価割合: 50%

小テスト

期末試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：社会保障の財政(1)社会保障給付費と社会支出
 - 第2回：社会保障の財政(2)社会保障の財源
 - 第3回：年金保険(1)年金制度の沿革
 - 第4回：年金保険(2)年金制度へ加入と負担
 - 第5回：年金保険(3)高齢期の年金給付と在職老齢年金
 - 第6回：年金保険(4)障害・遺族年金
 - 第7回：年金保険(5)年金財政と世代間格差
 - 第8回：年金保険(6)企業年金と個人年金
 - 第9回：労働者災害補償保険(1)労災の責任の負担
 - 第10回：労働者災害補償保険(2)労働災害の現状と給付
 - 第11回：労働者災害補償保険(3)過労死・精神疾患の認定と給付
 - 第12回：雇用保険(1)失業の現状と高年齢雇用
 - 第13回：雇用保険(2)介護・育児休業の現状と支援
 - 第14回：雇用保険(3)長期失業と求職者支援制度
 - 第15回：社会手当：子どもと所得保障

使用テキスト： 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座 社会保障』中央法規(最新版)

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等： ・授業終了時に事前課題を提示する場合があります、次回までに取り組んで参加すること。

【参考資料等】

・『厚生指標増刊 保険と年金の動向 2022/2023』厚生労働統計協会

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：21149

科目ナンバリング：WP20C03K

主な使用言語：日本語|

授業名(英文)：福祉サービスの組織と経営A(Organization and Management of the Welfare Service A

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：08共同学修

11討論

16振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

今や福祉サービス提供施設は、施設独自の努力による経営手腕が求められています。この授業では、組織の形態としての法人を概説し、福祉サービスを提供する社会福祉法人等について理解を深めます。また、社会学・経営学の基礎理論に基づいた組織の基礎理論や集団力学・リーダーシップ理論を理解します。

キーワード：施設経営、経営学理論、財務諸表

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：社会福祉法人等の組織・機関の役割や体制や組織管理の基礎的理論について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で取り上げた事例問題や自発的学修を通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって得た知見等が期末試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中の教員の呼びかけに応じることによって、授業への自発的参加の精神を身につける。直接的な評価対象としないが、自発的な学修によって得た知見等が定期試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や筆記試験等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

1. オリエンテーション(授業の概略と到達目標、評価方法)
2. 福祉サービスにおける組織と法人
3. 社会福祉法人
4. 特定非営利活動法人
5. 医療法人
6. その他の組織や団体
7. 福祉サービスの沿革
8. 公益法人制度

9. 組織間連携の基礎理論
 10. 組織間連携のマネジメント
 11. 組織運営の基礎理論
 12. コンクリフト
 13. 集団力学の基礎理論
 14. リーダーシップの基礎理論
 15. フォロアーシップ理論
- 学期末試験

使用テキスト： ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』中央法規出版、最新版。
 ・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
 ・授業後は、教科書や配付資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
 ・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・この科目は、後期開講の『福祉サービスの組織と経営B』に先行する科目です。後期に『福祉サービスの組織と経営B』を履修する人は、必ずこの科目を履修してください。
 ・いよいよソーシャルワーク実習やソーシャルワーク実習指導が始まります。実習に行く人たちは、各自の実習先施設の組織体制や経営方法と経営理論を照らし合わせてみましょう。実習に行かない人たちは、これまで属した組織の体制や運営方法と照らし合わせてみましょう。
 ・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード： 21150 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：** 日本語 |
授業名(英文)： 福祉サービスの組織と経営B (Organization and Management of the Welfare Service B)
担当者： 富樫 ひとみ

基本情報

年次： 2	単位数： 2	授業形式： 講義
曜時： 月曜5限		履修可能学科・専攻： W
関連資格： 教職 福祉主 社福士 福祉心理		AL要素： 08共同学修 11討論 16振り返り用紙と応答

授業の概要： 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

今や福祉サービス提供施設は、施設独自の努力による経営手腕が求められています。この授業では、社会学・経営学の基礎理論に基づいた組織の基礎理論や集団力学・リーダーシップ理論を理解します。後期では、事例を使い組織管理・運営方法の理論についての理解を深めます。また、組織の財政・会計を表す財務諸表を読み解きます。

キーワード： 施設経営、経営学理論、財務諸表

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標： 組織管理の基礎的理論、財務管理・会計について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げた事例問題や自発的学修を通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって得た知見等が期末試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業中の教員の呼びかけに応じることによって、授業への自発的参加の精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的な学修によって得た知見等が定期試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や筆記試験等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. オリエンテーション(授業の進め方)
 2. 福祉サービス組織の経営体制
 3. 福祉サービス組織のコンプライアンスとガバナンス
 4. 福祉サービス組織の経営管理
 5. 経営管理と事例1(理念)
 6. 経営管理と事例2(戦略)
 7. 苦情解決とリスクマネジメント
 8. サービスの質の向上とサービスマネジメント
 9. 情報管理
 10. 会計管理と財務管理
 11. 財務諸表1(貸借対照表)
 12. 財務諸表2(事業活動計算書と資金収支計算書)
 13. 福祉人材のマネジメント
 14. 福祉人材の育成
 15. 労働環境の整備
- 学期末試験

使用テキスト: ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』中央法規出版、最新版。
・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
・授業後は、教科書や配付資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項:

- ・この科目は、前期開講の『福祉サービスの組織と経営A』に続く科目です。この科目を履修する人は、前期の『福祉サービスの組織と経営A』の履修を終えている必要があります。
- ・心理福祉実習や社会福祉援助技術現場実習に行った人たちは、各自の実習先施設の組織体制や経営方法と経営理論を照らし合わせてみましょう。実習に行かない人たちは、これまで属した組織の体制や運営方法と照らし合わせてみましょう。
- ・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード: 21152 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 権利擁護を支える法制度(Laws for the Human Rights and Rights Protection)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 社福士 福祉心理

AL要素: 10.資料調査課題
16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(基本的には同時双方向型)但し、課題研究型やオンデマンドで実施する場合もあるので必ず、お知らせ(ユニパとチームズ)を確認してください。

ソーシャルワーカーは、人権及び権利を擁護する機能と役割がある。

権利擁護は誰にでも関わることであるが、ソーシャルワーカーは特に判断能力が不十分な人や意思及び権利を主張することが困難な人の自己決定や権利主張を支援し、代弁することにより、本人の権利を擁護する。具体的には、意思決定支援、成年後見制度や日常生活自立支援事業などを通して行われる活動である。

ソーシャルワーカーは、様々な理由により自分の意思を十分に表明できない人々と出会う機会が多い。そのため、法律や制度、地域における社会資源を十分に理解し、本人の判断能力が十分でない場合や虐待などの権利侵害に対しては権利擁護を図ること、さらには、多職種連携や地域資源を活用し、不足するサービス・資源について、住民とともに新たな開発に関わっていくことなどが期待される。

本講義では、権利擁護の意義や機能に関して学んでいくとともに、権利擁護活動の実際例について触れながら理解を深めていく。

キーワード: 憲法、契約、権利擁護、意思決定支援、成年後見制度、日常生活自立支援事業

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 以下の内容を理解する。

- ・権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎
- ・権利擁護の意義と支える仕組み
- ・意思決定支援
- ・成年後見制度
- ・日常生活自立支援事業の概要
- ・権利擁護活動の実際

評価方法: 授業の際のリアクションペーパー
授業態度
レポート
確認テスト

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 以下の内容についての課題や今後の展望を考えることができ、それを他者へ表明することができるようにする。

- ・権利擁護の実態と成年後見制度の課題
- ・日常生活自立支援事業の実態と課題
- ・意思決定支援のあり方

評価方法: 授業の際のリアクションペーパー

評価割合: 50%

授業態度

レポート

確認テスト

学期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・授業の予習および復習を行い、各回のつながり(流れ)を自らが把握できるようにしておくこと。
- ・自分の周りで生じている福祉の課題に気づき、授業で得られた知見をその課題の理解や解決への取り組みなどに活かせるように意識して授業に臨むこと。
- ・自らが問題意識をもって授業に取り組むことで、授業の内容の理解の促進と、社会福祉実践の場で知識が活用され得る。
- ・直接的な評価の対象とはしないが、これらの取り組みがグループ活動、レポート及び学期末試験から認められる場合は、上記の項目「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしないが、これらの取り組みがグループ活動、レポート及び学期末試験等から認められる場合は、上記の項目「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

レポートやリアクションペーパーを作成する際には、参考文献および引用文献を記載する。自分の考えを述べる際にも参考とした文献などを記載すること。

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や記述内容に人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や、カンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション & 権利擁護の必要性
 2. 法の基礎
 3. ソーシャルワークと法のかかわり1: 憲法規範としての権利擁護
 4. ソーシャルワークと法のかかわり2: 民法における権利, 義務, 責任
 5. ソーシャルワークと法のかかわり3: 民法における権利, 義務, 責任
 6. ソーシャルワークと法のかかわり4: 権利擁護を目的とした行政法規
 7. 権利擁護の意義と支える仕組み1
 8. 権利擁護の意義と支える仕組み2
 9. 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題
 10. 権利擁護に関わる組織、団体、専門職
 11. 成年後見制度1

- 12. 成年後見制度2
 - 13. 成年後見制度3
 - 14. 日常生活自立支援事業1
 - 15. 日常生活自立支援事業2
- 授業のまとめ

【定期試験】

使用テキスト: 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 『権利擁護を支える法制度』、中央法規、2021

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・参考資料
意思決定支援のガイドライン、憲法、政府の報告書
- ・事前準備学習
自分の身近な地域でどのような権利擁護活動やボランティア活動があるのか調べておく。
生活保護法、障害者総合支援法、成年後見制度等の概要を理解しておく。
- ・予習・復習のポイント
テキストと配付資料を繰り返し目を通すこと、新聞記事やインターネットなどを活用し、関連する事項についても学んでおくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段: まずは、メールで用件を送ってもらえるとありがたいです。
 ・Eメールのタイトル: 簡単に用件を記入
 ・本文: 学籍番号と氏名

留意事項: ・授業時には、動画資料や個人・グループワークを行うことがある。
 ・受講において自主的に取り組む姿勢、他の受講生の学習を妨げることがないように教室マナーを要する。

科目コード: 21153 **科目ナンバリング:** WP20C06K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 保健医療と福祉I (Health Care System and Medical Service I)

担当者: 福田 潤

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 木曜6限 **履修可能学科・専攻:** W

関連資格: 福祉主 社福士 福祉心理 **AL要素:** 08協同学修
 10資料調査課題
 14輪読活動
 17発問と回答

授業の概要: 対面授業を基本とします。{但し、県の感染症等の指標がstage4になった場合は、遠隔授業(オンデマンド型を中心に時々同時双方向型あり)に変更することもあります。}

医療という一見すると福祉とは無関係のフィールドで、ソーシャルワーカーという社会福祉の職種がなぜ必要なのかを一緒に考えていきたいと思います。

医療福祉論 I では、医療ソーシャルワーカーとはどのような職業なのか、勤務している医療機関はどういう形態になっているのか、業務指針や倫理綱領、社会資源など、知識を獲得す

るための講義を中心に授業を展開していきます。

なお、実務経験を活かし、以下のように授業を行います。

- ・テーマごとに、テーマに沿った実体験の事例を折り込みながら、講義を進めていきます。
- ・授業中、テーマに沿った専門講師も招き、講義をしていただく機会も設けます。

キーワード： 医療ソーシャルワーク、業務指針、倫理綱領、社会資源

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
- ・医療ソーシャルワーカーの歴史の変遷及び存在価値について理解する。
 - ・医療ソーシャルワーカーの業務指針及び倫理綱領について理解する。
 - ・医療ソーシャルワーカーの業務内容及び役割について理解する。
 - ・医療機関の特徴を知る。
 - ・実習前に身につけておきたい様々な社会資源について理解する。

評価方法： 定期試験

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 事例を通して自己覚知を行い、思考力や判断力、表現力を体得する。

評価方法： 直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題に対する調査を行い、レポートを提出した場合、定期試験とは別に加点評価を行う。

評価割合： + α

▼ 実践的ボランティア

(指定する)医療福祉に関する外部の研修会等に自発的に参加し、レポートを提出した場合、定期試験とは別に加点評価を行う。

評価割合： + α

▼ 公正性

特になし

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション、医療ソーシャルワーカーの仕事って？

【第02回】医療機関の種類(機能別)

【第03回】医療ソーシャルワーカーの歴史の変遷

【第04回】医療ソーシャルワーカーの業務指針(1)

【第05回】医療ソーシャルワーカーの業務指針(2)及び倫理綱領(1)(ソーシャルワーク定義)

【第06回】倫理綱領(2)(価値・視点)

【第07回】医療ソーシャルワーカーの資格問題について

【第08回】実習前に知っておきたい社会資源(1)～社会資源とは、権利擁護～

【第09回】実習前に知っておきたい社会資源(2)～社会保険(医療保険1)～

【第10回】実習前に知っておきたい社会資源(3)～社会保険(医療保険2)～

【第11回】実習前に知っておきたい社会資源(4)～社会保険(介護保険1)～

【第12回】実習前に知っておきたい社会資源(5)～社会保険(介護保険2)～

【第13回】実習前に知っておきたい社会資源(6)～障害者1(身体・知的・精神)～

【第14回】実習前に知っておきたい社会資源(7)～障害者2(難病)

【第15回】病院機能別医療ソーシャルワーカーの業務(1)～急性期～

定期試験

使用テキスト： なし(レジュメを配布します)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に事業計画で示された箇所の資料やテキストを読んでおいてもらえると、授業の理解度が向上すると思われます。

★参考テキスト

・(改訂版)新・医療福祉学概論～利用者主体の保健医療サービスをめざして～
佐藤 俊一・竹内 一夫・村上 須賀子 編著 川島書店
{<http://kawashima-pb.kazekusa.co.jp/>}

・ソーシャルワークシリーズ『医療ソーシャルワーク』
杉本 敏夫・岡田 和敏 編著 株式会社電気書院-久美部門-
{<http://www.kumi-web.co.jp/book/2004/04/247.html>}
※このテキストは2019年に廃刊になっています。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールまたは電話にての対応となります。

留意事項： 病院での実習や、卒業後の就職先として医療ソーシャルワーカー(MSW)を希望している学生は、必ず履修してください。
そうでない学生でも、社会に出てから役に立つ講義もあります。

科目コード：21154 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保健医療と福祉II(Health Care System and Medical Service II)

担当者：福田 潤

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：08協同学修

10資料調査課題

13役割演技と疑似体験

14輪読活動

17発問と回答

授業の概要： 対面授業を基本とします。{但し、県の感染症等の指標がstage4になった場合は、遠隔授業(オンデマンド型を中心に時々同時双方向型あり)に変更することもあります。}

医療という一見すると福祉とは無関係のフィールドで、ソーシャルワーカーという社会福祉の職種がなぜ必要なのかを一緒に考えていきたいと思えます。

医療福祉論IIでは、医療ソーシャルワークの展開過程や面接技術といった技術面の獲得を目指し、事例を用いながら、演習を中心に授業を展開していきます。また、チーム医療や記録の実際など、知識面の充実も図っていきます。

なお、医療福祉論I同様、実務経験を活かし、以下のように授業を行います。

- ・テーマごとに、テーマに沿った実体験の事例を折り込みながら、講義を進めていきます。
- ・授業中、テーマに沿った専門講師も招き、講義をしていただく機会も設けます。

キーワード： 医療ソーシャルワーク、社会資源、自己覚知、面接技術、チーム医療、記録

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** ・実習前に身につけておきたい様々な社会資源について理解する。
・医療ソーシャルワークの展開過程を理解する。
・面接技術を身につける。
・チーム医療の中の医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
・電子カルテと記録の仕方について理解する。

評価方法: 定期試験

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 事例を使用したグループワークを通して自己覚知を行い、思考力や判断力、表現力を体得する。

評価方法: 直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

演習授業終了後に出す課題を自宅で行い、次の授業でグループ内発表を行うことによって、自分の考えと他者の考えとの違いに気づく。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

(指定する)医療福祉に関する外部の研修会等に自発的に参加し、レポートを提出した場合、定期試験とは別に加点点評価を行う。

評価割合: + α

▼公正性

特になし

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】医療ソーシャルワークの展開過程(1)
【第02回】医療ソーシャルワークの展開過程(2)
【第03回】医療ソーシャルワークの展開過程(3)
【第04回】コミュニケーションと自己覚知(1)
【第05回】コミュニケーションと自己覚知(2)
【第06回】面接技術(1)
【第07回】面接技術(2)
【第08回】面接技術(3)
【第09回】面接技術(4)
【第10回】病院機能別医療ソーシャルワーカーの業務(1)～回復期・療養型～
【第11回】演習(1)(事例検討～グループワーク)
【第12回】演習(2)(事例検討～グループワーク)
【第13回】演習(3)(事例検討～グループワーク)
【第14回】診療録(カルテ)について～カルテの書き方(SOAP方式)～
【第15回】チーム医療と連携について
定期試験

使用テキスト: ・対人援助のための相談面接技術『逐語で学ぶ21の技法』
岩間 伸之 著 中央法規出版
{<http://www.chuohoki.co.jp/products/welfare/3073/>}

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に事業計画で示された箇所の資料やテキストを読んでおいてもらえると、授業の理解度が向上すると思われま。

★参考テキスト

・(改訂版)新・医療福祉学概論～利用者主体の保健医療サービスをめざして～
佐藤 俊一・竹内 一夫・村上 須賀子 編著 川島書店
{<http://kawashima-pb.kazekusa.co.jp/>}

・ソーシャルワークシリーズ『医療ソーシャルワーク』
杉本 敏夫・岡田 和敏 編著 株式会社電気書院一久美部門-
{<http://www.kumi-web.co.jp/book/2004/04/247.html>}

※このテキストは2019年に廃刊になっています。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールまたは電話にての対応となります。

留意事項: 病院での実習や、卒業後の就職先として医療ソーシャルワーカー(MSW)を希望している学生は、必ず履修してください。
そうでない学生でも、社会に出てから役に立つ講義もあります。

科目コード:21155 科目ナンバリング:WP20C11K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): ファミリーソーシャルワーク論I(Studies in Family Social Work I)

担当者: 吉田 滋

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 特になし。

授業の概要: ソーシャルワークの実践的な課題と現状について、主として学校をキーワードにそれに関連した基本的な社会福祉の用語、理論を学びながら、スクールソーシャルの現場で起きている現実課題を可能な範囲でやさしく解説していきます。対象は児童分野だけではなく、高齢、障害、貧困、外国人とさまざまな分野に及びます。
日本で今起きているソーシャルワークの現実について学びます。

キーワード: 家族福祉、ファミリー、児童福祉、引きこもり、不登校、スクールソーシャルワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 課題を抱えている家庭への支援の現状を理解し、問題解決に必要とされる知識や技能について理解し、対応可能な総合的知識を習得する。

評価方法: 期末試験を行う。

評価割合: 80

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義の中で具体的支援事例についての演習を行い、それについての支援を自ら記述できる。

評価方法: 期末試験を行う。

評価割合: 10

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回オリジナルの資料を配布し、リアクションペーパーを記述してもらうことで学習態度や積極性を評価する。

評価割合: 10

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会福祉的な言動行為がみられた場合は、減点や嚴重注意の対象となりうる。

評価割合：0

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【01回】オリエンテーション
【02回】社会的養護における家族支援の意義と課題1社会的養護と家族責任、家族支援における新たな視点・実践
【03回】家族論と家族を支援するための基礎知識1家族の定義、家族の形態と家族の歴史
【04回】家族論と家族を支援するための基礎知識2家族の機能、現代家族の特徴
【05回】家族論と家族を支援するための基礎知識3家族を理解するための理論
【06回】家族のアセスメントと支援計画1家族アセスメントの要点・基本、ジェノグラム、エコマップ
【07回】家族のアセスメントと支援計画2ケースストーリーのまとめかた、実際例、家族支援計画の作成と合意
【08回】児童福祉施設における子どものケアと家族支援1子どもの気持ち、子どもへの説明、子どもの描く家族への思い
【09回】児童福祉施設における子どものケアと家族支援2SWと家族との関係、子どもと家族の交流支援、家族引き取りの支援、不適切な家庭引き取りの防止
【10回】家族療法、家族療法で用いられる主な支援ツール、考え方、社会的養護における適用の基本と留意点
【11回】虐待ケースにおける家族支援プログラム。虐待ケースの増加と家族支援。
【12回】家族支援の基本と展開過程1。家族支援の基本、家族支援の展開過程。
【13回】家族支援の基本と展開過程2。乳児院で行う家族支援、児童養護施設で行う家族支援。
【14回】家族支援の基本と展開過程3。児童心理治療施設で行う家族支援、児童自立支援施設で行う家族支援、母子生活支援施設で行う家族支援。
【15回】まとめ
前期末テスト

使用テキスト：『家族支援と子育て支援ファミリーソーシャルワークの方法と実践(やさしくわかる社会的養護5)(やさしくわかる社会的養護シリーズ)』相澤仁編集、宮島清編集、明石書店。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 講義の中で興味のある部分や知らない分野については徹底的に専門所を読むなどして知識を身に着けること。可能な限り当日の記憶のあるうちに行って欲しい。
日ごろから福祉に関する報道に留意しどのような支援がされていたのか、されなかったのか注意してほしい。
参考文献等については講義の中で随時紹介していく。

障がいのある

履修者への対応： 可能な限りの対応をするので、事前に学務部に相談しておくこと。

授業時間外の連絡手段：

連絡方法等については初回に指示する。

留意事項：

毎回オリジナルの資料を配布するので、散逸しないようにファイルしておくこと。
コロナのためにリモートになった場合は双方向型の授業を行う。
事前にteamsへの参加登録を済ませておくこと。

科目コード：21156

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ファミリーソーシャルワーク論II(Studies in Family Social Work II)

担当者：吉田 滋

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：特になし。

授業の概要： ソーシャルワークの実践的な課題と現状について、主として学校をキーワードにそれに関連した基本的な社会福祉の用語、理論を学びながら、スクールソーシャルの現場で起きている現実課題を可能な範囲でやさしく解説していきます。対象は児童分野だけではなく、高齢、障害、貧困、外国人とさまざまな分野に及びます。日本で今起きているソーシャルワークの現実について学びます。

キーワード： 家族福祉、ファミリー、児童福祉、引きこもり、不登校、スクールソーシャルワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 課題を抱えている家庭への支援の現状を理解し、問題解決に必要とされる知識や技能について理解し、対応可能な総合的知識を習得する。

評価方法： 期末試験を行う。

評価割合： 80

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義の中で具体的支援事例についての演習を行い、それについての支援を自ら記述できる。

評価方法： 期末試験を行う。

評価割合： 10

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回オリジナルの資料を配布し、リアクションペーパーを記述してもらうことで学習態度や積極性を評価する。

評価割合： 10

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合： 0

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会福祉的な言動行為がみられた場合は、減点や嚴重注意の対象となりうる。

評価割合： 0

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

1. スクールソーシャルワーカーに必要な知識。
2. スクールソーシャルワーク活動に向けた準備。
3. スクールソーシャルワーク活動における留意点。
4. スクールソーシャルワーク活動に使う用紙等の実際。
5. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例1 発達障害。
6. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例2 自殺念慮。リストカット。
7. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例3 生活保護。
8. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例4 引きこもり、不登校。
9. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例5 外国籍児童。生徒。
10. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例6 児童虐待。
11. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例7 家庭崩壊。

12. スクールソーシャルワーク活動の実際 実例8 貧困からの進学。
13. スクールソーシャルワーク活動の実際 実例9 非行。
14. スクールソーシャルワーカーの行う研修。
15. 現場で起きていること。
16. 期末試験。

使用テキスト：『家族支援と子育て支援ファミリーソーシャルワークの方法と実践(やさしくわかる社会的養護5)(やさしくわかる社会的養護シリーズ)』相澤仁編集、宮島清編集、明石書店。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 講義の中で興味のある部分や知らない分野については徹底的に専門所を読むなどして知識を身に着けること。可能な限り当日の記憶のあるうちに行って欲しい。
日ごろから福祉に関する報道に留意しどのような支援がされていたのか、されなかったのか注意してほしい。
参考文献等については講義の中で随時紹介していく。

障がいのある

履修者への対応： 可能な限りの対応をするので、事前に学務部に相談しておくこと。

授業時間外の連絡手段：

連絡方法等については初回に指示する。

留意事項：

毎回オリジナルの資料を配布するので、散逸しないようにファイルしておくこと。
コロナのためにリモートになった場合は双方向型の授業を行う。
事前にteamsへの参加登録を済ませておくこと。

科目コード：21157

科目ナンバリング：WP20C12K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：刑事司法と福祉A(Criminal Justice and Social Welfare A)

担当者：山中 俊克

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 罪を犯した人びとはどのように社会に復帰するのでしょうか。それは社会の受け入れ、私たちの問題です。罪が繰り返されれば、本人にとってはもちろん、社会にとっても大きな損失です。
ここで取り扱うテーマは、私たちの身近に起こることがらでありながら、社会では正しく理解されていない大切な課題です。本授業では更生保護制度と医療観察制度を中心に取り上げます。

近年、高齢者及び障害者による犯罪件数や再犯率は増加し、これらの人々の支援にむけて社会福祉と更生保護との連携がとても重要なものとなっています。そのため、社会福祉機関及び施設の業務では更生保護制度の理解が求められています。前期の授業では、更生保護制度の現状と課題について、テキストと適宜配付します資料に依拠して解説していきます。

キーワード： 司法臨床 人間行動科学 当事者性 環境の調整 社会復帰 連携 要保護性 可塑性 贖罪意識

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ①更生保護制度について理解できます。②刑事司法で活動する組織、団体及び専門職の役割について理解することができます。③刑事司法分野におけるソーシャルワーカーの他機関・多職種との連携について理解することができます。④医療観察制度について理解することができます。

評価方法: 学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げた各テーマに関する知識を自ら深め、それを筋道立てて論述することができます。そして、実務現場で求められている内容について、要点を押さえた論理力、さらに表現する力(口頭での説明や討議、文章化)を身につけられるようにします。

評価方法: 学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にははしませんが、主体的な修習による深まりが、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティアリズム

直接の評価対象にははしませんが、ボランティア活動などによって獲得された考えや理解が、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にははしませんが、先入観、偏見に基づく差別的言動や記述については注意します。そして話し合いたいと思います。それを通じて学び、深め、成長につなげてほしいと考えます。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:授業のオリエンテーション～到達目標と概略～
第2回:刑事司法と社会福祉
第3回:社会と犯罪
第4回:犯罪原因論と対策
第5回:刑罰とはなにか
第6回:刑事司法
第7回:施設内処遇(成人)
第8回:社会内処遇①
第9回:社会内処遇②
第10回:精神障害者を対象とした医療観察制度
第11回:高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉
第12回:薬物依存を抱える人と刑事司法
第13回:犯罪被害者等支援
第14回:コミュニティと刑事司法
第15回:まとめ
定期試験

使用テキスト: 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 10『刑事司法と福祉』中央法規 2021年(2,500円税別)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、次回取り上げるテキストのテーマや配付資料を読み、わからない用語や箇所を明らかにしておいてください。授業後は、わからなかったところについて明らかにし、質問してください。わからないままにしないでください。
普段から犯罪や少年事件、罪を犯した人の社会復帰に関するニュースに関心を持ち、調べてください。
『刑事司法ソーシャルワークの実務—本人の更生支援に向けた福祉と司法の協働』千葉県社会福祉士会・千葉県弁護士会編、日本加除出版、2018年、3960円
『更生支援計画書をつくる：罪に問われた障害のある人への支援』水藤昌彦監修、東京TSネット編、2016年、2090円
専門書として次の2点を挙げておきます。
『触法障害者の地域生活支援—その実践と課題』生島浩編著、金剛出版、2017年、3960円
『司法福祉学研究』日本司法福祉学会、生活書院(学会誌として毎年発行されています)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業担当者は6号館の研究室をおたずねください。曜日・時間等については、最初の講義の際にお伝えします。

留意事項： 特になし

科目コード：21158 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 刑事司法と福祉B(Criminal Justice and Social Welfare B)

担当者： 高橋 活夫

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 子ども(少年)や障害者、高齢者、女性など社会的弱者が関係する犯罪事件が、毎日のように報道されています。
この授業では、罪を犯した社会的弱者の社会復帰支援や制度について学んでいきます。また、社会的弱者は犯罪被害に遭うことも多く、司法や福祉が連携しながら対応していく重要性について学んでいきます。
理解を深めるために、社会的弱者の関係する犯罪事件の具体的ケースを通して、支援の課題や問題点について考えていきます。

キーワード： 司法臨床 人間行動科学 立ち直り 環境調整 社会復帰 連携 権利 責任能力 日本型福祉社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：** ①少年法と少年犯罪を取り巻く課題について理解します。
②医療観察制度と社会的偏見について理解します。
③高齢者・障害者の社会復帰支援と被害支援について理解します。
④女性や子どもの暴力被害支援について理解します。

評価方法： 学期末筆記試験、課題レポート

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた各テーマに関する知識を自ら深め、それを筋道立てて論述することができます。そして、実務現場で求められている内容について、要点を押さえた論理力、さらに表現する

力(口頭での説明、文章化)を身につけるようにします。

評価方法: 学期末筆記試験、課題レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にはしませんが、主体的な修習による深まりが、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にはしませんが、ボランティア活動などによって獲得された考えや理解が、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にはしませんが、先入観、偏見に基づく差別的言動や記述については注意します。そして話し合いたいと思います。それを通じて学び、深め、成長につなげてほしいと考えます。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回:オリエンテーション～司法と福祉～
- 第2回:少年司法
- 第3回:少年の施設内処遇
- 第4回:少年事件と実名報道
- 第5回:少年事件と死刑判決
- 第6回:精神障害者と医療観察制度
- 第7回:精神障害者と事件報道
- 第8回:高齢者・障害者の犯罪・非行
- 第9回:犯罪に巻き込まれる障害者
- 第10回:高齢者の犯罪と福祉
- 第11回:アディクションを抱える人と刑事司法
- 第12回:犯罪被害者等支援
- 第13回:女性等の暴力被害支援
- 第14回:子ども虐待と刑事事件
- 第15回:まとめと今後の課題

定期試験

使用テキスト: 『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「10 刑事司法と福祉」』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規、2021年、2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、次回取り上げるテキストのテーマや配布資料を読み、分からない用語や個所を明らかにしておいてください。授業後は、分からなかったところについて明らかにし、質問してください。分からないままにしないでください。
普段から子ども(少年)や障害者、高齢者、女性などに関する犯罪事件に関心を持ち、調べてください。
参考文献は以下のものです。
『自閉症裁判 レッサーパンダ帽の「罪と罰」』佐藤幹夫、朝日文庫、2008年、1100円＋税
『刑務所しか居場所のない人たち』山本譲司、大月書店、2018年、1500円＋税
『少年法入門』廣瀬健二、岩波新書、2021年、902円
『記者がひもとく「少年」事件史』川名壮志、岩波新書、2022年、860円＋税
その他参考文献を、授業で提示します。

障がいのある履修者への対応: 障がいに応じて可能な限り適切に対応します。

授業時間外の連絡手段: 講師室をおたずねください。曜日・時間等については、最初の講義の際にお伝えします。

留意事項： 特になし

科目コード：21159 科目ナンバリング：WP30C01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：福祉行財政論A(Social Services Administration and Finance A)

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：07発表
08共同学修
10資料調査課題
11討論
15レポート指導
16振り返り用紙と応答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

社会福祉に関する行政や財政は、国家体制の中で実施されます。この授業では、国家体制を理解したうえで、福祉行財政の理念や仕組みについての理解を深めることを目的とします。近年、福祉制度の実施に欠かせない福祉計画の手法についても取り上げます。この授業では、知識の習得を目指します。そのため、グループレポートの提出があります。

キーワード： 国家のしくみ、福祉行政、福祉計画、社会問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 国家の仕組みや福祉サービスを行う行政組織の役割と実施体制、実施方法等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 小テスト及びグループレポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 福祉政策やその問題点等について、グループ学習や自主的な学習を通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 小テスト及びグループレポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

小テストやグループ学習、グループレポート、グループ発表をとおして、主体的な学修態度を培う。直接的な評価対象としないが、自主的な学修によって得た知見等が小テストやグループレポート、グループ発表等の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習やディスカッションによって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。

直接的な評価対象としないが、自発的なグループ学習や学修によって得た知見等が小テストやグループレポートの記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や小テスト、グループレポート、グループ活動、発表等に

において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあつた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. この授業の概略と到達目標、評価方法
 2. 国家の仕組みと行政の業務
 3. 国家の行政組織
 4. 行政の骨格
 5. 社会福祉と法制度
 6. 地方自治体の組織
 7. 社会福祉基礎構造改革とサービス利用方式
 8. 相談過程・相談体制
 9. 専門機関と専門職
 10. 地域の相談システム
 11. 財政とは
 12. 国家における財政
 13. 地方自治体における財政
 14. 福祉計画の概要
 15. 福祉計画の目的・意義

使用テキスト： ・社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画』発行所・中央法規出版(第5版)
・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。

参考文献・資料等： ・授業後は、教科書や配布資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・この科目は、後期開講の『福祉行財政論B』に先行する科目です。後期に『福祉行財政論B』を履修する人は、必ずこの科目を履修してください。
・この授業では、授業中に行う小テスト、グループレポート等を100点とし、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめ評価します。
・日頃からニュースや福祉政策問題に関心を向け、わが国の福祉政策を意識してください。
・課題に対しては、コメントを付して返却します。
・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード：21160

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：福祉行財政論B(Social Services Administration and Finance B)

担当者：富樫 ひとみ

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 福祉主 社福士 福祉心理

AL要素：07発表
08共同学修
10資料調査課題
11討論

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

社会福祉に関する行政や財政は、国家体制の中で実施されます。この授業では、国家体制を理解したうえで、福祉行財政の理念や仕組みについての理解を深めることを目的とします。近年、福祉制度の実施に欠かせない福祉計画の手法についても取り上げます。授業では、『福祉行財政論A』とこの授業の前半で学修した知識をベースに福祉行政の理念について考えを深めることを目指します。そのため、グループ発表を行います。講義のほか、行政機関等から職員をお招きして、社会問題や福祉計画等の実際をお話しいただきます。

キーワード： 国家のしくみ、福祉行政、福祉計画、社会問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 国家の仕組みや福祉サービスを行う行政組織の役割と実施体制、実施方法等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 小テストやグループレポート、期末筆記試験 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 福祉政策やその問題点等について、グループ学習や自主的な学習を通して得た経験等を踏まえて、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 小テストやグループレポート、期末筆記試験 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ学習やグループ発表等とおして、主体的な学修態度を培う。直接的な評価対象としないが、期末試験等の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

授業中に行うグループ学習やディスカッションによって、グループメンバー間の助け合いの精神を身につける。直接的な評価対象としないが、自発的なグループ学習や学修によって得た知見等が期末試験の記述に認められた場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言や小テスト、グループレポート、グループ活動、発表、期末試験等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

1. 後期授業の進め方
2. 福祉計画の基本的視点
3. 福祉計画の過程
4. PERT法を使ってみよう

5. ニーズの把握と評価
 6. 住民参加
 7. グループ発表の準備
 8. グループ発表1(各グループ 1組)
 9. グループ発表2(各グループ 1組)
 10. グループ発表3(各グループ 1組)
 11. グループ発表4(各グループ 1組)
 12. グループ発表5(各グループ 1組)
 13. グループ発表6(各グループ 1組)
 14. グループ発表7(各グループ 1組)
 15. 行政機関職員等による講義
- 期末試験

使用テキスト: ・社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画』発行所・中央法規出版(第5版)
 ・必要に応じて、資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。
 ・授業後は、教科書や配布資料について復讐するとともに、関連事項を調べ知見を深めることが望ましい。
 ・参考文献については、授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: ・この科目は、前期開講の『福祉行財政論A』に続く科目です。この科目を履修するためには、前期の『福祉行財政論A』が履修済みであることが必要です。
 ・期末試験を100点とし、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめ評価します。
 ・日頃からニュースや福祉政策問題に関心に向け、わが国の福祉政策を意識してください。
 ・質問等に関しては、授業の中で説明します。

科目コード: 21161 科目ナンバリング: WP40C020K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会福祉士試験対策講座I(Preparation for National Examination for Licensed Social

担当者: 藤島 稔弘、清原 舞

基本情報

年次: 4 単位数: 2 授業形式: 講義

曜時: 火曜3限 履修可能学科・専攻: W

関連資格: AL要素: 5.即時応答
 16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型
 各科目の基礎的な知識の定着を図るため、テキストを用いて重要な用語等の確認を行う。事前に課題を提示し、授業ではその定着度の確認のための毎回の小テストを行う。

キーワード: 社会福祉士、国家試験対策

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 社会福祉士国家試験合格に必要なとされる基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 小テスト(基礎) **評価割合:** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 事前課題や基本的な知識を基に解答に必要な試行、判断ができる。

評価方法: 小テスト(応用)
確認テスト

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、課題の取組状況などから認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:前期ガイダンス/小テスト1・解説
第2回:基礎知識の確認①人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援
第3回:基礎知識の確認②現代社会と福祉/地域福祉の理論と方法
第4回:基礎知識の確認③社会理論と社会システム/社会保障
第5回:基礎知識の確認④小テスト2・解説
第6回:基礎知識の確認⑤低所得者に対する支援と生活保護制度/保健医療サービス
第7回:基礎知識の確認⑥福祉行財政と福祉計画/障害者に対する支援と障害者自立支援制度
第8回:基礎知識の確認⑦社会調査の基礎/福祉サービスの組織と経営
第9回:基礎知識の確認⑧小テスト3・解説
第10回:基礎知識の確認⑨権利擁護と成年後見制度/更生保護制度
第11回:基礎知識の確認⑩相談援助の基盤と専門職/就労支援サービス
第12回:基礎知識の確認⑪高齢者に対する支援と介護保健制度
第13回:基礎知識の確認⑫相談援助の理論と方法/児童に対する支援と児童・家庭福祉制度
第14回:基礎知識の確認⑬小テスト4・解説
第15回:基礎知識のまとめ:小テスト5・解説

使用テキスト: 『社会福祉士受験ワークブック2023 共通科目編』中央法規出版
『社会福祉士受験ワークブック2023 専門科目編』中央法規出版

予習・復習のポイントと ・授業前までに、範囲のテキストを読み、暗記してくる(90分)。

参考文献・資料等: ・授業後、小テストの内容を配布された資料などを基に復習し、資料にない関連事項などについても調べることが望ましい(90分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 【履修上の注意】

相談援助実習Ⅰ、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱが単位履修済か履修中であること。

科目コード: 21162

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会福祉士試験対策講座II(Preparation for National Examination for Licensed Social

担当者：藤島 稔弘、清原 舞

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：5.即時応答

16.振り返り用紙と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】同時双方向型

各科目の基礎的な知識の定着を図るため、テキストを用いて重要な用語等の確認を行う。事前に課題を提示し、授業ではその定着度の確認のための毎回の小テストを行う。

キーワード： 社会福祉士、国家試験対策

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会福祉士国家試験合格に必要なとされる基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 小テスト(基礎)

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 事前課題や基本的な知識を基に解答に必要な試行、判断ができる。

評価方法： 小テスト(応用)

評価割合： 30%

確認テスト

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、課題の取組状況などから認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回：後期ガイダンス／小テスト6・解説

第2回：応用的理解①人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援

第3回：応用的理解②現代社会と福祉／地域福祉の理論と方法

第4回：応用的理解③社会理論と社会システム／社会保障

第5回：応用的理解④小テスト7・解説

第6回：応用的理解⑤低所得者に対する支援と生活保護制度／保健医療サービス

第7回：応用的理解⑥福祉行財政と福祉計画／障害者に対する支援と障害者自立制度

第8回：応用的理解⑦社会調査の基礎／福祉サービスの組織と経営

第9回：応用的理解⑧小テスト8・解説

第10回：応用的理解⑨権利擁護と成年後見制度／更生保護制度

- 第11回: 応用的理解⑩相談援助の基礎と専門職／就労支援サービス
 第12回: 応用的理解⑪高齢者に対する支援と介護保険制度
 第13回: 応用的理解⑫相談援助の理論と方法／児童に対する支援と児童・家庭福祉制度
 第14回: 応用的理解⑬小テスト9・解説
 第15回: 応用的理解のまとめ: 小テスト10・解説

使用テキスト: 『社会福祉士受験ワークブック2023 共通科目編』中央法規出版
 『社会福祉士受験ワークブック2023 専門科目編』中央法規出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業前までに、範囲のテキストを読み、暗記してくる(90分)。
 ・授業後、小テストの内容を配布された資料などを基に復習し、資料にない関連事項などについても調べることが望ましい(90分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 【履修上の注意】
 相談援助実習Ⅰ、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱが単位履修済か履修中であること。

科目コード: 21163 **科目ナンバリング:** WP20C29E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導Ⅲ a (Seminar on Field Work for Social Work Practice III a)
担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次: カリキュラム	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 月曜4限		履修可能学科・専攻: W
関連資格: 教職 社福士 福祉心理		AL要素: 07.発表 11.討論 13.役割演技と模擬体験 15.レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習に必要とされる価値・知識・技術を復習する。また、実習の意義の理解を深め、社会福祉士として習得すべき価値や知識、技術の試行を確実に身に付けられるよう、実習計画書を作成する。さらに、施設等の現場職員や実習体験者からの講話をとおして、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。
 ワークシートや実習計画書の作成の際には、個別にスーパービジョンを受け、個別的スーパービジョンにより、ソーシャルワークに必要な専門性についての自己覚知を深める

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実習前のワークシートやレポート、等の作成を通し、実習やソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: ワークシート、レポート **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で出される課題への取組みをとおして、考察や自らの課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート **評価割合:** 50%
 レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポート、実習計画書の記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回：オリエンテーションと相談援助技術現場実習指導・実習概論
課題①「ソーシャルワーク実習希望の動機」
 - 第2回：実習先施設等の学習
課題②「領域別社会福祉制度の変遷」
 - 第3回：実習計画書について
課題③「実習先についての理解を深めるための学習」
 - 第4回：実習先発表
課題④「実習目的：ワークシート」、課題⑤「実習体験の方法」
 - 第5回：個人調書の書き方の説明
課題⑥「面接時コミュニケーション技術」
 - 第6回：個人調書・誓約書の作成・提出
課題⑦「ソーシャルワークの過程」
 - 第7回：「実習計画書の書き方について」の説明と作成
課題⑧「ソーシャルワーク理論の理解」
 - 第8回：1回目 実習先とのオリエンテーションについて
課題⑨「援助技術(目的と内容・実施方法)」
 - 第9回：実習記録の書き方
課題⑩「外部講師(施設・病院)講義事前学習ワークシート」
 - 第10回：課題⑪「外部講師(施設・社会福祉協議会) 講義事前学習ワークシート」
 - 第11回：外部講師講義(施設・病院)
課題⑫「外部講師講義(施設・病院) 事後学習」
実習計画書：初回提出
 - 第12回：外部講師講義(施設・社会福祉協議会)
課題⑬「外部講師講義(施設・病院) 事後学習」
 - 第13回：4年生による体験報告(領域別)
課題⑭「4年生による体験報告を聞いて」
実習計画書：最終提出
 - 第14回：2回目 実習先とのオリエンテーション
 - 第15回：「実習の記録」及び「実習ハンドブック」読み合わせ
夏季休業中：実習中の巡回指導の実施

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 社会福祉士資格科目の学びを再確認した上で授業に臨むこと。

【参考文献】

・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項：【履修上の注意】

- 1.心理学概論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅰが単位修得済みであること。
- 2.ソーシャルワーク実習Ⅱと同時履修とする。
- 3.ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲと同時履修とする。ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- 4.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 5.実習希望領域については、領域論が単位修得済みであることを原則とする。
- 6.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 7.クラス分けは教員が行う。

【課題に対するフィードバック方法】

授業で出されたワークシートなどについて、概ねコメントを付して返却する。

科目コード：21163 **科目ナンバリング：**WP20C29E **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)： ソーシャルワーク実習指導Ⅲ b(Seminar on Field Work for Social Work Practice III b)
担当者： 清原 舞

基本情報

年次：カリキュラム **単位数：**2 **授業形式：**演習
曜時：月曜4限 **履修可能学科・専攻：**W
関連資格：教職 社福士 福祉心理 **AL要素：**07.発表
11.討論
13.役割演技と模擬体験
15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習に必要とされる価値・知識・技術を復習する。また、実習の意義の理解を深め、社会福祉士として習得すべき価値や知識、技術の試行を確実に身に付けられるよう、実習計画書を作成する。さらに、施設等の現場職員や実習体験者からの講話をとおして、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。

ワークシートや実習計画書の作成の際には、個別にスーパービジョンを受け、個別的スーパービジョンにより、ソーシャルワークに必要な専門性についての自己覚知を深める

キーワード： ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実習前のワークシートやレポート、等の作成を通し、実習やソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。。

評価方法： ワークシート、レポート **評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で出される課題への取り組みをとおして、考察や自らの課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート
レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポート、実習計画書の記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回: オリエンテーションと相談援助技術現場実習指導・実習概論
課題①「ソーシャルワーク実習希望の動機」
 - 第2回: 実習先施設等の学習
課題②「領域別社会福祉制度の変遷」
 - 第3回: 実習計画書について
課題③「実習先についての理解を深めるための学習」
 - 第4回: 実習先発表
課題④「実習目的: ワークシート」、課題⑤「実習体験の方法」
 - 第5回: 個人調書の書き方の説明
課題⑥「面接時コミュニケーション技術」
 - 第6回: 個人調書・誓約書の作成・提出
課題⑦「ソーシャルワークの過程」
 - 第7回: 「実習計画書の書き方について」の説明と作成
課題⑧「ソーシャルワーク理論の理解」
 - 第8回: 1回目 実習先とのオリエンテーションについて
課題⑨「援助技術(目的と内容・実施方法)」
 - 第9回: 実習記録の書き方
課題⑩「外部講師(施設・病院)講義事前学習ワークシート」
 - 第10回: 課題⑪「外部講師(施設・社会福祉協議会) 講義事前学習ワークシート」
 - 第11回: 外部講師講義(施設・病院)
課題⑫「外部講師講義(施設・病院) 事後学習」
実習計画書: 初回提出
 - 第12回: 外部講師講義(施設・社会福祉協議会)
課題⑬「外部講師講義(施設・病院) 事後学習」
 - 第13回: 4年生による体験報告(領域別)
課題⑭「4年生による体験報告を聞いて」
実習計画書: 最終提出
 - 第14回: 2回目 実習先とのオリエンテーション
 - 第15回: 「実習の記録」及び「実習ハンドブック」読み合わせ
夏季休業中: 実習中の巡回指導の実施

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 社会福祉士資格科目の学びを再確認した上で授業に臨むこと。

【参考文献】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。
- ・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項：【履修上の注意】

- 1.心理学概論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅰが単位修得済みであること。
- 2.ソーシャルワーク実習Ⅱと同時履修とする。
- 3.ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲと同時履修とする。ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- 4.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 5.実習希望領域については、領域論が単位修得済みであることを原則とする。
- 6.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 7.クラス分けは教員が行う。

【課題に対するフィードバック方法】

授業で出されたワークシートなどについて、概ねコメントを付して返却する。

科目コード：21163 **科目ナンバリング：WP20C29E** **主な使用言語：日本語**
授業名(英文)：ソーシャルワーク実習指導Ⅲ c(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅲ c)
担当者：田家 英二

基本情報

年次：カリキュラム	単位数：2	授業形式：演習
曜時：月曜4限		履修可能学科・専攻：W
関連資格：教職 社福士 福祉心理		AL要素：07.発表 11.討論 13.役割演技と模擬体験 15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習に必要とされる価値・知識・技術を復習する。また、実習の意義の理解を深め、社会福祉士として習得すべき価値や知識、技術の試行を確実に身に付けられるよう、実習計画書を作成する。さらに、施設等の現場職員や実習体験者からの講話をとおして、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。
ワークシートや実習計画書の作成の際には、個別にスーパービジョンを受け、個別的スーパービジョンにより、ソーシャルワークに必要な専門性についての自己覚知を深める

キーワード： ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実習前のワークシートやレポート、等の作成を通し、実習やソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。。

評価方法：ワークシート、レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で出される課題への取り組みをとおり、考察や自らの課題などを表現することができる。

評価方法：ワークシート
レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポート、実習計画書の記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第1回：オリエンテーションと相談援助技術現場実習指導・実習概論
課題①「ソーシャルワーク実習希望の動機」
 - 第2回：実習先施設等の学習
課題②「領域別社会福祉制度の変遷」
 - 第3回：実習計画書について
課題③「実習先についての理解を深めるための学習」
 - 第4回：実習先発表
課題④「実習目的：ワークシート」、課題⑤「実習体験の方法」
 - 第5回：個人調書の書き方の説明
課題⑥「面接時コミュニケーション技術」
 - 第6回：個人調書・誓約書の作成・提出
課題⑦「ソーシャルワークの過程」
 - 第7回：「実習計画書の書き方について」の説明と作成
課題⑧「ソーシャルワーク理論の理解」
 - 第8回：1回目 実習先とのオリエンテーションについて
課題⑨「援助技術(目的と内容・実施方法)」
 - 第9回：実習記録の書き方
課題⑩「外部講師(施設・病院)講義事前学習ワークシート」
 - 第10回：課題⑪「外部講師(施設・社会福祉協議会) 講義事前学習ワークシート」
 - 第11回：外部講師講義(施設・病院)
課題⑫「外部講師講義(施設・病院) 事後学習」
実習計画書：初回提出
 - 第12回：外部講師講義(施設・社会福祉協議会)
課題⑬「外部講師講義(施設・病院) 事後学習」
 - 第13回：4年生による体験報告(領域別)
課題⑭「4年生による体験報告を聞いて」
実習計画書：最終提出
 - 第14回：2回目 実習先とのオリエンテーション

第15回:「実習の記録」及び「実習ハンドブック」読み合わせ
夏季休業中:実習中の巡回指導の実施

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 社会福祉士資格科目の学びを再確認した上で授業に臨むこと。

【参考文献】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。
- ・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、授業担当教員に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項:【履修上の注意】

- 1.心理学概論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅰが単位修得済みであること。
- 2.ソーシャルワーク実習Ⅱと同時履修とする。
- 3.ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲと同時履修とする。ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- 4.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 5.実習希望領域については、領域論が単位修得済みであることを原則とする。
- 6.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 7.クラス分けは教員が行う。

【課題に対するフィードバック方法】

授業で出されたワークシートなどについて、概ねコメントを付して返却する。

科目コード:21164 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**
授業名(英文): ソーシャルワーク実習指導Ⅳ a(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅳ a)
担当者: 富樫 ひとみ

基本情報

年次:カリキュラム **単位数:**2 **授業形式:**演習
曜時:月曜4限 **履修可能学科・専攻:** W
関連資格: 教職 社福士 福祉心理 **AL要素:** 07.発表
11.討論
13.役割演技と模擬体験
15.レポート指導

授業の概要:【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習体験を整理・総括する。それらを記述する実習報告書の作成をとおして、自身の価値観や知識、技術を振り返る。また、実習報告会の準備・発表をとおして、実習体験におけるソーシャルワーク技術を概念化・理念化・体系化する。

キーワード: ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答

することができる。

評価方法: ワークシート
レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で出されるワークシートや実習報告会の準備・発表をとおして、実習体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法: ワークシート
レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポート、報告書の記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回: 授業のオリエンテーション
課題: 振り返りワークシート①(実習目標とその達成度)
振り返りワークシート②(印象深い体験)
 - 第2回: 実習報告会の説明
課題: 振り返りワークシート③(実習体験において、学んだこと)
 - 第3回: 実習報告会グループメンバーの発表
 - 第4回: 実習報告書の取り組み(初回提出)
 - 第5回: 実習報告会「研究計画書」提出
 - 第6回: 実習報告会 第1回グループ中間報告
 - 第7回: 実習の振り返り 最終面談日程発表
 - 第8回: 実習報告会・実習報告書の取り組み(スーパービジョンによる振り返り)
 - 第9回: 実習の振り返り 最終面談①
 - 第10回: 実習の振り返り 最終面談②
 - 第11回: 実習の振り返り 最終面談③
 - 第12回: 実習報告会 第2回グループ中間報告
 - 第13回: 実習報告書 最終提出
 - 第14回: 実習報告会の取り組み(スーパービジョンによる振り返り)
 - 第15回: 実習報告会 第3回グループ中間報告
- 補講期間: 実習報告会実施

使用テキスト: 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 社会福祉士資格科目の学びを再確認した上で授業に臨むこと。

【参考文献】

・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。

・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項：【履修上の注意】

- 1.ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲが単位修得済みであること。
- 2.施設・機関での実習を終了していること。
- 3.ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳを同時履修とする。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- 4.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 5.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 6.クラス分けは教員が行う。

【課題に対するフィードバック方法】

授業で出されたワークシートなどについては、概ねコメントを付して返却する。

科目コード：21164

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ソーシャルワーク実習指導Ⅳ b(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅳ b)

担当者：清原 舞

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職 社福士 福祉心理

AL要素：07.発表

11.討論

13.役割演技と模擬体験

15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習体験を整理・総括する。それらを記述する実習報告書の作成をとおして、自身の価値観や知識、技術を振り返る。また、実習報告会の準備・発表をとおして、実習体験におけるソーシャルワーク技術を概念化・理念化・体系化する。

キーワード： ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： ワークシート
レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で出されるワークシートや実習報告会の準備・発表をとおして、実習体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法： ワークシート
レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポート、報告書の記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回:授業のオリエンテーション
課題:振り返りワークシート①(実習目標とその達成度)
振り返りワークシート②(印象深い体験)
 - 第2回:実習報告会の説明
課題:振り返りワークシート③(実習体験において、学んだこと)
 - 第3回:実習報告会グループメンバーの発表
 - 第4回:実習報告書の取り組み(初回提出)
 - 第5回:実習報告会「研究計画書」提出
 - 第6回:実習報告会 第1回グループ中間報告
 - 第7回:実習の振り返り 最終面談日程発表
 - 第8回:実習報告会・実習報告書の取り組み(スーパービジョンによる振り返り)
 - 第9回:実習の振り返り 最終面談①
 - 第10回:実習の振り返り 最終面談②
 - 第11回:実習の振り返り 最終面談③
 - 第12回:実習報告会 第2回グループ中間報告
 - 第13回:実習報告書 最終提出
 - 第14回:実習報告会の取り組み(スーパービジョンによる振り返り)
 - 第15回:実習報告会 第3回グループ中間報告
- 補講期間:実習報告会実施

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 社会福祉士資格科目の学びを再確認した上で授業に臨むこと。

【参考文献】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。
- ・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項：【履修上の注意】

- 1.ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲが単位修得済みであること。
- 2.施設・機関での実習を終了していること。
- 3.ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳを同時履修とする。ソーシャ

ルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。

- 4.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 5.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 6.クラス分けは教員が行う。

【課題に対するフィードバック方法】

授業で出されたワークシートなどについては、概ねコメントを付して返却する。

科目コード : 21164 **科目ナンバリング** : **主な使用言語** : 日本語
授業名(英文) : ソーシャルワーク実習指導Ⅳc(Seminar on Field Work for Social Work Practice Ⅳc)
担当者 : 田家 英二

基本情報

年次 : カリキュラム **単位数** : 2 **授業形式** : 演習
曜時 : 月曜4限 **履修可能学科・専攻** : W
関連資格 : 教職 社福士 福祉心理 **AL要素** : 07.発表
11.討論
13.役割演技と模擬体験
15.レポート指導

授業の概要 : 【特例期間中の授業形態】課題研究型、遠隔授業

実習体験を整理・総括する。それらを記述する実習報告書の作成をとおして、自身の価値観や知識、技術を振り返る。また、実習報告会の準備・発表をとおして、実習体験におけるソーシャルワーク技術を概念化・理念化・体系化する。

キーワード : ソーシャルワーク、専門的知識、専門的技術、専門的価値観、自己覚知、スーパービジョン

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標 : 実習後のワークシートやレポート等の作成や『実習報告会』におけるグループ学習を通し、ソーシャルワークに求められる価値や知識、技術の理解について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法 : ワークシート **評価割合** : 50%
レポート

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標 : 授業で出されるワークシートや実習報告会の準備・発表をとおして、実習体験を基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを表現することができる。

評価方法 : ワークシート **評価割合** : 50%
レポート

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがワークシートやレポート、報告書の記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合 : 0%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合 : 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：授業のオリエンテーション
課題：振り返りワークシート①(実習目標とその達成度)
振り返りワークシート②(印象深い体験)
第2回：実習報告会の説明
課題：振り返りワークシート③(実習体験において、学んだこと)
第3回：実習報告会グループメンバーの発表
第4回：実習報告書の取り組み(初回提出)
第5回：実習報告会「研究計画書」提出
第6回：実習報告会 第1回グループ中間報告
第7回：実習の振り返り 最終面談日程発表
第8回：実習報告会・実習報告書の取り組み(スーパービジョンによる振り返り)
第9回：実習の振り返り 最終面談①
第10回：実習の振り返り 最終面談②
第11回：実習の振り返り 最終面談③
第12回：実習報告会 第2回グループ中間報告
第13回：実習報告書 最終提出
第14回：実習報告会の取り組み(スーパービジョンによる振り返り)
第15回：実習報告会 第3回グループ中間報告
補講期間：実習報告会実施

使用テキスト： 授業で使用する資料についてはすべて配付する。参考書等については、授業時に随時指定する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 社会福祉士資格科目の学びを再確認した上で授業に臨むこと。

【参考文献】

- ・実習先の領域や実習先の事前学習については、各自参考文献等を探し行うこと。
- ・社会福祉士資格科目における授業で使用した文献。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 実習教育室を通じて連絡を行う。連絡方法については、初回ガイダンス時に知らせる。

留意事項：【履修上の注意】

- 1.ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲが単位修得済みであること。
- 2.施設・機関での実習を終了していること。
- 3.ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳを同時履修とする。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳの単位を修得できない場合、受講の継続はできない。
- 4.高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、貧困に対する支援、保健医療と福祉Ⅰ・Ⅱが単位修得済み、もしくは履修中であること。
- 5.介護概論、介護技術の単位修得が望ましい。
- 6.クラス分けは教員が行う。

【課題に対するフィードバック方法】

授業で出されたワークシートなどについては、概ねコメントを付して返却する。

科目コード：21165

科目ナンバリング：WP11C09K

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 福祉教育論I(Social Welfare Education I)

担当者: 望月 珠美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜1限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職

AL要素: 07 発表
08 協同学修
10 資料調査課題
16 振り返り用紙と応答
17 発問と回答

授業の概要: 福祉教育の現状と課題およびその背景にある社会的諸問題について、国内外における歴史の変遷とともに具体的事例を用いながら学ぶ。

キーワード: 人権教育 生活教育 実践教育 市民教育 協働 ファシリテーター

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 福祉教育の現状と課題を国内外における歴史的経緯や実践例に基づいて具体的に説明することができる。

評価方法: 小レポート
期末レポート

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 福祉教育をファシリテートする際に求められる基本的知識、技能、倫理について理解している。

評価方法: 小レポート
期末レポート

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 01 オリエンテーション
02 福祉教育の歴史1(戦前)
03 福祉教育の歴史2(戦後から現在)
04 諸外国における福祉教育の取り組み

- 05 福祉教育の理念
- 06 福祉教育の構造
- 07 現代社会と福祉教育
- 08 福祉教育の目的
- 09 事例に学ぶ福祉教育の内容1(幼児、親子教室)
- 10 事例に学ぶ福祉教育の内容2(児童)
- 11 事例に学ぶ福祉教育の内容3(青年)
- 12 事例に学ぶ福祉教育の内容4(成人 生涯学習)
- 13 事例に学ぶ福祉教育の内容5(企業研修)
- 14 事例に学ぶ福祉教育の内容6(地域社会)
- 15 まとめ

期末試験

使用テキスト: 坂野貢(2006)福祉教育のすすめ,ミネルヴァ書房, 2500円.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、各回のテーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておく。
 復習:配布資料等を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、在住する地域社会や自治体の取り組みなどについて自主的に学習し、知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項: 福祉教育論Ⅱとあわせて履修することが望ましい。

科目コード: 21166 **科目ナンバリング:** WP12C07K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 福祉教育論Ⅱ(Social Welfare Education II)

担当者: 望月 珠美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜1限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職

AL要素: 03 体験
 07 発表
 08 協同学修
 10 資料調査課題
 16 振り返り用紙と応答
 17 発問と回答

授業の概要: 福祉教育論Ⅰにおける学修をふまえ、参加者を主体とした福祉教育をファシリテート、実践する模擬体験を行う。模擬体験では、自ら福祉教育実践プログラムを立案し、その実演と評価を通して福祉社会の創造のために福祉教育が担う役割と可能性、さらにはその実践に求められる知識、技術、倫理について応用実践的観点から学ぶ。あわせて、それらの学びを自らの職業選択や職業適性について主体的に検討する職業指導の機会とする。

キーワード: 人権教育 生活教育 実践教育 市民教育 協働 ファシリテーター 福祉教育実践プログラム 職業指導

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 人権教育、生活教育、市民教育、実践教育といった多様な側面を持つ福祉教育の特性を活かした教材教具の作成を通して、福祉教育に関する知識、技術、倫理観の定着と向上を図る。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 福祉教育に関する学びを踏まえ、専門知識、技術、および倫理の体現を通して福祉教育をファシリテートする基本的な力を獲得する。

評価方法: レポート
発表

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に加味された成果等が模擬実践や学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 01 オリエンテーション
 - 02 福祉教育実践プログラムの構造的理解
 - 03 発達段階と目的設定
 - 04 方法論の検討
 - 05 評価の在り方と方法
 - 06 「きょうどう」の重要性
 - 07 先行事例に学ぶプログラム作成のポイント
 - 08 実践プログラムの作成1(目的と評価)
 - 09 実践プログラムの作成2(方法の検討)
 - 10 実践プログラムの作成3(内容と展開)
 - 11 実践プログラムの作成4(評価)
 - 12 実践プログラムの発表と評価1
 - 13 実践プログラムの発表と評価2
 - 14 福祉教育ファシリテーターの職能と適性(職業指導を含む)
 - 15 まとめー全体の振り返りと今後の課題ー

期末試験

使用テキスト: 坂野賢(2006)福祉教育のすすめ, ミネルヴァ書房, 2500円.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、各回のテ

マの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておく。

復習:使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、在住する地域社会や自治体の取り組みなどについての自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項: なし

科目コード:21167 科目ナンバリング:WP10C33K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 公認心理師の職責(Professionalism of Licensed Psychologists)

担当者: 櫻井 由美子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 公認心理

AL要素: 08.協同学習

11.討論

16.振り返り用紙と応答

授業の概要: 公認心理師の役割、法的義務、倫理について学ぶ。ついで、公認心理師の5つの領域における具体的業務を学ぶ。さらに、公認心理師としての生涯学習と多職種連携、地域連携の考え方を学ぶ。
これらの学びを促進するうえで、授業担当者は自身の実務経験を踏まえ、現場の実態に即した授業を行う。

キーワード: 公認心理師 法的義務 職業倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 公認心理師の法的義務と職業倫理に関する知識を理解し、活用することができる。

評価方法: ・期末レポート(または 期末テスト)

評価割合: 60%

・小テスト

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業のテーマや授業で得た知識に関して、自らの関心や疑問に照合させつつ思考することができる。また、それらの関心や疑問を、文章を用いて適切に表現することができる。

評価方法: ・期末レポート(または期末テスト)

評価割合: 40%

・リアクションシート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了時に取り組むコメントシートにおいて、自身の課題についての探求と気づきが記載される場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、利他的・愛他的活動(ボランティア活動等)の実践により深められた知見等がコメントシートや学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

コメントシートや定期試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回：公認心理師の役割
 - 第2回：教育分野における公認心理師の具体的業務的業務①ー児童・生徒と関わるー
 - 第3回：教育分野における公認心理師の具体的業務的業務②ーその他の仕事ー
 - 第4回：保健医療分野における公認心理師の具体的業務
 - 第5回：福祉分野における公認心理師の具体的業務
 - 第6回：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的業務
 - 第7回：産業・労働分野における公認心理師の具体的業務
 - 第8回：クライアントの安全の確保
 - 第9回：情報の適切な取り扱い
 - 第10回：公認心理師の法的義務・倫理
 - 第11回：他職種連携と地域連携
 - 第12回：支援者としての自己課題発見・解決能力 ①自己の課題に気づく
 - 第13回：支援者としての自己課題発見・解決能力 ②自己の課題に取り組む
 - 第14回：生涯学習への準備
 - 第15回：公認心理師の今後の展開

※順序は、状況に応じて変更する可能性があります。

使用テキスト： 資料を配布します。

予習・復習のポイントと 【予習】

参考文献・資料等： 授業で配布する箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むことを推奨する。

【復習】

資料を用いて、各自復習することが期待される。

○参考文献

野島一彦編(2018).公認心理師の基礎と実践 1. 公認心理師の職責 遠見書房.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 対応の方法については、授業の初回にお知らせします。

留意事項： 授業では、グループでのディスカッションの機会を設けます。他者との対話は、他職種協働など、心理職の職責上も必要とされます。グループメンバーの話を聞いて理解すること、また、自分の考えを相手が分かるように伝えることに対して、意識して取り組んでください。

科目コード：21168

科目ナンバリング：WP10C34K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本史A(Japanese History A)

担当者：藤野 真拳

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：07、発表

08、協同学修

10、資料調査課題

14、輪読活動

授業の概要： 明治初期の文明開化期の思想について、詳しく学んでいきます。
日本が近代化してこうとする時期、当時の知識人たちはどのような未来像を語っていたのでしょうか。現代の日本の基盤を1から作っていった先人の思想や社会構想を学ぶことで、いまの常識にとらわれない「社会を見る目」を歴史から学んでみましょう。
受講人数にもよりますが、授業では教員による講義だけでなく、学生同士の協同学修（課題解決のための準備と発表）を実施します。

キーワード： 明治維新、文明開化、明六社、福澤諭吉、加藤弘之、西周、中村正直、阪谷素

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。

評価方法： 発表

評価割合： 30%

学期末レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。

評価方法： 発表

評価割合： 70%

学期末レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回：ガイダンス
第2回：明六社と『明六雑誌』について
第3回：福澤諭吉と加藤弘之について
第4回：西周と津田真道について
第5回：中村正直と阪谷素について
第6回：グループ設定と課題設定
第7回-第9回：グループ別ミーティングと発表準備
第10回：ポスター発表会①

- 第11回:ポスター発表会②
- 第12回:発表会のまとめと討論会
- 第13回:フィードバック講義①
- 第14回:フィードバック講義②
- 第15回:まとめ
- ※レポート

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する(90分)
参考文献は授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 日本史の知識よりも日本語の読解力のほうが要求される授業です。

科目コード:21169 科目ナンバリング:WP10C35K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 日本史B(Japanese History B)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格:教職

AL要素: 07、発表

08、協同学修

10、資料調査課題

14、輪読活動

授業の概要: 五カ条誓文の発布から帝国議会開院、大日本帝国憲法発布までの歴史を学びます。江戸時代までの政治のあり方を変え西洋的な政治体制を作りあげようとした時代が、明治初期という時代です。憲法や国会といった現代にも続く政治システムの基盤は、どのように作りあげられていったのでしょうか。前期の日本史Aと同様に協同学修の方法を取り入れながら授業を進めていきます。

キーワード: 明治維新、五カ条誓文、漸次立憲政体樹立の詔、明治14年政変、自由民権運動、帝国議会、大日本帝国憲法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。

評価方法: 発表

評価割合: 30%

学期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。

評価方法: 発表

評価割合: 70%

学期末レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回:ガイダンス
第2回:五カ条誓文は何を目指していたのか
第3回:大阪会議と漸次立憲政体樹立の詔
第4回:明治14年政変と国会開設勅諭
第5回:自由民権運動と激化事件
第6回:グループ設定と課題設定
第7回-第9回:グループ別ミーティングと発表準備
第10回:ポスター発表会①
第11回:ポスター発表会②
第12回:発表会のまとめと討論会
第13回:フィードバック講義①ー立憲主義における多数決と少数意見ー
第14回:フィードバック講義②ー大日本帝国憲法と教育勅語の関係ー
第15回:まとめ
※レポート

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと 授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する(90分)
参考文献・資料等： 参考文献は授業内で指示する。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：21170 科目ナンバリング：WP10C36K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：東洋史(Eastern History)

担当者：中村 知子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：10 資料調査課題

16
振り返り用紙と応答

(可能であれば 05
即時応答)

授業の概要：

本講義では、東洋史の中でも中国を中心とした近現代史を扱います。シラバスには、学習の目安として通史的項目を掲げましたが、講義内では歴史的な事象を追うだけでなく、現代の日本も含めた東アジアが直面している諸問題の発生要因、また考え方を含めた文化的差異等も学んでいきます。歴史を通じて、物事に対する多角的な視座を獲得し、歴史を学ぶ意義を考えていきます。

キーワード： 歴史 東洋史 中国 東アジア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 中国を中心とする東アジアの近現代史を自らの言葉で表現できるようにします。

評価方法： 講義内で行われる複数の課題結果で評価する。 **評価割合：** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 歴史を過去の事象としてのみとらえるのではなく、多角的な視座を得るための一つのツールとして用いることが出来るようにします。

評価方法： 回答時の態度や内容で評価する。 **評価割合：** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

課題提出など授業前後に行うノルマがあるため、積極的な受講態度が望まれます。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結します。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

特に評価対象とはしません。

評価割合： 0%

▼公正性

本講義内で迷惑行為等が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消します。

評価割合： 0%

▼その他

なし

評価割合： なし

- 授業計画：**
- 1 ガイダンス 受講の心得、学習の方法、課題等に関する説明
 - 2 歴史学を学ぶ意義
 - 3 現代中国が抱える諸問題
 - 4 モンゴル帝国の特徴と明代(外交と国内統治)
 - 5 中華と夷狄 明の崩壊
 - 6 清の誕生 現代につながる清
 - 7 清代の人口増加と華と夷
 - 8 海外の圧力と清朝
 - 9 清・朝鮮・日本の関係
 - 10 辛亥革命と中華民国
 - 11 中華民国期の少数民族地域
 - 12 ロシアと中華民国 国共合作
 - 13 日中戦争
 - 14 中華人民共和国 毛沢東と大躍進政策
 - 15 文化大革命、改革開放、そして現代へ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト: 特になし。講義内で使用する資料はteams内でPDFにて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特に世界史を学んだことがない学生は、その時代の歴史をあらかじめ参考文献を読んでから受講すると良いでしょう(60分)。参考文献に関しては初回講義時にお話します。

また、時折行われる課題は資料収集が必須となることが多いです。普段から中国のニュースや情報にアンテナを張り、雑学的な知識も含めストックしておいてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項: 提出していただいた課題は、講義内にて随時取り上げ補足説明する形でフィードバックしていきます。

科目コード: 21171 **科目ナンバリング:** WP10C37K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 西洋史(Western History)

担当者: 森下 嘉之

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職

AL要素: なし

授業の概要: 【まん延帽子等重点措置期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)
ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。

キーワード: グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: (1)世界史という広い視野に立って、ヨーロッパの社会を理解できるようになる。(2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって、歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。(3)ヨーロッパ近現代史の最近の研究動向について理解できるようになる。

評価方法: 毎回の授業時に知識確認のためのコメントを求める。 **評価割合:** 各回のコメントの割合は全体の30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶことで、「世界の俯瞰的理解」を得る

評価方法: 総合的な思考力を確認するために期末レポートを課す。 **評価割合:** 期末レポートの比率は70%とする。

▼学修に主体的に取り組む態度

20分以上の遅刻は出席とは認めない。

評価割合: 特になし

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 特になし

▼公正性

特になし

評価割合：特になし

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. ガイダンス:「ヨーロッパ」とはなにか
 2. 16-17世紀ヨーロッパ「大航海/大交易」時代
 3. 17-18世紀ヨーロッパ「環大西洋革命」の時代
 4. 18世紀後半ヨーロッパ「フランス革命」の時代
 5. 19世紀ヨーロッパ「帝国主義」の時代
 6. 19-20世紀ヨーロッパ「ナショナリズム」の時代
 7. 第一次世界大戦勃発と「ロシア革命」の時代
 8. 第一次世界大戦終結と「ヴェルサイユ体制」の時代
 9. 1920-30年代ヨーロッパ「両大戦間期」という時代
 10. 1930-40年代ヨーロッパ「ナチス・ドイツ」台頭の時代
 11. 第二次世界大戦と「ホロコースト」
 12. 第二次世界大戦の終結とヤルタ会談
 13. 1950-60年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代1」
 14. 1970-80年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代2」
 15. 授業のまとめと21世紀のヨーロッパ

使用テキスト： 教科書は用いない。授業レジュメを毎回配信する。
授業を理解するための参考書としては、以下を挙げておく。
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー：大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

予習・復習のポイントと 毎回の授業レジュメを事前に配信するので、ダウンロードの上確認すること。また、授業後の
参考文献・資料等： 確認コメントについても、提出を怠らないこと。

障がいのある 受講希望者がいた場合には適宜対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： UNIPAの記載に準ずる。

留意事項： 特になし

科目コード：21172 科目ナンバリング：WP21C13K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人文地理学I(Human Geography I)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。

地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか？ 観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎:産業遺産、はたまたドイツニーランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか？ どうしてこのような地域が形成されたのか？ 観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか？ 観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。

この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Iでは、自然環境と第一次産業(農林水産業)、第二次産業(製造業)との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学IIでは、第三次産業(サービス業、商業、情報産業)と近年の環境問題の視点から、地域を見ていきます。

キーワード: 人文環境, 第一次産業, 第二次産業, 都市地理学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた人文地理地に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自然環境と地域1
- 第3回 自然環境と地域2
- 第4回 地域と農業1 :世界の農業地域
- 第5回 地域と農業2 :アグリビジネスの地域的展開
- 第6回 地域と農業3 :農山村の地域問題とエコツーリズム
- 第7回 地域と農業4 :有機栽培地域の形成と環境負荷軽減問題
- 第8回 地域と工業1 :工業立地論
- 第9回 地域と工業2 :産業革命と世界遺産
- 第10回 地域と工業3 :大手メーカーのネットワーク
ー国内における産業集積と空洞化ー
- 第11回 地域と工業4 :中小製造業の集積(1)
ー産業集積論ー
- 第12回 地域と工業5 :中小製造業の集積(2)
ー日本の大都市と周辺の「町工場」の立地ー
- 第13回 地域と工業6 :工業化と環境破壊
- 第14回 地域と都市1:世界の大都市の歴史と構造
- 第15回 地域と都市2:先進国の都市群システム

定期試験(レポートの提出)

使用テキスト: [使用テキスト]
・特になし

[参考書]

- ・荒井良雄・著本健二編『日本の流通と都市空間』(古今書院, 2004年発行)
- ・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』(Arnold: London; Oxford Univ)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: 「人文地理学Ⅱ」と合わせて受講することが望ましいです。

科目コード: 21173 科目ナンバリング: WP22C15K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 人文地理学Ⅱ(Human Geography II)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。

地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか? 観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎:産業遺産、はたまたドイツニーランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか? どうしてこのような地域が形成されたのか? 観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか? 観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。

この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Ⅰでは、自然環境と第一次産業(農林水産業)、第二次産業(製造業)との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学Ⅱでは、第三次産業(サービス業、商業、情報産業)と近年の環境問題の視点から、地域を見ていきます。

キーワード: 人文環境, 第三次産業, 都市地理学, フードデザート問題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた人文地理に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 第1回 地域と都市3:先進国の都市群システム
ー美しきヨーロッパの街並みー
 - 第2回 地域と都市4:発展途上国における都市問題
ーごみの山に住む人々ー
 - 第3回 地域と商業1:都市と農村の商業
ー農村にブランドショップは建ちえるか？ー
 - 第4回 地域と商業2:小売業の政策(1)
ー大店法から大店立地法へー
 - 第5回 地域と商業3:小売業の政策(2)
ー商店街の衰退と都市観光による「まちづくり」への挑戦ー
 - 第6回 地域と商業4:Food desert問題1
ー都心に取り残された老人たちー
 - 第7回 地域と商業5:Food desert問題2
ー問題の本質:無縁社会の現状ー
 - 第8回 地域と商業6:近代小売業の礎としての百貨店と近年の百貨店倒産問題
 - 第9回 地域と商業7:コンビニエンスストアの大躍進
 - 第10回 地域と商業8:物流システムの構築
ーコンビニの次は何が流行る？ー
 - 第11回 地域と商業9:小売業の国際化1
ーRetail TNCの海外進出ー
 - 第12回 地域と商業10:小売業の国際化2
ー海外ブランド企業の日本襲来ー
 - 第13回 地域と商業11:欧米の商業空間
ーなぜ欧米の商店街は空洞化していないのか？ー
 - 第14回 地域再生に向けた人文地理学の挑戦1
ー被災地の今:復興を目指す被災地の苦悩ー
 - 第15回 地域再生に向けた人文地理学の挑戦2
ーFood desert 問題への挑戦ー
- 定期試験

使用テキスト： [使用テキスト]
・特になし

[参考書]

- ・荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』(古今書院, 2004年)
- ・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』(Arnold: London; Oxford Univ)
- ・岩間信之編『都市のフードデザート問題』(農林統計協会, 2017年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: 「人文地理学Ⅰ」と合わせて受講することが望ましいです。

科目コード: 21174 科目ナンバリング: WP21C14K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 自然地理学Ⅰ(Natural Geography Ⅰ)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: W

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかかわりのなかで形成されています。この講義では、地形や気候といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

キーワード: 地形, 地質, 気候, 地域の文化と自然環境

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた自然地理に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 自然地理学とは?
2. 地形図の読解
3. 地形を形成する作用
4. 大洋と大山脈
5. 海・海流
6. 火山活動
7. 氷河地形

- 8.浸食地形
- 9.河川の浸食地形
- 10.堆積平野
- 11.海岸地形
- 12.サンゴ礁・カルスト地形
- 13.大学周辺の地形
- 14.気象学の基礎
- 15.世界の気候

定期試験

使用テキスト： [使用テキスト]
・特になし

[参考書]

- ・松岡憲知ほか『地球環境学-地球環境を調査・分析・診断するための30章』(古今書院)
- ・山本正三ほか『自然環境と文化』(大明堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項： 基本的に、高校の地理歴史の教員免許取得を目指す学生が受講する授業です。そのため、内容が難解で課題も多くなります。

科目コード：21175 科目ナンバリング：WP22C16K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然地理学Ⅱ(Natural Geography II)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動：各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかかわりのなかで形成されています。この講義では、地形や気候といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

キーワード： 地形、地質、気候、地域の文化と自然環境

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた自然地理に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 1.自然地理と地域文化の関係
- 2.東南アジアの自然と文化1:概略
- 3.東南アジアの自然と文化2:大陸山地
- 4.東南アジアの自然と文化3:デルタ地帯
- 5.東南アジアの自然と文化4:海浜地帯1(海底に眠る大陸)
- 6.東南アジアの自然と文化5:海浜地帯2(海の道が構築した文化)
- 7.東南アジアの自然と文化6:火山島
- 8.東南アジアの自然と文化7:ウォーレンシア
- 9.東南アジアの自然と文化8:イランジャヤ
- 10.ヨーロッパの自然と文化1:ヨーロッパの自然環境
- 11.ヨーロッパの自然と文化2:イギリスの自然と文化
- 12.ヨーロッパの自然と文化3:エディンバラの歴史と自然環境の関係性
- 13.アメリカの自然と文化1:北アメリカの自然と文化
- 14.アメリカの自然と文化2:アメリカ先住民の歴史と自然環境の関係性
- 15.地図の読み方

定期試験

使用テキスト： [使用テキスト]
・特になし

[参考書]

- ・松岡憲知ほか『地球環境学-地球環境を調査・分析・診断するための30章』(古今書院)
- ・山本正三ほか『自然環境と文化』(大明堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
- ・毎回の授業内容は、事前に連絡する。
- ・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項： 基本的に、高校の地理歴史の教員免許取得を目指す学生が受講する授業です。そのため、内容が難解で課題も多くなります。

科目コード：21176

科目ナンバリング：WP20C50K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：地誌(Geology)

担当者：薄井 晴

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限
関連資格：教職

履修可能学科・専攻：W
AL要素：7.発表
17.発問と回答

授業の概要： 地誌学とはある特定の地域における地域的な性格を総合的に究明する学問です。当授業では、国内外における様々な地域の自然、産業(特に観光などサービス産業)、風土、人口などを総合的に学習できる機会を提供していく予定です。地誌学を学ぶことで複雑な現代の社会を様々な視点から見てください。授業の終盤では、授業で学習した事柄や地理学で用いられる統計情報をもとに、個人課題に取り組む機会を設ける予定です。

キーワード： 地誌学, 系統地理, 地域産業, 統計情報

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学習した知識に関する事項をおおむね80%は正確に回答することができる。また、習得した知識をもとに、特定の地理的現象に関して、表現して伝えられる技能を身につける。

評価方法： 課題・期末試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 習得した知識をもとに、試験や課題において論理的、かつ端的に考察して表現できる。

評価方法： 課題・期末試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

上記の項目に含みます

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の私語や著しく公正性を欠く言動やカンニング・剽窃行為等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる場合があるので注意してください。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. ガイダンス(地誌学の学問的視点)
2. 日本の地域像
3. 北海道地方の地誌について考える
4. 東北地方の地誌について考える
5. 関東地方の地誌について考える
6. 茨城県の地誌について考える
7. 中部地方の地誌について考える
8. 近畿地方の地誌について考える

- 9.中国・四国の地誌について考える
- 10.九州・沖縄地方の地誌について考える
- 11.海外の地誌について考える(1)
- 12.海外の地誌について考える(2)
- 13.地域に関する資料(1) 地域に関する資料について紹介・概説します。
- 14.地域に関する資料(2) 地域に関する資料を整理し、加工する方法について紹介・概説します。
- 15.まとめ

使用テキスト： 中学、高校などで使用した地図帳がある場合は持参をお勧めします

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業の学習内容は、最低でも1時間をかけて復習すること

障がいのある履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談してください。

授業時間外の連絡手段： Eメール: usui.harui.sd@alumni.tsukuba.ac.jpで対応します

留意事項： ・社会科の教員免許取得希望者は受講を勧める。
・授業の終盤では、授業を通じて学習した内容をもとに個人で課題に取り組む機会を設ける予定である。

科目コード：21177 **科目ナンバリング：**WP12A03E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：基礎演習II a(Basic Seminar II a)

担当者：黒澤 泰

基本情報

年次： 1	単位数： 2	授業形式： 演習
曜時： 火曜1限	履修可能学科・専攻： W	
関連資格：	AL要素： 07.発表 08.協同学習 11.討論 15.レポート指導	

授業の概要： 本学の学生としての基本的知識の修得を目指す大学基礎演習に続き、本講では、生活科学部心理福祉学科の学生として、踏まえておくべき基礎的な知識と技術の修得を目指す。論述型レポート作成のトレーニングを中心に、本学科で学べる心理学および社会福祉学の理解、メールマナーの習得、プレゼンテーション資料の作成および発表など、専門科目履修の事前指導として、必要十分な知識の修得に取り組む。

キーワード： トップダウン&ボトムアップ、メールマナー、レポート作成のコツ、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： テーマに基づき、疑問や問題を提議し、客観的事実や論理的な推論による議論を進め、最後に適切な解答や結論に導くことができる。またそれを妥当な手段で報告することができる。

評価方法： レポート **評価割合：**50%
プレゼンテーション
小課題
*レポートは提出までに、担当教員により複数回の添削を行う。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り組んだテーマを基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを適切に表現することができる。

評価方法： 同上。 **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 01.オリエンテーション
 - 02.心理学&社会福祉学概論
 - 03.メールの書き方
 - 04.レポートの書き方① -レポートとは?-
 - 05.レポートの書き方② -主題の決定-
 - 06.レポートの書き方③ -関連調査-
 - 07.レポートの書き方④ -調査報告-
 - 08.レポートの書き方⑤ -構成を考える-
 - 09.レポートの書き方⑥ -序論を書く-
 - 10.レポートの書き方⑦ -本論構成-
 - 11.レポートの書き方⑧ -結論-
 - 12.プレゼンテーション作成①
 - 13.プレゼンテーション作成②
 - 14.プレゼンテーション
 - 15.振り返り

使用テキスト： 特に指定しない。講義で用いる資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等： 必要な情報は授業中に過不足なく伝えるので予習の必要はない。しかし、本講座で伝える内容は、W科生にとって必須の知識である。次学年では、本講の内容を「習得済みであるもの」として扱うため、授業の振り返りは必ず行うこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 演習はグループで行うことが多く、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションを大切にして授業に臨むこと。

「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となる。

科目コード：21177 科目ナンバリング：WP12A03E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習Ⅱ b(Basic Seminar II b)

担当者：佐々木 徹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答
18. その他

授業の概要： 「基礎演習Ⅰb」で習得したことを、さらに伸ばしていくことを目標とします。資料の収集と整理の技術を、具体的に行うことによって身に着けます。この資料の収集と整理の段階から、分析力と解釈技法の錬磨が始まっているのです。文献読解力を深め、論理的思考力と文章の表現力を涵養し、レポート作成力に磨きをかけてもらいます。そして、レポートのテーマに関連のある文献を購読し、意見を述べ討論をします。他者の意見を聴き、討論することは本来楽しいものです。恥ずかしがらずによい機会だと思って、しっかり議論に励んでください。他者との議論を通して、それまで気が付かなかったことに目が開かれたり、より深い考察へと導かれることがあります。それをまた、他者の前で披露し、他者の意見を聞くのです。そして、自分で考えます。これこそ大学での学びの醍醐味の一つです。それはまさに真理をめぐって対話することです。レポート作成の際、担当者による個別指導は必ず受けること。

キーワード： 真理への愛、健全な批判精神、探求の喜び

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 他者の考察や意見に開かれた態度をとってよく理解し、また自分の考察や意見を適切な言葉で、他者がわかるように伝達できる。

評価方法： 文献講読時の質疑応答の適切性や、授業への積極性による貢献度 **評価割合：10%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な批判力、論証力、論理的思考力をもって学び、表現することができる。

評価方法： 字数2000字以上のレポート
このレポート作成過程での個別指導に対する態度 **評価割合：80%**

▼学修に主体的に取り組む態度

レポートの個別指導における積極性の度合い、文献購読時の質疑応答への意欲の度合いは、評価の対象とする。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価の対象とはしない。この授業で、健全な批判精神、他者へと開かれた態度、深い自己洞察と広い社会的展望を体得すれば、倫理的判断の面においても将来の歩みに資するところがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートなどで、人権侵害や差別の主張など公正を欠く場合があれば、減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：導入
第2回：前期での取り組みを想起し、自分のテーマについて考える
第3回：自分のテーマを決める
第4回：テーマに関する文献や資料の探索

- 第5回: 文献や資料の整理、レポートの構想
 - 第6回: 文章力、表現力を養う(1)・・・「序」を書く
 - 第7回: 文章力、表現力を養う(2)・・・各章を書く(a)
 - 第8回: 文章力、表現力を養う(3)・・・各章を書く(b)
 - 第9回: 文章力、表現力を養う(4)・・・各章と結論を書く
 - 第10回: 文献講読と討論(1)
 - 第11回: 文献購読と討論(2)
 - 第12回: 文献購読と討論(3)
 - 第13回: 自分の書いたものの反省点を見つける
 - 第14回: 註の付け方や引用の出典の明記について吟味する
 - 第15回: レポートの完成度を上げる
- レポート提出

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 平素より、積極的に関心分野を広げ、問題意識を深め情報を得る努力をすれば、レポート作成や、討論の際に役立つ。レポート作成時の、担当者による個別指導は必ず受けること。参考文献等は適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAのメールや掲示で連絡したりする。

留意事項: 広い気持ちで健全な批判精神を身につけ、真理探究の喜びにめざめること。まじめに取り組むこと。「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は**心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)**である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となる。

科目コード: 21177 **科目ナンバリング:** WP12A03E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習Ⅱ c(Basic Seminar II c)

担当者: 山川 誠司

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 火曜1限	履修可能学科・専攻: W	
関連資格:	AL要素: 07:発表 08:協同学習 11:討論 15:レポート指導	

授業の概要: IC生としての基本的知識の修得を目指す基礎演習Ⅰに続き、本講座では、生活科学部心理福祉学科の学生として、踏まえておくべき基礎的な知識と技術の修得を目指す。論述型レポート作成のトレーニングを中心に、本学科で学べる心理学および福祉学の理解、メールマナーの習得、プレゼンテーション資料の作成および発表など、専門科目履修の事前指導として、必要十分な知識の修得にも取り組む。

キーワード: トップダウン&ボトムアップ、メールマナー、レポート作成のコツ、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: テーマに基づき、疑問や問題を提議し、客観的事実や論理的な推論による議論を進め、最後に適切な解答や結論に導くことができる。またそれを妥当な手段で報告することができる。

評価方法: レポート **評価割合:** 50%
 プレゼンテーション
 小課題

*レポートは提出までに、担当教員により複数回の添削を行う。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り組んだテーマを基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを適切に表現することができる。

評価方法: 同上。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 【第01回】オリエンテーション
- 【第02回】心理学&福祉学概論
- 【第03回】メールの書き方
- 【第04回】レポートの書き方① -レポートとは?-
- 【第05回】レポートの書き方② -主題の決定-
- 【第06回】レポートの書き方③ -関連調査-
- 【第07回】レポートの書き方④ -調査報告-
- 【第08回】レポートの書き方⑤ -構成を考える-
- 【第09回】レポートの書き方⑥ -序論を書く-
- 【第10回】レポートの書き方⑦ -本論構成-
- 【第11回】レポートの書き方⑧ -結論-
- 【第12回】プレゼンテーション作成①
- 【第13回】プレゼンテーション作成②
- 【第14回】プレゼンテーション
- 【第15回】授業振り返り

使用テキスト: 特に指定しない。講義で用いる資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等: 必要な情報は授業中に過不足なく伝えるので予習の必要はない。しかし、本講座で伝える内容は、W科生にとって基礎的であるが必須の知識である。次学年では「習得済みであるもの」として扱うため、必ず授業の振り返りを行うこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 演習はグループで行うことが多く、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションを大切にして授業に臨むこと。
特例期間中の授業形態は遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型です。週によって異なるのでUNIPA掲示に注意してください。

「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」は心理福祉演習(ゼミ)の履修要件(23年度以降入学生対象)である。23年度以降に入学した学生は両科目の単位修得後、3年次以降にゼミの受講が可能となる。

科目コード: 21177 科目ナンバリング: WP12A03E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 基礎演習Ⅱ d(Basic Seminar II d)

担当者: 呉 恩恵

基本情報

年次: 1 単位数: 2 授業形式: 演習

曜時: 火曜1限 履修可能学科・専攻: W

関連資格: AL要素: 07:発表
08:協同学習
11:討論
15:レポート指導

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(基本的には同時双方向型)但し、課題研究型やオンデマンドで実施する場合もあるので必ず、お知らせ(ユニパとチームズ)を確認してください。

IC生としての基本的知識の修得を目指す大学基礎演習に続き、本講座では、生活科学部心理福祉学科の学生として、踏まえておくべき基礎的な知識と技術の修得を目指す。論述型レポート作成のトレーニングを中心に、本学科で学べる心理学および福祉学の理解、メールマナーの習得、プレゼンテーション資料の作成および発表など、専門科目履修の事前指導として、必要十分な知識の修得にも取り組む。

キーワード: トップダウン&ボトムアップ, メールマナー, レポート作成のコツ, プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: テーマに基づき、疑問や問題を提議し、客観的事実や論理的な推論による議論を進め、最後に適切な解答や結論に導くことができる。またそれを妥当な手段で報告することができる。

評価方法: レポート **評価割合:** 50%

プレゼンテーション

小課題

*レポートは提出までに、担当教員により複数回の添削を行う。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り組んだテーマを基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを適切に表現することができる。

評価方法: 同上。 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など

著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】心理学&福祉学概論
【第03回】メールの書き方
【第04回】レポートの書き方① -レポートとは?-
【第05回】レポートの書き方② -主題の決定-
【第06回】レポートの書き方③ -関連調査-
【第07回】レポートの書き方④ -調査報告-
【第08回】レポートの書き方⑤ -構成を考える-
【第09回】レポートの書き方⑥ -序論を書く-
【第10回】レポートの書き方⑦ -本論構成-
【第11回】レポートの書き方⑧ -結論-
【第12回】プレゼンテーション作成①
【第13回】プレゼンテーション作成②
【第14回】プレゼンテーション
【第15回】授業振り返り

使用テキスト： 特に指定しない。講義で用いる資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと【予習・復習】

参考文献・資料等： 必要な情報は授業中に過不足なく伝えるので予習の必要はない。しかし、本講座で伝える内容は、W科生にとって基礎的であるが必須の知識である。次学年では「習得済みであるもの」として扱うため、必ず授業の振り返りを行うこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段： UNIPAによる。

留意事項： 演習はグループで行うことが多く、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションを大切に授業に臨むこと。

特例期間中の授業形態は遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型です。週によって異なるのでUNIPA掲示に注意してください。